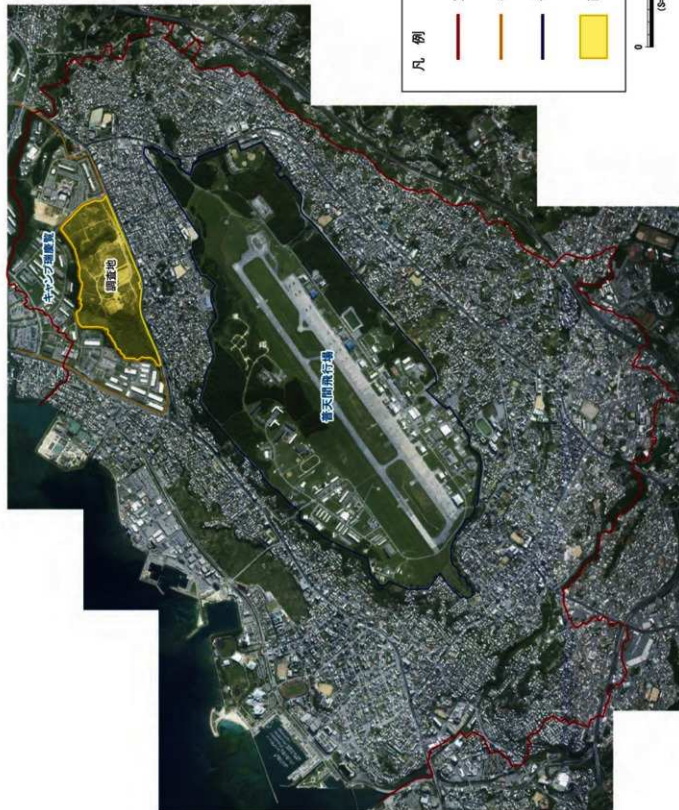


西普天間住宅地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1

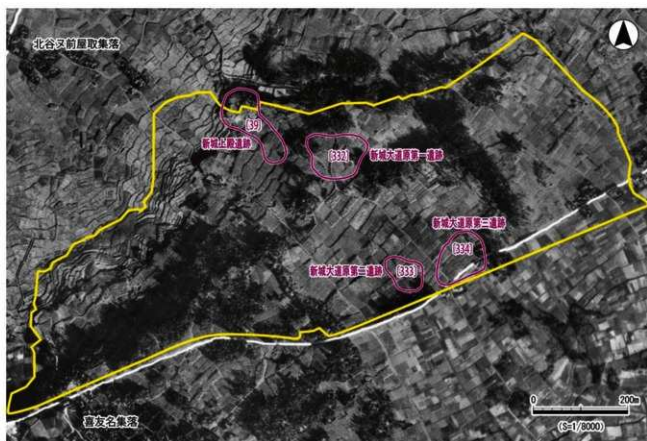
—新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡—

2023(令和5)年3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会



巻頭図版 1 報告書所収調査地位位置 (令和 2 年撮影)



巻頭図版 2 昭和 20 年の西普天間住宅地区



巻頭図版 3 返還前の西普天間住宅地区（平成 24 年度撮影）



巻頭図版4 新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡（工区1）東から



巻頭図版5 新城大道原第一遺跡（工区2）南東から



巻頭図版 6 新城大道原第二遺跡 東から



巻頭図版 7 新城大道原第三遺跡 北西から

序

本報告書は平成28年度に宜野湾市教育委員会が実施した、西普天間住宅地区返還跡地における埋蔵文化財緊急発掘調査のうち、新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の成果をまとめたものであります。本緊急発掘調査は、当該地区が平成27年4月にキャンプ瑞慶覧より返還されたのち、跡地利用特措法に基づいて国が実施する不発弾探査等の支障除去措置に伴うもので、沖縄防衛局の受託を受けて実施している事業であります。

当該地区内に所在する新城区には、小字下原、小字大道原が所在しており、戦前は主に耕作地として使用されておりましたが、戦後はキャンプ瑞慶覧として基地建設に伴う造成工事が行われ、人々の生活基盤であった田畑や坪所など多くの文化財が消失しました。しかしながら、本緊急発掘調査によって基地造成の憂き目にあいながらも地下に残された貴重な文化財を確認することができ、宜野湾の偉人である佐喜真興英氏の著書『シマの話』でも紹介されている新城集落の発祥に関わる貴重な文化財も見発見されております。今回の調査成果が広く市民の歴史的教材や学術資料としてご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、調査を実施するにあたり、多大なご協力を賜りました宜野湾市軍用地等地主会をはじめ、沖縄防衛局並びに関係部署の皆様に対しまして厚く御礼申し上げます。また、多大なご指導を賜りました文化庁文化財部、沖縄県教育庁文化財課、沖縄県立埋蔵文化財センター並びに貴重なご指導・ご助言を賜りました市文化財保護審議会の先生方、その他関係各位に対しまして心から感謝申し上げます。

2023（令和5）年3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会
教育長 仲村 宗男

例 言

1. 本報告書は、宜野湾市西普天間住宅地区返還跡地（旧キャンプ瑞慶覧）で沖縄防衛局が実施する支障除去措置に先立ち、宜野湾市教育委員会が沖縄防衛局からの受託事業として平成28年度に実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の成果を所収したものである。なお、所収されている遺跡は新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の調査成果であり、その他の遺跡の調査成果については次年度以降に順次報告する。
2. 現地調査にあたっては、宜野湾市軍用地等地主会、沖縄防衛局返還対策課の協力を得た。
3. 本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸の第XV座標系を使用し、その座標値は日本測地系である。なお、報告書抄録の緯度経度については世界測地系である。
4. 本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図（1:2500）を使用しており、令和2年度撮影の航空写真については宜野湾市税務課から使用許可を得て掲載した。
また、他の情報図については宜野湾市教育委員会が管理・運営しているGISデータを主に使用している。
5. 本書で使用している土色は、農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
6. 本書の執筆は、仲村 毅、伊野波 快、儀保和士があたり、執筆分担は以下に記した。また、本書掲載の自然科学分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した分析結果を一部編集して掲載している。なお、本書の編集は仲村 毅、杉村千重美が行い、DTP編集制作は杉村の協力で行った。

仲村 毅・・・第I章～第七章
伊野波 快・・・第IV章 第4節、第V章 第4節、第VI章 第4節、第VII章 第4節
儀保 和士・・・第IV章 第4節、第V章 第4節、第VI章 第4節、第VII章 第4節
7. 本書に掲載した出土遺物の写真撮影は伊野波、杉村が行った。出土遺物のトレース及び遺構図編集については、奥間陽子、普久原千曜、佐喜真千弥、崎濱比カ理が行った。また、出土遺物の実測については有限会社ティガネーに業務委託し、一部を伊野波、儀保が行った。
8. 現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図等の各種調査記録類および出土遺物はすべて宜野湾市教育委員会文化課で保管している。

目次

巻頭図版

序

例言

第I章 事業概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第II章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 字新城の地理的環境	7
第3節 新城の歴史的環境	8
第III章 西普天間住宅地区の文化財	10
第1節 西普天間住宅地区内の文化財	10
第2節 新城の文化財	11
第3節 基本層序	13
第IV章 新城上殿遺跡	15
第1節 調査経過と調査方法	15
第2節 層序	17
第3節 遺構	25
第4節 遺物	79
第5節 自然科学分析	106
第6節 総括	117
第V章 新城大道原第一遺跡	119
第1節 調査経過と調査方法	119
第2節 層序	121
第3節 遺構	125
第4節 遺物	165
第5節 自然科学分析	177
第6節 総括	178
第VI章 新城大道原第二遺跡	179
第1節 調査経過と調査方法	179
第2節 層序	180
第3節 遺構	183
第4節 遺物	198
第5節 総括	213
第VII章 新城大道原第三遺跡	214
第1節 調査経過と調査方法	214
第2節 層序	216
第3節 遺構	223
第4節 遺物	238
第5節 総括	259
引用・参考文献	260
報告書抄録	

巻頭図版

巻頭図版 1	報告書所収調査地位置（令和 2 年撮影）	巻頭図版 5	新城大道原第一遺跡（工区 2）南東から
巻頭図版 2	昭和 20 年の西普天間住宅地区	巻頭図版 6	新城大道原第二遺跡 東から
巻頭図版 3	返還前の西普天間住宅地区（平成 24 年度撮影）	巻頭図版 7	新城大道原第三遺跡 北西から
巻頭図版 4	新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡（工区 1）東から		

挿図目次

第 II - 1 図	宜野湾市の位置	5	第 IV - 23 図	ピット断面図 8	55
第 II - 2 図	宜野湾市の地質図	5	第 IV - 24 図	ピット断面図 9	56
第 II - 3 図	宜野湾市地形分類図	6	第 IV - 25 図	ピット断面図 10	57
第 II - 4 図	字新城周辺（令和 2 年）	7	第 IV - 26 図	ピット断面図 11	58
第 II - 5 図	宜野湾市全景・字新城の位置	7	第 IV - 27 図	ピット断面図 12	59
第 II - 6 図	字新城の小字	7	第 IV - 28 図	ピット断面図 13	60
第 II - 7 図	字新城全景		第 IV - 29 図	ピット断面図 14	61
	1945（昭和 20）年 空撮	9	第 IV - 30 図	ピット断面図 15	62
第 III - 1 図	西普天間住宅地区文化財分布図・ 文化財一覧表	10	第 IV - 31 図	ピット断面図 16	63
第 III - 2 図	新城の遺跡位置図 （令和 3 年 9 月時点）	11	第 IV - 32 図	ピット断面図 17	64
第 III - 3 図	カンナシのイメージスケッチ	12	第 IV - 33 図	ピット断面図 18	65
第 III - 4 図	シンバルガー周辺のイメージスケッチ	12	第 IV - 34 図	ピット断面図 19	66
第 III - 5 図	新城下原一帯の遠景 （令和 2 年 1 月撮影／南から）	13	第 IV - 35 図	土坑（SK1）	68
第 IV - 1 図	調査位置図	15	第 IV - 36 図	土坑（SK 2、3）	69
第 IV - 2 図	工区 1（北）壁面土層図	19	第 IV - 37 図	土坑（SK 4～6）	70
第 IV - 3 図	工区 1（南）壁面土層図	20	第 IV - 38 図	土坑（SK 7～11）	71
第 IV - 4 図	工区 2 壁面土層図	21	第 IV - 39 図	溝状遺構（SD 1～4）	73
第 IV - 5 図	工区 1 遺構分布図	23	第 IV - 40 図	溝状遺構（SD 1～3）	74
第 IV - 6 図	工区 2 遺構分布図	24	第 IV - 41 図	溝状遺構（SD 5～8）	75
第 IV - 7 図	工区 1 北側 遺構全体図	37	第 IV - 42 図	溝状遺構（SD 5～7）	76
第 IV - 8 図	工区 1 南側 遺構全体図	38	第 IV - 43 図	溝状遺（SD 8・9）	77
第 IV - 9 図	工区 2 遺構全体図	39	第 IV - 44 図	炉跡（SL）	78
第 IV - 10 図	1号建物跡	42	第 IV - 45 図	出土遺物 1 先史土器（1～3）、 グスク土器（4～11）	86
第 IV - 11 図	2号建物跡	43	第 IV - 46 図	出土遺物 2 カムイヤキ（12・13）、 中国産青磁（14～24）	88
第 IV - 12 図	2号建物跡	44	第 IV - 47 図	出土遺物 3 中国産染付	90
第 IV - 13 図	3号建物跡	45	第 IV - 48 図	出土遺物 4 中国産白磁（33～39）、 中国産褐釉陶器（40）、 本土産磁器（41～44）、 沖縄産施釉陶器（45・46）	92
第 IV - 14 図	3号建物跡	46	第 IV - 49 図	出土遺物 5 沖縄産無釉陶器	94
第 IV - 15 図	工区 1 南側 建物プラン検討図	47	第 IV - 50 図	出土遺物 6 石器	96
第 IV - 16 図	ピット断面図 1	48	第 IV - 51 図	出土遺物 7 石器（57・58）、鏡貫（60～63）、 ふいごの羽目（64）、ビーズ（65）	98
第 IV - 17 図	ピット断面図 2	49	第 IV - 52 図	暦年校正結果	110
第 IV - 18 図	ピット断面図 3	50	第 IV - 53 図	植物珪酸体含量	112
第 IV - 19 図	ピット断面図 4	51	第 V - 1 図	調査位置図	119
第 IV - 20 図	ピット断面図 5	52			
第 IV - 21 図	ピット断面図 6	53			
第 IV - 22 図	ピット断面図 7	54			

第V-2図	遺構分布図(工区1)	121	第VII-4図	工区2 遺構分布図	219
第V-3図	遺構分布図(工区2)	122	第VII-5図	工区2 壁面土層図	220
第V-4図	工区1 壁面土層図	123	第VII-6図	工区3 遺構分布図	221
第V-5図	工区2 壁面土層図	124	第VII-7図	工区3 壁面土層図	222
第V-6図	工区1 全体平面図	129	第VII-8図	掘立柱建物跡(SB01)	226
第V-7図	ピット(SP)1	131	第VII-9図	ピット集中遺構№1	227
第V-8図	ピット(SP)2	132	第VII-10図	ピット集中遺構№2	228
第V-9図	ピット(SP)3	133	第VII-11図	土坑(SK)断面図 工区1~3	230
第V-10図	ピット(SP)4	134	第VII-12図	工区1 溝状遺構(SD)断面図	233
第V-11図	土坑(SK)	136	第VII-13図	工区2・3 溝状遺構(SD)断面図	234
第V-12図	溝状遺構(SD)1	137	第VII-14図	不明遺構(SX)断面図	236
第V-13図	溝状遺構(SD)2	138	第VII-15図	出土遺物1 本土産磁器(1~7)、 沖縄産無軸陶器(8・9)	244
第V-14図	不明遺構(SX)	139	第VII-16図	出土遺物2 沖縄産無軸陶器	246
第V-15図	工区2 全体平面図	147	第VII-17図	出土遺物3 沖縄産無軸陶器	248
第V-16図	ピット(SP)1	149	第VII-18図	出土遺物4 アカムヌー(21~27)、 沖縄産施軸陶器(28~30)	250
第V-17図	ピット(SP)2	150	第VII-19図	出土遺物5 沖縄産施軸陶器	252
第V-18図	ピット(SP)3	151	第VII-20図	出土遺物6 沖縄産施軸陶器	254
第V-19図	ピット(SP)4	152	第VII-21図	出土遺物7 石器(47~49)、 円盤状製品(50・51)、 銭貨(53~56)	256
第V-20図	ピット(SP)5	153			
第V-21図	ピット(SP)6	154			
第V-22図	ピット(SP)7	155			
第V-23図	ピット(SP)8	156			
第V-24図	ピット(SP)9	157			
第V-25図	ピット(SP)10	158			
第V-26図	土坑(SK)	160			
第V-27図	溝状遺構(SD)	162			
第V-28図	不明遺構(SX)	164			
第V-29図	出土遺物1 先史土器(1~8)、ダスク土器(9)	168			
第V-30図	出土遺物2 カムイヤキ(10)、中国産白磁(11)、 本土産磁器(12・13)、 アカムヌー(14・15)、 沖縄産無軸陶器(16~20)	170			
第V-31図	出土遺物3 沖縄産施軸陶器(21~24)、 石器(25~27)	172			
第V-32図	出土遺物4 石器	174			
第VI-1図	調査位置図	179			
第VI-2図	遺構分布図	181			
第VI-3図	壁面土層図	182			
第VI-4図	列状ピット分布図	186			
第VI-5図	ピット(SP)1	187			
第VI-6図	ピット(SP)2	188			
第VI-7図	ピット(SP)3	189			
第VI-8図	列状ピット平面図	190			
第VI-9図	列状ピット①	191			
第VI-10図	列状ピット②	191			
第VI-11図	土坑平面図 SK501~SK504	192			
第VI-12図	土坑断面図 SK501~SK504	192			
第VI-13図	土坑(SK501~SK504)平面図	193			
第VI-14図	溝状遺構断面図(SD501~SD505)	194			
第VI-15図	不明遺構平面図	196			
第VI-16図	出土遺物1 先史土器(1~5)、中国産青磁(6)、 中国産染付(7~9)、本土産磁器(10)、 沖縄産無軸陶器(11~15)	202			
第VI-17図	出土遺物2 アカムヌー	204			
第VI-18図	出土遺物3 沖縄産施軸陶器	206			
第VI-19図	出土遺物4 沖縄産施軸陶器	208			
第VI-20図	出土遺物5 石器(43~45)、 銭貨(46・47)	210			
第VII-1図	調査位置図	214			
第VII-2図	工区1 遺構分布図	217			
第VII-3図	工区1 壁面土層図	218			

図版目次

図版II - 1	伊佐浜の水田地帯	6	図版VI - 4	土坑 (SK)	193
図版III - 1	ナカマガウヌメヌカー	12	図版VI - 5	溝状遺構 (SD)	195
図版III - 2	シンバルガー周辺の状況 (平成 26 年撮影)	12	図版VI - 6	不明遺構 (SX)	197
図版III - 3	ハンタモウ (平成 26 年撮影)	12	図版VI - 7	出土遺物 1 先史土器 (1~5)、中国産青磁 (6)、 中国産染付 (7~9)、本土産磁器 (10)、 沖縄産無軸陶器 (11~15)	203
図版IV - 1	作業状況	16	図版VI - 8	出土遺物 2 アカムヌー	205
図版IV - 2	①工区 1 (北側) 北壁面	17	図版VI - 9	出土遺物 3 沖縄産施軸陶器	207
図版IV - 3	②工区 1 (北側) 東壁面	17	図版VI - 10	出土遺物 4 沖縄産施軸陶器	209
図版IV - 4	③工区 1 (北側) 東壁面	17	図版VI - 11	出土遺物 5 石器 (43~45)、鉄貨 (46・47)	211
図版IV - 5	④工区 2 東壁	18	図版VII - 1	工区 1~3	215
図版IV - 6	⑤工区 2 北壁	18	図版VII - 2	各工区完掘状況	216
図版IV - 7	⑥工区 1 南壁 3	18	図版VII - 3	工区別壁面状況	216
図版IV - 8	⑦工区 1 (南側) 南壁 2-2	18	図版VII - 4	土坑 (SK) 工区 1~3	231
図版IV - 9	覆土分類別ピット (参考画像)	26	図版VII - 5	溝状遺構 (SD) 断面 1	234
図版IV - 10	出土遺物 1 先史土器 (1~3)、 グスク土器 (4~11)	87	図版VII - 6	溝状遺構 (SD) 断面 2	235
図版IV - 11	出土遺物 2 カムイヤキ (12・13)、 中国産青磁 (14~24)	89	図版VII - 7	工区 1~3 不明遺構 (SX)	237
図版IV - 12	出土遺物 3 中国産染付	91	図版VII - 8	出土遺物 1 本土産磁器 (1~7)、 沖縄産無軸陶器 (8・9)	245
図版IV - 13	出土遺物 4 中国産白磁 (33~39)、 中国産施軸陶器 (40)、 本土産磁器 (41~44)、 沖縄産施軸陶器 (45・46)	93	図版VII - 9	出土遺物 2 沖縄産無軸陶器	247
図版IV - 14	出土遺物 5 沖縄産無軸陶器	95	図版VII - 10	出土遺物 3 沖縄産無軸陶器	249
図版IV - 15	出土遺物 6 石器	97	図版VII - 11	出土遺物 4 アカムヌー (21~27)、 沖縄産施軸陶器 (28~30)	251
図版IV - 16	出土遺物 7 石器 (57・58)、ナイフ (59)、 鉄貨 (60~63)、ふいごの羽口 (64)、 ビーズ (65)、印籠 (66)	99	図版VII - 12	出土遺物 5 沖縄産施軸陶器	253
図版IV - 17	花粉化石・微粒炭	115	図版VII - 13	出土遺物 6 沖縄産施軸陶器	255
図版IV - 18	植物珪酸体	115	図版VII - 14	出土遺物 7 石器 (47~49)、 円盤状製品 (50・51)、簀 (52)、 鉄貨 (53~56)	257
図版IV - 19	炭化種実	116			
図版V - 1	作業状況	120			
図版V - 2	掘方断面の分類別のピット	125			
図版V - 3	ピット (SP)	135			
図版V - 4	掘方断面の分類別のピット	140			
図版V - 5	ピット (SP)	159			
図版V - 6	溝状遺構 (SD)	163			
図版V - 7	出土遺物 1 先史土器 (1~8)、グスク土器 (9)	169			
図版V - 8	出土遺物 2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、 本土産磁器 (12・13)、 アカムヌー (14・15)、 沖縄産無軸陶器 (16~20)	171			
図版V - 9	出土遺物 3 沖縄産施軸陶器 (21~24)、 石器 (25~27)	173			
図版V - 10	出土遺物 4 石器	175			
図版VI - 1	作業状況	180			
図版VI - 2	ピット (SP)	183			
図版VI - 3	列状ピット完掘状況	190			

挿表目次

第Ⅱ-1表	文献資料にみる宜野湾の村名一覧	8	第Ⅴ-13表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 4	144
第Ⅳ-1表	ビット掘方断面形状分類模式図	25	第Ⅴ-14表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 5	145
第Ⅳ-2表	底面レベルの分類	26	第Ⅴ-15表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 6	146
第Ⅳ-3表	遺構計測分類表		第Ⅴ-16表	工区2 土坑 (SK) 計測一覧表		159
	工区1北側 (1号建物跡周辺)	27	第Ⅴ-17表	工区2 溝状遺構 (SD) 計測一覧表		161
第Ⅳ-4表	遺構計測分類表		第Ⅴ-18表	出土遺物観察一覧1		166
	工区1北側 (2~3号建物跡周辺) 1	28	第Ⅴ-19表	出土遺物観察一覧2		167
第Ⅳ-5表	遺構計測分類表		第Ⅴ-20表	出土遺物集計表 (工区1)		176
	工区1北側 (2~3号建物跡周辺) 2	29	第Ⅴ-21表	出土遺物集計表 (工区2)		176
第Ⅳ-6表	遺構計測分類表		第Ⅵ-1表	遺構計測分類表 (SP) 1		184
	工区1北側 (2~3号建物跡周辺) 3	30	第Ⅵ-2表	遺構計測分類表 (SP) 2		185
第Ⅳ-7表	遺構計測分類表		第Ⅵ-3表	出土遺物観察一覧1		199
	工区1北側 (2~3号建物跡周辺) 4	31	第Ⅵ-4表	出土遺物観察一覧2		200
第Ⅳ-8表	遺構計測分類表	工区1南側1	32	第Ⅵ-5表	出土遺物観察一覧3	201
第Ⅳ-9表	遺構計測分類表	工区1南側2	33	第Ⅵ-6表	出土遺物集計表	212
第Ⅳ-10表	遺構計測分類表	工区1南側3	34	第Ⅶ-1表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 1	223
第Ⅳ-11表	遺構計測分類表	工区1南側4	35	第Ⅶ-2表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 2	224
第Ⅳ-12表	遺構計測分類表	工区2	36	第Ⅶ-3表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 3	225
第Ⅳ-13表	土坑 (SK) 観察表		67	第Ⅶ-4表	遺構観察一覧 (SK)	229
第Ⅳ-14表	溝状遺構 (SD) 遺構観察表		72	第Ⅶ-5表	遺構観察一覧 (SD)	232
第Ⅳ-15表	炉跡 (SL) 遺構観察表		78	第Ⅶ-6表	遺構観察一覧 (SK)	236
第Ⅳ-16表	出土遺物観察一覧1		82	第Ⅶ-7表	出土遺物観察一覧1	239
第Ⅳ-17表	出土遺物観察一覧2		83	第Ⅶ-8表	出土遺物観察一覧2	240
第Ⅳ-18表	出土遺物観察一覧3		84	第Ⅶ-9表	出土遺物観察一覧3	241
第Ⅳ-19表	出土遺物観察一覧4		85	第Ⅶ-10表	出土遺物観察一覧4	242
第Ⅳ-20表	出土遺物集計表1		100	第Ⅶ-11表	出土遺物観察一覧5	243
第Ⅳ-21表	出土遺物集計表2		101	第Ⅶ-12表	出土遺物集計表	258
第Ⅳ-22表	出土遺物集計表3		102			
第Ⅳ-23表	出土遺物集計表4		103			
第Ⅳ-24表	出土遺物集計表5		104			
第Ⅳ-25表	出土遺物集計表 (2区)		105			
第Ⅳ-26表	分析試料および分析項目一覧		106			
第Ⅳ-27表	放射性炭素年代測定結果		110			
第Ⅳ-28表	花粉分析・微粒炭分析結果		111			
第Ⅳ-29表	植物珪酸体分析		111			
第Ⅳ-30表	微細物分析結果		112			
第Ⅳ-31表	土壌理化学分析結果		113			
第Ⅴ-1表	底面レベルの分類		125			
第Ⅴ-2表	掘方断面形状分類模式図		125			
第Ⅴ-3表	遺構計測分類表	工区1 (SP) 1	126			
第Ⅴ-4表	遺構計測分類表	工区1 (SP) 2	127			
第Ⅴ-5表	遺構計測分類表	工区1 (SP) 3	128			
第Ⅴ-6表	工区1 土坑 (SK) 計測一覧表		136			
第Ⅴ-7表	工区1 溝状遺構 (SD) 計測一覧表		137			
第Ⅴ-8表	底面レベルの分類		140			
第Ⅴ-9表	掘方断面形状分類模式図		140			
第Ⅴ-10表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 1	141			
第Ⅴ-11表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 2	142			
第Ⅴ-12表	遺構計測分類表	工区2 (SP) 3	143			

第I章 事業概要

第1節 調査に至る経緯

西普天間住宅地区は、平成25年4月に日米両政府が共同発表を行った「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」の中で速やかに返還する区域として、平成27年3月31日に返還された地区(約51ha)である。

宜野湾市では、当該地区の跡地利用に向けて「跡地利用基本計画」の検討や宜野湾市軍用地等地主会、沖縄県、沖縄総合事務局、沖縄防衛局とともに「キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の跡地利用協議会」を平成25年度から継続的に開催するなど、返還後の跡地利用に関する様々な取り組みが協議された。平成27年3月には、学識経験者、地権者代表、国・県・市職員等からなるキャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)跡地利用計画調査検討委員会にて「跡地利用基本計画(案)」を作成し、平成27年7月には宜野湾市軍用地跡地利用計画策定委員会において、付帯事項(※)とともに「跡地利用計画(案)」が承認された(註1)。

・西普天間住宅地区の予備調査

宜野湾市教育委員会(以下、「市教委」とする。)では、返還後の跡地利用計画を見据えて返還前の平成25年度から当該地区の分布調査を行い、平成26年度にはハウジングエリアの試掘調査を開始した。返還後の西普天間住宅地区について、沖縄防衛局は「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」(以下、「跡地利用特措法」とする。)に基づいて、地権者への土地の引渡し前に土壌汚染調査や不発弾探査などの支障除去措置を実施することとなり、これに先立ち、当該地区に所在する遺跡の保護調整を協議するために埋蔵文化財の分布状況や範囲等を把握することが急務となった。そのため、市教委では沖縄県教育委員会(以下、「県教委」とする。)に発掘調査の支援要請(「平成26年11月11日付、宣教文第254号、キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)返還に伴う試掘・確認調査への支援について)を行い、平成27年度、平成28年度には県と市で当該地区の試掘・確認調査を行った。調査の結果、新規の遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)として9遺跡が発見されている(註2)。

平成28年2月18日付、沖防管第824号において当該地区の埋蔵文化財の有無照会が沖縄防衛局から提出され、市教委では支障除去措置が予定されている区域について、文化財保護法に規定する「周知の埋蔵文化財包蔵地」が所在するため、支障除去措置に関連する各種工事が埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れがある場合は、事前に所定の手続きが必要である旨を回答した。

・埋蔵文化財の取り扱い協議

支障除去措置の方法及び埋蔵文化財の取り扱い等について沖縄防衛局、宜野湾市、市教委による協議を行った結果、ハウジングエリアについては、地権者へ土地の引渡しを行う前に支障除去措置を実施すること、当該地区に所在する遺跡については、事前に埋蔵文化財緊急発掘調査を行うことで合意した。しかし、地区西側の斜面緑地には国指定文化財の喜友名泉をはじめ、多数の湧泉が分布していることから、不用意に不発弾経層探査に伴う掘削を行うと水脈を切ってしまう湧泉が溢れる危険性があった。そのため、斜面緑地の不発弾経層探査は一時保留とし、まずは地下構造を把握するための地質調査を行い、その結果を踏まえて不発弾探査の方法を検討することとされた。市教委では平成30年度、令和元年度

に石灰岩厚を把握するためのボーリング調査を実施した。その結果、湧水保全に必要な石灰岩厚2m以上の場所については、これまで通りの不発弾経層探査を実施しても湧水に影響がないという結論となった。令和元年度からは保留していた斜面緑地についても、跡地利用計画の中で住宅用地または道路等が建設される予定区域の遺跡については緊急発掘調査を行うこととなった。また、沖縄防衛局長と宜野湾市長とで土地の引き渡し後の取り扱いについて、斜面緑地を含む不発弾経層探査が未実施の場所については引き続き国の責任において不発弾経層探査及び埋蔵文化財発掘調査（緊急発掘調査）を行うことが合意された（「西普天間住宅地区の土地の引き渡し後の取り扱いに関する確認書」平成30年3月28日）。

・協定書の締結

平成28年3月9日、沖縄防衛局長と宜野湾市教育委員会教育長とで西普天間住宅地区における埋蔵文化財調査の取り扱いに関する協定書を締結し、文化財調査に係る費用については、原因者である沖縄防衛局の負担で調査を実施することが確認された。

・文化財保護法第94条の進達と契約について

平成28年度分の支障除去措置の範囲について、沖縄防衛局より文化財保護法第94条に基づき平成28年5月20日付、沖防第3008号「埋蔵文化財発掘の通知について」の進達依頼が提出され、沖縄県教育委員会教育長に進達、同年5月27日付、教文第374号「埋蔵文化財発掘の通知について（通知）」を沖縄防衛局へ進達した。平成28年3月30日付、沖縄防衛局長と宜野湾市長とで文化財発掘調査業務委託について契約を締結し、同年6月より新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、喜友名山川原第八遺跡の発掘調査に着手した。さらに、ハウジングエリア西側については、年度内に文化財調査を実施する必要があるとして、平成28年12月7日付で民間業者との文化財発掘調査業務委託を締結し、平成29年1月より新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の発掘調査に着手した。

平成29年度の支障除去措置範囲については、文化財保護法第94条に基づき、沖縄防衛局より進達依頼のあった平成28年12月6日付沖防第5713号「埋蔵文化財の通知について」を県教育委員会へ進達し、同年12月15日付、教文第1461号「埋蔵文化財発掘の通知について（通知）」を沖縄防衛局へ進達した。その後、平成29年4月20日付で沖縄防衛局長と宜野湾市長とで文化財発掘調査業務委託の契約を締結し、同年6月より発掘調査を開始した。

第2節 調査体制

本報告は、平成28年度に実施した西普天間住宅地区返還跡地内の緊急発掘調査の中で、新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の成果をまとめたものである。資料整理及び報告書作成は平成30年度～令和4年度にかけて実施した。調査体制は以下のとおりである。

事業主体	沖縄県宜野湾市教育委員会
事業責任者	
教育長	知念春美（平成28年度～令和3年度）、仲村宗男（令和4年度）
事業総括	
教育部長	島袋清松（平成28・29年度）、比嘉透（平成30年度・令和元年度）、嘉手納貴子（令和2年度～令和4年度）

教育次長 伊佐英明（平成28年度）、桃原忍子（平成29・30年度）、真喜志若子（令和元年度～3年度）、宮城葉子（令和4年度）

事業事務

文化課長 比嘉 洋（平成28年度～令和2年度）、津波古良幸（令和3年度）、浜里吉彦（令和4年度）

文化財保護係長 吉村 純（平成28・29年度）、仲地真俊（平成30年度～令和2年度）、比嘉高志（令和3・4年度）

同係担当主査 長濱健起（令和元年度～令和3年度）、伊藤 圭（令和4年度）

同係主任主事 伊藤 圭（平成29年度）、長濱健起（平成28年度～平成30年度）、仲村 毅（平成28年度～令和4年度）、金城りお（令和2年度～令和4年度）

同係主事 来間千明（平成28・29年度）、金城りお（平成29年度～令和元年度）、末吉飛鳥（令和2年度～令和4年度）

文化財保護指導嘱託員

（平成28年度）井上奈々、宮里知恵

（平成29年度）天久瑞香、池原悠貴、井上奈々、伊野波快、儀保和士、宮里知恵

（平成30年度）伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和元年度）伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

会計年度任用職員

（令和2年度）伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和3年度）伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和4年度）伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

調査指導及び調査協力

調査指導及び調査協力者として以下の方々に指導、協力を頂いた。（所属等は当時）

宜野湾市軍用地等地主会（平成28年度）

又吉真一（会長）、佐喜真祐輝（喜友名評議員）、呉屋 宏（新城評議員）、仲村 廣（安仁屋評議員）、宮城正秀（普天間評議員）、當山武弘（監事）

沖縄防衛局

辻 吉巳（管理部部長）、重政武輝（管理部返還対策課課長）、阿部正和（管理部返還対策課課長補佐）、仲間勝之（管理部返還対策課課長補佐）、大嶺正之（管理部返還対策課係長）、古謝 哲（管理部返還対策課係員）、幸松秀典（管理部返還対策課課長補佐）東江義哉（管理部返還対策課係員）、木村太音（管理部返還対策課事務官）

文化庁記念物課

川畑 純（平成28年度調査指導）

沖縄県教育庁文化財課及び沖縄県立埋蔵文化財センター

金城亀信、濱口寿夫、上地 博、中山 晋、瀬戸哲也、新垣 力、羽方 誠、知念隆博、大堀皓平、宮城淳一、具志堅清大

宜野湾市文化財保護審議会（平成28年度）

赤嶺政信（琉球大学教授）、新垣義夫（普天満宮宮司）、池田榮史（琉球大学教授）、大城逸朗（沖縄石の会会長）、恩河 尚（沖縄国際大学非常勤講師）、崎浜 靖（沖縄国際大学教授）、嵩元政秀（元沖縄考古学会会長）、波平エリ子（沖縄女子短期大学准教授）、比嘉悦子（沖縄県立芸術大学非常勤講師）、福島駿介（琉球大学名誉教授）

業務委託

平成28年度

西普天間住宅地区における発掘調査支援業務委託① 株式会社アーキジオパシフィック支店
西普天間住宅地区における発掘調査支援業務委託② 株式会社埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店
西普天間住宅地区における磁気探査業務委託① 有限会社新エンジニアリング
西普天間住宅地区における磁気探査業務委託② 有限会社新聞技研

平成29年度

西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その3） 株式会社島田組沖縄支店
西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その4） 株式会社バスコ宜野湾営業所
西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その5） 株式会社アーキジオパシフィック支店
西普天間住宅地区の年代測定 パリノ・サーヴェイ株式会社沖縄支店

令和3年度

遺物実測業務委託 有限会社ティガネー

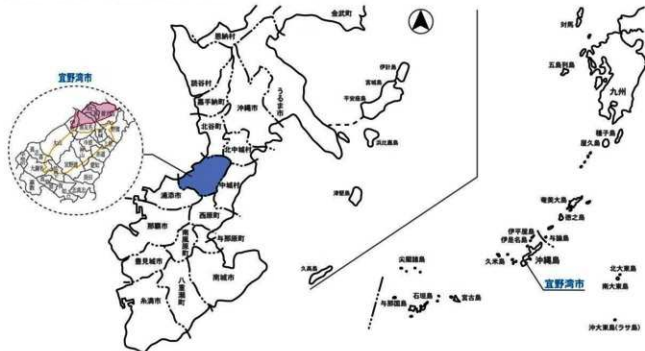
参考文献

- 註1. 宜野湾市教育委員会 2016『キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用実施計画策定業務委託報告書』
- 註2. 宜野湾市教育委員会 2022『基地内埋蔵文化財調査報告書8』

第II章 位置と環境

第1節 地理的環境

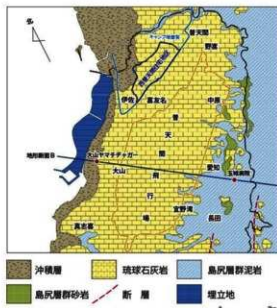
宜野湾市は沖縄本島中部の西海岸に位置する。北は北谷町、東は北中城村、中城村、南には西原町、浦添市と5市町村に接する。市域の面積は約19.8km²で東西方向に約6.1km、南北方向に約5.3kmの長方形状となっている。市の北側にはキャンプ瑞慶覧、中央には普天間飛行場が占有し、市民の居住地はその周縁部にドーナツ状に歪に展開する。市域には、国道58号、330号のほか、沖縄自動車道北中城IC・西原ICへのアクセス道路として、県道北中城線や県道34号等の主要幹線道路が縦横に展開し、中南部と北部地域を結ぶ交通の要衝となっている。



第II-1図 宜野湾市の位置

本市の地層は、泥岩や砂岩からなる新生代第三紀島尻層群を基盤とし、その上に琉球石灰岩が不整合に覆っている。西海岸沿いの低地には沖積層である砂層が堆積し、内陸部には琉球石灰岩で形成された海岸段丘が発達する。石灰岩台地上には島尻マージと呼ばれる赤色粘土質の土壌が広く分布し、市域の東側は島尻層群が風化してできたジャーガル土壌が分布する。

地形を見ると、海岸から内陸に向かって雛壇状の海岸段丘からなり、中位段丘と低位段丘がそれぞれ下位面、上位面に区分する4つの段丘面を有している。さらに河川や海岸沿いには周辺の土地よりも標高の低い低地があり、地下水面が浅く、湿地帯であるため、水田として利用されることが多い。市の北側、北谷町



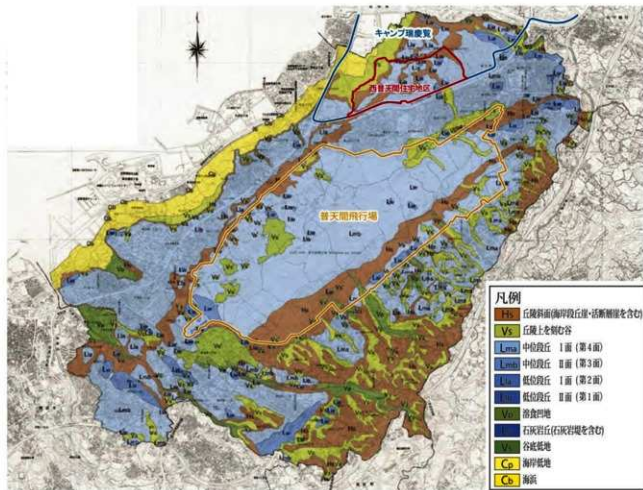
第II-2図 宜野湾市の地質図

との境には普天間川、浦添市との境には比屋良川が流れ、段丘面を横断するように発達している。また、段丘面の境には比高の異なる段丘崖があり、琉球石灰岩から浸透した雨水が不透水性の島尻層で地下水となって発達し、石灰岩を浸食して多くの洞穴（鍾乳洞など）を形成している。これらの地下水は下位の段丘崖で湧水となって湧きだし、古来より人々の生活の中心として利用されてきた。

西普天間住宅地区は本市の北側、キャンプ瑞慶覧に接する県道 81 号に面した中位段丘の縁辺部（標高 60 m 前後）から海岸低地（標高 10 m 前後）へ至る段丘状の平地、斜面地に位置する。地区の東側の大部分は戦後の基地建設に伴う大規模な造成工事が行われ、戦前までの地形はイシジャーの渓谷を除いてほぼ失われている。しかし、地区西側の喜友名、新城では、急峻な斜面地や湧水による湿地などのためか、あまり改変されずに戦前からの地形が良好に保存されている。特に斜面緑地の標高 14～16 m ラインには、不透水性の島尻層と石灰岩の不整合面があり、そこから地下水が湧きだして国指定文化財である喜友名泉をはじめとした多数の湧泉が分布する。戦前まで湧泉群の北側に広がる沖積低地には豊富な水量を活かした県下でも有数の水田地帯が広がっていた。



図版Ⅱ-1 伊佐浜の水田地帯



第Ⅱ-3図 宜野湾市地形分類図

第2節 字新城の地理的環境

字新城は宜野湾市の北東側に位置しており、隣接して東側に安仁屋、普天間、野嵩、西側には喜友名、上原が所在する。字新城を構成する小字は下原、大道原、西原、新城原、前原、東原の6小字であったが、戦後は字新城の南側（新城原、前原、東原）を普天間飛行場、北側（下原、大道原）をキャンプ瑞慶覧に吸収され、現在は両基地に挟まれた形で居住域が展開している。北東部で隣接する安仁屋との境界には谷状地形を有するイシジャーが分布し、下流側の一部が字新城に含まれる。イシジャーは流路のほとんどが琉球石灰岩台地に形成されており、降雨時を除くとほとんど流水が見られない潤れ谷となっている。今回報告する遺跡は中位段丘下位面にある琉球石灰岩の段丘面に形成された遺跡であり、南側から北側に向かって緩やかな斜面地に位置し、小字下原と大道原に所在する。一帯は戦後の基地造成によって米軍住宅地として整備され、大規模な土地改変によって旧地形の大部分は失われている。平成26年度から平成27年度にかけて行った試掘調査では米軍による住宅建設のための切土盛土が行われ、一部は岩盤まで削平されたことが判明している。



第Ⅱ-4図 字新城周辺（令和2年）



第Ⅱ-5図 宜野湾市全景・字新城の位置



第Ⅱ-6図 字新城の小字

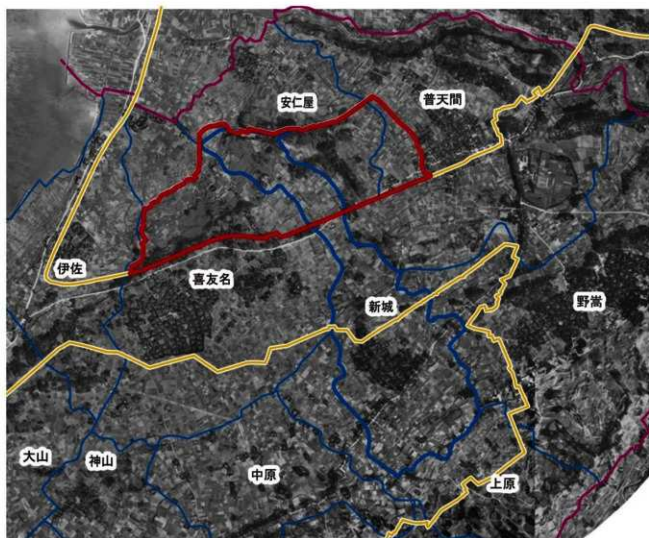
方に位置する西原一帯が開放されたことにより、土地区画整理組合を結成して区画整理を行い、ここに新城集落を再建することとなった。現在の新城は、市街地化が進み密集した住宅地区で構成されており、北側を県道81号線（普天間でいご通り）、南側をいすの木通りが東西方向に通リ、整然とした町並みとなっている（註3）。

参考・引用文献

註1. 宜野湾市教育委員会 1989『土に埋もれた宜野湾』

註2. 佐喜真興英 1982『女人政治考・霊の島々〈佐喜真興英全集〉』※収録「シマの話」より

註3. 宜野湾市史編集委員会 1985『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』

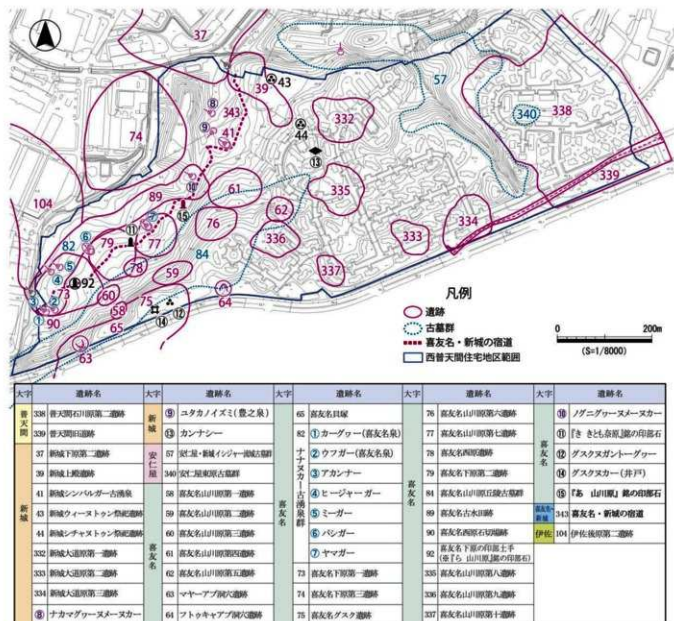


第Ⅱ-7図 宇新城全景 1945(昭和20)年空撮

第Ⅲ章 西普天間住宅地区の文化財

第1節 西普天間住宅地区の文化財

市教育委員会では、当該地区の返還後の跡地利用を見据えて返還前から地区内の文化財の状況を把握するための予備調査を行ってきた。これまでに実施された予備調査の結果、令和3年12月現在において、埋蔵文化財が29箇所、古墓群が3箇所、拝所が3箇所、湧泉・井戸が12箇所、その他文化財が4箇所計51箇所の文化財が確認されている（※口伝・伝承によるものや消失または移設した文化財も含む）。これらの遺跡のほとんどが地区西側の斜面緑地に分布しており、市で唯一の防衛施設を持つ喜友名グスクや国指定文化財の「喜友名泉」などが所在する。特に喜友名から新城にかけて湧泉の発達が顕著で、標高14～16mラインに点在し、これら湧泉から北側に広がる低地一帯は、戦後始め頃まで水田として利用された。



第Ⅲ-1図 西普天間住宅地区文化財分布図・文化財一覧表

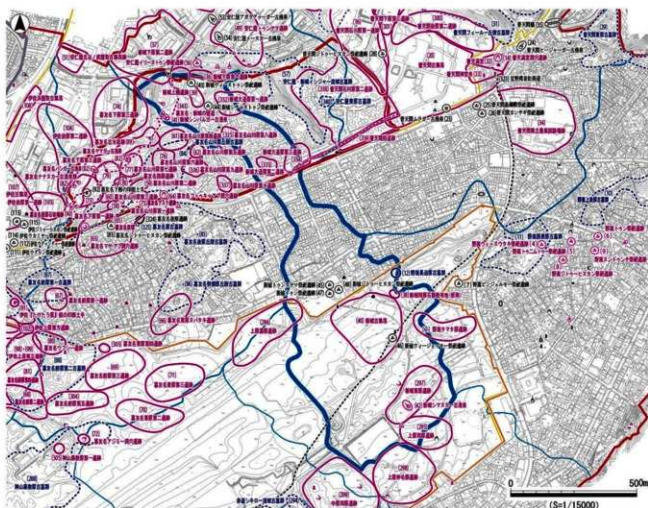
第2節 新城の文化財

西普天間住宅地区内の新城に所在する文化財は、これまでに市教委が実施してきた文化財調査の結果、前節で示した13箇所（字が重複する遺跡を含む）が確認されている。

新城下原第二遺跡：当該地区の北側には貝塚時代早期・後期（縄文時代早期・弥生～平安並行期）からグスク時代、近世～近代の複合遺跡である新城下原第二遺跡が所在する。平成11年～17年にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが行った発掘調査でⅢ地区V層直上からグスク時代相当の疑似畦畔や木杭等が確認され、一帯の水田利用がグスク時代まで遡ることが想定されている（註1）。

新城上殿遺跡：新城下原第二遺跡の南東側に隣接して新城集落発祥の地とされる新城上殿遺跡（旧称：新城下殿遺跡）が所在する。平成26年度に市教委が実施した表面踏査において、屋敷地や石切場跡などが現存していることが確認された。また、平成27年3月に当該遺跡南東側の丘陵縁辺で試掘調査を行ったところ、深度1.5mほどで岩盤なし地山（島尻マージ）が確認され、地山上面からグスク時代相当の陶磁器が共存する多数のピットが確認された。これにより、文化財保護法第99条に基づいて沖縄県に範囲変更の届出を行い、遺跡の範囲は南東側に大きく広がることとなった。

新城下原の祭祀遺跡：新城上殿遺跡南東側には戦前まで新城の拜所である新城ウィーストゥン祭祀遺跡、新城シチャストゥン祭祀遺跡があったと言われているが、調査時点ではすでに米軍によるコート建設等の造成工事によって消失していることが確認された。



第Ⅲ-2図 新城の遺跡位置図（令和3年9月時点）

カンナシー（雷岩）：新城上殿遺跡から南東側約140mの丘陵地にはカンナシーと言われる岩山（円錐カルスト）があったとされ、この岩山に関して集落移動の逸話が以下のように語り継がれている。

「新城の草分けの人々は、かの石灰岩台地の縁に七軒の居宅を構え、カンナシーと呼ばれる岩塊を挟んで安仁屋部落と相対していた。しかし、ある日この大岩が“アンナクンケーラシ、アラグスクンタバリー”と吠えたので、両部落の住民は恐れをなして移動していった」（註2）。残念ながら、カンナシーについても前述した祭祀遺跡同様に基地建設によって削平され、現地には残っていない。

そのほか、新城は喜友名と同様に湧泉が発達しており、集落移動前のムラガーされる新城シンバルガー古湧泉やナカマグワーヌメヌカー、豊之泉（1959年竣工）が所在する。また、新城上殿遺跡の北西側には「ハンタモー」と言われる崖があり、王府時代の宿道である「中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）」の山手側の道筋が想定されている。



第Ⅲ - 3 図 カンナシーのイメージスケッチ



第Ⅲ - 4 図 シンバルガー周辺のイメージスケッチ



図版Ⅲ - 1 ナカマグワーヌメヌカー



図版Ⅲ - 2 シンバルガー周辺の状況（平成26年撮影）



図版Ⅲ - 3 ハンタモー（平成26年撮影）



第Ⅲ - 5 図 新城下原一帯の遠景（令和2年1月撮影／南から）

第3節 基本層序

西普天間住宅地区は、地区中央から東側の大部分が琉球石灰岩の丘陵台地となっており、普天間飛行場の地形地質に類似した堆積状況をなしている。琉球石灰岩の上に赤土（島尻マージ層）が堆積し、人々の生活の痕跡はこの上面で確認されることが多い。当該地区の基本層序については、平成30年度報告の『基地内埋蔵文化財調査報告書7』（註3）で設定していたが、令和3年度に県と市で普天間飛行場内の基本層序の検討がなされ、統一基本層序（暫定）が作成された（註4）。

本市としては上記の検討結果を踏まえ、これまでの「文化層＝Ⅱ層＋ユニット番号」という記載を改め、Ⅱ層～Ⅴ層を各時期区分に当てはめて設定することとした。なお、Ⅵ層については迫地あるいは窪地を充填する局所的な堆積土ではあるものの、普天間飛行場だけでなく中南部石灰岩地帯に見られることから暫定的に基本層序に組み込まれている。本報告でも上記の統一基本層序を参考に以下のとおり基本層序を再設定した。また、各層において調査の際に細分されたものは算用数字を付して表記した（例：Ⅳ1層、Ⅳ2層・・・）。

Ⅰ層：現表土及び米軍造成土で、ハウジングエリアでは2m以上の造成土が堆積する箇所も見られる。色調は主に褐色～黄褐色を呈し、細かい砂や礫を斑に含む。場所によっては1m以上の転石が確認された場所もあった。

Ⅱ層：戦前～基地接收後の旧表土や旧耕作土。褐色～黄褐色の砂質シルトを呈し、比較的土粒が均質で焼土粒や炭化物などが混じる。遺物は本土産磁器や沖縄産陶器が出土。

Ⅲ層：近世に相当する。当該地区では、比較的締まりの弱い砂質シルトを呈し、褐色や黄褐色の色

調が見られる。II層と同じく焼土粒や炭化物を含む。III層は主にこの周辺一帯で行われた耕作に関連する堆積と思われる。

IV層：グスク時代相当の遺物包含層。灰褐色～黒褐色の粘質シルト層で、グスク土器や陶磁器などを含む。上層に比べて土色は暗く、焼土粒や炭化物が多く混じる。

V層：貝塚時代の遺物包含層や自然堆積層。暗褐色の粘質シルト。ほとんど礫を含まず、焼土粒や炭化物が多く混じるのが特徴。上層（IV層）に比べて粘性がやや強い。

VI層：基本的に締まりが弱く、黄褐色～オリーブ褐色の粘質シルト。局所的にみられ、迫地やドリーネ等の窪地に堆積した層と思われる。細文土器の小片が多く見られるものの、立地や堆積状況などから周辺からの流れ込みの可能性がある。ちなみに本報告掲載遺跡では確認されていない。

VII層：島尻マージ層。いわゆる赤土と呼称される層で、琉球石灰岩の風化土とされている。普天間飛行場では普遍的に確認される層であり、これまでの試掘調査等において砂質と粘質の互層になっていることが確認されている。統一基本層序では、VII a～eの5枚に細分されるが本報告では共通してVII層（島尻マージ層）とした。なお、検出された遺構の多くはVII層の上面を掘り込んで形成されている。

VIII層：にぶい黄色～淡黄色を呈する琉球石灰岩の岩盤。低地部では消失している箇所もある。

IX層：灰オリーブ色を呈する島尻層群を構成する泥岩の風化層。泥岩風化部は、基盤岩に比べてしまりが著しく悪い。また、不規則な塊状や小角片に割れる泥岩特有の風化構造が顕著にみられる。

X層：島尻層泥岩。いわゆるクチャ層。不透水性で石灰岩の不整合面では湧水が見られる。

参考文献（第三章）

註1. 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006『新城下原第二遺跡』

註2. 宜野湾市教育委員会 2011『文化財保存整備基本構想作成業務委託（喜友名・新城・野嵩・伊佐地区）報告書』

註3. 宜野湾市教育委員会 2019『基地内埋蔵文化財調査報告書7』

註4. 沖縄県立埋蔵文化財センター 2022『基地内文化財9 普天間飛行場内試掘調査総括報告書』

第IV章 新城上殿遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城上殿遺跡は1981年に市教委が実施した基地内分布調査によって初確認された遺跡である。西普天間住宅地区の北端に位置し、遺跡の一部は返還区域外であるキャンプ瑞慶覧まで広がる。標高8m～27mの石灰岩丘陵縁辺に立地しており、平成26年度の表面踏査（分布調査）では、屋敷跡や道跡、畑の区画、石切場跡など多くの遺構が残存していることが確認された。遺跡の南東側は米軍のコート建設に伴う造成工事により旧地形は消失していたが、平成27年3月に実施した試掘調査において、造成土直下で検出された地山（島尻マージ層）上面に多数のピットを検出した。これらのピットからは青磁や染付など、グスク時代の遺物が共伴して出土したことから同時代の集落跡であることが想定され、新城上殿遺跡の範囲が南東側へ大きく広がることが判明した。平成27年8月10日付、遺跡範囲変更の届出（宜教文第1号-27）を県に提出し、平成27年8月18日付、教文第766号にて県より了承の通知を受けた。これにより、これまで約4,800㎡であった遺跡面積は約9,900㎡と大幅に増となった。南東側に拡張した部分については市の跡地利用計画の中で住宅地として整備される予定となったため、沖縄防衛局による不発弾探査が実施されることとなった。市教委では平成28年3月に沖縄防衛局と締結した協定書に基づき、住宅地（住宅ゾーン）として不発弾探査が必要となる区域については緊急発掘調査を実施することとなった。調査区は過年度の試掘調査の結果を踏まえて設定し、南北方向に細長い調査区となった。設定面積は約2,215㎡を測り、表土（米造成土含む）は重機（バックホウ）を使用して掘り下げた。重機掘削に際しては市教委の専門職員又は専門嘱託員立会いの下で行い、掘削深度50cm毎に不発弾探査（経層探査）を実施した。包含層または遺構が確認できた時点で掘削を中断し、ブルーシートで養生等を行った。掘り下げは調査区の北端から行ったが、北端部では表土下50cmほどで岩盤を検出し、上面が削平されている状況が確認された。調査区南側にかけて徐々に島尻マージ層が確認され、部分的に褐色土（耕作土）や遺構も確認された。



第IV-1図 調査位置図

【日誌抄】

5月19日：調査区設定（測量）及び伐開作業
 6月2日：重機による表土掘削開始。地表下50cm掘削毎に不発弾経層探査を実施。
 7月7日：台風1号の影響により、現場休止。
 7月11日：委託業者による作業員投入。壁面・床面の清掃及び包含層の掘削を実施。
 7月13日：遺構検出（SK1）作業。
 7月22日：遺構検出状況について、無人航空機（ドローン）を使用して撮影。
 7月28日：SD5より沖繩産陶器及び青磁が出土。
 8月2日：SK1を四分割して掘り下げ開始。
 8月15日：SL1より焼土面確認。サブトレンチを設定して掘削。
 9月1日：日誌記載所見
 調査区1（新城上殿遺跡）と調査区3（新城大道原第一遺跡）では堆積している土が異なっている。調査区1は粘性が強く乾燥した際にひび割れが著しい。一方調査区3は砂質を呈しており、検出されたピットの覆土は暗褐色を呈し、焼土粒や炭化物の混入は少ない。なお、調査区1の北西部に分布するピット群の含土はにぶい黄褐色～暗オリーブ褐色を呈する。
 9月12日：ピット群について、記録作業を実施。
 10月3日：台風18号の影響により作業中止。
 10月18日：北側ピット群の完掘状況を撮影。
 11月14日：SP267下層より白磁出土。柱抜き取り後に混入した可能性あり。
 11月17日：南側ピット群について、パリーノ・サーヴェイ機によりサンプル土を採取。
 11月29日：SP380より青色のビーズ（5mm）が出土。
 12月7日：SD3（堀切状遺構）の掘削。SD3とSD4は堆積土が類似するため、同時代の可能性あり。
 12月16日：工区2の遺構完掘作業。
 12月20日：高所作業車にて完掘状況を撮影。調査完了。



表土掘削



遺構検出状況



記録作業状況



完掘状況撮影

図版IV - 1 作業状況

第2節 層序

新城上殿遺跡の調査区域は、返還された平成27年当時米軍によるコート建設で平坦に整地され、旧地形は残存していない状況であった。平成26年度に実施した試掘調査でも1m～2mほどの造成土が堆積し、直下は地山の赤土（島尻マーヅ層）が検出された。調査区域の北側では、地表面から0.5mほどで琉球石灰岩の岩盤が確認されたが、この上面も平坦に削られている状況であった。しかし、包含層は南側及び東側の一部で残存していることが判明した。



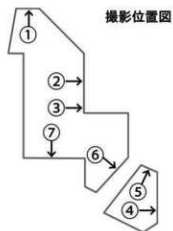
図版Ⅳ-2 ①工区1（北側）北壁面



図版Ⅳ-3 ②工区1（北側）東壁面



図版Ⅳ-4 ③工区1（北側）東壁面





図版IV - 5 ④工区2 東壁



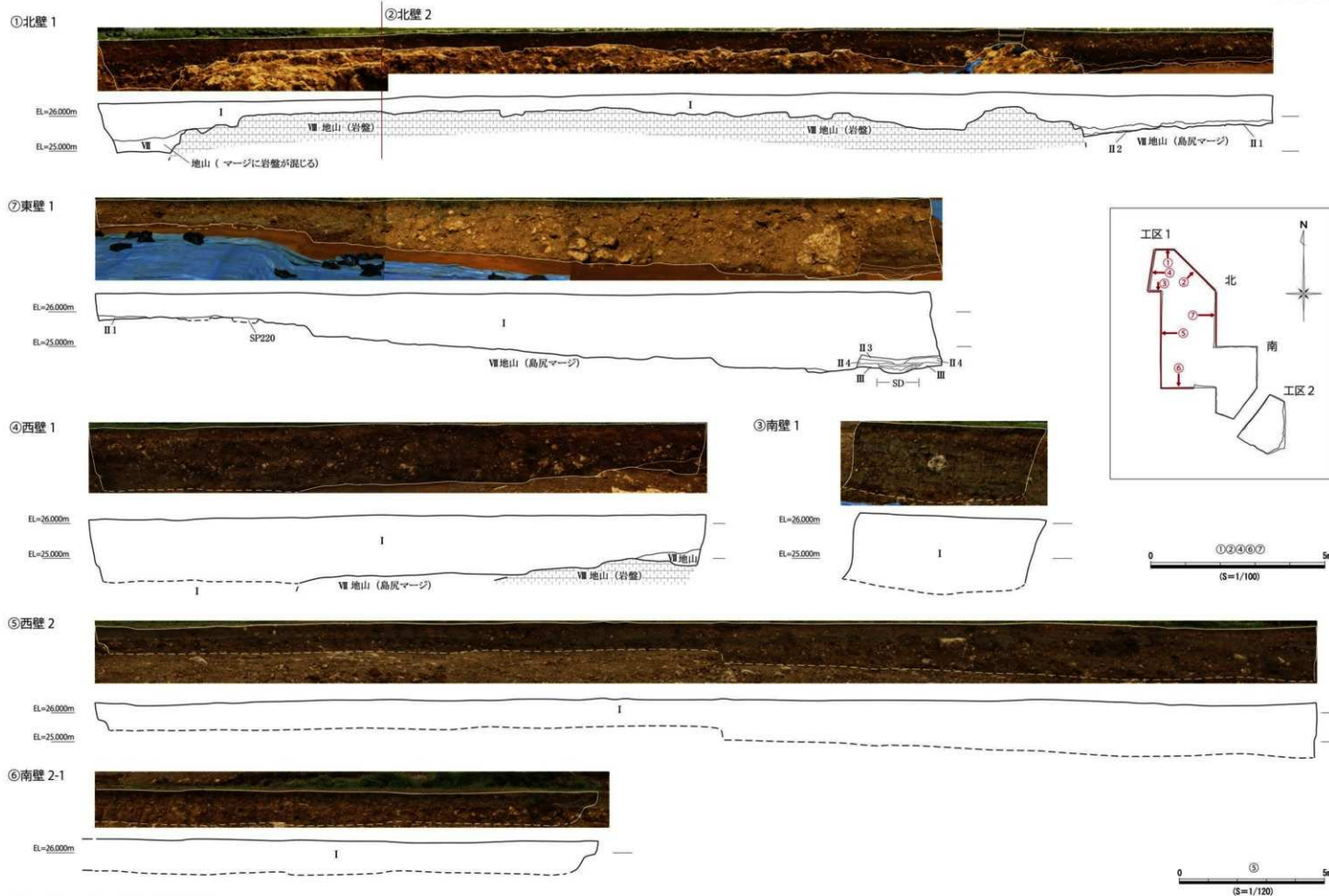
図版IV - 6 ⑤工区2 北壁



図版IV - 7 ⑥工区1 南壁3

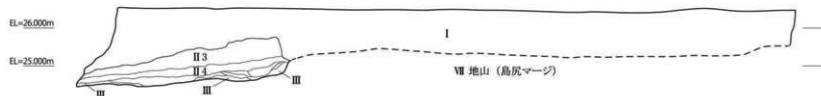


図版IV - 8 ⑦工区1 (南側) 南壁2-2



第IV-2図 工区1 (北) 壁面土層図

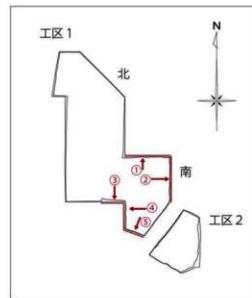
①北壁 3



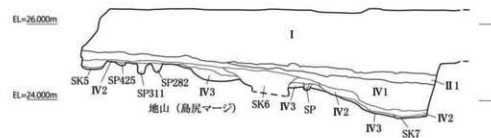
②東壁 2



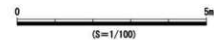
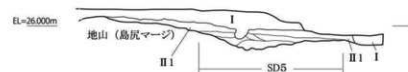
④西壁 3



③南壁 2-2

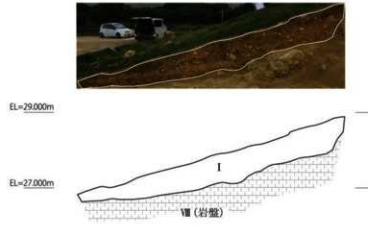


⑤南壁 3

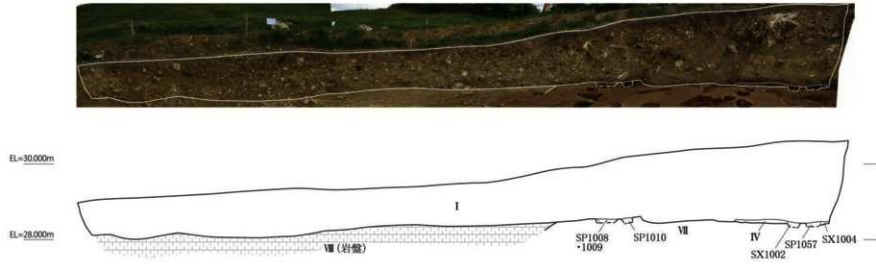


第IV-3図 工区 1 (南) 壁面土層図

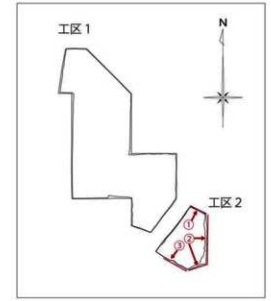
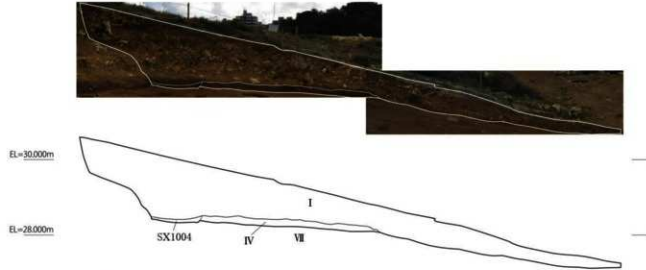
①北壁



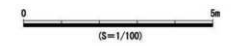
②東壁

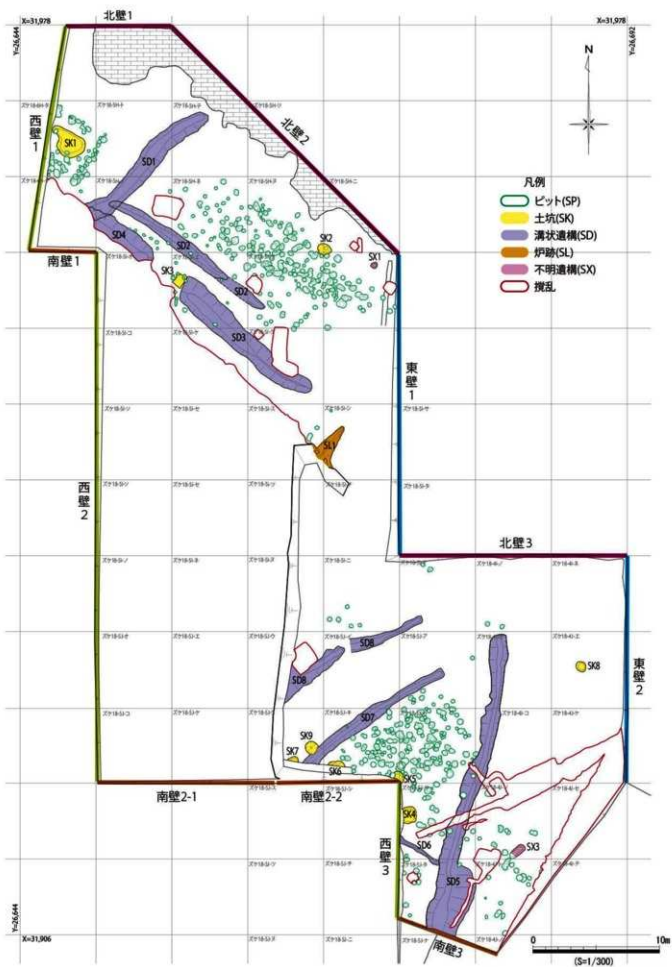


③南壁

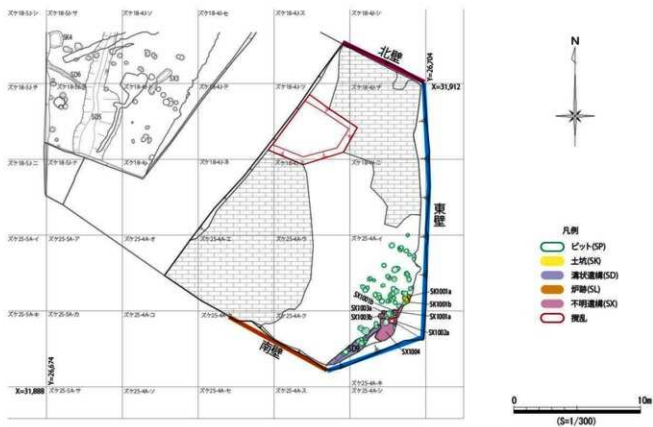


第IV-4図 工区2 壁面土層図





第IV-5図 工区1遺構分布図



第IV-6図 工区2遺構分布図

第3節 遺構

本遺跡で確認された遺構は、ピット（柱穴含む）、土坑、炉跡、溝状遺構の4種類が検出された。ピットについては調査区域の北側と南側、東側でそれぞれまとまりが見られ、柱痕の有無などから一部で掘立柱建物跡が想定されている。また、周辺で検出された土坑や炉跡もこれらの建物跡に付属するものと思われる。溝状遺構は調査区を縦横に展開し、建物跡と関連する施設として排水や区画が想定される。また、特筆すべき遺構として工区1北側の溝状遺構（SD 3）があり、断面形状より堀切のような機能が想定される。また、同じく工区1北側で検出された炉跡（SL 1）は当初、細長い形状から溝かと思われたが、細長く掘り込まれた中央に、被熱によって方形に赤色硬化する部分を確認した。戦後の改変工事によって上面が削平されているため、確定できないが、南側がやや下がるような形状をしており、小規模な窯であった可能性もある。以下、各遺構の詳細について種類別に報告する。

1. ピット (SP)

約643基が検出された。調査区の中では、工区1の北側、南側と工区2（東側）で一定のまとまりが見られる。ピットの規模としては直径20cm～40cmを計り、深さも30cmを超えるものも多く確認され、柱痕が確認できるピットも多く、ほとんどが掘立柱建物の柱穴と思われる。しかし、検出されたピットの多くは、密集して複雑に切り合った状況で確認されたため、明確なプランを把握することが困難であった。そこで建物のプランを検討するために、ピットが集中して確認された上記3区域に分けて各ピットの配置状況や掘り形状、基底面の標高（底面レベル）、覆土などから以下のとおり分類を試みた。なお、分類の方法については、註1『市内埋蔵文化財調査報告書』（市教育委員会2010）、註2『大山前門原第一遺跡』（市教育委員会2012）を参考にした。

※註1 宜野湾市教育委員会 2010『市内埋蔵文化財調査報告書』宜野湾市文化財調査報告書 第46集





※註2 宜野湾市教育委員会 2012『大山前門原第一遺跡』宜野湾市文化財調査報告書 第49集

【分類方法】

(1) 掘方での分類

掘方の断面形状から分類を試みたもので、A～Dの4種類に分類した（第IV-1表 ピット掘方断面形状分類模式図）。A類は基底面に平坦面があるもので、B類は基底面に丸みや微弱な凹凸があるものとした。C類は基底面に段を持つものあるいは途中から角度をあげて掘削されるものとした。D類は基底面が斜めになっているまたは凹凸が著しく、柱を据えるには難があるものとした。本報告ではD類は柱穴の可能性が低いとして建物プランの検討から除外した。

第IV-1表 ピット掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底面に平坦面があるもの。	基底面に平坦面がないもの。（基底面が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの）	基底面に段を持つもの。	基底面が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直性15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い

(2) 法量での分類

検出時の平面規模(直径×短径)で分類した。本市が2010年に報告した『市内埋蔵文化財調査報告書』(註1)によると、想定プランの柱本数によって柱(柱穴)の直径に差異が認められ、大きく母屋と高倉に分けることができる。つまり、直径が30cm以下の柱穴は母屋の可能性が高く、50cm以上の柱穴は高倉(4本柱～6本柱)の可能性が高いと推測している。なお、今回の分類では直径が15cm以下または検出面からの深さが5cm以下のものは柱穴の可能性が低いと考え、プランの検討から除外した(第IV-3～12表 遺構計測分類表)。

(3) 底面レベルの分類

建物の基礎となる柱を据えるための穴を掘削する際、上屋を造る上でも同じような深さまで掘り下げる可能性は高く、「同等の底面レベルを有する遺構」は同じ建物の柱穴である可能性は高いと思われる。そのため、確認されたピットの最も低いレベルと最も高いレベルを基に、その間を任意に20cm単位で区切り細分化した(第IV-2表、第IV-7図～第IV-9図)。

第IV-2表 底面レベルの分類

工区1

底面レベル(20cm区切り)					
I	23.80~23.99m	VI	24.80~24.99m	X I	25.80~25.99m
II	24.00~24.19m	VII	25.00~25.19m	X II	26.00~26.19m
III	24.20~24.39m	VIII	25.20~25.39m	X III	26.20~26.39m
IV	24.40~24.59m	IX	25.40~25.59m		
V	24.60~24.79m	X	25.60~25.79m		

工区2

底面レベル(20cm区切り)	
I	27.80~27.99m
II	28.00~28.19m
III	28.20~28.39m
IV	28.40~28.59m

(4) 覆土による分類

本遺跡で検出されたピットの覆土については、暗褐色の粘質シルトは共通する含まれる赤色土粒の割合に応じてa、b、cの3種類に細分した。a類はマージ起源の赤色土粒が全体の10%未満混じるもので、比較的掘方ラインは明瞭である。b類はマージ起源の赤色土粒が10%以上～50%未満でa類に比べて色調はやや明るい。c類は赤色土粒が50%以上含むもので、粘性が高く、しまりが弱い傾向にある。ピット覆土に複数の堆積が見られる場合は、柱痕またはピット中心に近い部分を基準とした。



a類



b類



c類

図版IV-9 覆土分類別ピット(参考画像)

第Ⅳ-3表 遺構計測分類表 工区1北側(1号建物跡周辺)

遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			崖面レベル(m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		崖面	柱状物	礎土	
SP531	不定形	76	—	17	24.30	Ⅱ	B	△	1号建物跡
SP532	円形	17	—	4	24.42	Ⅱ	D	s a X	
SP533	—	(23)	—	18	24.48	Ⅱ	D	a	SP555、SP565、SP566を切る
SP534	円形	22	21	11	24.52	Ⅱ	B	a	
SP535	楕円形	48	35	19	24.45	Ⅱ	D	+ a	○
SP536	楕円形	35	28	28	25.17	Ⅱ	B	+ b	○
SP537	楕円形	19	15	8	25.38	Ⅱ	B	s b	X
SP538	楕円形	27	22	18	24.48	Ⅱ	A	+ a	○
SP539	楕円形	34	23	27	24.36	Ⅱ	D	+ a	○
SP540	円形	35	33	29	24.32	Ⅱ	A	+ a	○
SP541	円形	21	18	3	24.51	Ⅱ	A	b X	SP542を切る
SP542	楕円形	54	45	17	24.38	Ⅱ	C	+ a	
SP543	円形	34	30	26	24.24	Ⅱ	B	+ a	○
SP544	楕円形	(40)	31	24	24.24	Ⅱ	A	a	
SP545	楕円形	—	35	47	24.00	Ⅱ	A	+ a	SP544Cに切られる
SP546	円形	33	31	17	24.33	Ⅱ	B	+ a	
SP547	円形	27	27	14	24.32	Ⅱ	D	a	SP548Cに切られる
SP548	楕円形	35	29	39	24.07	Ⅱ	B	a	SP547、SP549を切る
SP549	楕円形	(50)	40	45	23.91	Ⅱ	B	+ b	SP578、SP595Cに切られる。1号建物跡
SP550	円形	28	26	12	24.34	Ⅱ	A	b	SP549Cに切られる
SP551	楕円形	38	29	12	24.29	Ⅱ	C	+ a	
SP552	円形	(19)	—	14	24.32	Ⅱ	B	a	SP553Cに切られる
SP553	—	(13)	—	9	24.35	Ⅱ	B	s a X	SP552を切る
SP554	楕円形	46	31	20	24.41	Ⅱ	B	+ a	
SP555	楕円形	(33)	—	19	24.33	Ⅱ	B	a	SP556Cに切られる。1号建物跡
SP556	円形	17	17	6	24.46	Ⅱ	D	a	SP555、SP557を切る
SP557	楕円形	—	18	6	24.45	Ⅱ	B	a	SP556Cに切られる
SP558	楕円形	21	18	13	24.55	Ⅱ	B	a	
SP559	円形	45	42	57	24.07	Ⅱ	C	+ a	○
SP560	楕円形	34	—	36	24.26	Ⅱ	D	a	SP560、SP588、SP590を切る。1号建物跡
SP561	—	—	—	31	24.30	Ⅱ	B	b	SP561を切る。SP559Cに切られる
SP562	—	48	—	33	24.23	Ⅱ	A	+ b	SP560Cに切られる
SP563	楕円形	45	37	29	24.23	Ⅱ	D	b	SP563を切る。SP581Cに切られる
SP564	楕円形	26	19	14	24.34	Ⅱ	D	a	SP562Cに切られる
SP565	—	—	(14)	8	24.53	Ⅱ	B	b X	SP533Cに切られる
SP566	—	—	(12)	14	24.51	Ⅱ	B	X	SP533Cに切られる
SP567	—	15	—	12	24.52	Ⅱ	B	s a X	
SP568	—	(28)	—	15	24.49	Ⅱ	D	a	SP574Cに切られる
SP569	円形	50	49	55	24.13	Ⅱ	C	l a	SP570、SP571を切る。1号建物跡
SP570	—	—	—	50	24.18	Ⅱ	D	a	SP569、SP571Cに切られる
SP571	楕円形	—	30	29	24.40	Ⅱ	A	b	SP569、SP572Cに切られる
SP572	楕円形	38	27	28	24.42	Ⅱ	B	+ b	SP571を切る
SP573	円形	(30)	29	20	24.43	Ⅱ	D	a	SP574Cに切られる
SP574	—	(15)	—	3	24.59	Ⅱ	B	s a X	SP568、SP573を切る
SP575	—	32	—	40	23.99	Ⅱ	B	b	SP545Cに切られる
SP576	楕円形	25	21	13	25.17	Ⅱ	D	+ a	SP577を切る
SP577	—	—	—	24	25.22	Ⅱ	B	+ b	SP537、SP576Cに切られる
SP578	不定形	—	47	49	23.82	Ⅱ	C	+ a	○
SP579	楕円形	69	48	56	23.75	Ⅱ	D	a	SP549を切る。SP594、SP595Cに切られる
SP580	円形	37	36	9	24.44	Ⅱ	B	a	SP586を切る
SP581	楕円形	39	33	43	24.13	Ⅱ	A	+ a	
SP582	円形	19	—	6	24.50	Ⅱ	B	s b X	
SP583	円形	26	25	14	24.37	Ⅱ	B	+ a	○
SP584	不定形	48	33	48	23.99	Ⅱ	B	+ a	○
SP585	円形	54	54	38	24.06	Ⅱ	B	+ a	○
SP586	—	(70)	—	30	24.98	Ⅱ	—	b	SP585Cに切られる。1号建物跡
SP587	—	—	—	53	23.89	Ⅱ	B	+ b	SP584、SP586、SP587を切る
SP588	—	(45)	—	44	24.18	Ⅱ	—	b	SP580、SP584、SP585Cに切られる
SP589	円形	(15)	—	4	24.56	Ⅱ	B	s b X	SP585Cに切られる
SP590	楕円形	—	36	30	24.28	Ⅱ	B	b	SP588を切る
SP591	不定形	27	21	26	24.21	Ⅱ	B	b	SP559Cに切られる
SP592	円形	24	21	20	23.98	Ⅱ	D		SP561の下方横出
SP593	—	23	—	16	24.10	Ⅱ	B	b	
SP594	楕円形	25	—	14	24.10	Ⅱ	A	b	SP594を切る
SP595	—	23	—	15	24.20	Ⅱ	B	a	SP593Cに切られる
SP596	—	—	—	—	—	Ⅱ	B	a	SP549、SP578を切る

崖面レベル(200m底切り)	
Ⅰ	23.80～23.99m
Ⅱ	24.00～24.19m
Ⅲ	24.20～24.39m
Ⅳ	24.40～24.59m
Ⅴ	24.60～24.79m
Ⅵ	24.80～24.99m
Ⅶ	25.00～25.19m
Ⅷ	25.20～25.39m

第IV-4表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 1

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			断面レベル(m)	分類			礎土可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		断面	柱径等	礎土			
SP004	楕円形	29	22	10	24.76	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ノ
SP005	—	25	—	10	24.76	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP007	—	39	—	27	24.65	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-ネ
SP008	—	10	—	3	24.91	Ⅴ	B	s a	×		ズケ18-SH-ネ
SP009	—	14	33	15	24.75	Ⅴ	B	s a	×	SP010に切られる	ズケ18-SH-ネ
SP010	—	40	29	18	24.74	Ⅴ	B	a	△	SP009を切る	ズケ18-SH-ネ
SP011	不定形	30	30	19	24.79	Ⅴ	A	a	△		ズケ18-SH-ネ
SP012	不定形	44	36	10	24.85	Ⅴ	B	+ b	○	SP014に切られる	ズケ18-SH-ネ
SP014	不定形	—	20	5	24.95	Ⅴ	A	b	×	SP012を切る	ズケ18-SH-ネ
SP016	円形	27	27	12	24.87	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP017	円形	27	23	12	25.11	Ⅴ	B	c	△		ズケ18-SH-ネ
SP018	円形	41	40	19	24.90	Ⅴ	A	b	△		ズケ18-SH-ネ
SP020	楕円形	38	33	17	24.60	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-SH-ネ
SP021	円形	34	33	18	24.85	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP022	楕円形	35	30	15	24.83	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP024	円形	27	25	18	24.85	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP025	楕円形	32	25	15	24.83	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP026	円形	24	23	6	25.03	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-ネ
SP027-a	—	—	—	22	24.92	Ⅴ	C	+ b	○	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP027-b	—	—	—	27	24.62	Ⅴ	C	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP028	楕円形	32	25	13	24.95	Ⅴ	C	b	△	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP029	不定形	11	—	30	24.75	Ⅴ	—	s b	×	SP030に切られる	ズケ18-SH-ネ
SP030	—	29	—	30	24.75	Ⅴ	A	a	△	SP029を切る	ズケ18-SH-ネ
SP031	円形	30	28	15	24.85	Ⅴ	B	+ b	○	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP033	円形	31	30	6	24.94	Ⅴ	B	b	△	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP034	楕円形	43	33	39	24.75	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP035	楕円形	35	27	13	25.01	Ⅴ	A	+ b	○	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP037	円形	30	28	17	25.03	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP038	楕円形	23	20	9	25.07	Ⅴ	A	a	△		ズケ18-SH-ネ
SP040	楕円形	32	26	18	24.95	Ⅴ	C	+ a	○	2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP041	円形	18	17	12	25.02	Ⅴ	C	s a	△		ズケ18-SH-ネ
SP042	楕円形	40	32	30	24.82	Ⅴ	A	+ b	○	SP043に僅かに切られる	ズケ18-SH-ネ
SP043	楕円形	49	41	25	24.87	Ⅴ	B	b	△	SP042をわずかに切る	ズケ18-SH-ネ
SP044	円形	28	27	12	25.03	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-ネ
SP045	楕円形	—	25	18	24.97	Ⅴ	A	+ b	○	SP046を切る。2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP046	—	—	27	7	25.07	Ⅴ	B	c	△	SP045に切られる	ズケ18-SH-ネ
SP047	楕円形	41	30	20	25.00	Ⅴ	A	b	△		ズケ18-SH-ネ
SP048	楕円形	37	30	10	25.12	Ⅴ	D	b	△		ズケ18-SH-フ
SP049	不定形	—	48	22	25.03	Ⅴ	C	+ b	○	SP050を切る	ズケ18-SH-フ
SP050	楕円形	—	30	40	24.85	Ⅴ	B	+ b	○	SP049に切られる。2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-SH-フ
SP052	楕円形	21	16	14	25.13	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-フ
SP053	楕円形	29	25	23	25.05	Ⅴ	D	b	△		ズケ18-SH-フ
SP054	楕円形	40	25	32	24.88	Ⅴ	B	+ a	○	SP475に切られる。3号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP055	楕円形	57	45	42	24.32	Ⅴ	B	i b	△		ズケ18-SH-ネ
SP056	楕円形	39	30	25	24.98	Ⅴ	B	+ b	○	3号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP057	楕円形	38	32	7	25.18	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-フ
SP058	円形	27	27	14	25.12	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-フ
SP059	円形	42	—	30	24.88	Ⅴ	B	b	○	SP060に切られる。2号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP060	楕円形	—	26	12	25.01	Ⅴ	B	a	△	SP059を切る	ズケ18-SH-ネ
SP061	楕円形	33	26	11	25.06	Ⅴ	B	b	△	2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-SH-ネ
SP062	円形	18	16	7	25.20	Ⅴ	A	s b	×		ズケ18-SH-フ
SP063	円形	38	36	24	25.03	Ⅴ	B	+ b	○	3号建物跡	ズケ18-SH-フ
SP064	円形	23	22	13	25.14	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-SH-フ
SP066	円形	30	28	5	25.15	Ⅴ	B	a	×	3号建物跡	ズケ18-SH-フ
SP067	楕円形	44	40	33	24.87	Ⅴ	D	+ a	○		ズケ18-SH-フ
SP068	楕円形	44	32	56	24.62	Ⅴ	B	b	○		ズケ18-SH-ネ
SP069	円形	20	19	13	25.11	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-フ
SP070	楕円形	41	36	4	25.21	Ⅴ	B	b	×	SP071を切る	ズケ18-SH-フ
SP071	楕円形	33	29	40	24.84	Ⅴ	D	b	△	SP070に切られる	ズケ18-SH-フ
SP073	円形	33	29	25	25.00	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-SH-フ
SP074	楕円形	—	47	47	24.82	Ⅴ	B	+ b	○	SP075に切られる	ズケ18-SH-フ
SP075	—	—	30	35	24.94	Ⅴ	B	+ b	○	SP074を切る	ズケ18-SH-フ
SP076	円形	26	25	10	25.16	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-フ
SP078	楕円形	36	31	18	25.06	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-SH-ウ
SP079	—	—	—	12	25.15	Ⅴ	A	+ b	○	SP080を切る	ズケ18-SH-ウ
SP080	—	—	—	7	25.20	Ⅴ	A	b	×	SP079に切られる	ズケ18-SH-ウ
SP081	楕円形	24	19	6	25.20	Ⅴ	D	c	△		ズケ18-SH-フ
SP082	不定形	38	34	19	25.12	Ⅴ	B	+ b	○	3号建物跡	ズケ18-SH-フ

第Ⅳ-5表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 2

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類			備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		遺構	断面	柱礎等		
SP083	楕円形	28	22	15	25.15	埋	B	b	△	
SP084	不定形	36	35	5	25.04	埋	D		b ×	スケ18-SH-エ
SP086	楕円形	61	56	35	24.90	埋	A	I+	a △	スケ18-SI-エ
SP087	楕円形	27	25	5	25.25	埋	D		a ×	スケ18-SI-エ
SP088	楕円形	42	36	23	25.05	埋	B		b △	スケ18-SH-ヌ
SP089	楕円形	37	30	48	24.84	埋	B	+	b ○	スケ18-SH-ヌ
SP090	円形	25	19	22	25.08	埋	B	b	△	スケ18-SH-ヌ
SP091-a	楕円形	40	29	25	25.10	埋	B	b	△	スケ18-SH-ヌ
SP091-b	楕円形	—	59	31	25.00	埋	B	I	a ×	スケ18-SH-ヌ
SP092	円形	25	21	10	25.28	埋	B	b	△	スケ18-SH-ヌ
SP093	—	34	—	18	24.94	埋	C	a	△	2号建物跡
SP094	楕円形	44	—	30	25.03	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP095	—	—	34	27	25.07	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP096	楕円形	26	—	10	25.17	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP098	楕円形	44	38	43	24.88	埋	B	b	○	2号建物跡、3号建物跡
SP099	楕円形	41	—	14	25.16	埋	A	b	○	スケ18-SI-ウ
SP100	楕円形	33	—	19	25.10	埋	B	b	△	スケ18-SH-ヌ
SP101	—	34	—	35	25.96	埋	B	b	×	※底面レベルが明らかに異なるため、除外
SP102	—	30	—	27	25.05	埋	D	b	△	スケ18-SH-ヌ
SP103	楕円形	33	25	22	25.17	埋	B	b	○	スケ18-SH-ヌ
SP104	楕円形	33	26	10	25.03	埋	B	+	b ○	スケ18-SI-ウ
SP105	—	—	—	10	25.26	埋	D	a	×	SP109を切る
SP109	不定形	61	36	37	24.97	埋	A	I	b ×	SP105に切られる
SP110	楕円形	44	40	30	25.04	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP111										欠番
SP112	楕円形	45	—	34	25.02	埋	B	a	○	スケ18-SI-ウ
SP113	—	40	—	34	25.00	埋	A	b	○	スケ18-SI-ウ
SP114	楕円形	—	31	25	25.11	埋	B	b	○	SP115に切られる
SP115	—	—	—	9	25.28	埋	B	b	×	SP114を切る
SP116	楕円形	—	41	44	24.92	埋	B	+	b △	3号建物跡
SP117	楕円形	55	43	21	25.17	埋	A	I	b △	3号建物跡
SP118	円形	25	22	12	25.28	埋	A	b	△	スケ18-SI-ウ
SP119	—	—	—	35	25.03	埋	B	+	b ○	SP120に切られる
SP120	—	—	—	6	25.33	埋	A	b	×	SP119を切る
SP121	—	—	33	17	25.21	埋	C	a	△	スケ18-SI-ウ
SP122	楕円形	—	43	23	25.16	埋	A	a	△	スケ18-SI-ウ
SP123	楕円形	—	41	24	25.16	埋	B	+	b ○	スケ18-SH-ヌ
SP124	—	—	—	29	25.12	埋	B	+	b ○	スケ18-SH-ヌ
SP125	—	—	41	27	25.15	埋	D	b	×	スケ18-SH-ヌ
SP126	楕円形	33	31	18	25.15	埋	D	b	×	スケ18-SI-ウ
SP128	円形	33	32	15	25.25	埋	B	a	△	スケ18-SI-ウ
SP129	円形	28	25	20	25.22	埋	B	+	a ○	スケ18-SI-ウ
SP130	楕円形	53	46	32	25.10	埋	A	I+	b ○	スケ18-SI-ウ
SP131	楕円形	39	33	13	25.03	埋	B	+	b △	3号建物跡
SP132	楕円形	68	32	30	24.90	埋	D	I+	b △	スケ18-SI-ウ
SP134	楕円形	36	28	5	24.27	埋	D		×	SD3上面に横出。非常に浅く凹みの埋積土か
SP136	楕円形	36	34	16	25.18	埋	A	a	△	スケ18-SI-ウ
SP137	円形	38	35	35	25.05	埋	A	a	△	スケ18-SI-ウ
SP138	円形	25	24	15	25.27	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP139	楕円形	38	22	18	25.25	埋	A	c	△	スケ18-SI-ウ
SP140	円形	41	—	37	25.10	埋	A	+	a ○	SP141を切る
SP141	—	46	—	31	25.15	埋	C	+	b ○	SP140、142に切られる
SP142	—	30	—	25	25.20	埋	B	+	b ○	SP141を切る
SP143	円形	—	26	9	25.05	埋	D	b	△	スケ18-SI-ウ
SP144	楕円形	31	26	12	25.03	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP146	円形	18	17	5	25.48	埋	D	b	×	スケ18-SI-ウ
SP147	楕円形	—	31	23	24.20	埋	D	b	×	SP148を切る
SP148	—	—	39	42	25.05	埋	B	b	△	SP147、150aに切られる
SP149	楕円形	39	33			埋	A	a	△	前面図なし
SP150-a	—	—	—	22	25.27	埋	D	b	×	SP148を切る
SP150-b	—	—	—	25	25.20	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP151-a	—	—	—	20	25.24	埋	—	b	△	スケ18-SI-ウ
SP151-b	—	—	—	15	25.24	埋	B	b	△	スケ18-SI-ウ
SP152	楕円形	30	26	22	25.25	埋	B	+	b ○	スケ18-SI-ウ
SP154	円形	39	37	55	24.95	埋	B	+	b ○	スケ18-SI-イ
SP156	楕円形	30	—	5	25.09	埋	A	b	×	スケ18-SI-ウ
SP157	—	—	43	51	24.90	埋	B	+	a ○	スケ18-SI-ウ
SP158	楕円形	39	30	29	25.15	埋	A	b	△	3号建物跡

第IV-6表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 3

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)		底面レベル(m)	分類			柱穴の 形状	備考	グリッド	
		長軸	短軸		深さ	底面 範囲	柱痕等				壁土
SP159	楕円形	35	31	32	25.15	Ⅲ	B	+	a	○	
SP161	円形	36	32	15	24.93	Ⅲ	B	+	a	△	ズケ18-S-U
SP162	楕円形	25	25	5	24.94	Ⅲ	A	+	a	×	ズケ18-S-U
SP163	円形	36	33	37	24.85	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP164	—	37	—	8	25.13	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP165	—	—	35	45	25.05	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP166	—	54	—	37	25.11	Ⅲ	B	I+	b	△	ズケ18-S-U
SP167-a	—	25	—	25	25.23	Ⅲ	D	+	b	×	ズケ18-S-U
SP167-b	—	—	—	20	25.28	Ⅲ	A	+	a	○	ズケ18-S-U
SP168	不定形	42	30	20	25.27	Ⅲ	A	+	a	△	ズケ18-S-U
SP170	楕円形	42	32	35	25.10	Ⅲ	A	+	a	△	ズケ18-S-U
SP171	楕円形	50	46	33	25.17	Ⅲ	B	I+	a	△	ズケ18-S-U
SP173	楕円形	36	33	24	25.21	Ⅲ	A	+	c	○	ズケ18-S-U
SP174	楕円形	26	23	25	25.27	Ⅲ	B	+	a	○	ズケ18-S-U
SP175	楕円形	29	25	23	25.27	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP176	楕円形	40	38	32	25.12	Ⅲ	B	+	a	○	ズケ18-S-U
SP177	円形	46	43	36	25.16	Ⅲ	A	+	b	△	ズケ18-S-U
SP178	円形	—	26	19	25.36	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP179	楕円形	31	28	17	25.36	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP181	円形	56	55	23	25.34	Ⅲ	A	I	b	△	ズケ18-S-U
SP182	不定形	59	51	41	25.15	Ⅲ	B	I+	a	△	ズケ18-S-U
SP183	円形	33	—	27	25.33	Ⅲ	A	+	b	△	ズケ18-S-U
SP185	円形	39	36	25	24.89	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP186	円形	31	30	12	25.03	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP187	円形	32	30	13	25.03	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP188	円形	24	23	5	25.11	Ⅲ	D	+	b	×	ズケ18-S-U
SP190	円形	35	34	15	25.00	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP194	円形	51	45	50	25.03	Ⅲ	B	I+	b	△	ズケ18-S-U
SP195	不定形	31	30	20	25.31	Ⅲ	B	+	—	○	ズケ18-S-U
SP196	円形	39	34	15	25.47	Ⅲ	C	+	b	△	ズケ18-S-U
SP197	楕円形	34	31	10	25.08	Ⅲ	A	+	b	△	ズケ18-S-U
SP198a	—	—	24	22	25.33	Ⅲ	D	+	b	×	ズケ18-S-U
SP198b	—	50	—	24	25.32	Ⅲ	D	+	b	×	ズケ18-S-U
SP199a	—	35	—	42	25.17	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP199b	—	—	—	40	25.17	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP201	—	27	—	6	25.55	Ⅲ	B	+	a	△	ズケ18-S-U
SP202	—	—	34	19	25.43	Ⅲ	A	+	a	○	ズケ18-S-U
SP204	円形	47	44	25	24.81	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP205-a	—	29	—	31	25.28	Ⅲ	B	+	a	○	ズケ18-S-U
SP205-b	—	36	—	37	25.22	Ⅲ	B	+	a	△	ズケ18-S-U
SP205-c	不定形	74	—	28	25.25	Ⅲ	D	I	a	×	ズケ18-S-U
SP207	楕円形	31	—	7	25.54	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP208	楕円形	—	41	56	25.05	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP209	楕円形	40	38	20	25.43	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP211	円形	47	47	29	25.35	Ⅲ	C	+	b	△	ズケ18-S-U
SP212	—	—	48	20	25.38	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP213	楕円形	43	—	37	25.26	Ⅲ	B	+	c	△	ズケ18-S-U
SP214	円形	32	31	18	25.41	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP215	円形	35	35	25	25.38	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP216	円形	33	30	24	25.27	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP217	楕円形	37	27	(23)	(25.38)	Ⅲ	B	+	a	△	ズケ18-S-U
SP218	円形	37	36	15	25.50	Ⅲ	A	+	b	△	ズケ18-S-U
SP219	楕円形	47	41	34	25.28	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP220	楕円形	36	29	28	25.35	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP221	楕円形	65	34	10	24.60	V	B	I	b	△	ズケ18-S-U
SP222	楕円形	35	31	15	24.61	V	D	+	b	△	ズケ18-S-U
SP223	楕円形	22	19	5	24.75	V	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP224	楕円形	63	42	28	25.07	Ⅲ	A	I	b	△	ズケ18-S-U
SP226-a	楕円形	—	41	36	25.00	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP226-b	楕円形	—	43	45	24.90	Ⅲ	A	+	b	○	ズケ18-S-U
SP227a	—	48	—	22	25.28	Ⅲ	D	+	b	△	ズケ18-S-U
SP227b	—	47	—	26	25.20	Ⅲ	B	+	b	○	ズケ18-S-U
SP228	円形	56	56	16	25.38	Ⅲ	B	I	b	△	ズケ18-S-U
SP229	楕円形	34	30	10	25.00	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP230-a	楕円形	38	—	10	25.44	Ⅲ	—	+	b	△	ズケ18-S-U
SP230-b	—	24	—	30	25.24	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP230-c	—	—	—	28	25.25	Ⅲ	B	+	b	△	ズケ18-S-U
SP454	円形	36	33	18	24.54	Ⅲ	D	+	—	△	ズケ18-S-U

第Ⅳ-7表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 4

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			備考	グリッド	
		長軸	短軸	深さ		底面 断面	柱礎等	埋土			柱穴の 可能性
SP470	楕円形	41	26	9	25.02	Ⅱ	B	-	△	ズケ18-SH-ネ	
SP471	楕円形	70	60	37	24.70	V	C	I+	b	△	ズケ18-SH-ネ
SP472	楕円形	35	-	40	24.75	V	A	+	b	○	ズケ18-SH-ネ
SP473	—	36	-	20	24.93	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-SH-ネ
SP474	楕円形	26	20	10	25.18	Ⅱ	A		b	△	ズケ18-SH-ヌ
SP475	楕円形	-	23	11	25.04	Ⅱ	A		a	△	ズケ18-SH-ネ
SP476	楕円形	40	21	15	25.07	Ⅱ	B		b	△	ズケ18-SH-ヌ
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	Ⅱ	B		-	△	ズケ18-SH-ヌ
SP478	楕円形	41	35	9	25.15	Ⅱ	D		b	×	ズケ18-SH-ヌ
SP479	楕円形	33	17	12	25.12	Ⅱ	B	+	b	△	ズケ18-SH-ヌ
SP480	楕円形	24	17	6	25.19	Ⅱ	B		b	△	ズケ18-SH-ヌ
SP481a	不定形	57	-	20	25.07	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-Sウ
SP481b	楕円形	36	-	22	25.03	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-Sウ
SP483	円形	40	37	30	25.00	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-Sウ
SP484	楕円形	41	36	34	25.00	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-SH-ヌ
SP485	円形	43	40	7	25.08	Ⅱ	B		b	△	ズケ18-Sウ
SP486	—	—	—	5	25.30	Ⅱ	B	+	b	×	ズケ18-Sウ
SP487	—	31	-	44	24.67	V	A	+	b	○	ズケ18-Sウ
SP488	楕円形	44	25	12	25.21	Ⅱ	B		b	△	ズケ18-SH-ヌ
SP489	円形	46	43	18	25.03	Ⅱ	A	+	b	○	ズケ18-Sウ
SP507	円形	34	30	15	24.68	V	B		a	△	ズケ18-S-E
SP508	楕円形	25	20	12	24.84	Ⅱ	A	+	a	○	ズケ18-S-E
SP509	楕円形	20	16	16	24.67	V	B	+	a	○	ズケ18-S-E
SP510	円形	25	22	7	24.68	V	B		a	△	ズケ18-S-E
SP511	楕円形	23	19	5	24.38	Ⅱ	B		a	×	ズケ18-S-E
SP512	楕円形	22	18	17	24.57	Ⅱ	A		b	△	ズケ18-S-E
SP513	楕円形	27	23	12	24.66	V	A		b	△	ズケ18-S-E
SP514	円形	36	35	27	24.20	Ⅱ	A	+	a	○	ズケ18-S-E
SP515	—	23	-	15	24.37	Ⅱ	B		a	△	ズケ18-S-E
SP516	円形	27	25	7	24.73	V	B		a	△	ズケ18-SHノ
SP517	円形	29	28	24	24.41	Ⅱ	B	+	a	○	ズケ18-SHノ
SP518	不定形	23	20	12	24.50	Ⅱ	B		a	△	ズケ18-SHノ
SP519	円形	30	22	42	24.16	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-SHノ
SP520	—	9	-	7	24.65	V	A		a	△	ズケ18-S-E
SP521	—	18	-	11	24.60	V	B		a	△	ズケ18-S-E
SP522	円形	20	-	3	24.45	Ⅱ	D		a	×	ズケ18-S-E
SP523	楕円形	10	-	7	24.40	Ⅱ	B	s	a	×	ズケ18-S-E
SP524	—	10	-	6	24.41	Ⅱ	B	s	a	×	ズケ18-S-E
SP525	楕円形	19	-	11	24.37	Ⅱ	B		a	×	ズケ18-S-E
SP526	—	9	-	5	24.35	Ⅱ	B	s	a	×	ズケ18-S-E
SP527	楕円形	29	17	24	24.40	Ⅱ	B		a	△	ズケ18-SHノ
SP528	不定形	28	20	17	24.45	Ⅱ	B	+	a	○	ズケ18-SHノ
SP529	楕円形	21	15	11	24.57	Ⅱ	B		b	△	ズケ18-SHノ
SP530	楕円形	41	30	32	24.98	Ⅱ	B	+	b	○	ズケ18-Sウ

底面レベル(20m底切り)

I	23.80~23.99m
II	24.00~24.19m
III	24.20~24.39m
IV	24.40~24.59m
V	24.60~24.79m
VI	24.80~24.99m
Ⅶ	25.00~25.19m
Ⅷ	25.20~25.39m
ⅧC	25.40~25.59m
Ⅹ	25.60~25.79m
Ⅺ	25.80~25.99m

第IV-8表 遺構計測分類表 工区1南側1

遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			遺構レベル(m)	分類		礎土	柱穴の可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		断面	柱径等				
SP232	円形	26	25	15	25.40	Ⅲ	A	a		砂質	ズケ18-51-タ
SP233	円形	40	38	20	25.45	Ⅲ	C	+ b	○		ズケ18-51-サ
SP234	—	11	27	21	25.20	Ⅲ	B	b		砂質	ズケ18-51-タ
SP235	円形	46	43	19	25.30	Ⅲ	B	+ b	○		ズケ18-51-タ
SP236	円形	45	44	20.5	25.28	Ⅲ	B	a			ズケ18-51-タ
SP237-a	—	22	—	17	25.35	Ⅲ	B	b			ズケ18-51-サ
SP237-b	—	19	—	15	25.36	Ⅲ	B	s b			ズケ18-51-サ
SP237-c	—	30	—	16	25.30	Ⅲ	D	b			ズケ18-51-サ
SP237-d	—	26	—	14	25.28	Ⅲ	D	b			ズケ18-51-サ
SP238	円形	33	33	17	25.33	Ⅲ	B	b			ズケ18-51-タ
SP239	楕円形	42	30	5	25.66	Ⅳ	D	b	×	浅い	ズケ18-51-タ
SP240	—	18	—	4	25.47	Ⅳ	D	b	×		ズケ18-51-タ
SP241	円形	27	27	3	25.66	Ⅳ	A	b	×		ズケ18-41-ソ
SP242	—	26	—	11	25.48	Ⅳ	B	b		南壁に線出	ズケ18-51-タ
SP243	楕円形	46	40	7	25.38	Ⅳ	A	b	×	砂質	ズケ18-51-サ
SP244-a	—	17	—	9	25.34	Ⅳ	B	b	×		ズケ18-51-タ
SP244-b	—	32	—	9	25.33	Ⅳ	B	a	×		ズケ18-51-タ
SP245	円形	25	25	13	25.26	Ⅳ	A	+ b	○		ズケ18-51-サ
SP246-a	—	17	—	6	25.25	Ⅳ	B	b	×	SP246bを切る	ズケ18-51-タ
SP246-b	—	17	—	5	25.26	Ⅳ	B	b	×	SP246aに切られる、SP246cを切る	ズケ18-51-タ
SP247-a	—	26	—	10	25.56	Ⅳ	B	b		SP247bに切られる、SP247dを切る	ズケ18-51-サ
SP247-b	—	8	—	9	25.55	Ⅳ	D	s b	×		ズケ18-51-サ
SP248	楕円形	39	37	6	25.46	Ⅳ	B	b	×	砂質	ズケ18-51-サ
SP249	楕円形	39	23	3	25.43	Ⅳ	D	b	×		ズケ18-51-サ
SP250	楕円形	60	58	26	25.24	Ⅳ	C	I+			ズケ18-51-サ
SP251	楕円形	27	20	18	25.45	Ⅳ	B	b			ズケ18-51-サ
SP252-a	円形	43	—	17	25.16	Ⅳ	B	b		S P 252bを切る	ズケ18-51-サ
SP252-b	—	34	—	19	25.18	Ⅳ	B	+ b		S P 252aに切られる	ズケ18-51-サ
SP253	楕円形	25	22	15	25.27	Ⅳ	B	b			ズケ18-51-サ
SP254-a	楕円形	37	35	32	25.07	Ⅳ	B	+ b		SP254bを切る	ズケ18-51-サ
SP254-b	—	33	—	10	25.21	Ⅳ	B	b		SP254aに切られる	ズケ18-51-サ
SP255	円形	50	50	25	25.25	Ⅳ	B	I+	a		ズケ18-51-サ
SP256	円形	34	33	15	25.34	Ⅳ	C	a			ズケ18-51-サ
SP257	楕円形	46	42	15	25.34	Ⅳ	B	a			ズケ18-51-サ
SP258	不定形	50	47	52	25.00	Ⅳ	B	I a		砂質	ズケ18-51-サ
SP259	楕円形	34	30	14	25.40	Ⅳ	B	+ a			ズケ18-51-サ
SP260	円形	39	36	22	25.35	Ⅳ	B	b			ズケ18-51-サ
SP261	円形	30	27	6	25.60	Ⅳ	B	b	×		ズケ18-51-サ
SP262	円形	17	17	4	25.52	Ⅳ	B	b	×		ズケ18-51-サ
SP263	—	52	—	15	25.44	Ⅳ	B	I a			ズケ18-41-ソ
SP264	楕円形	28	25	20	24.91	Ⅳ	B	+ b	○		ズケ18-51-ソ
SP265	不定形	31	—	27	24.72	Ⅳ	C	+ b			ズケ18-51-ソ
SP266-a	円形	30	—	19	24.92	Ⅳ	B	+ b			ズケ18-51-サ
SP266-b	不定形	26	—	8	25.07	Ⅳ	B	+ b	×		ズケ18-51-サ
SP267	楕円形	46	45	44	25.87	Ⅳ	B	+ b		SP277を切る	ズケ18-51-サ
SP268	—	—	—	40	24.88	Ⅳ	A	I b		SP285を切る、SP286に切られる	ズケ18-51-サ
SP269-a	—	26	—	8	25.19	Ⅳ	B	b	×		ズケ18-51-サ
SP269-b	—	36	—	45	24.80	Ⅳ	A	b			ズケ18-51-サ
SP270	楕円形	52	48	41	25.01	Ⅳ	B	I+	○		ズケ18-51-サ
SP271	楕円形	47	37	50	24.84	Ⅳ	B	+ b	○		ズケ18-51-サ
SP272	—	—	—	10	25.40	Ⅳ	B	+ b	△		ズケ18-51-タ
SP273	—	—	—	12	25.38	Ⅳ	B	+ b	△		ズケ18-51-タ
SP274	円形	28	24	33	25.47	Ⅳ	C	+ b			ズケ18-51-サ
SP275	楕円形	58	48	48	24.90	Ⅳ	B	I+	○	SP276に切られる	ズケ18-51-サ
SP276	楕円形	—	16	6	25.35	Ⅳ	B	b	×	SP275を切る	ズケ18-51-サ
SP277	楕円形	27	25	29	25.05	Ⅳ	B	b		SP267に切られる	ズケ18-51-サ
SP278	—	7	—	27	25.05	Ⅳ	—	s b	×		ズケ18-51-サ
SP279	—	24	—	31	25.01	Ⅳ	B	b			ズケ18-51-サ
SP280	楕円形	24	22	10	25.33	Ⅳ	B	b			ズケ18-51-サ
SP281	円形	39	36	12	25.14	Ⅳ	D	+ b			ズケ18-51-サ
SP282	—	28	—	29	25.59	Ⅳ	A	b			ズケ18-51-キ
SP283	—	40	—	23	25.22	Ⅳ	B	b		SP329を切る	ズケ18-51-サ
SP284	—	20	—	38	24.55	Ⅳ	A	b			ズケ18-51-キ
SP285	楕円形	77	40	41	24.84	Ⅳ	C	b		SP268に切られる	ズケ18-51-サ
SP286	—	24	—	16	25.12	Ⅳ	B	b		SP268、287を切る	ズケ18-51-サ
SP287	楕円形	27	—	43	24.84	Ⅳ	B	b		SP286、288に切られる	ズケ18-51-サ
SP288	楕円形	26	—	21	25.08	Ⅳ	B	b		SP287を切る	ズケ18-51-サ
SP289	楕円形	53	—	53	24.59	Ⅳ	A	b	△		ズケ18-51-サ
SP290-a	楕円形	37	—	24	25.05	Ⅳ	B	b		SP290bを切る	ズケ18-51-サ
SP290-b	—	13	—	23	25.02	Ⅳ	B	s b		SP290aに切られる	ズケ18-51-サ
SP291	—	34	—	35	24.65	Ⅳ	A	b		SP347に切られる	ズケ18-51-キ

第Ⅳ-9表 遺構計測分類表 工区1南側2

遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル		分類			柱穴の可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	壁厚	(m)	底面	断面	柱礎等	覆土			
SP292	—	43	—	20	24.70	V	B		b			ズケ18-51カ
SP293	—	47	—	32	24.92	V	C		a			ズケ18-51カ
SP294	—	36	—	40	24.57	V	C		b			ズケ18-51カ
SP295	楕円形	52	48	65	24.50	V	A	l	a			ズケ18-51カ
SP296-a	楕円形	18	—	5	25.04	V	A	s	b	X		ズケ18-51カ
SP296-b	楕円形	41	—	7	25.02	V	A		b	X		ズケ18-51カ
SP297	円形	43	43	20	24.58	V	B	+	b	○		ズケ18-51カ
SP298	円形	25	25	7	25.46	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP299	円形	27	25	6	25.42	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP300	楕円形	32	—	10	25.38	V	A		b			ズケ18-51カ
SP301-a	—	21	20	6	25.43	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP301-b	—	41	—	22	25.22	V	A		b			ズケ18-51カ
SP302	円形	30	28	15	24.69	V	B		a			ズケ18-51カ
SP303	楕円形	40	—	10	24.73	V	B		b	△	SP391に切られる	ズケ18-51カ
SP304	楕円形	35	—	10	24.73	V	B	a	△		SP305、391を切る	ズケ18-51カ
SP305	—	23	—	31	24.49	V	C		b			ズケ18-51カ
SP306	—	20	—	12	25.14	V	B		a			ズケ18-51カ
SP307	楕円形	20	—	15	25.10	V	B		b			ズケ18-51カ
SP308	楕円形	22	—	23	25.05	V	B		b			ズケ18-51カ
SP309	楕円形	31	—	11	25.15	V	B		b			ズケ18-51カ
SP310	楕円形	30	23	60	25.68	V	B		b			ズケ18-51カ
SP311-a	楕円形	19	—	29	24.60	V	B		b			ズケ18-51カ
SP311-b	円形	27	—	40	24.50	V	A	+	b			ズケ18-51カ
SP312	楕円形	56	50	20	24.94	V	B	l	a			ズケ18-51カ
SP313	—	27	—	10	25.04	V	B		a			ズケ18-51カ
SP314	—	37	—	27	24.87	V	B		b			ズケ18-51カ
SP315	—	25	—	10	24.91	V	B		b			ズケ18-51カ
SP316	楕円形	37	34	47	24.90	V	B	a				ズケ18-51カ
SP317	楕円形	30	19	10	24.72	V	A	b				ズケ18-51カ
SP318	楕円形	27	—	11	24.70	V	B		b			ズケ18-51カ
SP319	楕円形	22	—	22	25.06	V	B		b			ズケ18-51カ
SP320	楕円形	43	40	60	24.80	V	B		b			ズケ18-51カ
SP321	楕円形	36	30	5	25.23	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP322	—	20	—	6	25.22	V	D		a	X		ズケ18-51カ
SP323	—	25	—	17	25.09	V	C		b			ズケ18-51カ
SP324	—	32	—	20	25.05	V	A		b			ズケ18-51カ
SP325	楕円形	40	—	23	24.84	V	D	+	b	○		ズケ18-51カ
SP326	楕円形	—	35	13	24.90	V	B	+	b	○		ズケ18-51カ
SP327	—	24	—	6	25.18	V	D		b	X		ズケ18-51カ
SP328	—	31	—	29	25.00	V	B		a			ズケ18-51カ
SP329	楕円形	34	—	35	24.91	V	A		a			ズケ18-51カ
SP330	楕円形	51	35	51	24.77	V	B	l+	b			ズケ18-51カ
SP331	楕円形	48	38	36	24.95	V	B		b			ズケ18-51カ
SP332	楕円形	26	—	30	24.82	V	B		b			ズケ18-51カ
SP333	—	34	—	65	24.57	V	B		b			ズケ18-51カ
SP334	楕円形	36	29	3	24.85	V	D	b	X			非常に深い埋積であるため、判断不可
SP335	—	35	—	10	25.14	V	B		a			ズケ18-51カ
SP336	—	42	—	35	24.82	V	B		b			ズケ18-51カ
SP337	—	45	—	64	24.52	V	B		a			ズケ18-51カ
SP338	—	—	—	11	25.00	V	B		a	X		ズケ18-51カ
SP339	楕円形	26	22	8	25.11	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP340	円形	50	46	26	24.72	V	D	l	b			ズケ18-51カ
SP341	楕円形	26	25	3	25.13	V	D		b	X		ズケ18-51カ
SP342	楕円形	61	41	53	24.63	V	A	l	b			ズケ18-51カ
SP343	—	—	—	11	24.99	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP344	楕円形	31	—	19	24.90	V	A		b			ズケ18-51カ
SP345	円形	25	23	6	24.83	V	B		b	X		ズケ18-51カ
SP346	楕円形	29	—	18	24.68	V	B		b			ズケ18-51カ
SP347	楕円形	37	—	36	24.62	V	B		b			ズケ18-51カ
SP348	楕円形	23	—	5	24.94	V	—		b	X		ズケ18-51カ
SP349	楕円形	46	—	21	24.76	V	B		a			ズケ18-51カ
SP350	楕円形	42	—	18	24.85	V	C		b			ズケ18-51カ
SP351	—	37	—	46	24.54	V	B		a			ズケ18-51カ
SP352	楕円形	100	—	8	24.90	V	—	l	a	X		広く深い埋積。柱穴の可能性は低い
SP353	—	27	—	25	24.75	V	B		b			ズケ18-51カ
SP354	楕円形	31	28	7	24.85	V	A		b	X		ズケ18-51カ
SP355-a	—	21	—	19	24.73	V	B		b			ズケ18-51カ
SP355-b	—	24	—	40	24.53	V	B		b			ズケ18-51カ
SP356	楕円形	30	—	32	24.57	V	B		b			ズケ18-51カ
SP357	楕円形	37	30	30	24.98	V	B		b			ズケ18-51カ
SP358	楕円形	25	18	8	25.16	V	D		b	X		ズケ18-51カ

第IV-10表 遺構計測分類表 工区1南側3

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			礎土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		遺面	断面	柱礎等				
SP359	楕円形	44	40	67	24.50	Ⅱ	B	+	b	○		ズケ18-51カ
SP360	円形	46	46	22	25.25	Ⅲ	B	+	b	○		ズケ18-51カ
SP361	円形	24	23	8	25.31	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51カ
SP362	楕円形	36	30	10	25.21	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP363	—	41	—	24	24.76	Ⅳ	C	+	a			ズケ18-51カ
SP364	楕円形	27	—	15	24.90	Ⅲ	A	+	b			ズケ18-51カ
SP365	楕円形	66	54	9	25.40	Ⅲ	D	l	b	×	砂質	ズケ18-51カ
SP366	楕円形	25	—	10	25.36	Ⅲ	D		b			ズケ18-51カ
SP367	円形	33	30	8	25.38	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51カ
SP368	—	30	—	8	25.34	Ⅲ	B		b	×	全体的に砂質だが粘性が強い	ズケ18-51ア
SP369	楕円形	47	34	7	25.15	Ⅲ	B		a	×		ズケ18-51カ
SP370	楕円形	32	27	11	25.08	Ⅲ	A		b			ズケ18-51カ
SP371	楕円形	20	17	6	24.83	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51キ
SP372	—	19	—	5	24.88	Ⅲ	B		a	×		ズケ18-51キ
SP373	円形	32	30	9	25.19	Ⅲ	D		b	×		ズケ18-51ア
SP374	—	34	—	17	25.02	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP375	—	16	—	14	25.03	Ⅲ	B	s	b	×		ズケ18-51カ
SP376	—	45	35	31	24.84	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP377	楕円形	44	—	25	24.90	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP378	—	25	—	14	25.02	Ⅲ	D		a			ズケ18-51カ
SP379	円形	32	29	11	25.30	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP380	円形	49	48	64	25.40	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP381	円形	26	25	15	25.06	Ⅲ	A		b			ズケ18-51ア
SP382	楕円形	43	37	68	24.52	Ⅱ	C		a			ズケ18-51カ
SP383	円形	42	39	25	25.10	Ⅲ	A		a			ズケ18-51ア
SP384	楕円形	29	23	11	25.29	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-51カ
SP385	楕円形	—	53	11	24.87	Ⅲ	C	+	a	○		ズケ18-51カ
SP386	—	—	38	14	25.30	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-51カ
SP387	—	34	—	34	25.02	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-51カ
SP388a	楕円形	35	30	24	24.86	Ⅲ	D	+	a	○		ズケ18-51カ
SP388b	—	21	—	—	—	—	—	—	a			ズケ18-51カ
SP389-a	楕円形	44	40	46	24.71	Ⅳ	B	+	b	○		ズケ18-51カ
SP389-b	楕円形	—	—	6	25.11	Ⅲ	B		a	×		ズケ18-51カ
SP390	楕円形	31	28	8	24.84	Ⅲ	D		b	×		ズケ18-51キ
SP391	楕円形	40	—	33	24.51	Ⅱ	C		b		SP303を切る、SP304に切られる	ズケ18-51キ
SP392	—	33	—	29	24.78	Ⅳ	B		b			ズケ18-51カ
SP393	楕円形	42	40	14	25.48	Ⅲ	B		b		S05Cに切られる	ズケ18-51カ
SP394	—	20	—	55	24.50	Ⅱ	A		b			ズケ18-51キ
SP395	—	16	—	13	24.90	Ⅲ	D	s	b	×		ズケ18-51キ
SP396	楕円形	36	30	9	25.02	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51カ
SP397	—	24	—	25	24.83	Ⅲ	B		b			ズケ18-51カ
SP398	円形	33	37	29	24.82	Ⅲ	C		a			ズケ18-51ア
SP399	円形	42	—	23	25.08	Ⅲ	B		a			ズケ18-51カ
SP400	円形	16	—	4	25.25	Ⅲ	D	s	b	×		ズケ18-51カ
SP401	楕円形	14	—	4	25.26	Ⅲ	D	s	b	×		ズケ18-51カ
SP402	—	21	—	3	25.28	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51カ
SP403	—	21	14	2	25.28	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51カ
SP404	円形	24	20	8	24.80	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51キ
SP405	楕円形	25	22	5	24.80	Ⅲ	B		b	×		ズケ18-51キ
SP406	楕円形	40	35	29	24.67	Ⅳ	B		b			ズケ18-51ア
SP407	楕円形	32	24	15	24.80	Ⅲ	B		b			ズケ18-51ア
SP408	—	45	28	40	24.62	Ⅳ	B		b			ズケ18-51ア
SP409	楕円形	38	42	35	24.65	Ⅳ	B		b			ズケ18-51カ
SP410	—	—	33	38	24.22	Ⅲ	C		a			ズケ18-51キ
SP411	—	28	—	20	24.34	Ⅲ	B		b			ズケ18-51キ
SP412	楕円形	34	22	15	24.38	Ⅲ	B		b			ズケ18-51キ
SP413	円形	42	38	7	24.65	Ⅳ	B		b	×		ズケ18-51キ
SP414	—	33	34	17	24.47	Ⅱ	C		b			ズケ18-51キ
SP415	円形	32	30	31	24.32	Ⅲ	B		b			ズケ18-51キ
SP416	楕円形	41	33	33	24.30	Ⅲ	B		b			ズケ18-51キ
SP417	楕円形	46	40	21	24.18	Ⅱ	B		a			ズケ18-51キ
SP418	円形	37	36	25	24.06	Ⅱ	B		a			ズケ18-51キ
SP419	楕円形	42	37	43	24.65	Ⅳ	B		a	○		ズケ18-51ア
SP420	円形	34	33	59	24.60	Ⅳ	C	+	b	○		ズケ18-51カ
SP421	楕円形	27	18	7	25.10	Ⅲ	B		a	×	深い、SP420に隣接するが深さが異なる	ズケ18-51カ
SP422	—	33	25	2	24.57	Ⅲ	D		a	×	深い	ズケ18-51ナ
SP423	—	23	15	2	24.57	Ⅲ	D		b	×	深い	ズケ18-51ナ
SP424	楕円形	37	15	7	24.32	Ⅲ	D		a	×		ズケ18-51キ
SP425	楕円形	48	40	34	24.58	Ⅲ	B	+	a	○	S15を切る	ズケ18-51キ
SP426	円形	24	22	40	24.42	Ⅲ	B	+	a	○	SP427に切られる	ズケ18-51キ
SP427	円形	33	30	54	24.25	Ⅲ	B	+	a	○	SP426、428に切られる	ズケ18-51キ

第IV-11表 遺構計測分類表 工区1南側4

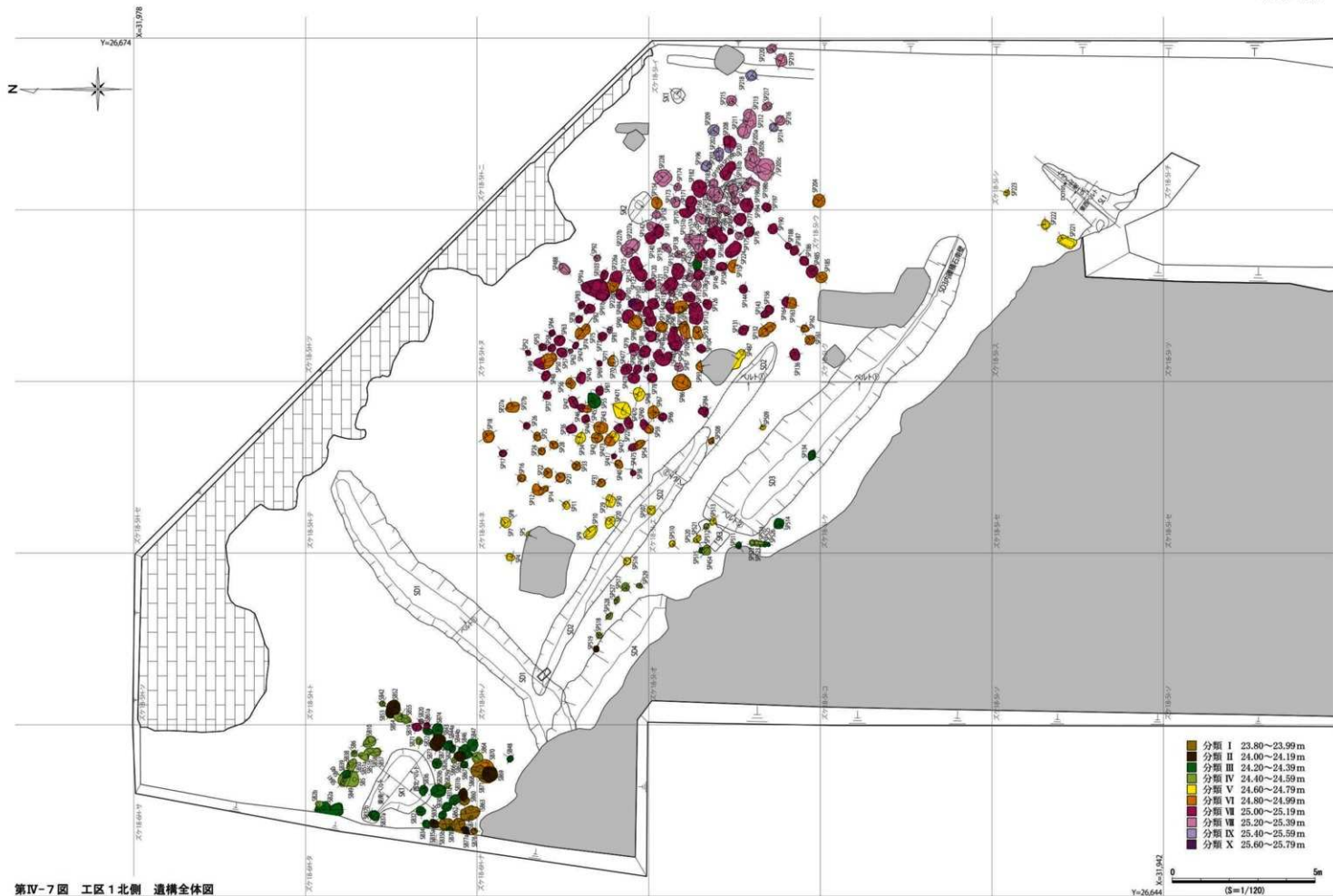
遺構№	平面形状	遺構計測(m)			断面レベル (m)	分類			柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		断面 新面	柱礎等	土			
SP428	—	31	—	11	24.65	Ⅴ	B	a	△	SP427に切られる、SP429を切る	ズケ18-5Jキ
SP429	楕円形	41	30	22	24.49	Ⅴ	B		△	SP428に切られる	ズケ18-5Jキ
SP430	—	41	—	38	24.37	Ⅴ	B	a	○		ズケ18-5Jキ
SP431	円形	40	40	31	24.10	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-5Jキ
SP432	—	—	—	50	24.25	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-5Jキ
SP433	楕円形	40	35	38	24.41	Ⅴ	B	+ b	○		ズケ18-5Jキ
SP434	—	—	31	33	24.28	Ⅴ	B	+ b	○	SP435を切る	ズケ18-5Jキ
SP435	楕円形	—	24	38	24.20	Ⅴ	B	+ a	○	SP434に切られる	ズケ18-5Jキ
SP436	楕円形	43	42	45	24.43	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-5Jキ
SP437	楕円形	46	38	25	24.53	Ⅴ	A	a			ズケ18-5Jキ
SP438	円形	30	30	11	25.29	Ⅴ	B	b			ズケ18-5Jア
SP439-a	—	30	—	27	25.07	Ⅴ	A	a		a-bは別遺構	ズケ18-4ノ
SP439-b	—	19	—	9	25.25	Ⅴ	A	a	×		ズケ18-4ノ
SP440	楕円形	40	33	10	25.50	Ⅴ	B	a			ズケ18-4ノ
SP441	楕円形	33	30	8	24.49	Ⅴ	B	a	×		ズケ18-5Jナ
SP442	—	32	—	14	24.68	Ⅴ	B	a			ズケ18-5Jキ
SP443	楕円形	52	39	30	24.54	Ⅴ	B	i b			ズケ18-5Jキ
SP445	円形	29	29	20	23.80	Ⅴ	B	b			ズケ18-5Jニ
SP446	楕円形	32	29	37	23.57	Ⅴ	A	a	○		ズケ18-5Jニ
SP447	円形	27	25	23	23.70	Ⅴ	B	+ a	○		ズケ18-5Jニ
SP448	楕円形	41	37	24	23.58	Ⅴ	C	+ b	△		ズケ18-5Jニ
SP449	円形	33	30	27	23.43	Ⅴ	B	a			ズケ18-5Jニ
SP451	楕円形	27	30	13	24.90	Ⅴ	B	a			ズケ18-5Jカ
SP452	円形	19	18	11	23.92	Ⅴ	A	s a			ズケ18-5Jキ
SP453	楕円形	36	28	22	24.68	Ⅴ	B	b			ズケ18-5Jカ
SP455	楕円形	33	30	5	26.04	Ⅴ	D	b	×		ズケ18-4ト
SP456	円形	15	13	3	25.94	Ⅴ	D	s b	×		ズケ18-4ト
SP457	—	—	43	12	26.02	Ⅴ	B	b			ズケ18-4ト
SP458	不定形	32	15	7	25.97	Ⅴ	D	b	×		ズケ18-4ト
SP459	楕円形	33	28	5	26.23	Ⅴ	B	b	×		ズケ18-4ト
SP460	円形	37	36	25	25.63	Ⅴ	B	a			ズケ18-4ト
SP461	不定形	51	47	7	26.00	Ⅴ	B	i b	×		ズケ18-4ソ
SP462	楕円形	39	—	7	26.08	Ⅴ	D	b	×	SP463に切られる	ズケ18-4ト
SP463	—	32	—	20	25.90	Ⅴ		a	○	SP462を切る、SP464に切られる	ズケ18-4ト
SP464	—	17	—	8	26.03	Ⅴ	B	s a	×	SP463を切る、SP465に切られる	ズケ18-4ト
SP465	—	28	—	9	26.03	Ⅴ	A	b	×	SP464を切る、SP466に切られる	ズケ18-4ト
SP466	—	10	—	8	26.05	Ⅴ		s a	×	SP465を切る	ズケ18-4ト
SP467	円形	52	49	34	25.70	Ⅴ	A	i a			ズケ18-4ト
SP468	楕円形	53	—	35	25.68	Ⅴ	A	i a			ズケ18-4ト
SP469	楕円形	41	—	10	25.94	Ⅴ	B	a			ズケ18-4ト
SP490	円形	41	—	20	26.00	Ⅴ	B	a	△	SP491を切る	ズケ18-4ト
SP491	円形	26	—	12	26.03	Ⅴ	B	a	△	SP490に切られる	ズケ18-4ト
SP492	不定形	45	33	10	26.08	Ⅴ	B	b	△		ズケ18-4ト
SP493	楕円形	33	—	7.5	26.17	Ⅴ	A	a	△		ズケ18-4ト
SP494	—	34	—	18	25.93	Ⅴ	B	a	△		ズケ18-4ソ
SP495	—	30	—	8	26.04	Ⅴ	B	b	×	浅い	ズケ18-4ソ
SP496	円形	36	—	10	25.84	Ⅴ	B	b		SP497を切る	ズケ18-4ソ
SP497	—	28	—	6	25.91	Ⅴ	B	b	×	浅い	ズケ18-4ソ
SP498	円形	40	38	14	25.99	Ⅴ	B	b			ズケ18-4ト
SP499	—	30	—	16	25.97	Ⅴ	D	a			ズケ18-4ソ
SP500	—	36	—	5	26.20	Ⅴ	D	a	×		ズケ18-4ソ
SP501	楕円形	45	36	11	26.07	Ⅴ	B	a			ズケ18-4ト
SP502	楕円形	29	—	16	25.77	Ⅴ	D	b		SP503に切られる	ズケ18-4ソ
SP503	楕円形	24	—	20	25.73	Ⅴ	B	b		SP502を切る	ズケ18-4ソ
SP504	—	25	—	11	25.75	Ⅴ	B	a			ズケ18-4ソ
SP505	—	37	—	15	25.79	Ⅴ	D	a			ズケ18-4ソ
SP506	—	17	—	22	25.70	Ⅴ	D	b			ズケ18-4ソ

断面レベル(20cm区切り)	
Ⅰ	23.80~23.99m
Ⅱ	24.00~24.19m
Ⅲ	24.20~24.39m
Ⅳ	24.40~24.59m
Ⅴ	24.60~24.79m
Ⅵ	24.80~24.99m
Ⅶ	25.00~25.19m
Ⅷ	25.20~25.39m
Ⅷ	25.40~25.59m
Ⅹ	25.60~25.79m
ⅩⅠ	25.80~25.99m
ⅩⅡ	26.00~26.19m
ⅩⅢ	26.20~26.39m

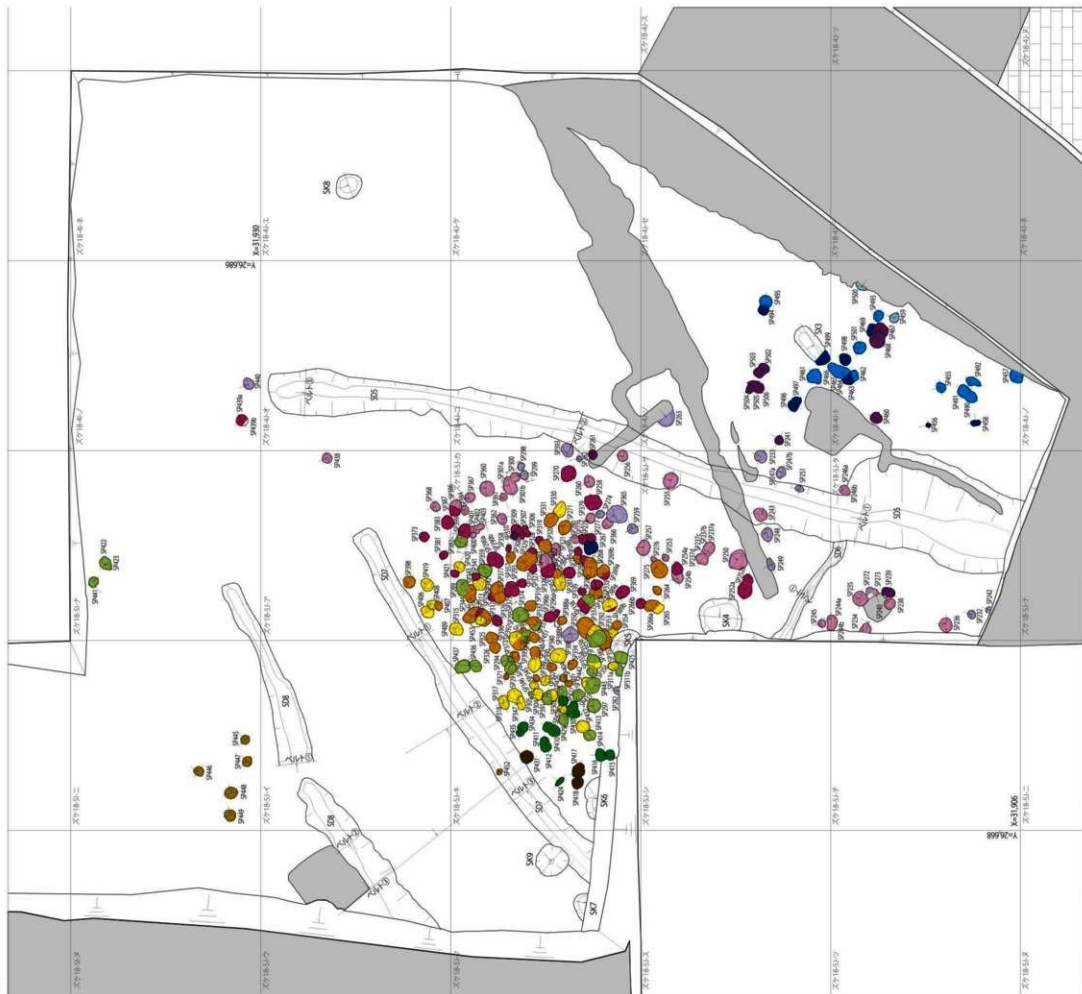
第IV-12表 遺構計測分類表 工区2

遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			断面レベル (m)	分類		壁土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		断面	往復等				
SP1001	横円形	28	23	18	28.13	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1002	横円形	41	36	20	27.98	Ⅰ	B	+			ズク25-4A-Ⅰ
SP1003	—	—	—	27	27.99	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1004a	円形	—	14	30	27.95	Ⅰ	B			SP1004bに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1004b	—	—	—	29	28.00	Ⅰ	B			SP1004a、1003を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1006	横円形	38	27	6	28.28	Ⅱ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1007	円形	29	28	7	28.36	Ⅱ	D				ズク25-4A-Ⅰ
SP1008	—	—	34	18	28.28	Ⅱ	B			SP1009に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1009	—	—	—	28	28.20	Ⅱ	D			SP1008を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1010	—	—	—	40	28.13	Ⅰ	B	+			ズク25-4A-Ⅰ
SP1011	円形	34	33	12	28.06	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1012	円形	53	47	13	28.33	Ⅱ	B	I+			ズク25-4A-Ⅰ
SP1013	—	38	—	5	28.21	Ⅱ	B		x		ズク25-4A-Ⅰ
SP1014a	横円形	—	30	15	27.90	Ⅰ	D			SP1014bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1014b	—	—	28	7	27.94	Ⅰ	D			SP1014aに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1015	横円形	26	21	6	28.03	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1016	円形	40	37	20	28.00	Ⅰ	B			SP1017に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1017	横円形	31	—	18	28.04	Ⅰ	B			SP1016を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1018	円形	40	38	15	28.11	Ⅰ	D	+			ズク25-4A-Ⅰ
SP1019a	—	33	—	7	28.28	Ⅱ	B			SP1019bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1019b	—	—	10	28.28	Ⅱ	B				SP1019a、1020に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1020	横円形	38	35	29	28.13	Ⅰ	B	+		SP1019bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1022a	横円形	—	33	4	27.98	Ⅰ	D		x	SP1022bに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1022b	円形	38	38	15	27.91	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1023	—	35	—	7	28.01	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1024	横円形	32	26	8	28.02	Ⅰ	D				ズク25-4A-Ⅰ
SP1025	横円形	33	31	11	28.46	Ⅱ	B			SP1026を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1026	—	—	20	7	28.40	Ⅱ	B			SP1025に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1027	不定形	40	35	15	28.04	Ⅰ	B			SP1028bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1028a	—	—	—	15	28.07	Ⅰ	B			SP1028bを切る、SP1029に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1028b	—	—	—	15	28.05	Ⅰ	—			SP1027、1028aに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1029	円形	44	44	17	28.08	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1030a	—	—	37	32	28.02	Ⅰ	B	+		SP1030bに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1030b	円形	39	38	32	27.98	Ⅰ	B	+			ズク25-4A-Ⅰ
SP1031a	横円形	42	—	12	28.18	Ⅰ	B			SP1031bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1031b	横円形	38	—	7	28.23	Ⅱ	B			SP1031aに切られる、SP1032を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1032	横円形	32	—	6	28.24	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1033	円形	30	30	17	28.16	Ⅰ	A				ズク25-4A-Ⅰ
SP1034a	不定形	47	41	25	28.20	Ⅱ	B			SP1034bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1034b	—	—	—	24	28.19	Ⅰ	B			SP1034aに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1036a	横円形	25	22	9	28.23	Ⅱ	B			SP1036bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1036b	横円形	—	32	22	28.02	Ⅰ	D			SP1036aに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1037	円形	34	31	20	28.17	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1038	横円形	33	30	10	28.48	Ⅱ	B			SK1001bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1039	横円形	36	—	17	28.27	Ⅱ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1040	横円形	50	—	14	28.17	Ⅰ	D	I		SP1041、SX1003aを切る、SP1048に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1041	—	—	—	5	28.27	Ⅱ	D			SX1003aを切る、SP1040に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1043a	横円形	36	34	26	28.00	Ⅰ	B	+		SP1043bを切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1043b	横円形	34	—	20	28.06	Ⅰ	B	+		SP1043aに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1044	不定形	—	38	4	28.06	Ⅰ	D		x	SP1045に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1045	—	64	56	8	28.12	Ⅰ	D	I		SP1044、SD1001を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1047	—	—	27	5	28.25	Ⅱ	D		x	SD1001を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1048	—	—	—	7	28.31	Ⅰ	—	+		SP1040を切る、SX1001-Bに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1049	—	—	—	25	27.92	Ⅰ	B			SP1050、1051に切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1050	—	45	—	17	28.02	Ⅰ	A			SP1049を切る、SP1051Cに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1051	—	35	—	32	27.86	Ⅰ	C				ズク25-4A-Ⅰ
SP1052	円形	—	24	7	28.14	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1053	横円形	44	42	32	27.87	Ⅰ	A			SP1054を切る	ズク25-4A-Ⅰ
SP1054	—	—	—	7	27.95	Ⅰ	B				ズク25-4A-Ⅰ
SP1056	横円形	55	47	32	28.04	Ⅰ	B	I+		SX1004Cに切られる	ズク25-4A-Ⅰ
SP1057	—	—	40	26	28.12	Ⅰ	B			SX1004Cに切られる	ズク25-4A-Ⅰ

断面レベル(20cm区切り)	
Ⅰ	27.80~27.99m
Ⅱ	28.00~28.19m
Ⅲ	28.20~28.39m
Ⅳ	28.40~28.59m



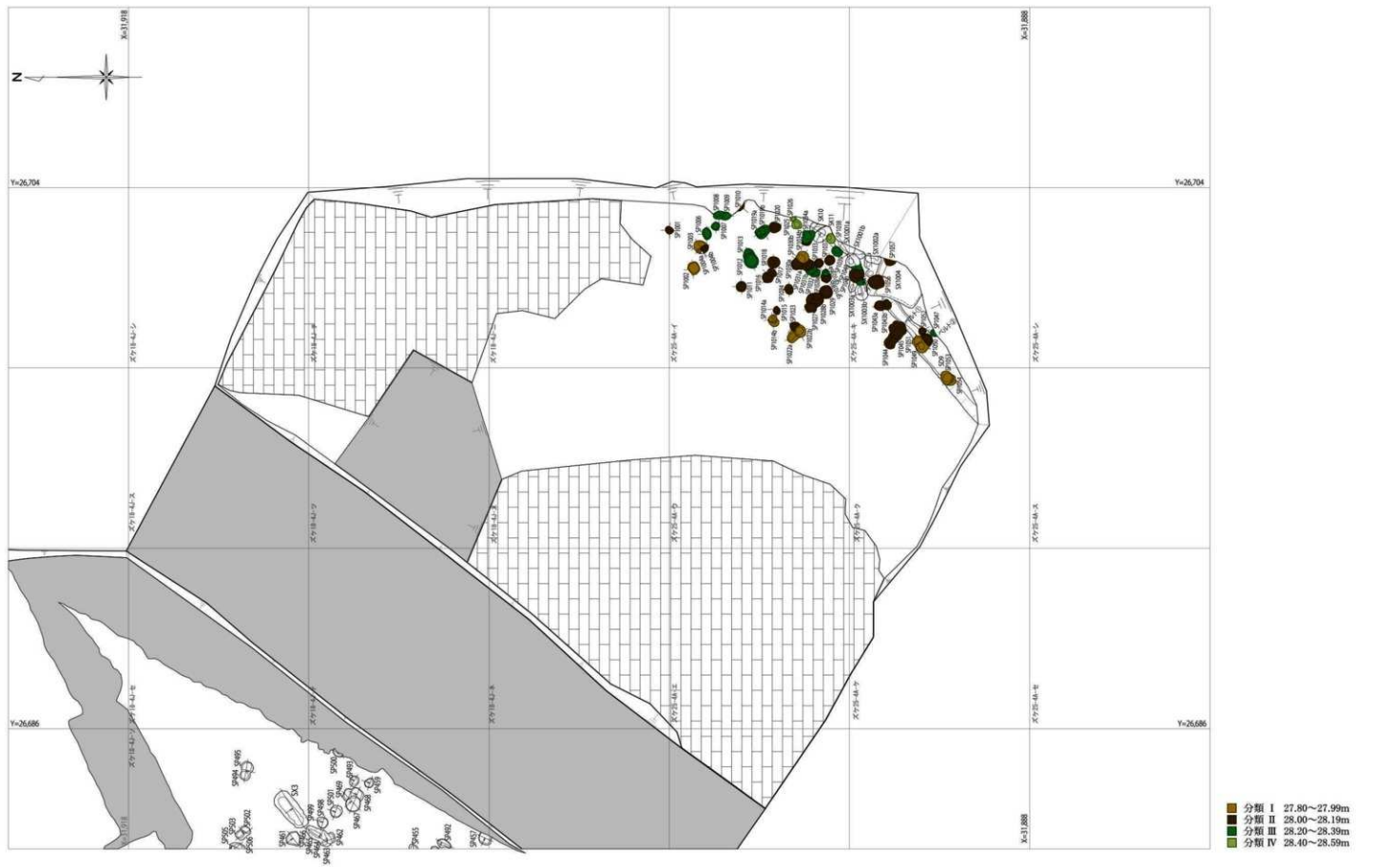
第IV-7図 工区1北側 遺構全体図



- 分類 I 23.80～23.99m
- 分類 II 24.00～24.19m
- 分類 III 24.20～24.39m
- 分類 IV 24.40～24.59m
- 分類 V 24.60～24.79m
- 分類 VI 24.80～24.99m
- 分類 VII 25.00～25.19m
- 分類 VIII 25.20～25.39m
- 分類 IX 25.40～25.59m
- 分類 X 25.60～25.79m
- 分類 XI 25.80～25.99m
- 分類 XII 26.00～26.19m
- 分類 XIII 26.20～26.39m



第IV-8図 工区1南 遺構全体図



第IV-9図 工区2 遺構全体図

2. 掘立柱建物跡

上記の分類を参考に掘立柱建物のプランを検討した結果、工区1の北側で3棟の建物プランが想定された。しかし、工区1南側や工区2では明確にプランを組むことができなかった。以下、各工区について記述する。

1) 工区1(北側)の想定プラン

1号建物跡：調査開始当初からプランを組むことができたため、一帯のピットにはSB+N₀を振って調査を行った。建物の軸は南東—北西方向となるが、北西側は調査区外となっているため、全体の規模は不明である。北東側に同レベルで岩盤が確認されており、米軍造成によって上部の大部分が削平されたものと思われる。プランの中央に浅い土坑(SK 1)が確認されているが関係性は不明。

2号建物跡：1号建物跡の東側に位置する。ピットが200基程度集中して検出されており、複雑に切り合っているため、現地ではプランの検討は困難であった。今回の分類を基に概ね5.5m×4.0m、南東—北西方向に軸を持つプランが想定された。

3号建物跡：2号建物跡とほぼ同一に設定。底面レベルの分類を参考に2号掘立柱とは別の建物プランを設定した。ピットの切り合い関係から3号建物が古手と考えられる。2号と3号の建物プランについては、南西側に溝状遺構(SD 3)が所在しており、その位置関係や出土遺物、覆土などから同時期に形成されたものと思われる。

2) 工区1(南側)のプラン検討について

工区1(南側)についても北側と同様に多数のピットが集中して検出された。検出されたピットについて様々な分類を行い、プランの推定を試みたが、結果的に明確な建物プランを設定することはできなかった。しかし、類似の底面レベルを有するピットについては概ね3つの範囲に集中していることが判明した(第IV-15図 工区1(南側)建物プラン検討図)。また、ピットが集中する範囲の北西側には北東—南西方向に溝状遺構(SD 7)が検出されており、ピット群と類似の覆土や出土遺物などから同時期に形成・廃棄されたと推測される。なお、溝状遺構(SD 7)はピット群よりもやや低い位置にあり、石列が検出されるなど土留めとしての機能が想定される。ピットが溝の北西側にほとんど広がらないことなども何らかの境界的な意味合いも考えられる。

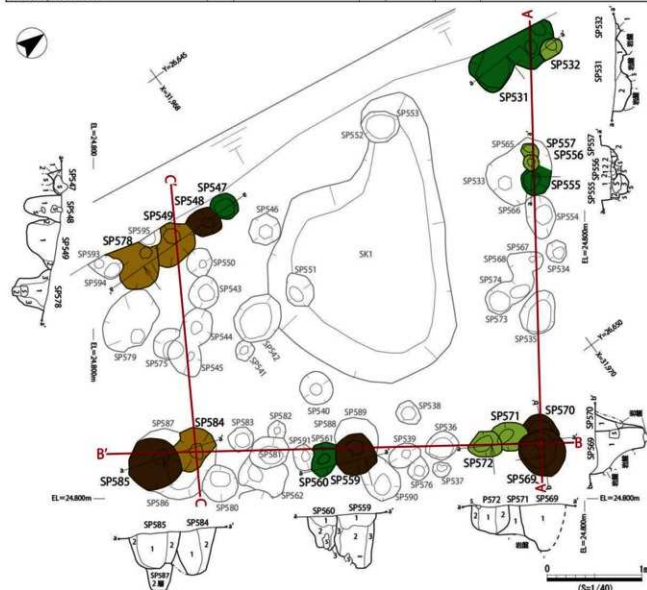
3) 工区2のピットについて

工区2は調査区の南東側に位置し、ピットは61基が南東端部にまとまって検出された。底面レベルは概ね28m前後だが、深度は数センチから30cmを超えるものも確認された。上面に厚く造成土が堆積しており、北東側は岩盤まで削平され、本来の包含層は消失している。なお、ピットの番号は調査の都合上1000番台を使用している。

1号建物跡

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)			分類			備考
		長軸	短軸	深さ	底面	断面	柱痕				
SP531	不定形	76	—	17	24.30						
SP549	楕円形	50	40	45	23.91	I	B	+			
SP555	楕円形	(33)	—	19	24.33	II	B	+			
SP559	円形	45	42	57	24.07	III	C	+			
SP569	円形	50	49	55	24.13	II	C	+			
SP584	不定形	48	33	48	23.99	I	B	+			

遺構名	前 柱		中 柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
Aライン	SP531 (555) 569	4.2			— × 3.5	NW-SE	
Bライン	SP569 559 584	3.7					
Cライン	SP584 549	—					



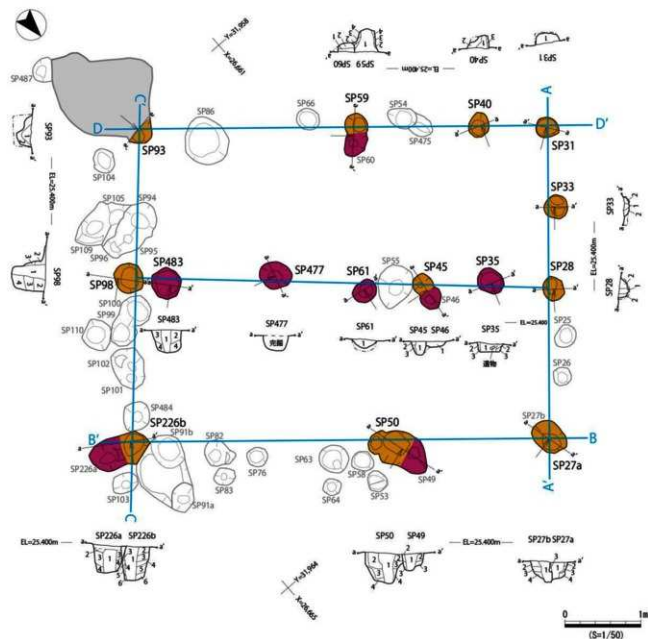
第IV-10図 1号建物跡

2号建物跡

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			地面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP27a	—	—	—	22	24.92	Ⅲ	C	+	
SP28	楕円形	32	25	13	24.95	Ⅲ	C	+	
SP31	円形	30	28	15	24.85	Ⅲ	B	+	
SP33	円形	31	30	6	24.94	Ⅲ	B	+	
SP35	楕円形	35	27	13	25.01	Ⅲ	A	+	
SP40	楕円形	32	26	18	24.95	Ⅲ	C	+	
SP45	楕円形	—	25	18	24.97	Ⅲ	A	+	
SP50	楕円形	—	30	40	24.85	Ⅲ	B	+	
SP59	円形	42	—	30	24.88	Ⅲ	B	+	
SP61	楕円形	33	26	11	25.06	Ⅲ	B	+	
SP93	楕円形	34	—	18	24.94	Ⅲ	C	+	
SP98	楕円形	44	38	43	24.88	Ⅲ	B	+	
SP226b	楕円形	—	43	45	24.90	Ⅲ	A	+	
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	Ⅲ	B	+	
SP483	円形	40	37	30	25.00	Ⅲ	B	+	

単位:cm

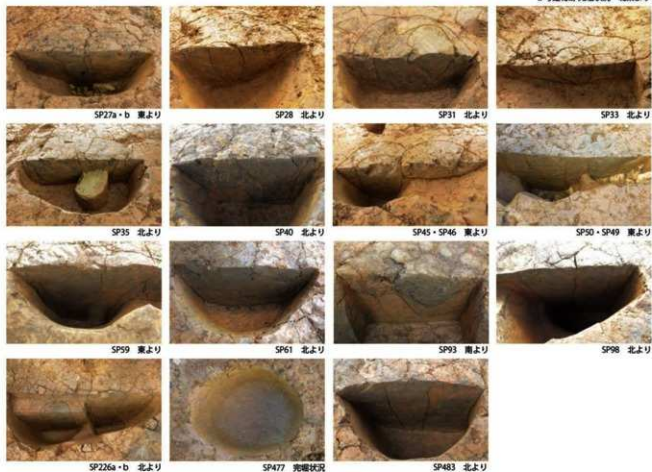
遺構名	側柱		長さ	中柱		長さ	大きさ	軸方向	備考				
	遺構名	長さ		遺構名	長さ								
Aライン	SP31	33	28	27a	4.1	SP28	35	45	61	5.5	5.5 × 4.0	NW-SE	
Bライン	SP27a	50	226b	5.5	SP477	483	98						
Cライン	SP226b	98	93	4.1									
Dライン	SP93	59	40	31	5.5								



第IV-11図 2号建物跡



2号建物跡発掘状況 北東より



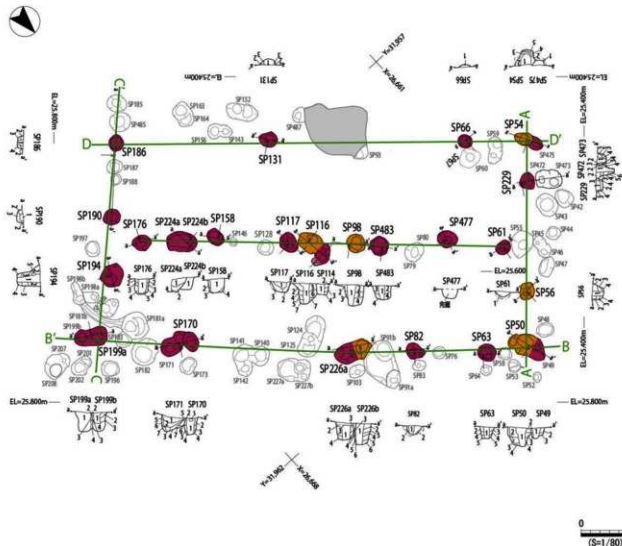
第IV-12図 2号建物跡

3号建物跡

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備 考
		長軸	短軸	高さ		底面	断面	柱直	
SP50	楕円形	—	30	40	24.85	Ⅴ	B	+	
SP54	楕円形	40	25	32	24.89	Ⅴ	B	+	
SP56	楕円形	39	30	25	24.98	Ⅴ	B	+	
SP61	楕円形	33	26	11	25.06	Ⅴ	B		
SP63	円形	38	36	24	25.03	Ⅴ	B	+	
SP66	円形	30	28	5	25.15	Ⅴ	B		
SP82	不定形	38	34	19	25.12	Ⅴ	B	+	
SP98	楕円形	44	38	43	24.88	Ⅴ	B	+	
SP116	楕円形	—	41	44	24.92	Ⅴ	B	+	
SP117	楕円形	55	43	21	25.17	Ⅴ	A	!	
SP131	楕円形	39	33	13	25.03	Ⅴ	B		
SP158	楕円形	39	30	29	25.15	Ⅴ	A		
SP170	楕円形	42	32	35	25.10	Ⅴ	A		
SP176	楕円形	40	38	32	25.12	Ⅴ	B	+	
SP186	円形	31	30	12	25.03	Ⅴ	B	+	
SP190	円形	35	34	15	25.00	Ⅴ	B		
SP194	円形	51	45	50	25.03	Ⅴ	B	!+	
SP199 b	—	35	—	42	25.17	Ⅴ	A	+	
SP224	楕円形	63	42	28	25.07	Ⅴ	C	!	
SP226a	楕円形	—	41	36	25.00	Ⅴ	A	+	
SP229	楕円形	34	30	10	25.00	Ⅴ	B		
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	Ⅴ	B		
SP483	円形	40	37	30	25.00	Ⅴ	B	+	

単位: m

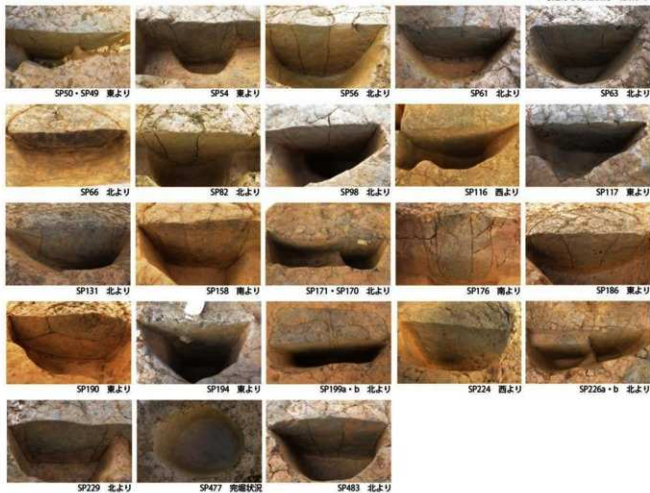
遺構名	前 柱	遺 構 名	長さ	中 柱	長さ	大きさ	軸方向	備 考
Aライン	SP54	229 56 50	4.5	SP61	477 483 98 116	7.6	9.0 × 4.5	NW - SE
Bライン	SP50	63 82 226a 170 199a	8.9	117 128 158 224 176				
Cライン	SP199 b	194 190 186	4.3					
Dライン	SP186	131 66 54	8.7					



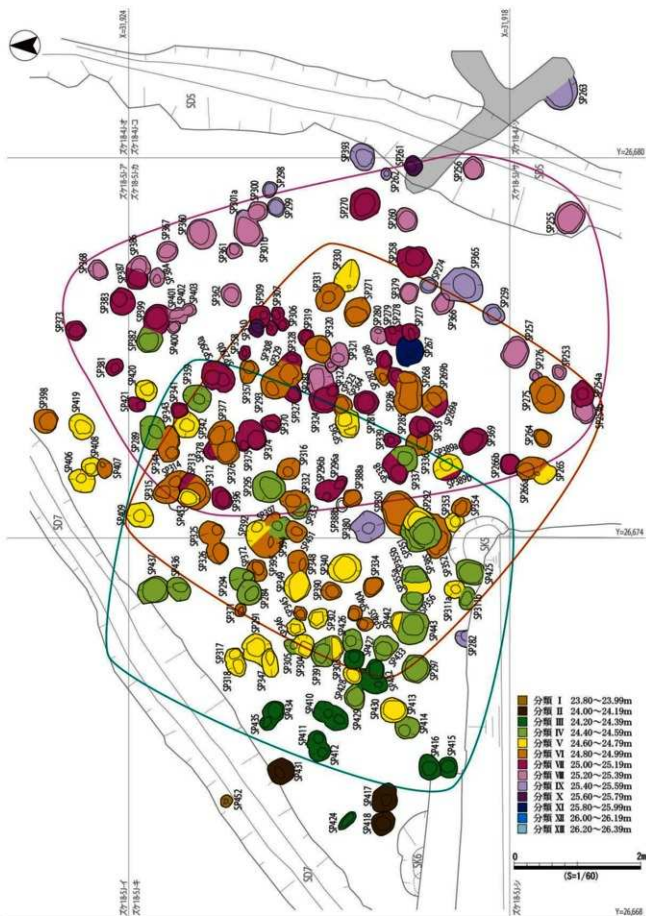
第IV-13図 3号建物跡



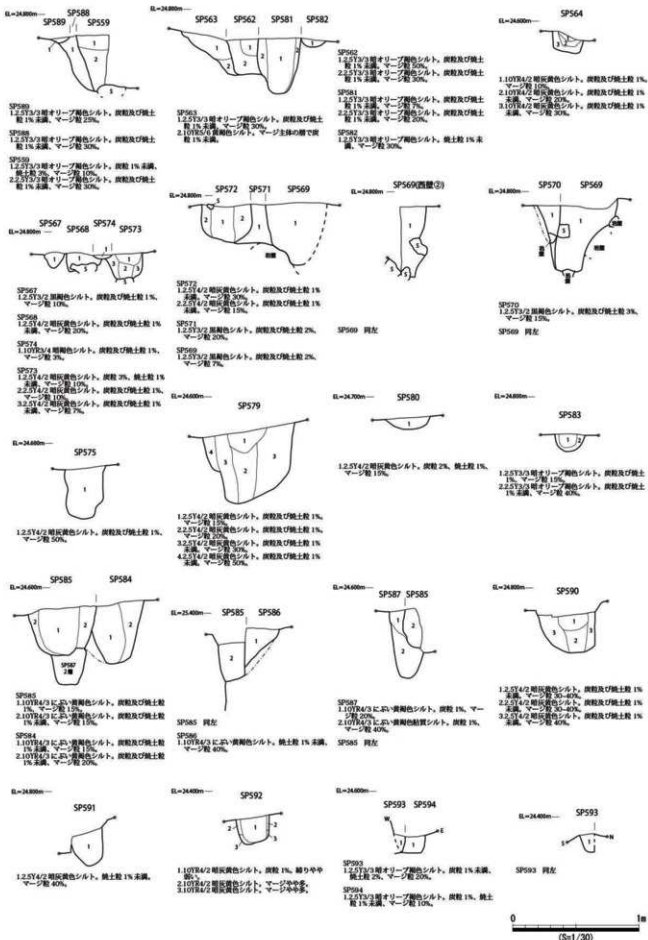
3号建物跡 完備状況 北東より



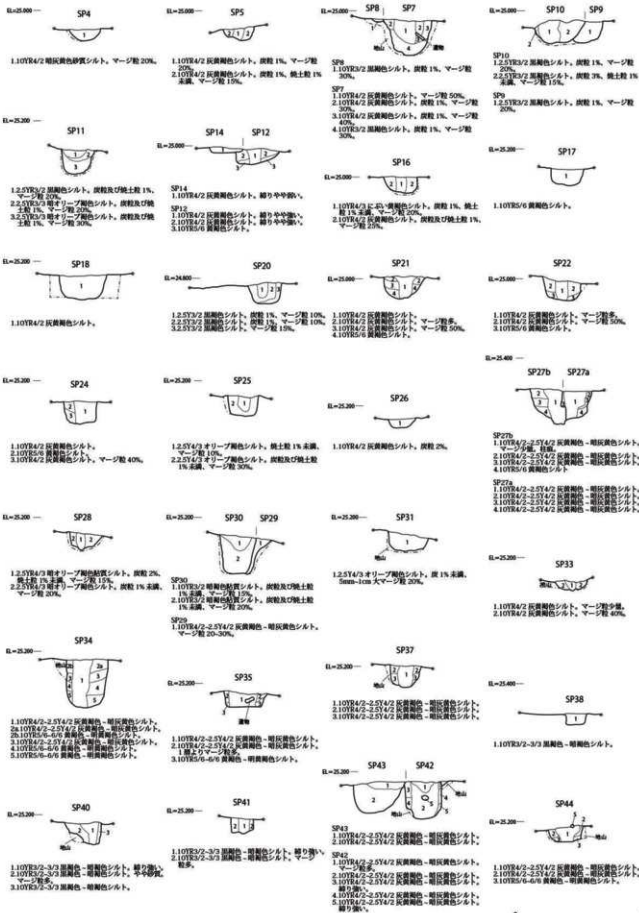
第IV-14図 3号建物跡



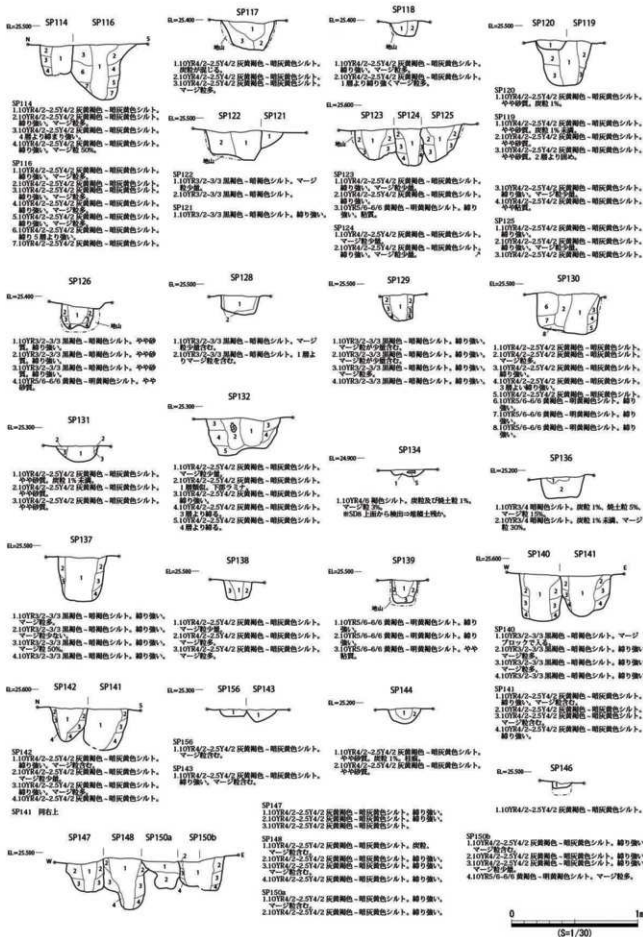
第IV-15図 エ区1南側 建物プラン検討図



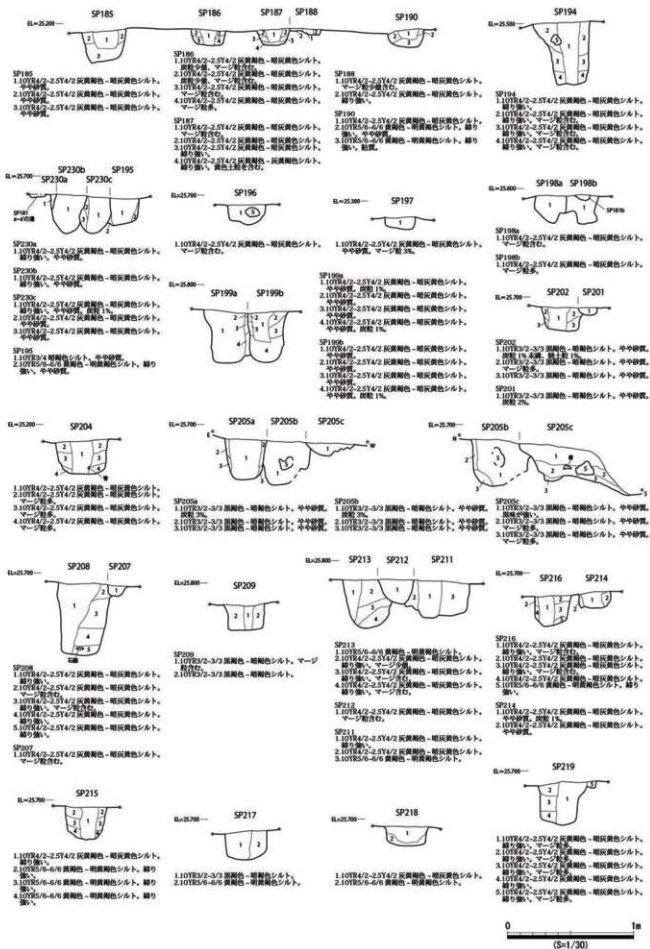
第四-17図 ピット断面図2



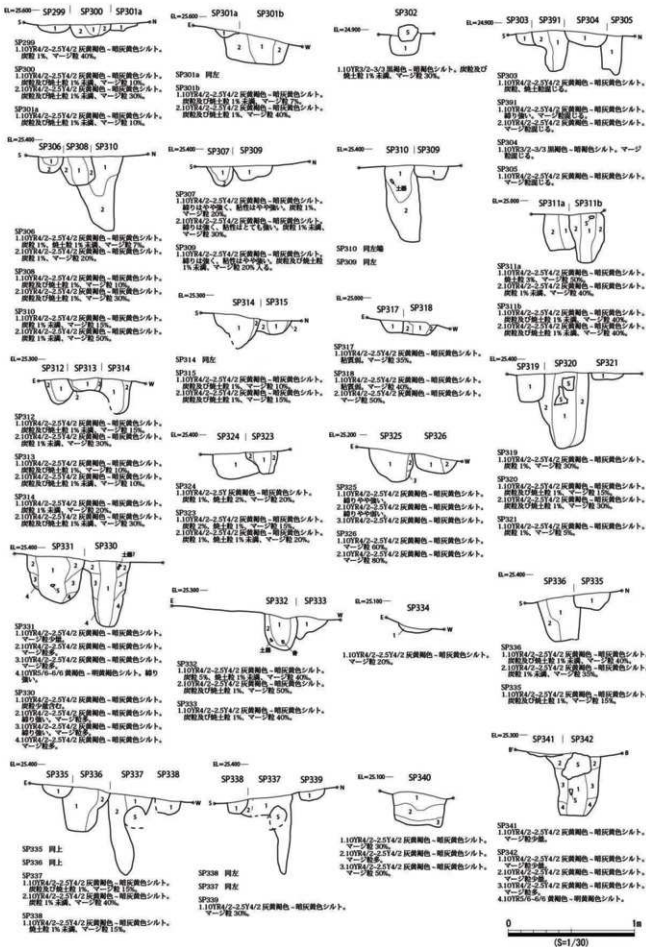
第IV-18図 ピット断面図3



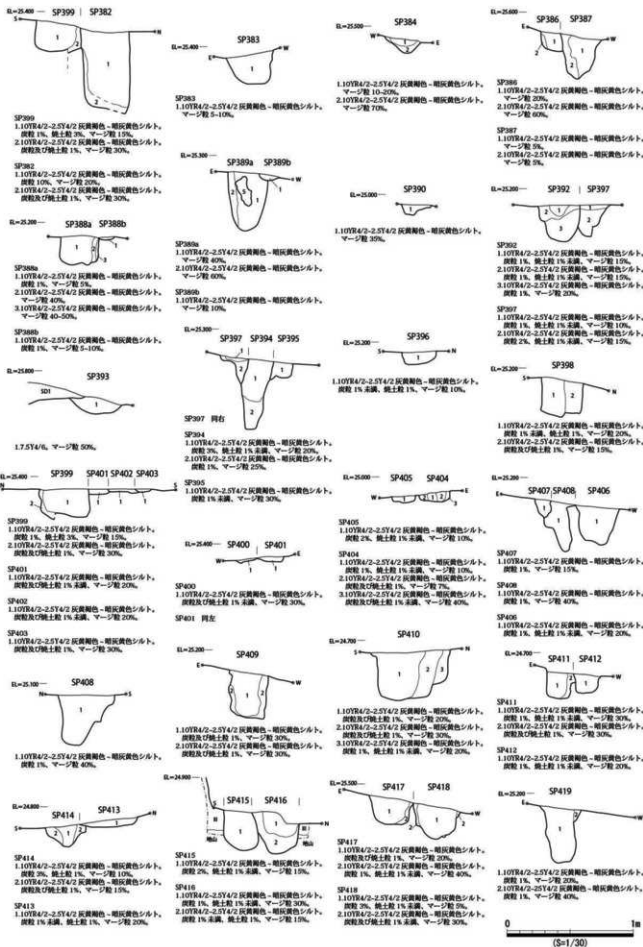
第四-21 図 ピット断面図6



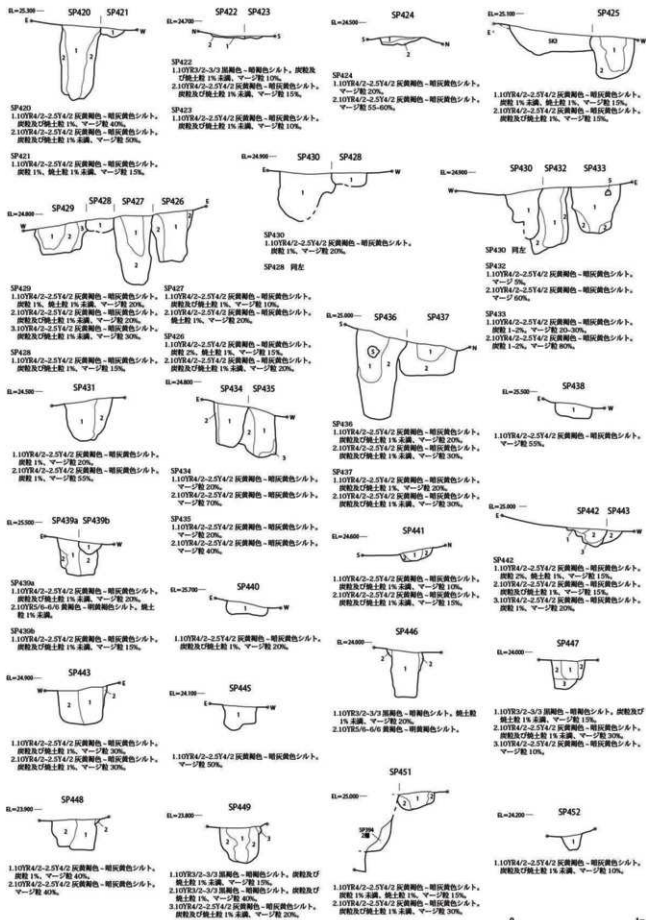
第IV-23図 ピット断面図B



第四-27 図 ピット断面図 12



第四-29 図 ピット断面図 14



第四-30図 ピット断面図 15

II-25300



1.10YR5/6-6/6 黄褐色-明黄褐色シルト、マージ層 40-50%。

II-25300



1.10YR5/6-6/6 黄褐色-明黄褐色シルト、炭粒 1%未満。
2.10YR5/6-6/6 黄褐色-明黄褐色シルト、マージ層 40%。

II-26200



SP490
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 5%、マージ層 15%。
SP491
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 25%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 15%。

II-26200



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 25%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 20%。

II-26400



1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 1%、マージ層 30%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%、粘土粒 2%、マージ層 20%。
3.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 40%。

II-26200



SP494
1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 10%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 30%、粘土粒 1%、マージ層 20%。
SP495
1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 25%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%、粘土粒 1%未満、マージ層 40%。

II-26200



SP496
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 50%。

II-26200



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 40%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 50%。

II-26200



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%。

II-26400



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、マージ層 30%。

II-26400



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 10%。
3.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 20%。

II-26200



SP502
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。

II-26400



SP504
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%、粘土粒 2%、マージ層 15%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%、粘土粒 1%未満、マージ層 20%。

II-26400



SP505
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、マージ層 40%。

II-25800



1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%、粘土粒 1%未満、マージ層 15%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。

II-25100



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 10%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 15%。
3.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 5%。

II-25800



1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 2%、粘土粒 1%未満、マージ層 15%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 30%。

II-24800



1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 15%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%、粘土粒 1%、マージ層 30%。

II-24600



1.10YR2/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗褐色シルト、炭粒 3%、粘土粒 1%未満、マージ層 15%。

II-24800



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 30%。

II-24800



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、マージ層 40%。

II-24800



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 2%、マージ層 7%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 1%、マージ層 20%。
3.10YR5/6-6/6 黄褐色-明黄褐色シルト。

II-24700



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 2%、マージ層 20%。
4.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、粘土粒 1%、マージ層 40%。

II-25800



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 15%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 25%。

II-24800



1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 30%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、マージ層 30%。
3.10YR5/6-6/6 黄褐色-明黄褐色シルト。

II-24800



1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%未満、マージ層 7%。
2.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%、マージ層 10%。

II-24700



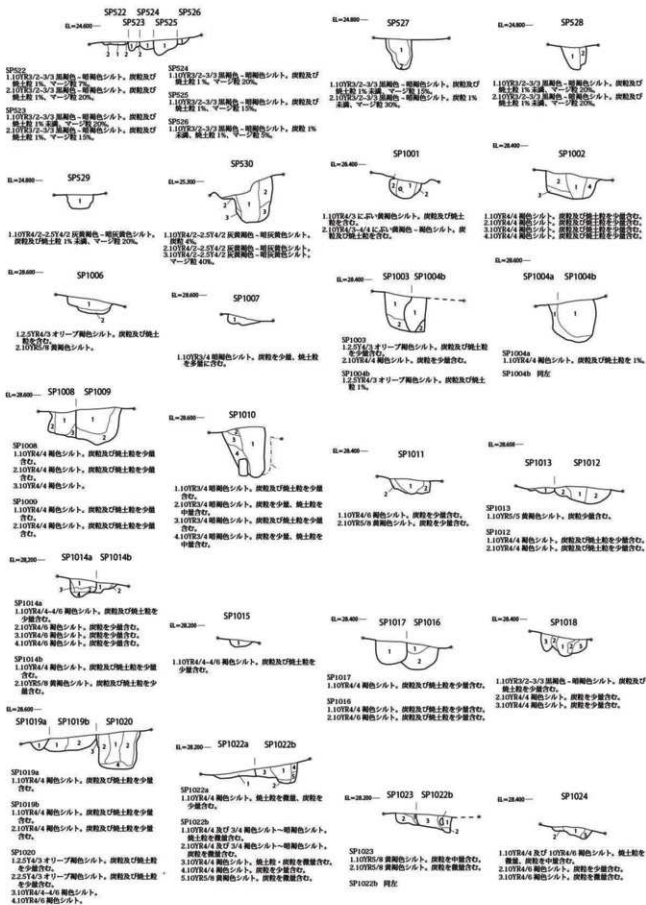
1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 1%、マージ層 20%。
2.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 1%、マージ層 5%。
3.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒 1%未満、粘土粒 2%、マージ層 20%。
4.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、粘土粒 1%、マージ層 40%。

II-24800



SP520
1.10YR4/2-2.5Y4/2 灰黄褐色-暗灰黄色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 2%。
SP521
1.10YR3/2-3/2 黒褐色-暗褐色シルト、炭粒及び粘土粒 1%未満、マージ層 7%。





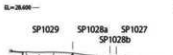
第四-33 図 ピット断面図 18





SP1026
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。

SP1025
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。



SP1029
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒 1%。
2.10TR/4 褐色シルト。

SP1028a
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
3.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。

SP1028b
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
3.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。

SP1027
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。



SP1030a
1.2.5YR/2 オリーブ褐色シルト、炭粒中量、焼土粒少量含む。
2.2.5Y/3 暗オリーブ褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。

SP1030b
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



SP1030b 同左

SP1031a
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。

SP1031b
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。

SP1032
1.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。



1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



SP1034a
1.10TR/4-4/6 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。

SP1034b
1.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR5/8 黄褐色シルト。



SP1036a
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。

SP1036b
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



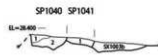
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。



1.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR5/8 黄褐色シルト、炭粒少量含む。



1.2.5YR/3 オリーブ褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4-6/8 褐色シルト、炭粒少量含む。



SP1040 同左

SP1041
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



SP1043a
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
4.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。

SP1043b
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。



SP1045
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。
2.10TR/4 褐色シルト、炭粒少量含む。
3.10TR/4 褐色シルト。

SP1044
1.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒を少量含む。



1.10TR/4 褐色シルト、焼土粒を少量、炭粒を微量含む。



1.10TR/4 褐色シルト、焼土粒、炭粒を微量含む。

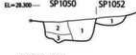


SP1049
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。
3.10TR/4 褐色シルト。
4.10TR5/8 黄褐色シルト。

SP1050
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。



SP1051
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。
3.10TR/4 褐色シルト。

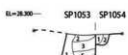


SP1050 同左

SP1052
1.10TR/4 褐色シルト。



1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。
3.10TR/4 褐色シルト。
4.10TR/4 褐色シルト。
5.10TR/4 褐色シルト、炭粒及び焼土粒含む。



SP1053 同右

SP1054
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR5/8 黄褐色シルト。



SP1056
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。
3.10TR/4 褐色シルト。

SP1057
1.10TR/4 褐色シルト。
2.10TR/4 褐色シルト。
3.10TR/4 褐色シルト。
4.10TR5/8 黄褐色シルト。



第IV-34図 ピット断面図19

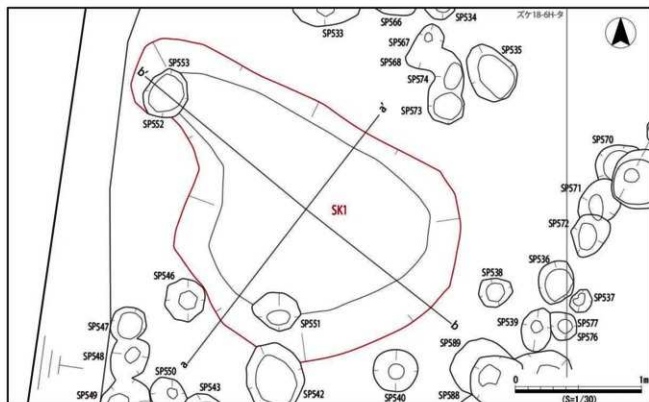
3. 土坑 (SK)

土坑は工区1（北側）に3基、工区1（南側）で5基、工区2で2基の計9基検出された（第IV-13表参照）。SK 1は1号建物跡の中央に位置しており、覆土などから関連があるものと推測される。上部が削平されたためか、遺構深度は検出面から約20cmと浅く、被熱などの痕跡も見られない。SK 2は2号・3号建物プランの北端に位置する。SP154やSP152に切られるので先後関係からすると上記建物プランより古いものと思われる。SK 3は溝状遺構（SD 3）の北西側に位置する。10cm大の礫が混入する。SK 4は工区1（南側）で検出。覆土は3枚に細分され、石灰岩礫が混じる。また、遺物は白磁や青磁などが出土している。SK 5はSP425に切られているが、覆土は類似しているため、同時期と思われる。SK 6は断面が逆三角形に掘り込まれており、焼土や炭化物などが混じる。SK 6の下部にある島尻マージは水の影響によって土質の変化がみられる。SK 7は直径約80cmの楕円形になると想定される。覆土はSK 4と類似するが、下部はマージ粒が多く含まれる。SK 8は工区1（南側）の東側に位置し、ビット群とは離れた地点に位置する。他の遺構が周囲になく性格不明。マージ層を（検出面から）70cmほど掘り込んで造られており、床面は平坦に成形される。SK 9はSD 9を切って形成される。中心が検出面から50cmほど深く掘り込まれ、断面形が逆凸状となる。柱を据えた可能性もあるが、掘方が1mを超えるため土坑とした。SK10、SK11は工区2で検出、SK11がSK10を切るようになっているが、覆土は類似するためほぼ同時期と思われる。

第IV-13表 土坑 (SK) 観察表

工区	遺構 No.	平面形状	遺構計測(cm)			備考	グリッド
			長軸	短軸	深さ		
工区1北側	SK1	不定形	270	194	21	平面形状が不定形で、立ち上がりも穏やか。人為的に掘り込まれたものか、自然の窪地か判断が難しい。ビットの覆土と類似するため、同時期に形成されたものと思われる。	ズケ18-6H-タ
工区1北側	SK2	楕円形	113	92	26	性格不明。SP152、SP154に切られる。	ズケ18-6H-ニ〜ス
工区1北側	SK3	方形	110	72	18	性格不明。SP152、SP154に切られる。地山(島尻マージ)面を掘り込んで形成。SP513などに切られる。	ズケ18-6I-エ
工区1南側	SK4	隅丸方形	135	—	24		ズケ18-5J-チ
工区1南側	SK5	—	66	44	14	SP425に切られる	ズケ18-5J-カ〜キ
工区1南側	SK6	—	137	—	118		ズケ18-5J-キ
工区1南側	SK7	—	85	—	46		ズケ18-5J-ク
工区1南側	SK8	楕円形	89	69	73		ズケ18-4J-エ
工区1南側	SK9	円形	100	96	47	半載時に青磁・褐釉陶器片出土	ズケ18-5J-ク
工区2	SK10	不定形	—	(23)	21	SP1034A、SK1001Bに切られる	ズケ25-4A-イ
工区2	SK11	不定形	67	38	34	SP1034A、SP1038に切られる。SK1001Aを切る。	ズケ25-4A-イ

※()は残存値



SK1 平面



SK1
1.10T84/3 におよぶ黄褐色土。締りはやや強く、粘性はとて薄いが、
粗入物(丸、1-4mm 大粒土粒 (2%)、1-5mm 大砂粒 (7%)、1-3mm 大
アモルファ (20%) がある。アモルファは、上層は比較的多く、下層は
やや大きくなる。

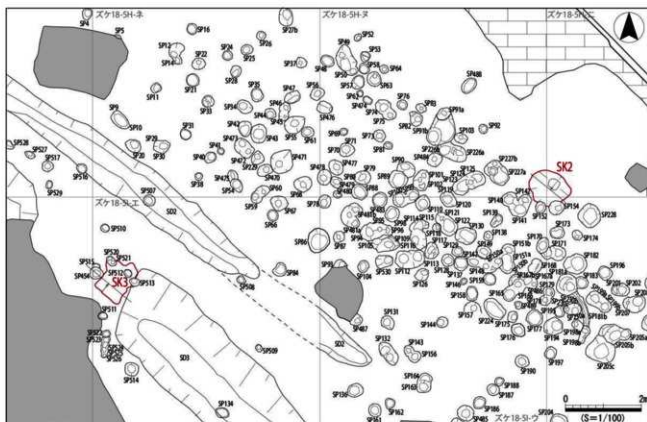


SK1 a-a' ライン断面



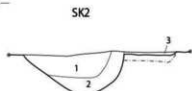
SK1 b-b' ライン断面





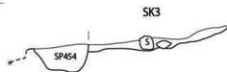
SK2, 3 位置図

EL=25.800m



- 1.10TBS/6-6%。締り、底に黒目の土が20%。炭灰じる。
- 2.10TBS/6-6%。締り強い。
- 3.10TBS/6-6%。締り。2層より黒目の土少ない。

EL=25.000m



- 1.10TBS/2。黒褐色粘質シルト。10cm-大の塊が混入。締り中強。純土粒中炭化物が混じる。

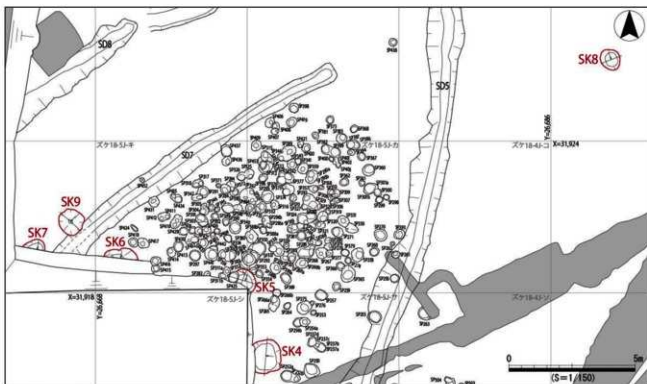


SK2



SK3

第IV-36図 土坑 (SK 2、3)



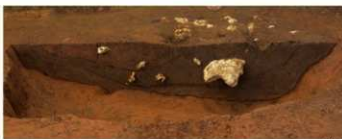
SK4～9位置図



1. 10T84/2-2.5T4/2. 埴りは中や強く、砂質。土色は普通より明るめ。マージは1層全体の55-60%程度。石は5-6cm程度のもの散在。
2. 10T84/2-2.5T4/2. 埴りは中や強く、砂質。土色は暗めで、層の中で1層強い。炭も1mm以下のもの1層全体の1%程度。石は5-6cm大、16cm大が散在する。
3. 10T84/2-2.5T4/2. 埴りは中や強く、砂質。土色は1層よりは暗めで、2層よりは明るい。マージは3層全体の40%程度。



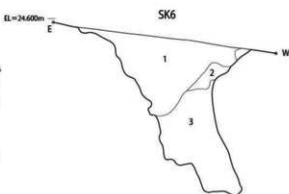
1. 全体的に埴りも良く、粘性は中や強め。一部に埴りが弱い箇所があるが、ブロー管技に入った可能性がある。炭入物は20mm大炭粒及び20mm大焼土粒1%、50mm-1cm大マージ粒10%入る。また、南壁の内側に2cm大炭粒が集中する箇所あり。加え1-2cm大と大サイズの焼土も2点確認できた。



SK4



SK5

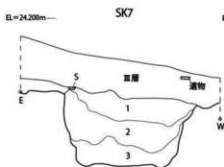


1. 埴りは強く、粘性はなし。炭入物は10mm大赤褐色土粒及び2-5mm大焼土粒1%、30mm-1cm大炭粒3%, 50mm-1cm大マージ粒10%入る。また、赤褐色土粒は1cm大のもの1点確認できた。
2. 埴りはよく、粘性はとても強い。炭入物は20mm大炭粒及び焼土粒1%、1-2cm大マージ粒20%入る。
3. 埴りはとても強く、粘性はとても強い。炭入物は20mm大焼土粒1%未満。もともと遺構の地盤上ではなく、遺構の裏壁をうけた可能性がある。

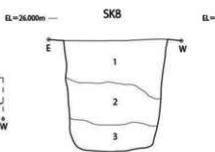


SK6

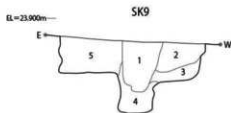
第IV-37図 土坑 (SK 4～6)



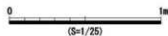
1. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は1-5mm大焼土粒及び3-5mm大炭粒3%、3mm-1cm大マージ殻10%入る。焼土粒は1mm大の大きさのものが多い。
2. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は2mm大焼土粒1%未満、1-5mm大炭粒1%、5mm-4cm大マージ殻30%入る。
3. 層りはとも中層く、粘性は2層と同じ。混入物は1mm大炭粒及び焼土粒1%未満、2-5cm大マージ殻50%入る。マージ殻は前期に大きめのものも多く入る。



1. 10TR4/4-4/6、褐色土、締る。カリカリしている、オリーブ殻・炭・マンガン混じる。
2. 10TR4/4-4/6、締る。1層の土が粘質化している。マンガン多い、炭入らない。
3. 10TR4/4-4/6、締る。2層が褐色して、色薄くなり、粘質強い。マンガン混じる。



1. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は2mm大焼土粒及び赤褐色土粒、3mm大炭粒3%、2mm-1cm大マージ殻10%入る。
2. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は1mm大赤褐色土粒及び3mm大焼土粒1%、2mm大炭粒5%、5mm-1cm大マージ殻10%入る。
3. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は2mm大焼土粒1%未満、2mm大炭粒1%、2cm大マージ殻20%。
4. 層りは中層く、粘性はとも強い。混入物は1mm大焼土粒及び5mm大炭粒1%、1-2mm大マージ殻10%入る。
5. 層りは中層く、粘性はとも強い。マージ主珠の堆積層。その上、2mm大焼土粒及び5mm大炭粒3%入る。



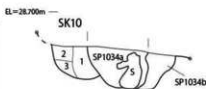
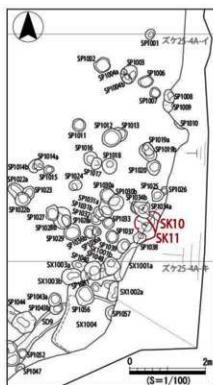
SK7



SK8



SK9



- SK10 概要
1. 10TR4/4、層りは強い、粘質は強い、20mm単位の石灰質の石を数粒、1-4mm単位の焼土粒を数粒、1mm単位の炭粒を少量含む。
 2. 10TR4/4、層りは強い、粘質は強い、10mm単位の石灰質の石を数粒、2-4mm単位の焼土粒を少量、1-3mm単位の炭粒を少量含む。
 3. 10TR4/4、層りは中層強い、粘質は強い、2mm単位の焼土粒を数粒、1mm単位の炭粒を数粒含む。



SK10



SK10 概要

SK11

1. 10TR4/4、層りは強い、粘質は中層強い、1-4mm単位の焼土粒を少量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10TR4/4、層りは中層強い、粘質は強い、1-2mm単位の焼土粒を数粒、1-2mm単位の炭粒を数粒含む。
3. 10TR4/4、層りは強い、粘質は強い、1-2mm単位の焼土粒を中層含む。
4. 10TR5/6、層りは中層強い、粘質は強い、1-4mm単位の焼土粒を数粒、1mm以下の炭粒を数粒含む。



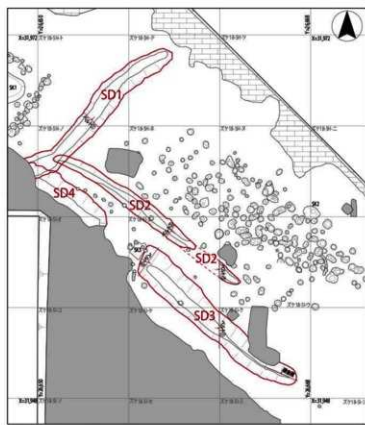
SK11

4. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構は工区1の北側で4条、南側で4条、工区2で1条の計9条検出された(第IV-14表参照)。SD 1は、建物プラン1と同プラン2・3の間にあり、ほぼ軸を同じくする。北東側に岩盤があることでやや地形が高くなっている。SD 2とほぼ垂直に交わり、ピットが集中する範囲を囲むように形成されている。SD 2は建物プラン2・3と同じ軸に延びるため、SD 1と同じくピットが集中する範囲から外れた箇所であり、計画的な配置が窺える。SD 3は掘方断面形状が逆三角形状となり、検出面から深度1mを超える深さとなる。幅も2mを超え、下部に岩盤が見えるなど水路としての用途は考えにくい。周辺一帯の地形を見ると、ピットが集中する箇所を挟んで北東側には石灰岩岩盤があり、その先はイシジャー丘陵の崖地となっている。溝の規模や周辺地形及びSD 3の配置状況などから、ピット集中箇所にある建物等を防衛するために形成された堀切の可能性が考えられる。SD 4もSD 3と同じく堀切の可能性はあるが、攪乱により西側が消失している。なお、SD 3、SD 4からは青磁や白磁などのグスク時代相当の遺物が出土している。SD 5は工区1(南側)に位置し概ね南北方向に延びる。遺物は神沖産陶器などが出土しているため、近世～近代相当の溝と判断される。戦前の航空写真(1945年米軍撮影)を見ると調査区一帯は畑地であり、住居などの建物は見られない。また、畑の区画方向とほぼ同一であることから、畑の区画あるいは排水路であると思われる。SD 6の途中から西側に分岐する細い溝で覆土も類似することからSD 5と同じく畑に関連する溝と思われる。SD 7は工区1(南側)のピット集中箇所に隣接して形成された遺構である。30～50cmほど低い位置にあり、20cm～40cm大の石灰岩礫が並んで検出された。ピット集中箇所がある地形的に高い方に設置されていることから土留めであった可能性もある。SD 8はSD 7から5m程北側、さらに一段低い場所にあり、SD 7と同じく石灰岩礫を土留め状に配置している。SD 9は工区2から検出されたが、残存深度5cm程度と浅く凹地に堆積した残土の可能性はある。

第IV-14表 溝状遺構 (SD) 遺構観察表

工区	遺構 No.	ベルトNo.	遺構計測(cm)			断面レベル (m)	備考	グリッド
			長軸	短軸	深さ			
工区1北側	SD1	ベルト①南壁	—	130	25	24.60	北東—南西方向に延びる、SD2、SD4とほぼ直角に交わる。北東側が高く、穏やかな勾配をもつ、ピットの集中しない場所に造られており、計画的な配置が窺える。	ズケ18-5Hト—ノ
工区1北側	SD2	ベルト①東壁	—	102	7	25.06	北西—南東方向に延び、SD1とほぼ直角に交わる。ピットが集中する範囲に比較的近い、幅は1m程あるが、深さが10cm程度と浅い。北西側に勾配を持つ。推定される建物の軸と同じなので雨樋の可能性はある。	ズケ18-5I-エ
		ベルト②西壁	—	80	15	24.87		ズケ18-5I-エ
工区1北側	SD3	ベルト①東壁	—	238	107	23.76	SD2と同様に北西—南東方向に延びる。幅が2m～2.5m、深さも1m程度あり、断面形状は逆三角形を呈する。推定される建物の軸と同じ方向であるが、北側のピット群とは50cmほど低い位置で検出されている。排水等の溝ではなく、堀切の可能性が想定される。	ズケ18-5I-ク
		ベルト②西壁	—	204	119	23.66		ズケ18-5I-ク
		縦集積	—	—	—	23.95		ズケ18-5I-ク
工区1北側	SD4					SD3と類似の溝。南西側が攪乱により欠失。	即なし メモ写真のみ	
工区1南側	SD5	ベルト①南壁	—	140	19	25.38	南北に延びる。周辺地形を見ると東側が高く西側に傾斜しており、この地形に横断するように形成されている。戦前までは耕作地として利用されていたため、排水路等の機能が想定される。	ズケ18-5J-オ
		ベルト②南壁	—	112	22	25.54		ズケ18-4J-コ
		ベルト③南壁	—	130	24	25.45		ズケ18-4J-オ
工区1南側	SD6	ベルト①西壁	—	40	7	25.30	SD5からほぼ直角方向(西側)に延びる。横幅約40cmあるが深さが7cmと浅い。	ズケ18-5J-チ
工区1南側	SD7	ベルト①北壁	—	—	—	—	傾斜する地形を横断するように形成されている。ピットが集中する箇所に隣接しており、配座などからみて関連性が窺える。深さが20～40cmと比較的しっかりとした造りになっている。	ズケ18-5J-フ
		ベルト②北壁	—	147	41	24.21		ズケ18-5J-キ
		ベルト③北壁	—	121	21	23.95		ズケ18-5J-キ
工区1南側	SD8	ベルト①北壁	—	109	27	23.71	SD7のさらに一段低い位置に配置。SD7と遺構の延びる方向や幅、深さなどの造りが類似することから、同時に同じ目的で形成されたと思われる。	ズケ18-5J-イ
		ベルト②北壁	—	69	36	23.23		ズケ18-5J-ウ
		ベルト③南壁	—	172	39	23.02		ズケ18-5J-ウ
工区2	SD9	ベルト①	—	22	3	28.22	北東—南西方向に延びる。多数のピットに切られている。	ズケ25-4A-キ
		ベルト②	—	65	5	28.18		ズケ25-4A-キ



溝状遺構配置図 (SD1~4)

0 5m
(S-1/250)



SD1 完堀 (南西から)

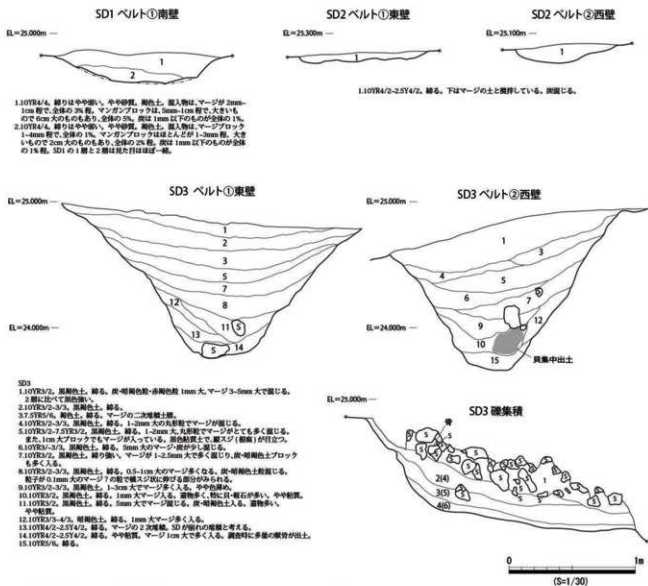


SD2, 3, 4 堀出状況 (北西から)



SD2, 3, 4 完堀状況 (南東から)

第IV-39図 溝状遺構 (SD 1~4)



SD1 ベルト①南壁



SD2 ベルト①東壁



SD2 ベルト②西壁



SD3 ベルト①東壁

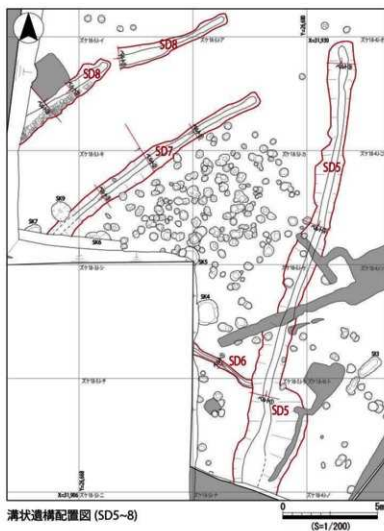


SD3 ベルト②西壁



SD3 礫集積

第IV-40図 溝状遺構 (SD 1~3)



第IV-41 図 溝状遺構 (SD 5~8)



SD7 調査出状



SD5 ベルト①



SD5 ベルト②



SD5 ベルト③



SD6 ベルト①



SD7 ベルト①



SD7 ベルト②



SD7 ベルト③



SD5 ベルト①南壁



SD5 ベルト②南壁



SD5 ベルト③南壁

SD5
 1. 土はばらばらしていて、締りは弱い。土色は、2層にマーヅがもっと多く混ざった色。混入物は、マーヅブロックが直径1~2cm程。SD5の1層は、SD5-2の高中にしか出ていないため、SD5の3層分のベルトには出ていない。
 2. 1.0YR4/6。締りはやや強い。やや砂質。褐色土。混入物は、マーヅブロック4mm~3cm程で、全体の3%。厚は1mm以下のものがほとんど。全体の2%。
 3. 1.0YR4/6。締りはやや強い。やや砂質。褐色土。混入物は、厚が1mm以下のものがほとんど。
 4. 1.0YR5/6。締りはやや強い。やや砂質。黄褐色土。混入物は、厚が1mm以下のものが全体の1%。

SD6 ベルト①西壁

1. 1.0YR4/6。締りはやや強い。やや砂質。褐色土。混入物は、マーヅが直径3~7cm程で全体の30%程。厚は1mm以下のものが全体の1%。

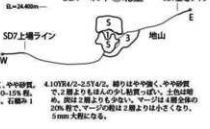
SD7 ベルト②北壁



SD7
 1. 1.0YR4/2~2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。厚は1~3mm大が少し混ざる。マーヅは1層全体の3%程。粘土・小石も少し混ざる。
 2. 1.0YR4/2~2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。厚は1~3mm大が少し混ざる。マーヅは2層全体の10%程。

3. 1.0YR4/2~2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。マーヅは3層全体の10~15%程。下が地山でそれが混ざっている感じ。右側1の裏詰めと入れた土と考える。

SD7 ベルト①北壁



4. 1.0YR4/2~2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質で、2層よりもほんの少し混ざっている。土色は暗め。厚は2層よりも少ない。マーヅは4層全体の20%程で、マーヅの割合は2層よりは小さくなり、5mm大程になる。

第IV-42 図 溝状遺構 (SD 5~7)



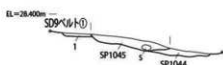
SD8 検出状況



SD9 ベルト①



SD9 ベルト②



1.10TR4/4, 締りは中位、粘り強い、1-6mm 単位の焼土粒を中量、1-4mm 単位の灰粒を少量含む。



1.10TR4/4及び10TR4/6, 締りは中位強、粘り強い、2-5mm 単位の焼土粒を少量、2-4mm 単位の灰粒を少量含む。



SD8 ベルト①



SD8 ベルト②



SD8 ベルト①

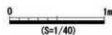
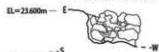


SD8 内石横検出状況



SD8 内石横断面

SD8内石横 断面図



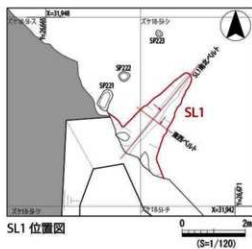
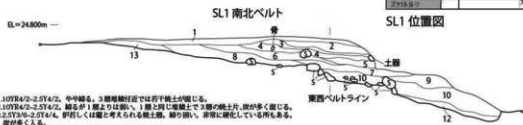
第IV-43図 溝状遺 (SD8・9)

5. 炉跡 (SL)

本遺跡で確認された炉跡は工区1 (北側) で検出されたSL 1の1基のみである。ピット集中箇所から南側5~8mほど離れた位置で検出された。当初検出時は北東側に窄まる三角形形状を呈していたが、中央に方形形状に焼土 (被熱部) を確認した。断面を確認するために十字に小トレンチを設定したところ、被熱部は中央部が窪んでいることが判明した。

第IV-15表 炉跡 (SL) 遺構観察表

工区	遺構No	ベルトNo	遺構計測(cm) 残長 幅 深さ	底面レベル (m)	備考	グリッド
工区1北側	SL1	南北ベルト	— 333 33	24.03	被熱により土の赤色、硬化及び炭化物が集中することなどから炉跡と思われる。北東方向に窄まるような平面形状となっているが、被熱による硬化部分は遺構の中央、長方形(50cm×60cm)の範囲である。南西側は復乱で消失しているため、全形は不明。	ズケ18-5エーシ〜ス
		東西ベルト	— 106 36	24.34		ズケ18-5エーシ



- 1.10YR4/2-2.5Y4/2, 中窄まる。3層堆積付近では若干焼土が散らる。
- 2.10YR4/2-2.5Y4/2, 縁どが1層より厚い。1層2層に焼土で3層の焼土片、炭が多く散る。
- 3.2.5Y4/2-2.5Y4/4, 縁どしくは炭は見えられない。縁ど狭い。赤帯に硬化している所もある。
- 炭が多く入る。
- 4.10YR4/4-2.5Y4/4, 縁ど。0.2mm-1cm 大のマーシ散らる。
- 5.10YR4/4-2.5Y4/4, 3層よりも縁ど狭く、他はマーシ散らさない。暗褐色粘質土が5mm 大散らる。
- 6.2.5Y3/1-10YR5/1, 縁ど狭い。2-5mm 大でマーシ散らる。
- 7.10YR5/6, 縁ど。マーシまで下層の9層及び10層が若干散らる。
- 8.10YR4/4-2.5Y4/4, 縁ど中窄まる。1-3mm 大でマーシ散らる。
- 9.10YR4/4, 中窄まる。1cm 大マーシ散らる。縁どからだと黒色の強い縁どに見える。
- 10.10YR4/6, 縁どあるが50% 中では強い。マーシ6層の上が見える。
- 11.2.5Y4/4-10YR4/4, 中窄まる。縁ど狭い。縁ど。1cm 大でマーシ散らる。
- 12.10YR4/6, 粘質土。縁ど中窄まる。炭化物物と入らない。水の影響を受けたのが酸化したような見た目となっている。平坦部と地山(マーシ)に見える。
- 13.YR5/6, 縁ど。

0 1m (S=1/30)



SL1 東西ベルト



SL1 南北ベルト



SL1 横出状況

第IV-44図 炉跡 (SL)

第4節 遺物

新城上殿遺跡出土の遺物は総数4426点が出土しており、先史土器・グスク土器・沖縄産陶磁器・カムイヤキ・輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 先史土器

先史土器は総数137点出土しており、そのほとんどが5cm以下の細片で全形が窺える資料は得られなかった。特徴的な資料としてくびれ平底土器資料が出土している。比較的状态の良いもの3点を第IV-16表、第IV-45図、図版IV-10にて報告する。

2. グスク土器

グスク土器は総数967点出土しており、鍋・壺などの資料が得られている。2cm以下の細片がほとんどであった。比較的状态の良いもの8点を第IV-16表、第IV-45図、図版IV-10にて報告する。

3. 沖縄産陶器

(1) 沖縄産無釉陶器・・・総数190点出土しており、鉢・火炉・播鉢などが得られている。比較的状态の良いもの5点を第IV-18表、第IV-49図、図版IV-14にて報告する。分類については『宜野湾市文化財調査報告書 第45集 嘉数トゥンヤマ遺跡II』第6表参照。

(2) 沖縄産施釉陶器・・・総数95点出土しており、碗などが得られている。2点を第IV-18表、第IV-48図、図版IV-13にて報告する。

また、沖縄産施釉陶器の分類について『宜野湾市文化財調査報告書 第45集 嘉数トゥンヤマ遺跡II』を参考に施釉技法、釉薬の種類、口縁形態、腰の張り具合によって以下の通り分類を行った。

【施釉技法】

I類 釉薬を単掛けするもの

器面に一種類の釉薬をそのまま施釉するもので、施釉範囲は内外器面あるいは外面のみ及び。

II類 内外面の釉薬を掛け分けるもの

外器面に鉄釉や黒釉などを施釉したあと、内器面に灰釉を掛けるもので、①内器面に白化粧を施さないもの、②内器面に白化粧を施したあとで灰釉を施すもの。

III類 内外器面に白化粧し、透明釉を施すもの

器面の内外に白化粧を施し、さらにその上から透明釉を施すもの

- (1) フィガキーするもの
- (2) 錆釉による同心円を施すもの
- (3) 蛇の目釉剥ぎを行うもの

【釉薬の種類】

- (イ) 灰釉 透明～半透明で灰色、褐色、オリーブ褐色などを呈する。
- (ロ) 鉄釉 褐色～暗褐色を呈する。
- (ハ) 黒釉 黒色を呈する。

【口縁形態・腰の張り】

- A 直口するもの
- B 外反するもの
- C 玉縁のもの

- (a) 腰が張らないもの
- (b) 腰が張るもの

4. カムイヤキ

カムイヤキは総数7点出土している。比較的狀態の良いものを2点、第IV-17表、第IV-46図、図版IV-11にて報告する。

5. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は総数431点出土しており、白磁・青磁・青花・褐釉陶器が得られている。それぞれ狀態の良いものを第IV-17・18表、第IV-46～48図、図版IV-11～13にて報告する。また、中国産陶磁器の分類について『宜野湾市文化財調査報告書 第43集 嘉数トウヤマ遺跡I』を参考に口縁形態と文様によって分類を行った。

- (1) 青磁・・・265点得られた資料の内、碗・碁笥平底・盤を11点報告する。以下参考した分類を抜粋して表記する。

盤I類…鈿縁盤 鈿縁をつまみ上げて成形しており、内面には篋描きの連弁文を施す

碗III類…鎊連弁文碗 直口タイプで外面に鎊を削りだした後、片切彫りにより連弁文を描いている。

碗XIV類…薄手直口碗 薄手直口タイプで、口縁が逆ハの字状に大きく開く。高台は広く、浅い。

皿V類…直口皿 直口タイプの皿。無文のものと同様に片切彫りの連弁文を描くものがある。

- (2) 青花・・・68点得られた資料の内、碗・皿・高杯・小杯を8点報告する。以下参考した分類を抜粋して表記する。

皿I類…外反皿

碗II類…直口碗 薄手で丁寧な成形。外面に唐草文を描く。

- (3) 白磁・・・47点得られた資料の内、碗・皿を7点報告する。以下参考にした分類を抜粋して表記する。

皿I類…口禿皿 薄手成形で口唇部を露胎とするいわゆる口禿皿である。

碗III類…内彎口縁タイプ ピロースクタイプと称される内彎型の碗。

ピロースクタイプ碗I類に相当。

碗VII類…薄手直口碗 薄手直口碗で、逆ハの字状に開く器形。今帰仁タイプIV類に相当。

- (4) 褐釉陶器・・・52点得られた資料の内、1点報告する。

6. 本土産磁器

本土産磁器は総数54点が出土しており、小杯・皿などが得られている。4点を第IV-18表、第IV-48図、図版IV-13にて報告する。

7. 石器

石器は総数 147 点が出土している（石材含む）。そのうち 7 点を第IV -19 表、第IV -50、51 図、図版 IV -15・16 にて報告する。

8. 銭貨

銭貨は総数 4 点が出土している。第IV -19 表、第IV -51 図、図版IV -16 にて報告する。

9. その他

金属製品・ガラス製品などが総数 422 点出土している。そのうち 4 点を第IV -19 表、第IV -51 図、図版IV -16 にて報告する。

第IV-16表 出土遺物観察一覧1

押図番号 図版番号	器種・分類	部位	法量(cm)			胎土、混和材	色調	観察事項	出土地	
			口径	底径	器高					
第IV-45図 図版IV-10	1	先史土器	底	—	5.3	—	黒色砂粒、赤色砂粒	外内面にぶい椀	くびれ平底。内底面に指圧痕あり。焼成良好。	H28 西77 1区 <327> (SD3 1層)
	2	先史土器	底	—	5.4	—	白色砂粒、黒色砂粒、	外内面にぶい椀	くびれ平底。焼成不良。	H28 西77 1区 <363> (SD3 3層)
	3	先史土器	底	—	4.2	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面 椀 内面にぶい 黄褐色	くびれ平底。7より小型で焼成良好。	H28 西77 1区 <395> (SD3 6層)
	4	グスク土器	口	13.9	—	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 椀 内面にぶい 黄褐色	壺の口縁部。口縁外反。口縁から下方にくびれて広がり、頸部は作らない。	H28 西77 1区 <462> (SD4 3層)
	5	グスク土器	口	13.8	—	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 椀 内面にぶい 黄褐色	壺の口縁部。口縁外反。口縁から下方にくびれて広がり、頸部は作らない。	H28 西77 1区 <469> (SD4)
	6	グスク土器	口	—	—	—	白色砂粒、赤色砂粒	外面 にぶい 黄褐色 内面 明黄褐色	鍋の口縁部。口縁外反し舌状を呈する。口唇にはススが附着する。	H28 西77 1区 <330> (SD3)
	7	グスク土器	口	—	—	—	白色砂粒、赤色砂粒	外面 褐色 内面 明褐色	器種不明の口縁部。口縁内湾する。内面に工具による調整痕がみられる。	H28 西77 1区 <401> (SD3 レキ内)
	8	グスク土器	底	—	12.4	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 にぶい 黄椀 内面 椀	内面に指圧による調整痕明瞭。器厚は6と比べて薄い。	H28 西77 1区 <685> (SD3 2層)
	9	グスク土器	底	—	12.4	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 椀 内面にぶい 黄椀	内外面に指圧による調整痕明瞭。外面に広くススが附着する。器壁は厚く焼成はやや悪い。	H28 西77 1区 <395> (SD3 6層)
	10	グスク土器	底	—	14.6	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面 にぶい 黄椀 内面 椀	焼成良好で内外面はあばた状を呈する。立ち上がりは急で外底面は平らに成形される。	H28 西77 1区 <404> (SD3)
	11	グスク土器	底	—	13	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面 椀 内面にぶい 黄褐色	焼成良好で内外面はあばた状を呈する。内底面に指圧による調整痕明瞭。立ち上がりは緩やか。	H28 西77 1区 <695> (SD3 6層)

第IV-17表 出土遺物観察一覧2

拝園番号 図版番号	器種・分類		部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地										
第IV-46図 図版IV-11	12	カマイヤキ	壺	口縁	18	カマイヤキの口縁部。口縁外反し、先端がわずかに下方に肥厚する。色調は内外灰色。焼成良好。	H28 西77 1区 (372) (SD3 4層)									
					—											
	13	—	—	胴	—	カマイヤキの胴部。小片のため器種不明。内外面に叩き痕あり。色調は内外暗サージュ灰。焼成良好。	H28 西77 1区 (694) (SD3 6層)									
					—											
	14	青磁	碗	XIV類	口	14	口縁直口。薄手で口唇はまるみを帯びる。素地は灰色。焼成は緻密。両面に軸を施す。細かい貫入あり。	H28 西77 1区 (407) (SD3)								
						—										
						15			青磁	碗	Ⅲ類	底	—	高台内面が露胎する。畳付けは軸割ぎされる。素地は白色。焼成は緻密。見込みに線彫りで花文を描き、その上から内外両面に軸を施す。	H28 西77 1区 (682) (SD3 1層)	
													5.4			
						16			青磁	碗	—	底	—	大型碗の底部。高台内面に削り痕あり。高台内面は露胎する。素地は灰白色。焼成は緻密。内外両面に軸を施す。畳付けは軸割ぎされる。貫入あり。	H28 西77 1区 (609) (SP2,SP3)	
													5.6			
						17			青磁	碗	Ⅲ類	口	13.4	口縁直口。沈線文による連弁文が胴部を一造する。素地は灰色で焼成はやや粗い。貫入あり。	H28 西77 1区 (607) (SK3)	
													—			
						18			中国産	青磁	碗	—	口	—	口縁外反し、胴部に又状工具による無縁連弁文を施す。素地は灰白色で焼成は緻密。両面に軸を施す。貫入あり。	H28 西77 1区 (333) (SD3 1層)
														—		
19	青磁	碗	—	底	—	高台を作らず緩やかに立ち上がる。素地は灰色で焼成は緻密。両面に軸を施す。外面底部中央部は露胎する。貫入あり。	H28 西77 1区 (691)									
					5.4											
20	青磁	茶箱 平底	V類	口～底	12.6	口縁直口。外面には線彫りの圓線が散条廻る。底部は高台を作らず緩やかに立ち上がる。素地は灰色で焼成は緻密。両面に軸を施す。外面底部中央部は露胎する。貫入なし。	H28 西77 1区 (336) (SD3 1層)									
					3.7 8.2											
21	青磁	碗	Ⅲ類	口	—	口縁外反し、胴部に片切彫りによる縁連弁文を施す。縁は明瞭。素地は灰色で焼成は緻密。両面に軸を施す。貫入あり。	H28 西77 1区 (329) (SD3 1層)									
					—											
22	青磁	碗	Ⅲ類	底	—	連弁文が施される碗。高台は小さく作りは丁寧。素地は淡黄白色で緻密。両面に軸を施す。細かい貫入あり。高台内面は無軸。	H28 西77 1区 (687) (SD3 2層)									
					5.2											
23	青磁	盤	—	底	—	大型盤の底部。高台は低く、厚い。素地は灰白色で焼成は緻密。両面に軸を施す。外底面は露胎する。細かい貫入あり。	H28 西77 1区 (525) (Ⅲ層)									
					13.2											
24	青磁	盤	I類	口	—	口縁外反し。口唇三角状に肥厚する。内面口縁直下に隆を作り、縦に数条の沈線を描く。素地は黄灰色で焼成は緻密。両面に軸を施す。細かい貫入あり。	H28 西77 1区 (612) (SP21)									
					—											
第IV-47図 図版IV-12	25	染付	平皿	I類	口～底	19.9	口縁外反。口縁と見込みに青軸の圓線が廻り、見込みに胴部に草花文を描く。素地は白色で焼成は緻密。内外面に青軸で圓線と草花文を描き、その上から青白色の透明軸を施す。	H28 西77 1区 (626) (SP165)								
						3.5 10.5										
	26	染付	平皿	—	底	—	平皿の底部片。見込みに胴部に文様を施す。中央部が欠損するため文様の詳細は不明。素地は白色で焼成は緻密。青軸で見込みに高台周辺に圓線と文様を施した後面に青白色の軸を施す。	H28 西77 1区 (512) (Ⅲ層)								
						5.4										
	27	染付	—	—	胴	—	外面に圓線と草花文を施す。内面は見込みに圓線が廻る。素地は白色で焼成は緻密。外面に青軸で草花文を描いた後面に青白色の軸を施す。貫入あり。	H28 西77 1区 (14) (SK3)								
						—										
	28	中国産	染付	高坏	—	底	—	高坏の底部。内底面には文様が施される。高台下部に一条圓線が廻る。畳付けは軸割ぎされる。素地は白色で焼成は緻密。施文した後、青白色の軸を施す。	H28 西77 1区 (20) (SX3)							
							3.5									
	29	染付	水差し	—	注ぎ口	—	水差しの注ぎ口部分だと考えられる。文様が施される。孔径約0.6cm。素地は白色で焼成は緻密。外面に青軸で施文し、その上から青白色の透明軸を施す。内面は軸が掛かっている。	H28 西77 1区 (215) (SK1)								
						—										
30	染付	碗	Ⅱ類	口	—	口縁直口。口縁内面に一条圓線が廻り、胴部外面には文様が施される。素地は灰白色で焼成は緻密。胴部に圓線と文様を描き、その上から青灰色軸を施す。	H28 西77 1区 (432) (SD7 1層)									
					—											
31	染付	小杯	—	底	—	見込みに胴部に構成不明の文様を施す。素地は白色で焼成は緻密。胴部と内底面に文様を描き、その上から青灰色軸を施す。	H28 西77 1区 (535) (Ⅲ層)									
					2.0											

第IV-18表 出土遺物観察一覽3

押洞番号 図版番号	器種・分類	部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地					
第IV-47図 図版IV-12	中国産	染付 碗	底	—	立ち上がりに腰線が一条めぐり、胴部には墓草文が施される。素地は灰白色で焼成は緻密。胴部に文様を描き、高台と見込み以外に青灰色釉を施す。	H28 西7フ1区 <S35>地 (II層)				
				6.4	—	—	—			
				33	白磁 碗 Ⅲ類	口～底	14	口縁直口し、腰は張らない。高台が低い、轆轤引き。全体的に成形が雑で成形と調整の痕が明瞭に残る。素地は黄灰色の粒子。焼成はよい。内外面の胴部までに釉を施す。外面胴部に輪掛けが雑な部分あり。細かい貫入あり。	H28 西7フ1区 <640> (SP267 1層)	
							5.2	—	—	—
							15.8	—	—	—
							—	—	—	—
							—	—	—	—
							—	—	—	—
				34	白磁 碗 I類	口	15.8	—	—	
							—	—	—	
							—	—	—	
							—	—	—	
—	—	—								
—	—	—								
35	白磁 碗 Ⅲ類	口	16.2	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
36	白磁 皿	底	—	—	—					
			5.8	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
37	白磁 皿	底	—	—	—					
			4.0	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
38	白磁 碗	胴～底	—	—	—					
			5.4	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
39	白磁 皿 I類	口	13.2	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
40	褐釉 陶器	—	胴	—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
41	—	—	胴	—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
42	本土産 磁器	小杯 印判染付	口～胴	—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
43	平皿 印判染付	口	13.2	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
44	平皿 印判染付	口～胴	—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
45	沖繩産施 釉陶器	碗 I (イ/a1)	底	—	—	—				
				7.1	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
46	碗 III (イ/b3)	底	—	—	—					
			5.95	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
47	鉢 II類a	口	25.3	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
48	鉢 II類a	口	19	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
49	沖繩産 無釉陶器	火炉	底	—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
				—	—	—				
50	播鉢	底	10.1	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
51	播鉢	底	—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					
			—	—	—					

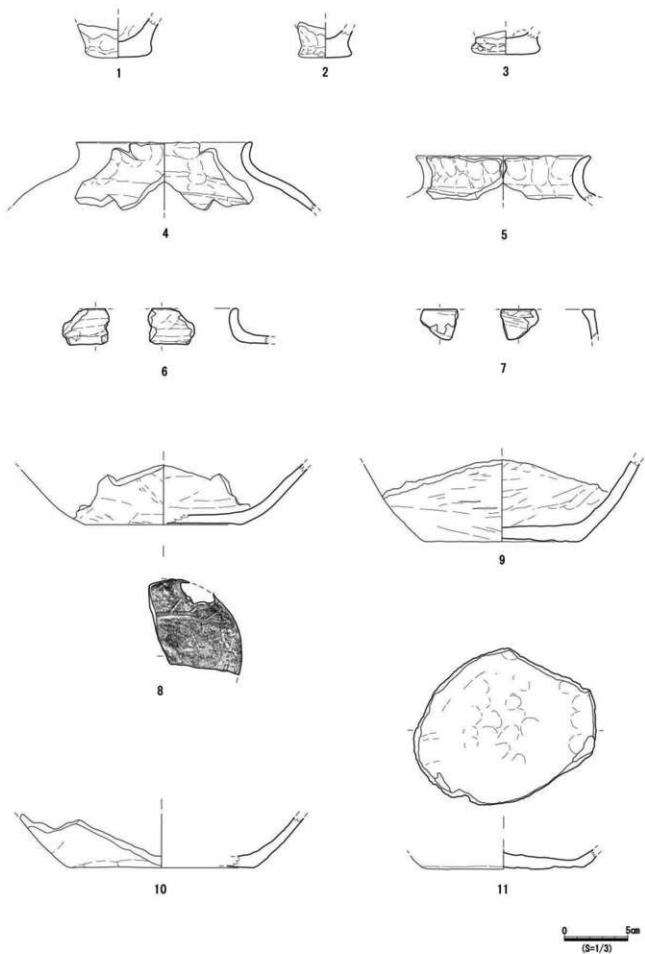
第IV-19表 出土遺物観察一覧4

拝園番号 図版番号	器種	石質	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
			長さ	幅	厚さ	重量			
第IV-50図 図版IV-15	52	敲打	9.5	5.6	5.1	410	研磨によって整えられた敲打石器。縁辺に敲打痕が集中する。	H28 西77 1区 <S3> (田層)	
	53	石斧	10.6	7.7	2.4	375	表面が研磨によって整えられた石斧。基部は欠損。刃部に使用痕が残る。	H28 西77 1区 <408> (SK5)	
	54	磨り石?	砂岩	10.7	7.9	4.4	375	縁辺が研磨によって整えられ、表面に使用痕が残る。大部分が欠損する。	H28 西77 1区 <488> (SD3 2層)
	55	砥石		4.9	4.2	1.8	53.7	裏面は平らに所々割られ、縁辺は研磨によって整えられる。表面は中央に向かってわずかに窪む。	H28 西77 1区 <345> (SD3 2層)
	56	砥石		6	3.3	1.3	55	全面が丁寧に研磨された扁平な長方形を呈する砥石。長辺端部は使用により石斧の刃部の様相を呈するが敲打痕は確認できない。	H28 西77 1区 <634> (SP208)
第IV-51図 図版IV-16	57	石斧	8.9	4.4	1.9	120	全面が丁寧に研磨された小型の石斧。扁平な楔形を呈する。基部の近くには凹みが見られ、柄に挟み込んで(はめ込んで)使用したと考えられる。	H28 西77 1区 <635> (SP208)	
	58	磨製石器	10.5	5.0	3.6	370	全面が丁寧に研磨された、残存部がやや円錐状を呈する石器。端部は丸まり敲打痕が残る。	H28 西77 1区 <631> (SP208b)	

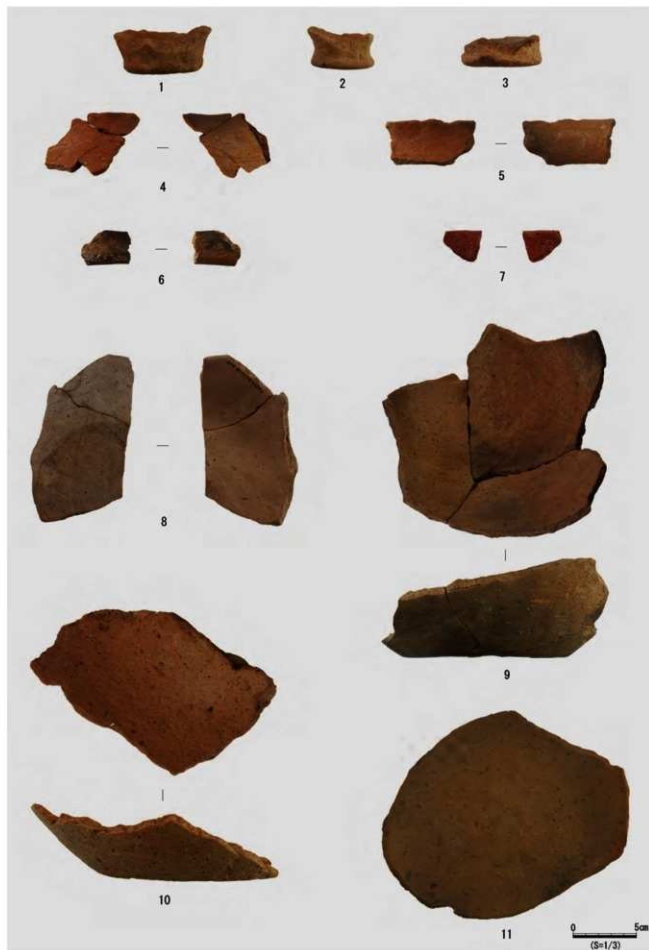
拝園番号 図版番号	種類	分類	部位	法量				観察事項	出土地	
				長さ	幅	厚さ	重量			
図版IV-16	59	食食用ナイフ	鉄	刃部・持ち手	22	2.05	0.5	73.1	近代の食食用ナイフ。刃部は根本近くで折れている。持ち手には「ROCOS・S KOREA」の刻印。	H28 西77 1区 <554>

拝園番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第IV-51図 図版IV-16	60	銭貨	—	2	0.7	0.2	1.1	錆びと摩耗により銭文判別不能。	H28 西77 1区 <555> (造成土)
	61	銭貨	—	2	0.7	0.1	0.5	錆びと摩耗により銭文判別不能。一部欠損。	H28 西77 1区 <616> (SP109)
	62	銭貨	開元通宝	2.4	0.65	0.3	2.5	開元通宝。裏は「興」の銭文	H28 西77 1区 <679> (SD3)
	63	銭貨	—	—	—	0.2	0.9	錆びと摩耗により銭文判別不能。一部欠損。	H28 西77 1区 <615> (SP94)

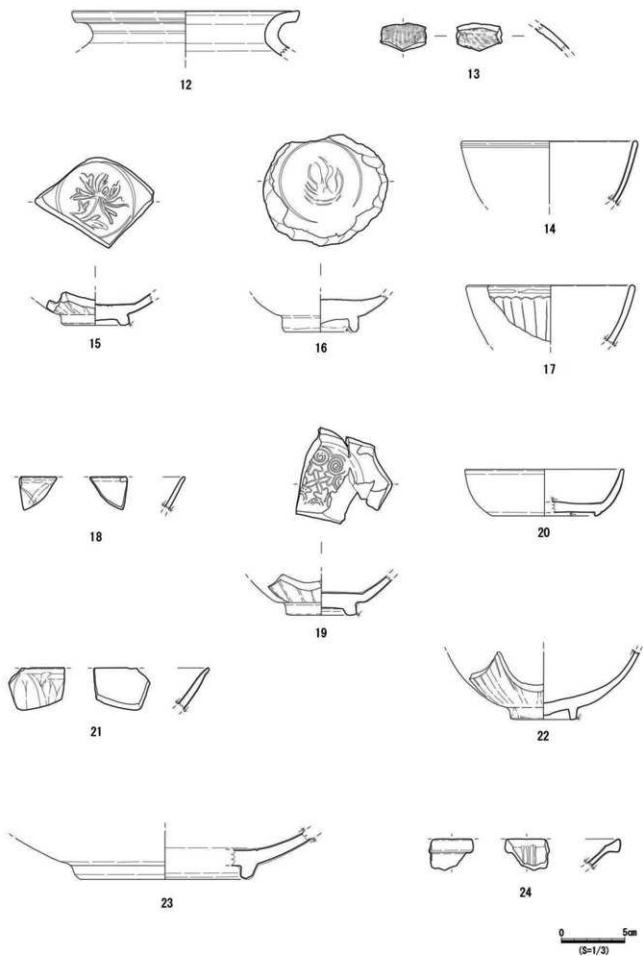
拝園番号 図版番号	分類		部位	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
	種類	材質		縦(径)	横(高)	厚(孔)	重量			
第IV-51図 図版IV-16	64	ふいご	陶質	羽口	5.1	5.3	2.7	47.5	ふいごの羽口。元は円筒形だったと考えられる。被熱が強い部分の内面には二筋裂けたような痕があるが、意図したものかは不明。	H28 西77 1区 <372> (SD3 4層)
	65	ビーズ	ガラス		0.75	0.7	0.25	0.5	青色で外径0.7cm、孔径0.2cm。やや楕円形を呈し、気泡が確認できる。	H28 西77 1区 <656> (SP380)
図版IV-16	66	印鑑			4.4	2.6	2.25	64.3	柱状の印鑑。印影には英語と漢字(篆書体)の当て字で「DELOS FLINT/出羽寿 富林堂」、持ち手には「銀吉堂」と刻印される。	H28 西77 1区 <554> (造成土)



第IV-45 図 出土遺物 1 先史土器 (1~3)、グスク土器 (4~11)



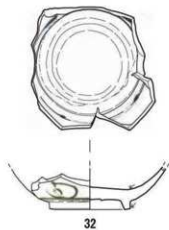
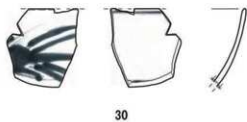
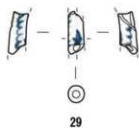
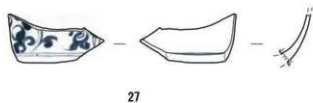
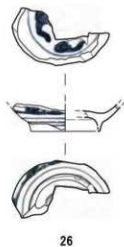
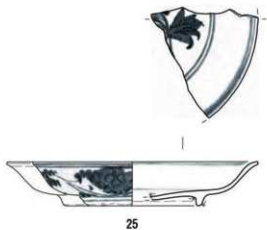
図版IV-10 出土遺物1 先史土器(1～3)、グスク土器(4～11)



第IV-46 図 出土遺物2 カムイヤキ (12・13)、中国産青磁 (14～24)



図版IV-11 出土遺物2 カムイヤキ (12・13)、中国産青磁 (14～24)

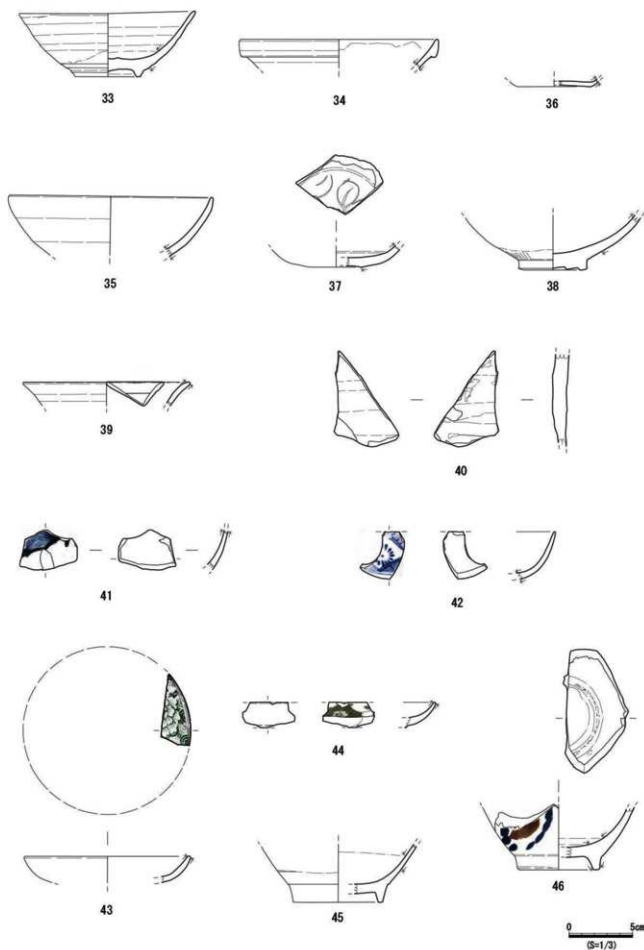


0 5cm
(S=1/3)

第IV-47 図 出土遺物 3 中国産染付



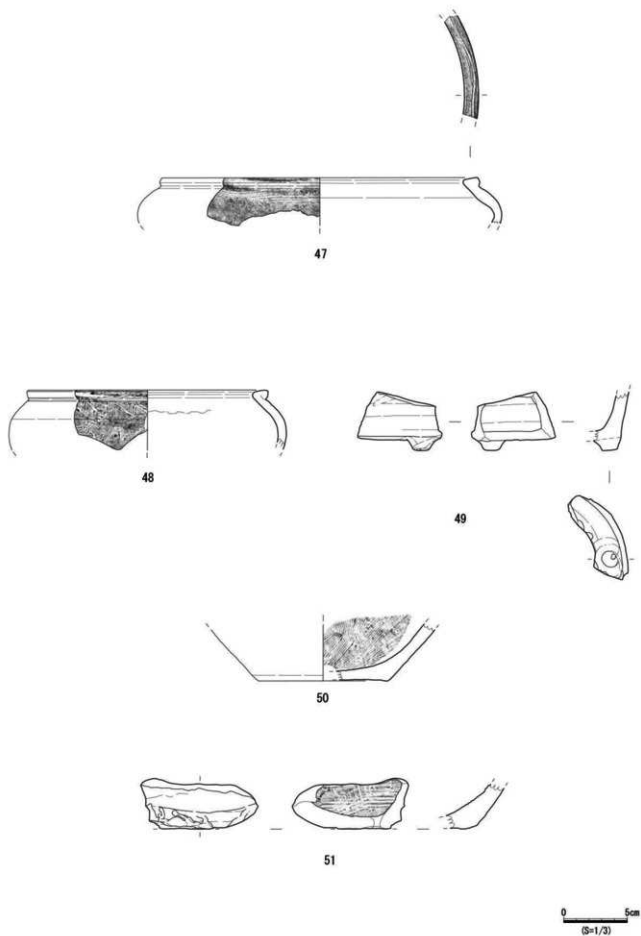
图版IV-12 出土遺物3 中国産染付



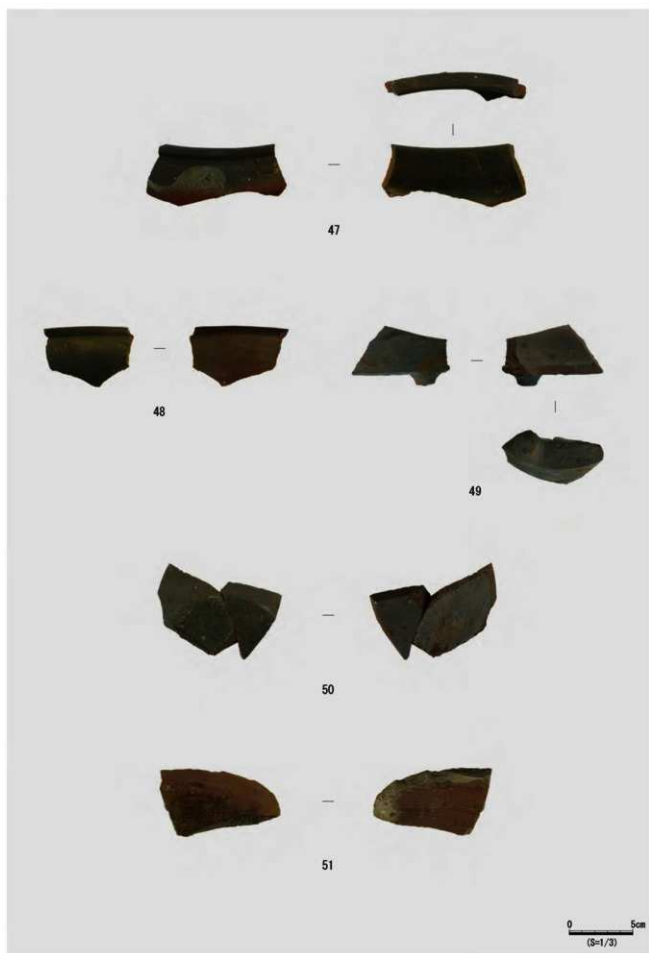
第IV-48 図 出土遺物 4 中国産白磁 (33～39)、中国産褐釉陶器 (40)、本土産磁器 (41～44)、沖縄産施釉陶器 (45・46)



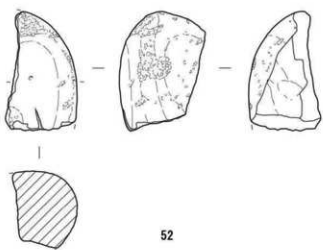
図版IV-13 出土遺物 4 中国産白磁 (33～39)、中国産褐釉陶器 (40)、本土産磁器 (41～44)、沖縄産施釉陶器 (45・46)



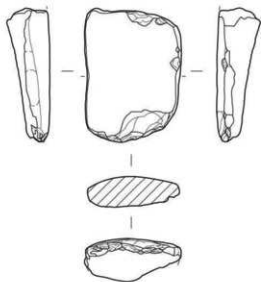
第IV-49 図 出土遺物 5 沖繩産無釉陶器



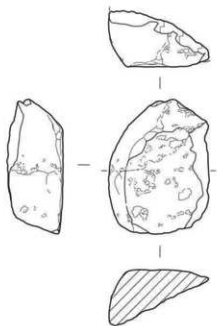
図版IV-14 出土遺物5 沖繩産無軸陶器



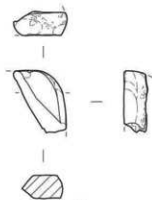
52



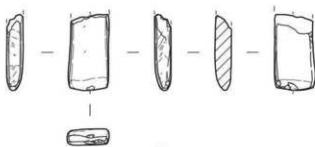
53



54



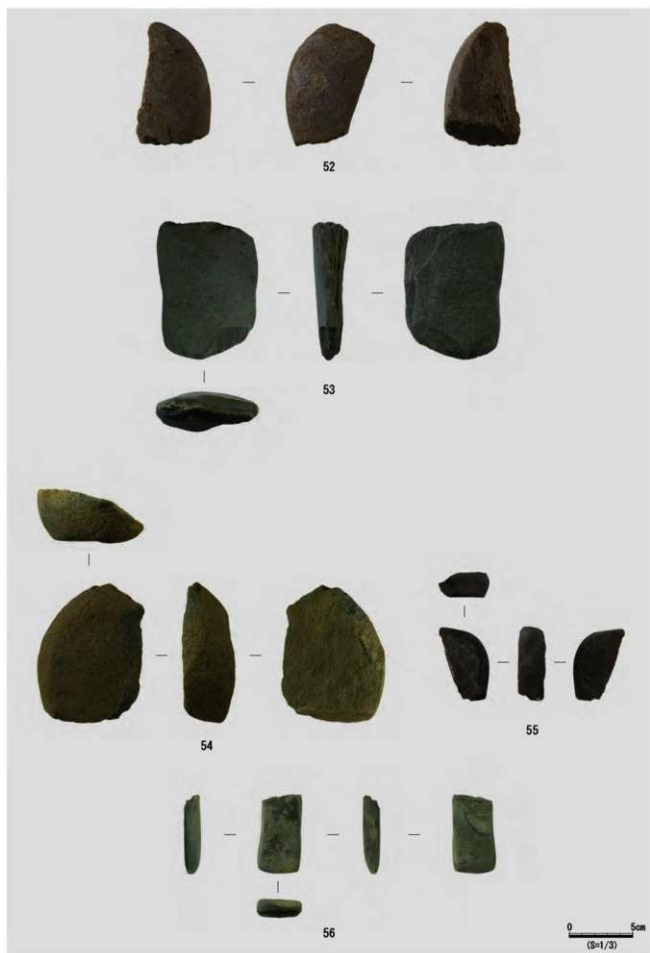
55



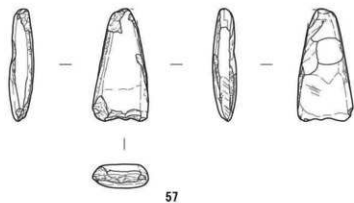
56



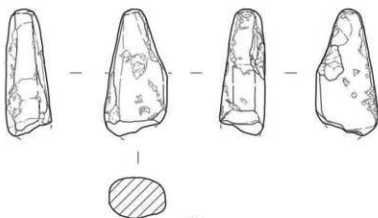
第IV-50 図 出土遺物 6 石器



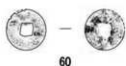
図版IV-15 出土遺物 6 石器



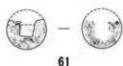
57



58



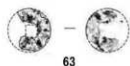
60



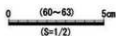
61



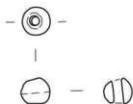
62



63



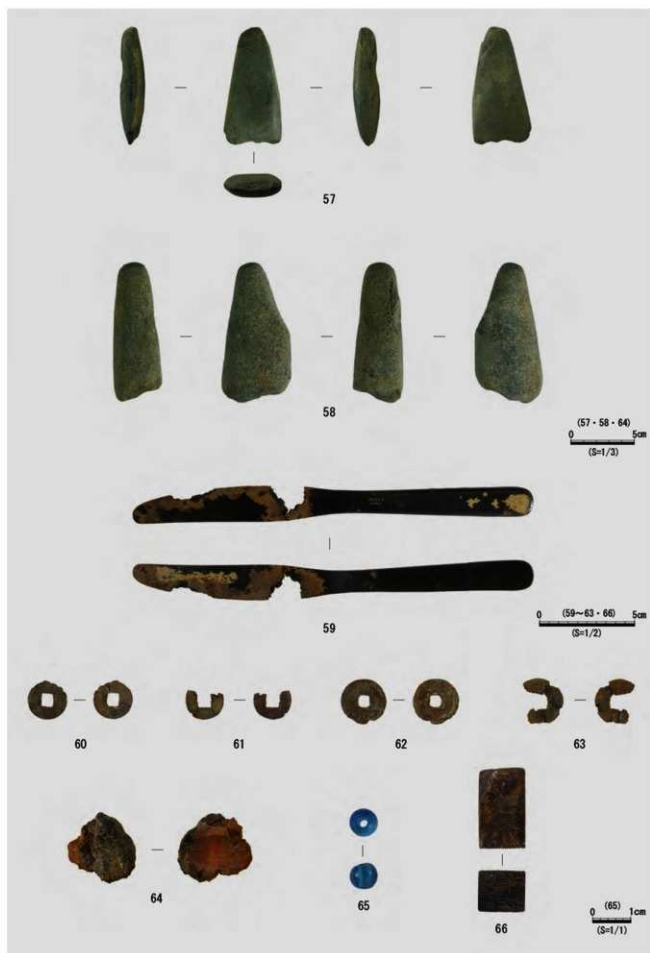
64



65



第IV-51 図 出土遺物 7 石器 (57・58)、銭貨 (60~63)、ふいごの羽口 (64)、ビーズ (65)



図版IV-16 出土遺物 7 石器 (57・58)、ナイフ (59)、銭貨 (60～63)、ふいごの羽口 (64)、ビーズ (65)、印籠 (66)

第IV-21表 出土遺物集計表2

種別・器型 部位等	先史 土器		J/ク 土器		J/イ 土器		青磁		青花		神護寺系他類器			神護寺系他類器			アムル 系一 類器		木土器 ・漆器	金属 製品	石器・ 石材	貝類	骨類	その他	不明	合計
	瓦	土器	瓦	土器	瓦	土器	瓦	土器	瓦	土器	不明	瓦	土器	不明	瓦	土器	不明	瓦								
148					1																				2	
151										1													1			1
152																										1
154																										3
156																						1				2
157																							1			2
165																										1
166																										1
167																										1
170																										2
175																										2
182																										4
182																										2
182																										3
185																										1
185																										3
194																										2
205																										7
205																										2
205b																										2
205b																										2
205c																										2
209C																										5
209C																										3
211																										2
211																										2
216																										1
216																										1
220																										2
221																										5
221																										2
225																										4
226																										2
227																										3
228																										1
228																										3
229																										1
229																										1
237																										1
238																										1
238																										1
240																										1
240																										1
252																										1
252																										1
255																										1
255																										1
258																										1
258																										6
267																										1
268																										1
268																										1
270																										2
270																										1
270																										1
270																										2
270																										2

第IV-23表 出土遺物集計表4

種別・器名	瓦			青瓦			白磁			有釉			神威瓦葺輪廊			神威瓦葺輪廊			アラム 本土産			その他	不明	合計	
	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦				瓦
397	1																							1	
398																									1
399	1																								1
412																									4
415																									3
416	1																								6
417																									1
425																									2
427	1																								2
433	1																								3
436																									3
444	1	2																							17
450	1																								1
460																									3
463	1																								1
490																									1
496																									1
507																									1
516																									1
528																									1
1027																									1
531																									2
535	1	2																							3
542																									1
546																									3
548																									1
549																									1
551																									1
554																									6
555	1	1																							3
559	2	1																							6
560																									2
582																									1
585																									1
596																									1
597	1																								1
599																									1

第IV-25表 出土遺物集計表(2区)

種別・器種	青磁		青花		磁胎陶器		沖繩産磁胎陶器		沖繩産無胎陶器		本土産磁器	金属製品	石材・石材	貝類	骨類	その他	不明	合計
	陶	皿	皿	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明								
厨位等																		
Ⅰ層																		
ⅡA層																		
ⅡB層																		
ⅡC層																		
造成層																		
1001			1															6
1002			1															1
1004B											1	1						4
1006		1																1
1008					3													6
1009					4													5
1010					3									1				5
1012																		5
1014																		2
1017													2					2
1018																		1
1020					2													2
1022B					1							1	1	3				6
1029																		1
1030A													5					5
1040																		1
1045					1													2
1049					1													2
1051																		1
1053																		1
1056																		6
1057										1								1
10					1													1
SK																		5
11										1								1
SD					6					2								23
9										2								5
SK					1					2								9
1004																		1
解乱																		1
不明																		0
合計			1	1	22	3	1	3	4	4	6	2	1	5	13	5	7	99

第5節 自然科学分析

1. はじめに

本遺跡の自然科学分析は、平成30年度にパリーノ・サーヴェイ株式会社沖繩支店に業務委託して実施した。分析に使用した試料は、各遺構から採取した土壌試料10点で、分析項目は、花粉分析・微粒炭分析、植物珪酸体分析、微細物分析、土壌理化学分析で、土壌試料より抽出した炭化材や炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施した。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

分析はAMS法で実施する。試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアル

カリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理:AAA)。濃度はHCl、NaOH共に最大1mol/Lである。一方、試料が脆弱で1mol/Lでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度のNaOHの状態では処理を終える。その場合はAaAと記す。

精製された試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

$\delta 13C$ は試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver and Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウェアはOxcal4.3(Bronk,2009)、較正曲線はIntcal13(Reimer et al.,2013)を用いる。

(2) 花粉分析・微粒炭分析

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9、濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類を対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料ではこの

第IV-26表 分析試料および分析項目一覧

袋番号	遺構No.	分析項目				
		AMS	花粉	珪酸体	微細	土理
67	SP140	○	○	○	○	○
68	SP141				○	
73	SP183	○	○	○		○
74	SP185				○	
75	SP194				○	
141	SP1057				○	
142	SP569	○	○	○	○	○
143	SP585	○	○	○	○	○
	SL1	○	○	○	○	○
167	SD3	○	○	○	○	○
	合計	6	6	6	10	6

1)AMS:放射性炭素年代測定、花粉:花粉分析・微粒炭分析
珪酸体:植物珪酸体分析、微細:微細物分析、土理:土壌理化学分析

限りではない)。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等を参考にする。

また、花粉プレパレート中に含まれる微粒炭(微細な炭化植物片)の含量が、自然植生に対する人類干渉の指標として有効であるとされていることから(安田,1987など)、試料中に含まれる微粒炭の含量も求める。微粒炭は花粉プレパレート内に残存するものを対象とし、同定基準は山野井(1996)、井上ほか(2002)等を参考にする。計数は、山野井(1996)などを参考にし、長径が約20 μ m以上の微粒炭を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。微粒炭量は、山野井(1996)などを参考とし、分析土壌量(cc)、分析残渣量(ml)、プレパレート作成量(μ l)を測定し、堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表・図に併せて示す。この際、有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュラックスで封入してプレパレートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパレート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を乾土1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

(4) 微細物分析

土壌試料から炭化物を可能な限り壊さずに回収するために、以下の方法を実施する。

1) 水洗前抽出

試料を常温乾燥後、肉眼観察で確認された炭化種実や炭化材等の遺物を抽出する。

2) 水洗

水を満たした容器に乾燥後の試料を投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩に回収された炭化物主体の試料と、0.5mm篩水洗後の残土(砂礫主体)を、それぞれ粒径4mm、2mm、1mmの篩を通し、粒径別に常温乾燥させる。

3) 抽出分類

水洗乾燥後、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化材(主に2mm以上)、保存状態が良好な骨貝類等の遺物を抽出する。

抽出物は、個数または重量と一部の最大径を計測し、結果を一覧表で示す。分析残渣は、炭化材主体と砂礫主体、植物片主体に大まかに分け、粒径別の重量を計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を同定対象とする。他の抽出物と分析残渣は、容器に入れて保管する。

4) 炭化種実同定

炭化種実の同定は、現生標本および中山ほか(2010)、谷城(2007)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施する。同定した分類群は、写真を添付して同定根拠とする。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。また、保存状態が良好な炭化種実を対象として、デジタルノギスで大きさを計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を分類群別に容器に入れて保管する。

(5) 土壌理化学分析

pH(H₂O)はガラス電極法、有機炭素はチューリン法、全窒素は硫酸分解-水蒸気蒸留法、MIは腐植簡易分析法(本名・山本,1992)、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、全カルシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、可給態リン酸はトルオーグ法、全鉄はフッ化水素酸分解-原子吸光法(土壌標準分析・測定法委員会,1986)に従う。また、酸性シュウ酸塩可溶鉄、ジチオナイト可溶鉄についてAcid-oxalate法、Holmgren法(Reeuwijk,1986)に従い抽出し、原子吸光法により定量した後、永塚(1973)の方法により遊離酸化鉄の活性度・結晶化指数を算出する。以下に各項目の操作工程を示す。

1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2) pH(H₂O)

風乾細土10.0gを秤りとり、25mlの純水を加えてガラス棒で攪拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pHメーター(ガラス電極法)でpH(H₂O)を測定する。

3) 有機炭素

粉碎土試料0.100～2.000gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

4) 全窒素

粉碎土試料1.00～2.00gをケルダール分解フラスコに秤り、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解した。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量(T-N%)を求める。また、有機炭素量を全窒素量で除し、C/N(炭素率)を算出する。

5) MI(Melanic Index)

MI(Melanic Index)による腐植簡易分析は、炭素50mgに相当する微粉碎試料(但し、5.0gを上限とする)を50ml容遠心管に入れ、分注器で0.5%NaOH溶液約25mlを加える。遠心管に蓋をしてテープで密封し、室温で1時間振とうした後、0.1%高分子凝集剤溶液1～2滴を加え、よく振り混ぜた後、4,000rpm、15minの遠心分離で抽出腐植溶液を得る。吸光度の測定は、得られた抽出腐植溶液約1mlを試験管にとり、0.1%NaOH溶液20mlを分注器で加え(NaOHの濃度は約0.1%となる)、分光光度計により450、520nmの吸光度を測定する(450nmの吸光度が1を越えた試料は、さらに0.1%NaOH溶液で希釈して測定)。測定は抽出後、3時間以内に行い、結果の表示をMI(=K450/K520)で示す。

6) 全リン酸、全カルシウム

粉碎土試料 1.00g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 (HNO₃) 約 10ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 (HClO₄) 約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸 (P₂O₅) 濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量 (P₂O₅mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

7) 可給態リン酸

風乾細土試料 1.00g を 300ml 三角フラスコに秤りとり、0.002 N 硫酸溶液 (pH3) 200ml を加え、室温で 1 時間振とうし、ろ過する。ろ液一定量を試験管に採り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態リン酸量 (P₂O₅mg/乾土 100 g) を求める。

8) 全鉄

微粉碎試料約 0.50g をテフロンピーカーに精秤し、硝酸 5ml および過塩素酸 5ml を加え、時計皿で覆い、サンドバス上で有機物を分解する。過塩素酸の白煙が激しく出てきた後、過塩素酸 5ml とフッ化水素酸 10ml を加え、内容物を蒸発乾固させる。放冷後、6N-HCl 5ml、硝酸 1ml を加え加熱し、内容物を軽く溶解させた後、蒸留水 30ml を加え、内容物を完全に溶解させる。放冷後、100ml に定容する。この定容液を適宜希釈し、原子吸光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) 含量を求める。

9) ジチオナイト可溶鉄 (Holmgren 法)

微粉碎試料 500mg に DCB 抽出液 30ml を添加して 16 時間振とうする。振とう後、0.4% 高分子凝集剤を 2 滴加えて軽く振とうした後、遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) の含量を求める。

10) 酸性シュウ酸塩可溶鉄 (Acid-oxalate 法)

微粉碎試料 300mg に 0.2M 酸性シュウ酸塩溶液 (pH3) を 30ml 加え、暗所で 4 時間振とうする。振とう後、0.4% 高分子凝集剤を 2 滴加えて軽く振とうした後、3000rpm で 15 分間遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) の含量を求める。

3. 分析結果

(1) 放射性炭素年代測定

SP140 と SP183 は同じくらいの年代値を示し、測定年代 (補正年代) は 385 ~ 340yrBP、暦年較正年代 (測定誤差 2σ) は calAD 1,445 ~ 1,635 である。SP569 は、測定年代が 820 ± 20yrBP、暦年較正年代が calAD 1,182 ~ 1,263 であるのに対し、SP585 は測定年代が 475 ± 20yrBP、暦年較正年代が calAD 1,417 ~ 1,449 の値を示す。SL1 と SD3 も年代値は類似しており、測定年代が 750 ~ 645yrBP、暦年較正年代が calAD 1,225 ~ 1,392 の値を示す。

(2) 花粉分析・微粒炭分析

いずれの試料も花粉化石の産出状況が悪く、堆積物 1cc あたりの花粉・胞子数は 100 個未満である。

また、SP140については無化石であった。わずかに認められる種類は、木本花粉ではマツ属、草本花粉ではガマ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンポポ科科などである。微粒炭数は、SP585で3,100個/ccと最も多く、次いでSP569が2,600個/cc、SD3が1,300個/ccであった。その他はいずれも300個/cc以下である。

(3) 植物珪酸体分析

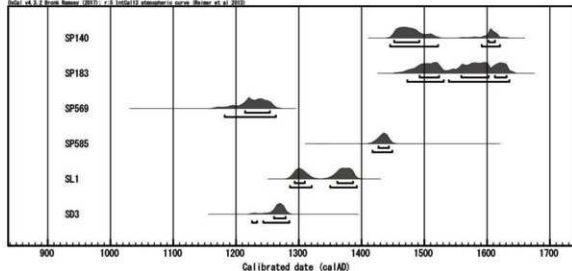
新城上殿遺跡については、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、概して保存状態が悪い。

第IV - 27 表 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	分析	測定年代	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用	暦年較正年代			確率
						年代値			
67 SP140	炭化物 微細片	AaA	385 ± 20	-18.74 ± 0.42	384 ± 20	σ cal AD 1452 - cal AD 1492	498 - 458	calBP ^a 0.571	
						cal AD 1602 - cal AD 1612	348 - 338	calBP ^a 0.111	
						2 σ cal AD 1445 - cal AD 1522	505 - 428	calBP ^a 0.760	
						cal AD 1591 - cal AD 1620	359 - 330	calBP ^a 0.194	
73 SP183	炭化物 微細片	AaA	340 ± 20	-25.61 ± 0.54	341 ± 20	σ cal AD 1492 - cal AD 1523	458 - 427	calBP ^a 0.238	
						cal AD 1559 - cal AD 1602	391 - 348	calBP ^a 0.302	
						cal AD 1612 - cal AD 1631	338 - 319	calBP ^a 0.142	
						2 σ cal AD 1473 - cal AD 1531	477 - 419	calBP ^a 0.345	
142 SP 569	炭化材 (広葉樹)	AAA	820 ± 20	-24.56 ± 0.56	819 ± 20	σ cal AD 1214 - cal AD 1254	736 - 696	calBP ^a 0.682	
						2 σ cal AD 1182 - cal AD 1263	768 - 687	calBP ^a 0.954	
143 SP 585	炭化物 微細片	AaA	475 ± 20	-21.67 ± 0.54	473 ± 20	σ cal AD 1427 - cal AD 1443	523 - 507	calBP ^a 0.682	
						2 σ cal AD 1417 - cal AD 1449	533 - 501	calBP ^a 0.954	
SL1	炭化物 微細片	AaA	645 ± 20	-25.03 ± 0.46	644 ± 20	σ cal AD 1293 - cal AD 1309	657 - 641	calBP ^a 0.256	
						cal AD 1361 - cal AD 1386	589 - 564	calBP ^a 0.426	
						2 σ cal AD 1286 - cal AD 1320	664 - 630	calBP ^a 0.398	
						cal AD 1350 - cal AD 1392	600 - 558	calBP ^a 0.556	
167 SD3	炭化物 微細片	AaA	750 ± 20	-11.95 ± 0.37	751 ± 20	σ cal AD 1260 - cal AD 1279	690 - 671	calBP ^a 0.682	
						2 σ cal AD 1225 - cal AD 1233	725 - 717	calBP ^a 0.030	
						cal AD 1243 - cal AD 1285	707 - 665	calBP ^a 0.924	

- 1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3)付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4)AAAは酸-アルカリ-酸処理、AaAはアルカリの濃度を薄くした処理を示す。
- 5)暦年の計算には、Oxcal4.3を使用。
- 6)暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 7)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 8)統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である。

Detail of 3.1 from Kamei (2021), p. 5. doi:10.1136/medrxiv.2021.03.10.21011111



第IV - 52 図 暦年較正結果

植物珪酸体含量は、SP569が10,800個/gと最も多く、次いでSD3の2,900個/g、他の試料は1,000個/g未満と少ない。SP569は、他の試料と比較して検出される分類群も多く、タケ亜科、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが見られる。また栽培植物であるイネ属が産出し、短細胞珪酸体が500個/g、機動細胞珪酸体が1,300個/gである。珪化組織片も検出され、穎珪酸体や短細胞列が見られる。SD8ではイネ属、タケ亜科、ススキ属などが見られる。イネ属は、短細胞珪酸体が200個/g、機動細胞珪酸体が300個/gである。珪化組織片として、穎珪酸体や短細胞列が見られる。またキビ連の穎珪酸体も見られる。SP140、SP183、SP585ではイネ属など、SL1では分類群の特定できない不明がわずかに認められる。

(4) 微細物分析

SP140、SP141、SP183、SP185、SP194、SP1057、SP569、SP585、SL1、SD3の、10試料12.8kgを通じて、草本8分類群(ツクサ、イネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワ、シンジュガヤ属、マメ科)105個の炭化種実が確認された。分析残渣は、炭化材と土粒の他、SP1057とSD3から骨片、SD3から歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認され、SP194とSP1057で炭化材が多い。炭化種実の出土個数は、SP140が5個、SP183が26個、SP185が9個、SP194が8個、SP1057が14個、SB52が4個、SP585が8個、SL1が1個、SD3が30個である。SP141からは1個も確認されなかった。SD3が最も多く、次いでSP183が多い。栽培種は、イネの穎が13個(SP183、SP1057、SP569、SP585、SD3)、胚乳が7個(SP183、SP194、SP1057、SD3)、オオムギの胚乳が5個(SP585、SD3)(疑問符含む)、オオムギ-コムギの胚乳が2個(SP183、SD3)、コムギの胚乳が51個(SP140、SP183、SP185、SP194、SP1057、SP569、SP585、SL1、SD3)(疑問符含む)、キビの穎・胚乳が1個(SD3)、胚乳が10個(SD3)(疑問符含む)、アワの穎・胚乳が7個(SP183、SP185、SD3)、胚乳が3個(SP183、SP185)、草本のツクサの種子が1個(SD3)、シンジュガヤ属の果実が2個(SD3)、マメ科の種子1個(SP185)が確認された。

第IV-28表 花粉分析・微粒炭分析結果

種 類	67	73	142	143	167	
	SP140	SP183	SP569	SP585	SL1	SD3
本花粉						
モミ属	-	-	-	-	-	-
マツ属	-	5	5	5	2	1
コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	-	-	-
草本花粉						
ガマ属	-	-	-	-	-	3
イネ科	-	4	1	4	-	7
カヤツグサ科	-	-	1	-	-	-
アザミ科	-	-	2	-	-	-
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	-	-	-	5	-	-
セリ科	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	-	-	-	1	1	1
キク亜科	-	-	-	-	-	-
タンポポ科	-	1	-	1	-	-
不明花粉	-	1	1	5	-	-
シダ類胞子						
シダ類胞子	-	24	27	18	14	13
合 計						
本花粉	0	5	5	5	2	1
草本花粉	0	5	4	11	1	11
不明花粉	0	1	1	5	0	0
シダ類胞子	0	24	27	18	14	13
合計(不明を除く)	0	34	36	34	17	25
微粒炭数(個/cc)	<100	300	2600	3100	200	1300
花粉・胞子数(個/cc)	0	<100	<100	<100	<100	<100

1) 濃度数、花粉・胞子数については、10の位を四捨五入して100単位に丸めている。

2) <100:100個未満。

3) 本: 本由来の微粒炭あり。

第IV-29表 植物珪酸体分析

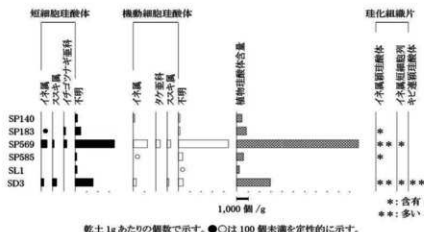
分類群	67	73	142	143	167	
	SP140	SP183	SP569	SP585	SL1	SD3
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ属	-	<100	500	-	-	200
ススキ属	-	-	100	-	-	300
イチゴツナギ亜科	-	100	300	-	-	-
不明	200	500	3,500	100	200	1,600
イネ科葉部機動細胞珪酸体						
イネ属	100	-	1,300	<100	-	300
タケ亜科	-	-	400	-	-	-
ススキ属	-	-	300	-	-	100
不明	100	100	4,400	400	<100	400
合 計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	200	700	4,400	100	200	2,100
イネ科葉部機動細胞珪酸体	300	100	6,400	500	<100	800
植物珪酸体含量	500	800	10,800	600	200	2,900
珪化組織片						
イネ属珪酸体	-	*	**	*	-	**
イネ属短細胞列	-	-	*	-	-	*
キビ連珪酸体	-	-	-	-	-	**

1) 含量は、10の位で丸めている(100単位にする)。

2) 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

3) <100:100個/g未満。

0:-未検出、*:有、**:*多い。



乾土 1g あたりの個数で示す。●○は 100 個未満を定性的に示す。

第IV - 59 図 植物珪酸体含量

第IV - 30 表 微生物分析結果

分類群・部位・状態/粒径	単位	67	68	73	74	75	141	142	143	167	備考
		SP140	SP141	SP183	SP185	SP194	SP1057	SP569	SP585	SL1	
本末											
イヌザンショウ属種子	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
草本											
ツルクサ	種子 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
イネ	穎基部 破片(個)	-	-	4	-	-	5	1	3	-	
	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
	破片(個)	-	-	3	-	1	1	-	-	-	
オオムギ	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
オオムギ?	胚乳 破片(個)	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1
オオムギ・コムギ	胚乳 破片(個)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
コムギ	胚乳 完形(個)	2	-	2	3	2	3	-	-	1	3
	破片(個)	2	-	10	1	4	4	1	4	2	2
コムギ?	胚乳 破片(個)	1	-	3	-	-	1	2	-	-	1
キビ	穎-胚乳完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
キビ?	胚乳 破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
アワ	穎-胚乳完形(個)	-	-	2	2	-	-	-	-	-	3
	胚乳 完形(個)	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
シシジヨウヤ属	果実 破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マメ科	種子 完形(個)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
不明											
双子葉類	種実 完形(個)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	種実 破片(個)	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
穀粒片主体	破片(個)	-	-	4	2	1	-	-	4	-	48
不明炭化物	破片(個)	-	-	-	8	11	5	14	10	-	-
合計(不明を除く)		5	-	26	9	8	14	4	8	1	30
分析残渣											
炭化材	(mm)	5.07	8.11	4.08	4.62	8.35	13.35	-	3.72	5.16	9.85
>4mm	(g)	-	0.65	-	-	0.23	0.61	-	-	0.02	0.94
4-2mm	(g)	0.02	0.03	0.02	0.02	0.23	0.65	-	0.02	0.02	0.65
炭化材主体											
2-1mm	(g)	0.03	0.01	0.07	0.03	0.12	0.11	0.03	0.04	0.04	0.10
1-0.5mm	(g)	0.02	0.00	0.14	0.01	0.24	0.04	0.06	0.06	0.05	0.08
骨片	破片(mm)	-	-	-	-	-	23.85	-	-	-	#####
	(g)	-	-	-	-	-	0.85	-	-	-	0.12
歯	破片(mm)	-	-	-	-	-	7.00	-	-	-	-
	(g)	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-
二枚貝類	>8mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	#####
巻貝類	完形(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.58
	>8mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.77
	>4mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.58
動物遺存体主体											
4-2mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.38
2-1mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.91
1-0.5mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.57
土粒主体											
>8mm	(g)	-	-	-	-	-	39.90	-	-	16.47	#####
8-4mm	(g)	-	-	4.85	-	-	1.63	2.36	0.58	11.42	5.06
4-2mm	(g)	0.17	10.75	10.20	1.21	1.03	3.43	1.73	3.33	7.79	2.13
2-1mm	(g)	0.76	9.62	7.32	0.36	3.29	2.56	1.16	4.06	6.68	1.17
1-0.5mm	(g)	0.41	3.66	8.58	0.83	2.29	1.67	1.75	2.71	0.50	-
植物片	>4mm (g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	非炭化, 混入の可能性
イネ科	完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	非炭化, 混入の可能性
エノキグサ	種子 完形(個)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	非炭化, 混入の可能性
分析量	(g)	1215	1187	1093	1408	1303	1387	1286	1130	1545	1226

第IV-31表 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	pH(20)	有機炭素 (%)	腐植 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植形態(簡易法)		全リン酸 P ₂ O ₅ (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)	可給態リン酸			鉄の形態				
								Molanic Index	腐植酸 の型			P ₂ O ₅ (mg/100g)	Fe ₁ (%)	Fe ₂ (%)	Fe ₃ (%)	活性度 Fe ₂ /Fe ₁	結晶化指数 (Fe ₂ -Fe ₁)/ Fe ₁		
67	SP140	LJC	2.5/4/3	オリーブ褐色	7.7	0.59	1.02	0.09	7	-	-	4.79	5.28	47.1	6.46	4.83	0.35	0.07	0.69
73	SP183	LJC	2.5/3/3	暗オリーブ褐色	7.7	0.80	1.38	0.10	8	-	-	5.47	6.33	28.7	6.27	4.94	0.40	0.08	0.72
142	SP569	LJC	2.5/3/3	暗オリーブ褐色	7.5	1.15	1.98	0.15	8	-	-	6.85	8.53	94.1	5.48	5.88	0.60	0.10	0.62
143	SP585	LJC	1/0/8/4/3	にじみ黄褐色	7.5	0.72	1.24	0.11	7	-	-	6.37	6.71	74.3	7.23	5.36	0.60	0.11	0.65
	SL1	LJC	1/0/8/3/3	暗オリーブ褐色	7.6	0.58	1.00	0.09	6	1.88	B/Po型	6.62	6.03	74.2	6.69	5.10	0.40	0.08	0.70
167	SD3	LJC	1/0/8/4/3	にじみ黄褐色	8.0	0.65	1.12	0.09	7	-	-	8.94	13.7	291	7.69	5.79	0.29	0.05	0.72

1土色:マンセル表色系に準じた新復原土色(農林省農林水産技術会編1967)による。

2土性:土壌調査ハンドブック改訂版(ベジロジー学会編1997)の野外土性による。

LJC:軽積土(粘土25~40%,シルト40~60%,砂10~50%)

HC:重積土(粘土45~100%,シルト0~50%,砂0~50%)

3腐植:有機炭素×1.724。

4C/N:有機炭素/全窒素。

5PFe:全鉄/全リン酸分解による。

6PFe:ジブチロナイトレン酸可給鉄。

7Fe:酸性シロウ酸可溶鉄。

8活性度:Fe₂/Fe₁。

9結晶化指数:(Fe₂-Fe₁)/Fe₁。

(5) 土壌理化学分析

pH (H₂O) は7.5-8.0で微アルカリ性から強アルカリ性である。腐植含量は1.00%-1.98%であり、SB52でやや多く含まれる。全窒素量は0.09%-0.15%あり、腐植含量同様SP569でやや多く含まれる。C/N比は6-8である。MIはSL1でのみ検出され、B/Po型腐植酸と判定される。他の試料は抽出された腐植酸が少なく、判別に至らなかった。全リン酸は、SD3で8.94mg/gと最も多く、SP140で4.79mg/gと少ない。他の試料では5.47-6.85mg/gである。全カルシウムはリン酸含量が多いSD3で13.7mg/gと最も多く、SP569で8.53mg/gと次いで多い。他の試料は5.28-6.71mg/gである。可給態リン酸はSD3で291mg/100gと多く、SP140で47.1mg/100gと相対的に少ない。他の試料は74.2-94.1mg/100gであり全体的に多い特徴を示す。鉄の形態分析からは、全試料で活性度が低く、結晶化指数が高いことが示された。全鉄量はSP569で8.48%と多く、他の試料は6.27-7.69%である。

4. 考察

放射性炭素年代測定の結果をみると、概ね2つの時期に分けられる。まず、SP569、SL1、SD3は、補正年代で820~645yrBP、暦年代で12世紀後半~14世紀末(calAD 1,182~1,392)の値を示す。一方、SP140、SP183、SP585は、補正年代で475~340yrBP、暦年代で15世紀前半~17世紀前半(calAD 1,417~1,635)の値を示す。なお、年代測定結果は2つの時期に分けられたが、それぞれの時期に大きなギャップはみられないことから、連続して利用されていた可能性も考えられる。

植物化石についてみると、いずれの試料においても花粉化石の産出状況が悪く、古植生推定のための定量解析が行えるだけの個体数を得られなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。植物珪酸体も、SP569、SD3を除く4試料では概して産出が悪かった。亜熱帯湿潤気候の下では、堆積物中で珪酸分を含む無機成分の溶脱作用が起こるほか(松井,1988)、湿潤な土壌や土壌温度が高い堆積物の方が植物珪酸体の風化の度合いが高いとされている(近藤,1988)。これらのことから、花粉や植物珪酸体などは、堆積後の経年変化により、分解の影響を受けている可能性が高い。

検出された植物化石から、古植生について検討すると、草本類ではタケ亜科やススキ属、イチゴツナギ亜科などを含むイネ科、カヤツリグサ科、ツユクサ、アカザ科、アブラナ科、マメ科、ヨモギ属、タンポポ科などの花粉化石、植物珪酸体、炭化種実が確認される。これらは、調査区周辺の明るく開けた草地などに生育していたと考えられる。また、SD3からは湿生植物のガマ属、シンジュガヤ属が検

出されたことから、溝内やその集水域の湿地に生育していた可能性がある。木本類ではマツ属が確認されたことから、周囲にマツ属の生育が窺える。

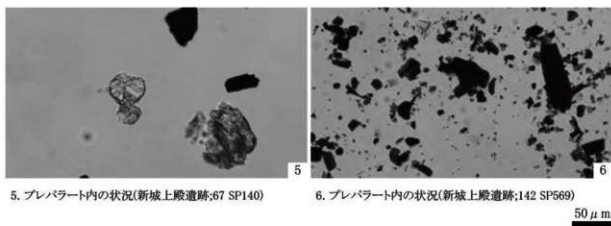
次に栽培植物についてみると、植物珪酸体ではイネ属と、栽培の可能性があるキビ連が確認された。イネ属は、コメの収穫後に植物体が燃料材や住居構築材などの生活資材として利用される場合がある。住居址とされる SP569 で多く認められる点を考慮すれば、何らかの資材として SP569 でイネ属の植物体が利用されていたことが考えられる。炭化種実、栽培種のイネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワが確認された。これらの穀類は、当時利用された植物質食糧と示唆される。また、SD3 より比較的多く確認されたキビやアワには穎が付着した胚乳も確認されることから、脱皮（だっぷ；籾殻を取り去る）前の段階で火を受けたと推測される。SD3 で検出されたキビ連の穎珪酸体も、炭化種実の産状を踏まえると、栽培種に由来するものと想定される。

微粒炭についてみると、住居址とされる SP585 や SP569、溝とされる SD3 で他よりも多く認められる。土壌に含まれる微粒炭は、人間活動と密接に関係していることが知られており、その変化は人為活動の変化を反映している場合が多く認められる（例えば安田,1987; 山野井,1996; 井上ほか,2002）。なお、各遺構の微生物洗い出しの結果、炭化種実以外にも、炭化材、骨片、歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認された。SP1057 から骨片、SD3 から骨片や歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認され、特筆される。

一方、土壌の理化学性についてみると、遊離鉄の存在形態は、自然環境条件の違いにより種々さまざまな化合物を形成する。土壌中で二次的に生成した非ケイ酸塩態の鉄化合物を遊離鉄という。遊離鉄化合物は、非晶質・結晶質の2つの異なった形態で存在し、酸性シュウ酸塩可溶鉄は主に非晶質を、ジチオナイト可溶鉄は非晶質の鉄に加えて、ゲータイト・ヘマタイトを溶解するため、差し引きにより結晶質鉄の尺度とみなすことができる。また、鉄の活性度は、酸性シュウ酸塩可溶鉄とジチオナイト可溶鉄の比から表し、主要な土壌生成過程の一つである遊離酸化鉄の結晶化の尺度として用いる。結晶化指数とは、ジチオナイト可溶鉄から酸性シュウ酸塩可溶鉄を差し引き、全鉄との比により表す。遊離鉄の結晶化を伴った風化あるいは土壌生成の発達程度を表す尺度として用いる。遊離鉄の活性度と結晶化指数を用いて、褐色森林土と黄褐色森林土、赤色土を判別することができる。

今回の分析試料は、鉄の形態分析により全試料が赤色土に分類され、遊離酸化鉄のうちの結晶質鉄の占める部分が、非晶質鉄に比べ多いことが示された。全鉄から占める遊離鉄の割合が多く、さらに、結晶化指数が高いことから風化や土壌生成が進んでいると捉えられる。

SD3 試料では貝殻片やサンゴ片のような石灰質成分が混入したため、強アルカリ性を示した。ただし、その割合は多くなく、カルシウム含量で 13.7mg/g 程度であり、付随してリン酸含量も増加したと考えられる。この試料では可給態リン酸が特徴的に多いが、これはカルシウム型リン酸が多い特徴を示すものである。また、他の試料においても可給態リン酸が充分量保持されているが、一般的に土壌に難溶性のリン酸塩として蓄積しやすいため、作物の吸収利用がしやすい土壌であるかは、今回の分析結果のみでは分からない。SLI では、遺跡内で最も腐植含量が少ないが、腐植化度の高い腐植酸が抽出された。この結果から、SLI 生成環境は有機物が分解しやすい環境であったと考えられ、他の試料生成期と比較し、耕作や火入れ等の人為による影響の可能性も挙げられるが、他の分析値に大きな変化が無いことから、具体的な言及はできない。また、SP140、SP183、SP569、SP585 生成環境では、鉄含量による変化から風化程度は異なるものの、生成環境に大きな変化はないと考えられる。

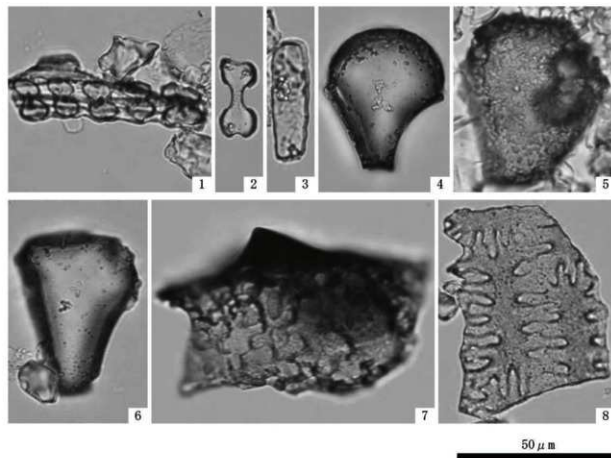


5. プレバラー特内の状況(新城上殿遺跡:67 SP140)

6. プレバラー特内の状況(新城上殿遺跡:142 SP569)

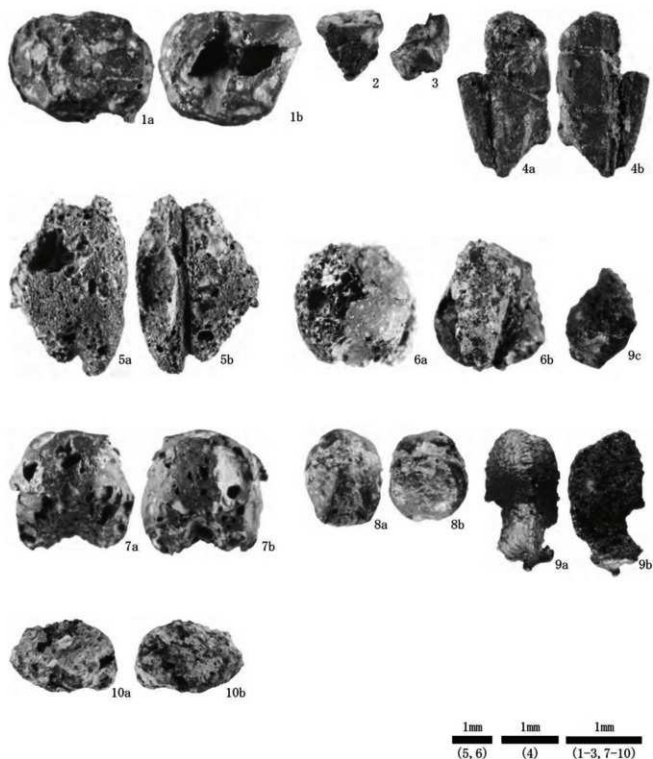
50 μ m

図版IV-17 花粉化石・微粒炭



1. イネ属短細胞列(新城上殿遺跡:142 SP569)
2. ススキ属短細胞珪酸体(新城上殿遺跡:167 SD3)
3. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(新城上殿遺跡:142 SP569)
4. イネ属機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡:67 SP140)
5. タケ亜科機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡:142 SP569)
6. ススキ属機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡:142 SP569)
7. イネ属顆粒珪酸体(新城上殿遺跡:167 SD3)
8. キビ連顆粒珪酸体(新城上殿遺跡:167 SD3)

図版IV-18 植物珪酸体



- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. ツクサ 種子(新城上殿遺跡;167 SD3) | 2. イネ 穎(基部)(新城上殿遺跡;141 SP1057) |
| 3. イネ 穎(基部)(新城上殿遺跡;141 SP1057) | 4. イネ 胚乳(新城上殿遺跡;75 SP194) |
| 5. オオムギ 胚乳(新城上殿遺跡;167 SD3) | 6. コムギ 胚乳(新城上殿遺跡;75 SP194) |
| 7. キビ 穎・胚乳(新城上殿遺跡;167 SD3) | 8. アワ 穎・胚乳(新城上殿遺跡;74 SP185) |
| 9. シンジュガヤ属 果実(新城上殿遺跡;167 SD3) | 10. マメ科 種子(新城上殿遺跡;74 SP185) |

第6節 総括

新城上殿遺跡は1981年の分布調査で初確認された遺跡で、当時からグスク時代の遺物が地表面で確認されていた。さらに新城出身で著名な民俗学者でもある佐喜真興英の著書『シマの話』の中で、新城集落の発祥地としても知られている。西普天間住宅地区の返還に先立ち、平成25年度（2015年）に市教育委員会によって一帯の分布調査が行われ、屋敷跡や石切場跡、石積みなどが残存していることが確認された。平成26年度には本遺跡の南東側で試掘調査を行ったところ、地山面で多数の柱穴が発見され、遺跡範囲が南東側に大きく広がることが判明した。

今回実施した緊急発掘調査の範囲は、市の跡地利用計画の中で住宅地として計画されている場所であり、地権者への引き渡し前に跡地利用特措法に基づく沖繩防衛局による支障除去措置（不発弾探査）が予定された。そのため、事前に記録保存のための緊急発掘調査が行われることとなった。

検出された遺構はグスク時代に相当する柱穴等のピット群が主体を占め、そのほかに溝状遺構や炉跡などが出土している。近世～近代の遺構も確認されているが、すでに一帯は耕作地として利用されたのか、柱穴等建物に関連する遺構は確認されていない。柱穴を含むピットの数には400基余り確認されているが、主に工区1の北側と南側にまとまりが見られた。明確なプランが想定されるものは工区1の北端に位置する1号建物跡（SB01）のみで、その他は建て替えが多かったのか、多数のピットが乱立し、さらにそれらが複雑に切り合っていることからプランの把握は困難であった。そのため、本章第3節遺構の中で詳述しているピットの分類を行い、複数の建物プランを想定した。結果として掘立柱建物が少なくとも3棟あったことが想定されたが、柱本数や柱穴の規模からみて、これらは母屋であったことが推測される。通常、母屋とセット関係にあるはずの倉庫等の付属施設が確認されていないことが懸念されるが、調査区の北西側、遺跡の約半分程度は未調査であり、残存している可能性は高いと思われる。

特徴的な遺構として、堀切状の溝（SD03）が検出されている。幅約2m、深さ約1cmで、断面が逆三角形を呈している。年代測定では1号建物跡（SP569）と同じく12世紀後半～14世紀末の値が出ている。ちなみに、今回得られた遺物の半数がこの堀切状の溝の覆土から出土している。堀切状の溝（SD03）は、南西側から2号建物跡（北側のピット群）へ至る緩斜面に対して、それを横断するように配置されている。北側ピット群の北東側はイシジャー溪谷の崖地となっており、これらの状況から、北側ピット群は周囲から孤立した場所に立地し、本遺跡は防御機能を有した集落であったことが窺える。

本遺跡における遺構の年代測定結果を見ると、12世紀後半～14世紀末と15世紀前半～17世紀前半の値が出ており、分析の考察として「それぞれの時期に大きなギャップは見られないことから、連続して利用されていた可能性が考えられる」とする見解が示されている。また、炭化種実として、イネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワなどの穀類が確認されており、植物質食料として推測される。本遺跡北東側の低地に隣接する新城下原第二遺跡では、グスク時代に遡る水田遺構（疑似畦畔）が確認されており、集落遺跡とそれを支える生産遺跡のセット関係が検証できる貴重な資料を得ることができた。

遺物について、少量ではあるが貝塚後期のくびれ平底土器が出土している。関連する遺構は確認できていないので、本来周辺にあった同時代の包含層が流れ込んできた可能性がある。主体とするグスク時代の遺物としては、青磁、白磁、染付、褐釉陶器などの輸入陶磁器のほか、グスク土器やカムィヤキなどが出土した。出土した各遺物の割合を見るとグスク土器が997点と全体の約23%と多く、細片のため種別不明な土器581点を除くと次に青磁が265点で全体の約17%となっている。その他、白磁（47点）、青花（68点）、褐釉陶器（52点）が出土しており、中国産輸入陶磁器が一定量出土している。

さらに、自然科学分析結果と整合するように、沖縄産施釉陶器や沖縄産無釉陶器、アカムヌー等の近世初期の遺物も陶磁器と同程度出土（計360点）しており、本遺跡が近世頃（17世紀前半）までは使用されていた可能性が高いと思われる。

まとめ

今回の調査により、新城上殿遺跡がグスク時代の集落跡であり、かつ堀切と推測される防衛施設を有していたことが判明した。また、場所は限定されるものの多数の柱穴が切り合って分布していることから何度も建て替えが行われていたことが明らかとなった。自然科学分析でも長期の使用を裏付ける分析結果となっている。遺跡の立地を見ると北側と東側は崖地または急斜面地となっており、西側の緩斜面には前述した堀切状遺構が造られている。遺跡の標高は26m前後だが、丘陵縁辺にある本遺跡からは北側に広がる低地帯（北谷ターブッカー）が見渡せていたと思われる。北東側崖下の低地には新城下原第二遺跡が隣接し、同時代の水田跡が発見されている。本遺跡一帯は豊富な湧水に恵まれた場所で海岸も近く、珊瑚礁では多くの海産物が採取できたと思われる。しかし、このような住みやすい場所であったにもかかわらず、近世以降には集落が廃棄されたと推測される。調査では近世以降の建物等に関連する遺構が検出されおらず、遺物も極端に少ない。また、18世紀中頃の絵図（琉球国惣絵図）には宜野湾並松街道沿いに「新城村」と表記されており絵図が描かれた頃にはすでに新城の集落が小字新城原（普天間飛行場内）に集落が移動していたことがわかる。新城村（新城古集落遺跡）は碁盤型の集落であり、明治期にはすでに伝統的な集落として存在していた。これらの資料や今回の調査結果は、新城に伝わる集落移動の伝承を裏付けるものと言える。

今回の調査によって新城上殿遺跡の全容が把握できたわけではなく、遺跡の主体は未調査エリアの北東側緑地帯の地下に残存している可能性が高い。この一帯は市の跡地利用計画の中で都市公園として整備される予定となっている。また、キャンプ瑞慶覧との境界フェンスを越えて北側にも遺跡の範囲は広がっており、今後の調査で新たな発見が得られるかもしれない。さらに、現在普天間飛行場の中にある新城古集落遺跡についても、いまだ考古学的な調査は行われておらず、集落移動の時期を解明する証拠が残っていると期待される。

第V章 新城大道原第一遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城大道原第一遺跡は、平成26年度から27年度にかけて文化庁の補助を受けて実施した試掘調査によって新規に発見された遺跡である。遺跡は新城小字大道原の北側に位置しており、標高約35m～40mの石灰岩丘陵縁辺に立地している。

遺跡の周辺一帯は、基地として接収後に住宅建設のため大規模な造成工事が行われており、戦前までの旧地形は失われていた。そのため、遺跡の残存状況を把握するために30mメッシュ毎に4m四方の試掘坑を設定して調査を行った。試掘調査の結果、複数のピットや土坑が確認され、遺構は遺跡の北側と南側の2箇所に集中（残存）していることが判明した。この調査結果を基に北側に工区1、南側に工区2を設定した。工区2は造成によって平坦地となっているが、工区1は遺跡北側の緩斜面に位置する。

工区1の設定面積は約720㎡で、現地表面から1.0mは米軍造成土が堆積しており、重機を使用して除去した。重機掘削に際しては、市教委の専門職員立ち合いの下慎重に掘削し、包含層または遺構が確認された段階で掘削を中断した。表土層厚は0.5～1.0mで、直下は地山（鳥尻マージ層）となっている。また、調査区域を縦断するように米軍が設置した三面張りの排水路が設けられており、調査最終段階でこれを撤去して下層確認を行った。

工区2の設定面積は約660㎡で、工区1の南東側約40mの地点に設定。標高は40m前後で工区1より一段高い場所に位置している。基地使用時には住宅が建設されており、試掘調査時にも埋設管が確認されていたため、遺構の残存状況は悪いと思われた。表土層厚は南側が0.5mと薄く、北側は2.0mと層厚に差が見られた。包含層はほとんど削平されており、直下の地山（鳥尻マージ層）上面にピットや溝状遺構が検出された。調査工程については、沖縄防衛局による支障除去作業との関連から工区1の表土掘削を終了後、工区2から調査を開始した。



第V-1図 調査位置図

【日誌抄】

5月24日：工区1の設定（測量）及び伐開作業
 6月29日：工区1雨水流入対策の小堤を築造し、表土掘削を開始。
 6月30日：工区1の表土掘削。地表面から-50cmで暗褐色砂質シルトの包含層を検出。
 7月5日：調査区東側から包含層検出。
 7月7日：台風1号の影響により、現場休止。週間けより工区2の表土掘削を開始。
 7月15日：工区2の東側で地山（島尻マージ）が確認され、ピットや溝状遺構を検出。
 7月25日：工区2の遺構検出状況撮影（高所作業車）。
 7月29日：SD3006（工区2）を掘り下げ、ピットが検出され、沖縄産陶器等がまとめて出土した。
 8月3日：SD3001、SD3002、SD3008、SD3009の完掘。
 8月12日：SD004（工区2）の完掘。各ピット半載。
 8月23日：工区2のピット半載。北側と南側でまとまりが確認され、北側は浅く、南側はやや深い傾向が見られる。
 9月1日：日誌記載所見
 「新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡（工区2）では堆積している土が異なっている。新城上殿遺跡は粘性が強く乾燥した際にひび割れが著しい。一方新城大道原第一遺跡（工区2）は砂質を呈しており、検出されたピットの覆土は暗褐色を呈し、焼土粒や炭化物の混入は少ない。新城上殿遺跡の北西部に分布するピット群にはぶい黄褐色～暗オリーブ褐色を呈する。」
 9月15日：工区2の北東部に分布するピット群を半載及び記録作業。
 10月11日：工区2の完掘状況を撮影（高所作業車）。
 10月19日：工区1の岩盤清掃中に有文土器（刺突文）が出土。流れ込みの可能性あり。
 10月28日：工区2の遺構検出状況を撮影（高所作業車）。溝状遺構3本、ピット約90基検出。
 11月9日：SP及びSDの掘削及び記録作業（工区1）。
 11月14日：工区1のSP掘削作業実施。比較的浅いものが多くいずれも10～15cm未満となっている。



工区1表土掘削



工区1遺構掘削作業



工区2作業状況



工区2完掘作業状況

図版V-1 作業状況

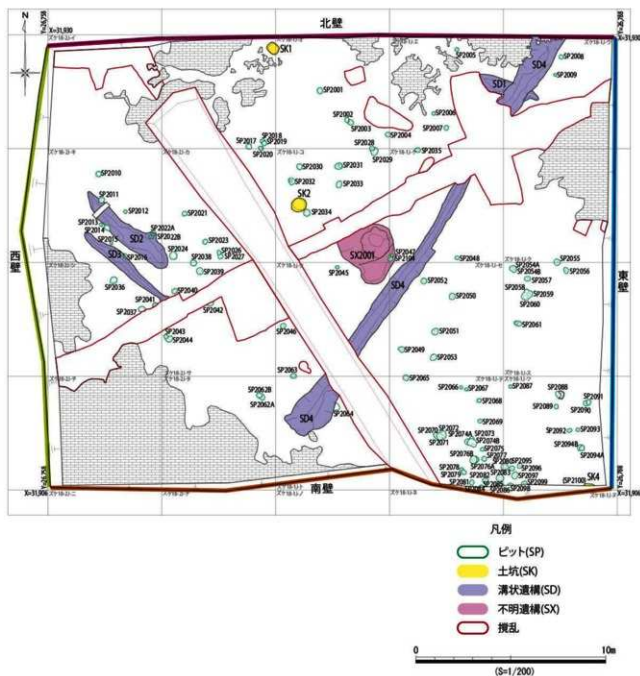
11月16日：SX2001（工区1）を四分割で対角を掘り下げた結果、東側で礫集積を確認した。そこで礫集積の断面を確認するため、半載して確認する方法に変更した。

11月25日：工区1の完掘状況を撮影。一部未完掘の遺構があり、引き続き掘削作業。

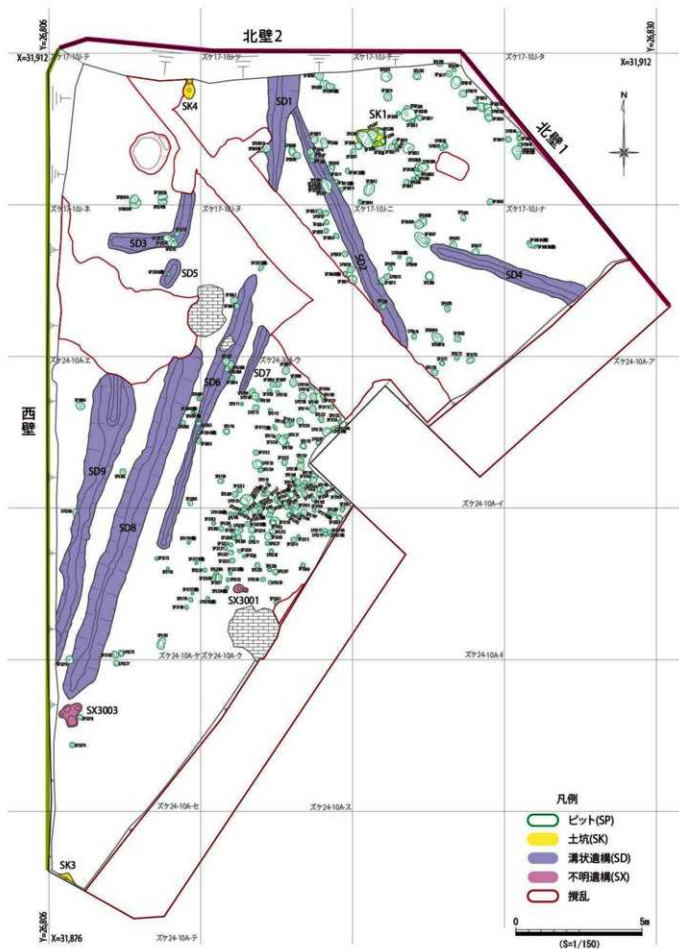
12月7日：SX2001（工区1）の完掘。大道原第一遺跡調査完了。

第2節 層序

新城大道原第一遺跡は工区1と工区2の2箇所の調査区を設定しているが、包含層はほとんど削平されており、地山直上に遺構が残存している状況となっている。層序については原則として第III章第3節で記した基本層序を使用し、個々の遺構については各項目で記した。

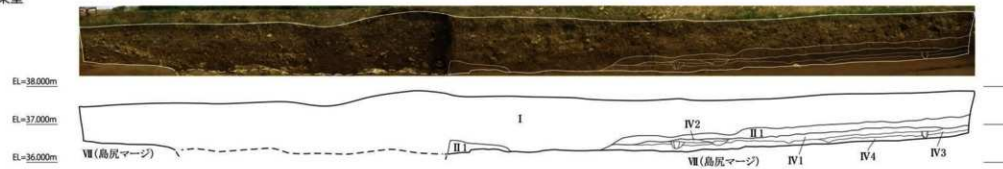


第V-2図 遺構分布図（工区1）

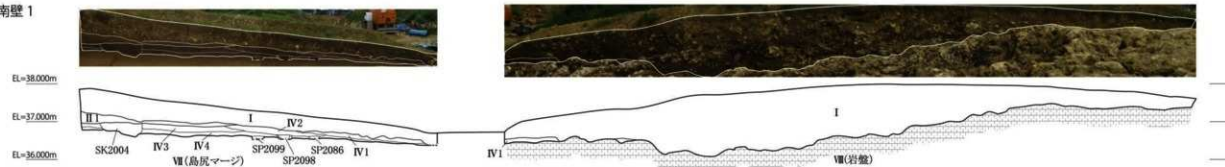


第V-3図 遺構分布図(工区2)

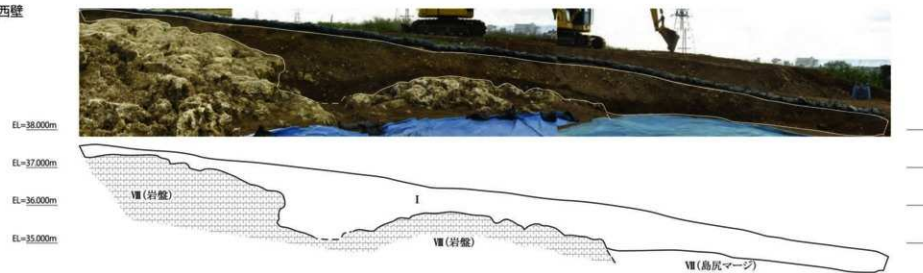
①東壁



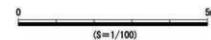
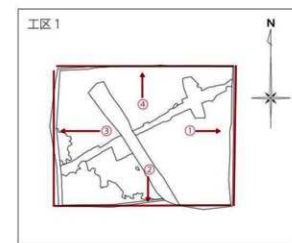
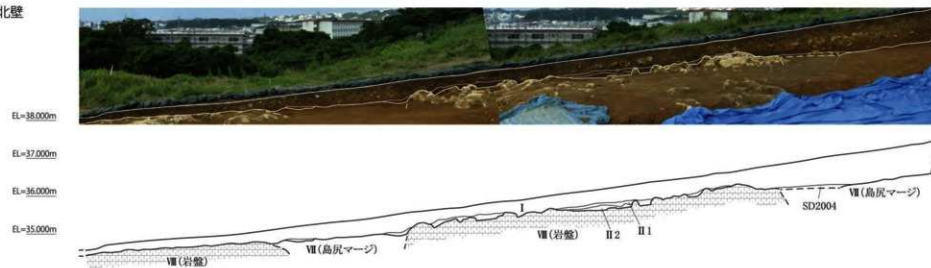
②南壁 1



③西壁

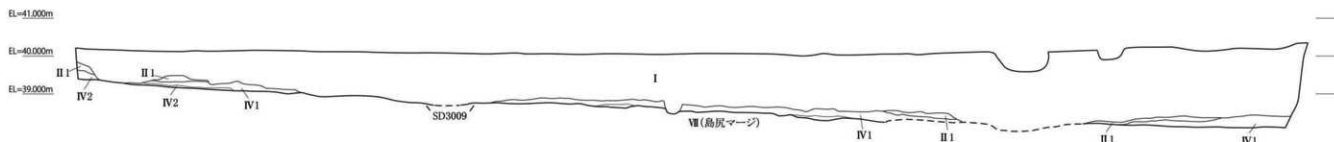


④北壁

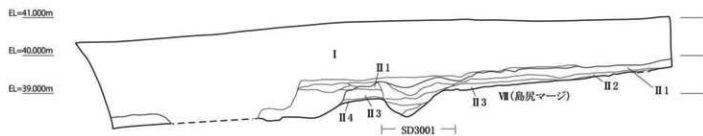


第V-4図 工区1 壁面土層図

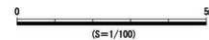
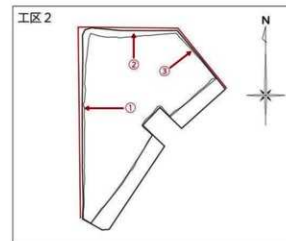
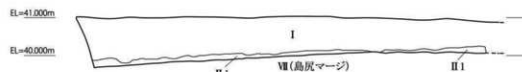
①西壁



②北壁 2



③北壁 1



第V-5図 工区2 壁面土層図

第3節 遺構

検出された遺構は工区1と工区2でピット（柱穴含む）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が共通して確認されている。本遺跡は調査区が2箇所（工区1と工区2）に分かれており、検出された遺構の様相もそれぞれの工区で異なっていることから工区別で詳述する。

【工区1】

1. ピット（SP）

ピットは100基余り検出されたが調査区内に散在している状況であり、明確なプランは確認できなかった。南西側に琉球石灰岩の岩盤が張り出しており、遺構は東側に多く見られる。また、検出されたピットは北西側に浅く、南東側に深いものが多い傾向がみられた。前章と同様に各ピットの基底部のレベル、掘方断面などから分類を試みた。各ピットの計測および分類については一覧表に記載している（第V-3～5表 遺構計測分類表）。

(1) 底面レベルの分類

検出されたピットの基底部のレベルで分類を試みた、工区1では34.58mが最も低く、36.64mが最も高い値であったため、その間を20cm単位で任意に区切り、I類～XI類に分類した。

(2) 掘方での分類

各ピットの掘方断面形状によって分類したもので、下記A～Dの4種類に分類した。

第V-1表 底面レベルの分類

底面レベル(20cm区切り)	
I	34.40～34.59m
II	34.60～34.79m
III	34.80～34.99m
IV	35.00～35.19m
V	35.20～35.39m
VI	35.40～35.59m
VII	35.60～35.79m
VIII	35.80～35.99m
IX	36.00～36.19m
X	36.20～36.39m
XI	36.40～36.59m

第V-2表 掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底部に平坦面があるもの。	基底部に平坦面がないもの。(基底部が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの)	基底部に段を持つもの。	基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直径15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い



図版V-2 掘方断面の分類別のピット

第V-3表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 1

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			遺高レベル (m)	分類			覆土 柱穴の 可能性	備考	グリッド	
		長軸	短軸	深さ		基底	前面	柱礎等				
SP2001	円形	33	30	22	34.80	Ⅲ	B		a	○		ズケ18-11-オ
SP2002	楕円形	26	22	13	35.00	Ⅳ	B		a	△	SP2003に切られる	ズケ18-11-オ
SP2003	円形	29	29	25	34.89	Ⅲ	B		a	○	SP2002を切る	ズケ18-11-オ
SP2004	円形	26	26	12	35.18	Ⅳ	B		a	×	直径24cm、深7cm・直レ35.25	ズケ18-11-オ
SP2005	円形	22	21	16	35.54	Ⅵ	B	+	c	○		ズケ18-11-エ
SP2006	楕円形	21	18	12	35.42	Ⅳ	B		b	△		ズケ18-11-エ
SP2007	円形	26	25	11	35.49	Ⅳ	B	+	b	○		ズケ18-11-エ
SP2008	円形	25	22	4	35.86	Ⅵ	B	+	a	○		ズケ18-11-ウ
SP2009	円形	15	15	4	35.86	Ⅵ	D	s	a	×		ズケ18-11-ウ
SP2010	円形	29	28	20	34.58	Ⅰ	B			△		ズケ18-21-キ
SP2011	楕円形	32	26	12	34.76	Ⅲ	B				SD2002-①を切る	ズケ18-21-キ
SP2012	不定形	20	20	9	34.86	Ⅲ	D		b	△		ズケ18-21-キ
SP2013	楕円形	21	18	10	34.86	Ⅲ	B	+	c	○		ズケ18-21-キ
SP2014	楕円形	37	26	8	34.95	Ⅲ	B				SD2002-②を切る	ズケ18-21-キ
SP2015	円形	13	14	10	35.03	Ⅳ	B	s		×	SD2003-①に切られる	ズケ18-21-キ
SP2016	楕円形	31	23	21	34.95	Ⅲ	A				SD2003-②に切られる	ズケ18-21-キ
SP2017	円形	29	27	12	34.65	Ⅲ	C			×	覆瓦?	ズケ18-21-ア
SP2018	—	26	—	6	34.75	Ⅲ	B			×	SP2019Cに切られる	ズケ18-21-ア
SP2019	楕円形	26	22	8	34.75	Ⅲ	B			×	SP2018を切る	ズケ18-21-ア
SP2020	不定形	25	23	22	34.61	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-21-ア
SP2021	円形	24	22	17	34.82	Ⅲ	B	+	b	○		ズケ18-21-カ
SP2022a	楕円形	35	21	15	34.94	Ⅲ	B				SD2002-③に切られる	ズケ18-21-キ
SP2023	円形	28	26	20	34.95	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-21-カ
SP2024	円形	41	38	25	34.90	Ⅲ	B	+	b	○		ズケ18-21-カ
SP2026	楕円形	25	21	10	35.03	Ⅳ	A		b	△	SP2027を切る	ズケ18-21-カ
SP2027	円形	26	—	11	35.01	Ⅳ	B		b	△	SP2026に切られる	ズケ18-21-カ
SP2028	円形	26	26	19	35.10	Ⅳ	B	+	b	○	SP2029を切る	ズケ18-21-カ
SP2029	不定形	40	—	25	35.00	Ⅳ	B	+	a	○	SP2028に切られる	ズケ18-11-コ
SP2030	円形	31	29	8	34.96	Ⅲ	A		a	△		ズケ18-11-コ
SP2031	楕円形	41	32	13	34.93	Ⅲ	B		a	△		ズケ18-11-コ
SP2032	楕円形	36	31	50	34.58	Ⅰ	D		c	△	石籠(磨石)出土	ズケ18-11-コ
SP2033	楕円形	36	28	20	34.89	Ⅲ	A	+	a	○		ズケ18-11-コ
SP2034	円形	35	24	31	34.76	Ⅲ	A	+	a	○		ズケ18-11-コ
SP2035	円形	29	27	10	35.36	Ⅴ	B			×		ズケ18-11-ケ
SP2036	円形	35	35	35	34.89	Ⅲ	A	+	b	○		ズケ18-21-シ
SP2037	円形	33	—	34	35.00	Ⅳ	A	+	a	○		ズケ18-21-シ
SP2038	円形	35	31	24	35.00	Ⅳ	A	+	b	○		ズケ18-21-シ
SP2039	円形	36	35	23	35.07	Ⅳ	B		c	△		ズケ18-21-サ
SP2040	楕円形	28	27	45	34.86	Ⅲ	B		a	○		ズケ18-21-サ
SP2041	—	29	—	30	34.98	Ⅲ	D	+	a	○		ズケ18-21-シ
SP2042	—	35	—	17	35.06	Ⅳ	B	+	a	○		ズケ18-21-サ
SP2043	不定形	25	20	20	35.25	Ⅴ	A			△	SP2044を切る	ズケ18-21-サ
SP2044	不定形	30	—	36	35.05	Ⅳ	B	+	b	○	SP2043に切られる	ズケ18-21-サ
SP2045	楕円形	20	16	15	35.63	Ⅵ	B		c	×		ズケ18-11-ン

第V-4表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 2

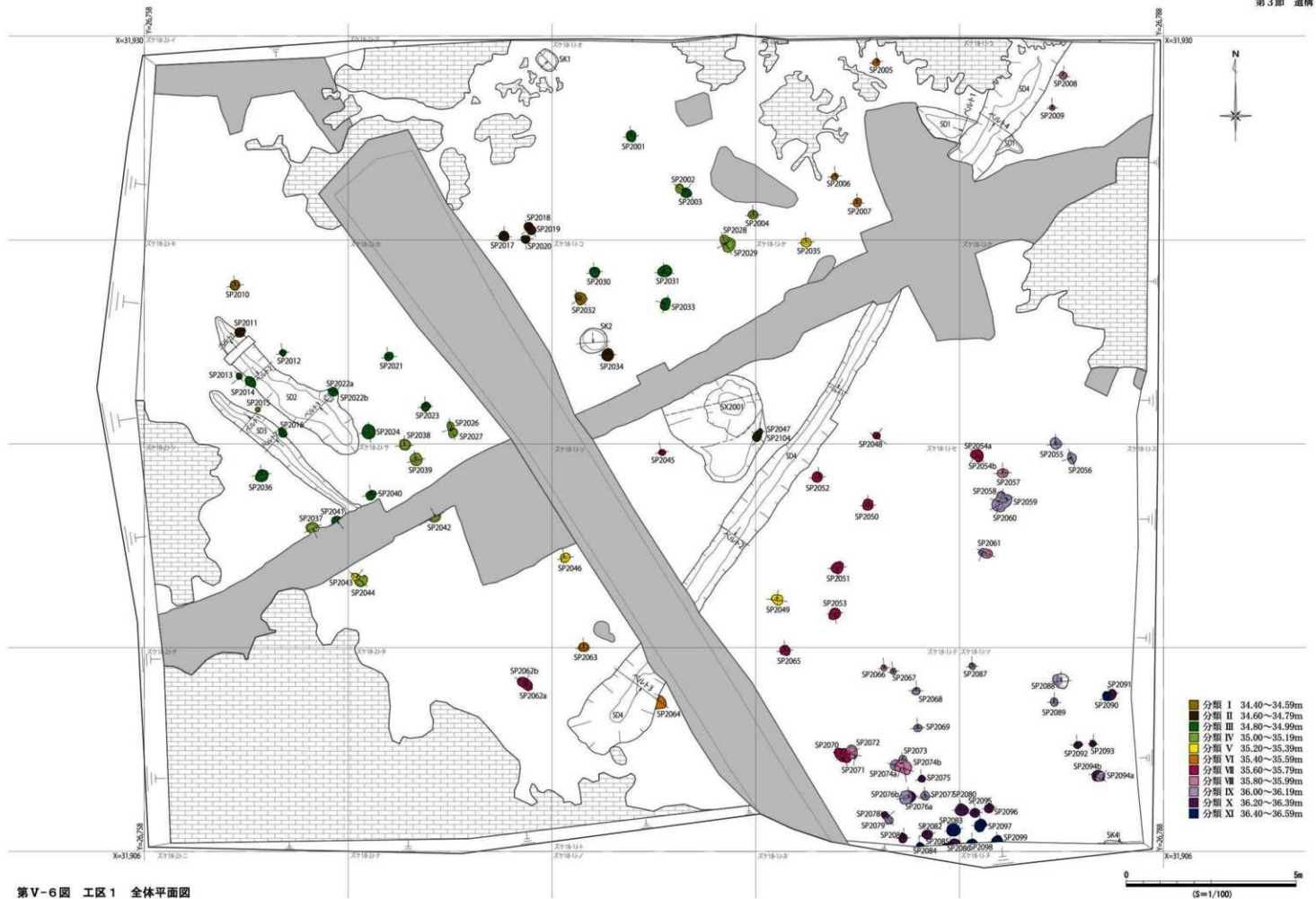
遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			断面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		断面	断面	柱成等				
SP2046	楕円形	30	25	32	35.20	V	A	+	a	○		ズケ18-1Jソ
SP2047	楕円形	—	16	10	34.96	II	A	+	a	△		ズケ18-1Jケ
SP2048	円形	20	20	13	35.73	III	B	+	a	△		ズケ18-1Jケ
SP2049	不定形	34	30	51	35.24	V	B		b	△		ズケ18-1Jセ
SP2050	円形	33	31	20	35.70	III	B		c	△		ズケ18-1Jセ
SP2051	楕円形	33	29	18	35.72	III	B		a	△		ズケ18-1Jセ
SP2052	円形	31	30	7	35.71	III	B			×		ズケ18-1Jセ
SP2053	楕円形	31	28	30	35.60	III	B		b	○		ズケ18-1Jセ
SP2054a	楕円形	36	—	27	35.65	III	B	+	a	○	SP2054bに切られる	ズケ18-1Jス
SP2054b	楕円形	26	—	9	35.79	III	B		a	△	SP2054aを切る	ズケ18-1Jス
SP2055	円形	33	30	7	36.10	IX	B		a	×		ズケ18-1Jス
SP2056	楕円形	33	25	8	36.13	IX	B		a	△		ズケ18-1Jス
SP2057	楕円形	33	25	17	35.94	III	B		b	△		ズケ18-1Jス
SP2058	円形	—	25	6	36.05	IX	B		c	×	SP2060に切られる	ズケ18-1Jス
SP2059	楕円形	—	—	8	36.02	IX	B		c	×	SP2060に切られる	ズケ18-1Jス
SP2060	円形	42	—	7	36.03	IX	B		c	×	SP2058, 2059を切る	ズケ18-1Jス
SP2061a	楕円形	25	—	10	36.03	IX	B		a	×	SP2061bを切る	ズケ18-1Jス
SP2061b	楕円形	25	—	21	35.92	III	B		a	△	SP2061aに切られる	ズケ18-1Jス
SP2062a	—	—	25	15	35.63	III	B		c	△	SP2062bに切られる	ズケ18-1Jタ
SP2062b	楕円形	30	27	8	35.70	III	B		c	△	SP2062aを切る	ズケ18-1Jタ
SP2063	楕円形	31	26	16	35.59	III	B		c	△		ズケ18-1Jソ
SP2064	—	42	—	22	35.58	VI	D				SD2004③に切られる	ズケ18-1Jト
SP2065	楕円形	32	28	11	35.61	III	B		c	△		ズケ18-1Jテ
SP2066	円形	17	17	10	35.93	III	B	s	b	×	径が小さい	ズケ18-1Jテ
SP2067	円形	17	17	10	36.00	IX	A	s	b	×	径が小さい	ズケ18-1Jテ
SP2068	円形	22	21	4	36.11	IX	B		a	△		ズケ18-1Jテ
SP2069	円形	24	20	10	36.12	IX	B		a	△		ズケ18-1Jテ
SP2070	—	29	—	34	35.76	III	—		a	△	SP2071に切られる	ズケ18-1Jテ
SP2071	楕円形	41	—	51	35.69	III	A		a	△	SP2070を切る、SP2072に切られる	ズケ18-1Jテ
SP2072	楕円形	40	—	17	35.95	III	D		a	△	SP2071を切る	ズケ18-1Jテ
SP2073	—	—	20	10	36.16	IX	C		b	△		ズケ18-1Jテ
SP2074a	—	—	30	12	36.13	IX	B	+	a	△	SP2074bに切られる	ズケ18-1Jテ
SP2074b	楕円形	47	37	46	35.82	III	B	+	a	○	SP2074aを切る	ズケ18-1Jテ
SP2075	円形	20	20	5	36.30	X	B		a	△		ズケ18-1Jテ
SP2076a	—	—	33	5	36.31	X	A		a	×	SP2076bに切られる	ズケ18-1Jテ
SP2076b	楕円形	42	36	32	36.04	IX	B	+	a	○	SP2076aを切る	ズケ18-1Jテ
SP2077	円形	26	25	20	36.17	IX	B		c	△		ズケ18-1Jテ
SP2078	円形	—	19	6	36.28	X	B		a	×	SP2079に切られる	ズケ18-1Jテ
SP2079	円形	24	—	22	36.13	IX	B		a	△	SP2078を切る	ズケ18-1Jテ
SP2080	円形	36	34	9	36.36	X	B		a	△		ズケ18-1Jツ
SP2081	楕円形	27	20	10	36.30	X	B		b	△		ズケ18-1Jテ
SP2082	円形	31	27	13	36.35	X	B	+	b	○		ズケ18-1Jテ
SP2083	円形	39	36	8	36.40	X	B		c	×		ズケ18-1Jテ
SP2084	—	—	22	14	36.43	X	B		a	△		ズケ18-1Jテ

第V-5表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 3

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			断面レベル (m)	分類			覆土 柱穴の 可能性	備考	グリッド	
		長軸	短軸	深さ		断面	断面	柱径等				
SP2085	—	—	—	11	36.48	Ⅹ	B		a	×	SP2086に切られる	ズケ18-11-テ
SP2086	—	—	35	22	36.38	Ⅹ	B		a	△	SP2085を切る	ズケ18-11-テ
SP2087	円形	20	18	7	36.10	Ⅹ	A	s	a	×		ズケ18-11-ツ
SP2088	不定形	46	42	15	36.08	Ⅹ	A		a	○		ズケ18-11-ツ
SP2089	楕円形	24	20	26	36.04	Ⅹ	B	+	a	○		ズケ18-11-ツ
SP2090	楕円形	—	27	9	36.42	Ⅹ	B		b	△	SP2091を切る	ズケ18-11-ツ
SP2091	楕円形	27	25	16	36.25	Ⅹ	D		c	△	SP2090に切られる	ズケ18-11-ツ
SP2092	楕円形	24	18	20	36.24	Ⅹ	B		b	△		ズケ18-11-ツ
SP2093	円形	20	20	20	36.26	Ⅹ	B		a	△		ズケ18-11-ツ
SP2094a	—	24	—	31	36.19	Ⅹ	B	+	a	○	SP2094bを切る	ズケ18-11-ツ
SP2094b	—	32	—	15	36.35	Ⅹ	—		a	×	SP2094aに切られる	ズケ18-11-ツ
SP2095	円形	28	25	11	36.36	Ⅹ	B		b	△		ズケ18-11-ツ
SP2096	円形	28	30	20	36.26	Ⅹ	B	+	a	○		ズケ18-11-ツ
SP2097	楕円形	36	30	9	36.41	Ⅹ	B		a	×		ズケ18-11-ツ
SP2098	—	—	29	22	36.43	Ⅹ	B		a	△		ズケ18-11-ツ
SP2099	—	—	34	16	36.44	Ⅹ	B		b	×		ズケ18-11-ツ
SP2101	—	—	—	20	36.36	Ⅹ	B	+		○		ズケ18-11-ス
SP2102	—	—	—	18	36.46	Ⅹ	D			×		ズケ18-11-ス
SP2103	—	—	—	18	36.64	Ⅹ	B	+		○		ズケ18-11-ツ
SP2104	楕円形	—	24	12	34.68	Ⅱ	D		a	△		ズケ18-11-ケ

※柱穴の可能性 ○…可能性高い △…裏検時 ×…可能性低い

遺構レベル(20m区切り)	
I	34.40-34.59m
II	34.60-34.79m
III	34.80-34.99m
IV	35.00-35.19m
V	35.20-35.39m
VI	35.40-35.59m
VII	35.60-35.79m
VIII	35.80-35.99m
IX	36.00-36.19m
X	36.20-36.39m
XI	36.40-36.59m



第V-6図 工区1 全体平面図



遺構検出スカイマスター撮影



SP2024 半截 (西より)



SP2037 遺物出土状況



SP2037 半截 (南東より)



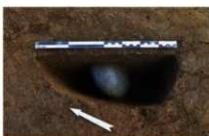
SP2046 半截 (北より)



SP2001 半截 (北より)



SP2020 半截 (北より)



SP2032 遺物出土



SP2038 半截 (北より)



SP2005 半截 (北より)



SP2033 半截 (北西より)



SP2003-2002 半截 (北東より)



SP2076 半截 (北より)



SP2034 半截 (北より)



SP2089 半截 (北より)

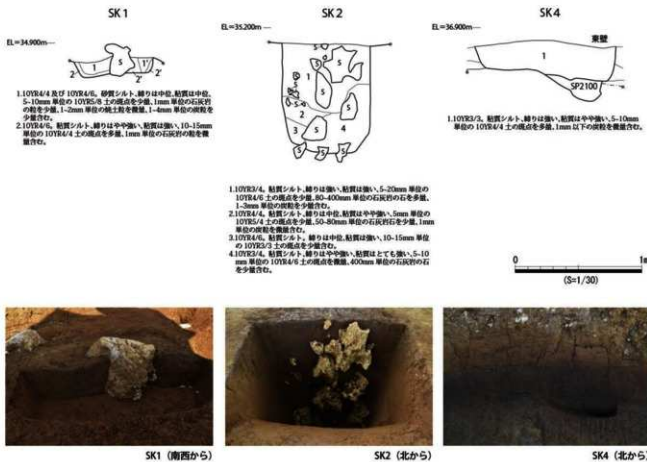
図版 V - 3 ピット (SP)

2. 土坑 (SK)

土坑は3基検出されている。SK 1は調査区1の北側で検出された楕円形を呈する土坑で、2層に細分される。中央に琉球石灰岩を確認。覆土より近世～近代相当と思われる。SK 2は調査区の中央で検出。直径約80cmの円形を呈し、堆積は4枚に細分。粘質シルトを主体として基本的に締まりはやや強い。グスク土器が出土。SK 3は攪乱孔であったため欠番とした。SK 4は調査区1南壁面で検出。暗褐色を呈する砂質シルト。平面形は不明だが、深さは43cmと深い。

第V-6表 工区1 土坑 (SK) 計測一覧表

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	所見	グリッド
		長軸	短軸	深さ			
SK1 (SK2001)	隅丸方形	62	53	12	34.63	中央に石灰岩岩盤を検出。周囲を略方形に掘り込んで形成。覆土は褐色の砂質シルトで、遺物の出土は近世～近代相当の堆積土と思われる。	ズケ18-2J-ア
SK2 (SK2002)	楕円形	83	73	87	34.21	石灰岩礫が多数混入。覆土は暗褐色シルトで遺物の出土はないが、時期は不明。周囲のピットと比べて極端に大きく、類似の遺構はない。	ズケ18-1J-コ
SK4 (SK2004)	—	(112)	—	43	36.32	攪乱のため欠番 覆土は暗褐色シルトを呈しており、下層にピットが検出されている。	ズケ18-1J-ア



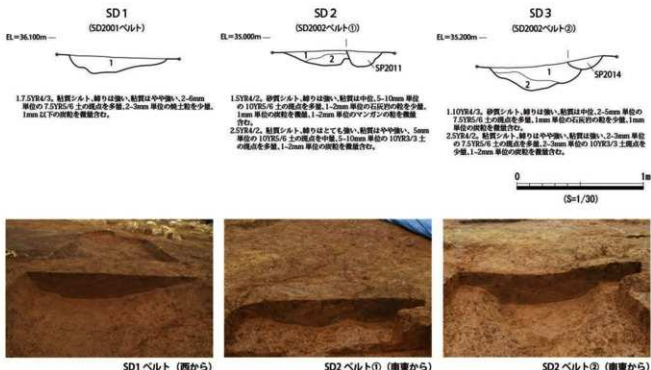
第V-11図 土坑 (SK)

3. 溝状遺構 (SD)

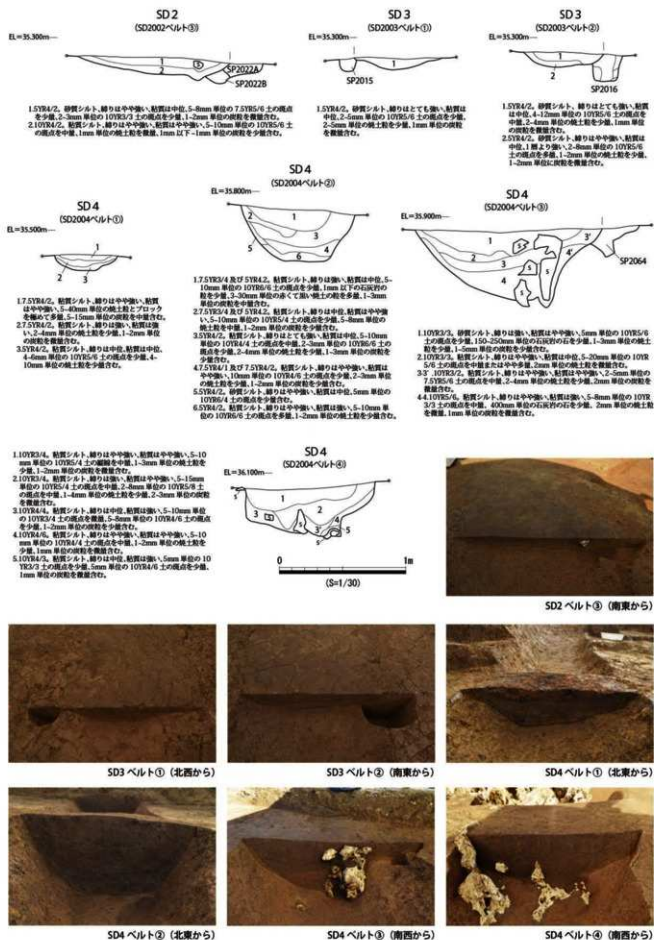
溝状遺構は4条検出された。SD 1は調査区北東端に位置し、SD 4に対して直角に切られるように所在する。東側は攪乱により切られている。SD 2、SD 3は調査区東側に位置する。両溝は北東—南西方向に軸を持って並列する。覆土は近世—近代相当と思われる褐色の砂質シルトで焼土粒や炭粒などが混じる。上部は米軍造成が堆積していたことなどから削平されたと思われる。SD 4は調査区の北東—南西方向に延びる溝で、断面を見ると床面が平坦に整形（または平坦に近い丸みを持つ）されている。北東側は岩盤に擦り付けるように途切れる。状況から岩盤の間を繋ぐように配置されていることから何らかの区画または排水（南東側の岩盤方向へ下がる）としての機能が想定される。

第V-7表 工区1 溝状遺構 (SD) 計測一覧表

遺構No.	断面ライン	計測(cm)		底面レベル(m)	所見	グリッド
		幅	深さ			
SD1	SD2001	77	14	35.82	覆土は褐色粘質シルトで、遺物は先史土器が1点出土している。	ズケ18-1J-ウ
SD2	SD2002 ①	50	11	34.78	北西—南東方向に軸を持つ。覆土は灰褐色の砂質シルトで青磁小破片が出土している。SD3と同軸方向に延びること類似する覆土が堆積していることから関連があるものと思われる。	ズケ18-2J-キ
	SD2002 ②	62	19	34.78		ズケ18-2J-キ
	SD2002 ③	120	17	34.96		ズケ18-2J-キ
SD3	SD2003 ①	69	9	35.04	SD2の南西側に位置する。覆土は褐色の砂質シルトで締りはやや強い。残存深度が10cm程しかなく、南側は埋設管(覆乱)により消失している。	ズケ18-2J-キ
	SD2003 ②	63	12	35.07		ズケ18-2J-キヘシ
SD4	SD2004 ①	90	12	35.18	北東—南西方向に延びる。検出された長さは25mを測る。部分的に埋設管によって切られているが、南側の残存深度は60cm程もあり、当時の状況に近い高さを残していると思われる。ベルト②の断面を見ると地山面(マージ層)を逆地形に盛り込んで形成されており、床面はフラットになっている。土器や沖繩陶器が出土している。	ズケ18-1J-ケ
	SD2004 ②	50	41	35.24		ズケ18-1J-ト
	SD2004 ③	148	61	35.18		ズケ18-1J-ト
	SD2004 ④	103	39	35.60		ズケ18-1J-ウ



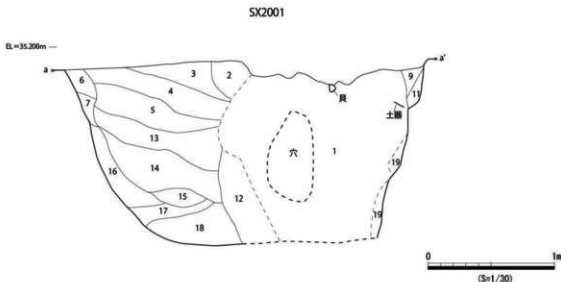
第V-12図 溝状遺構 (SD) 1



第V-13 図 溝状遺構 (SD) 2

4. 不明遺構 (SX)

不明遺構は調査区中央で SX2001 の 1 基が確認された。平面観は楕円形状を呈し、中央北寄りに石灰岩礫が集中している。断面を見ると 10～20 cm 大の石灰岩礫が深さ 1 m 程、暗褐色の粘質土と一緒に充填され、下部は空洞になっている箇所も見られた。また、礫中より 20 cm 大のニービー (砂岩) や土器片 (先史土器やグスク土器など) が出土している。



1. 10YR3/3 及び 10YR3/4、砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、10～300mm 単位の石灰岩の石を多く含み、1～8mm 単位の焼土粒を中量、1～20mm 単位の炭粒を中量含む。土器の破片出土。
2. 10YR3/4、砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2～4mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を微量、30～40mm 単位の石灰岩の石を少量、1～2mm 単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR3/3、砂質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、4mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を微量、15～20mm 単位の 10YR5/4 丸い炭点 (植物一葉一の跡?) を微量、15～30mm 単位の石灰岩の石を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4、砂質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2～6mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、10～30mm 単位の 10YR5/4 丸い炭点 (植物一葉一の跡?) を少量、1～2mm 単位の焼土粒を少量含む。
5. 10YR3/4、砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5～10mm 単位の 10YR4/6 土の炭点を微量、10～15mm 単位の 10YR5/4 丸い炭点 (植物一葉一の跡?) を微量、40～120mm 単位の石灰岩の石を微量、1～2mm 単位の炭粒を微量含む。
6. 10YR4/4 及び 10YR3/4、砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5～8mm×50～70mm 単位の 10YR4/6 土の礫を少量、1～4mm 単位の炭粒を微量含む。
7. 10YR4/6、砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、10mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を微量、4～8mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
8. 10YR3/4、粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10～20mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を少量、10～15mm 単位の 10YR5/4 丸い炭点 (植物一葉一の跡?) を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
9. 10YR3/3 及び 10YR3/4、粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5～8mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、5mm 単位の焼土粒を微量、1～3mm 単位の炭粒を微量含む。
10. 10YR3/4、粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10～20mm 単位の 10YR5/4 丸い炭点 (植物一葉一の跡?) を中量、5～6mm 単位の焼土粒を微量含む。
11. 10YR3/4、粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、1～2mm 単位の炭粒を少量含む。
12. 10YR3/4、粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、10mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、100mm 単位の石灰岩の石を中量、1～4mm 単位の炭粒を少量含む。
13. 10YR3/4、粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、10～20mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を中量、40mm 単位の石灰岩の石を微量、2～3mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
14. 10YR3/4 及び 10YR4/4、砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5～10mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を少量、10～20mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を中量、1～4mm 単位の炭粒を少量含む。
15. 10YR4/4、粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5～20mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を少量、5mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、1～2mm 単位の炭粒を微量含む。
16. 7.5YR5/8、粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5～10mm 単位の 10YR3/4 土の炭点を少量、10～15mm 単位の 10YR4/4 土の炭点を少量、1～2mm 単位の焼土粒を少量含む。
17. 10YR3/4、粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5～8mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を少量、5mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
18. 10YR4/4、粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5～10mm 単位の 7.5YR5/8 土の炭点を少量、2～4mm 単位の焼土粒を少量含む。
19. 10YR3/4、粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5～15mm 単位の 10YR5/4 土の炭点を少量、1～5mm 単位の炭粒を少量含む。



SX2001 石出土状況 (東から)



SX2001 半観 (南から)



SX2001 完観 (南から)

第 V-14 図 不明遺構 (SX)

【工区2】

1. ビット (SP)

工区2では、ビットが280基(欠番除く)程検出された。中には鉄跡と思われるビットも確認された。現地調査の際にも建物プランの検討がなされたが、多数のビットが複雑に切り合っており、明確なプランとして位置づけることは困難であった。工区2では、ビットの規模や深度などから堀棒等で形成されたと思われるものが多く確認されており、一帯が耕作地として利用された可能性が想定される。

以下に建物プランを推定するための分類とそれとは別に耕具痕や植栽痕と思われるものについても配置状況や堀方などからも検討を行った。各ビットの計測および分類については一覧表に記載している(第V-10～15表 遺構計測分類表)。

(1) 底面レベルの分類

工区2では36.18mが最も低く、39.78mが最も高い値であったため、その間を20cm単位で任意に区切り、I類～XI類に分類した。





第V-8表 底面レベルの分類

底面レベル(20cm区切り)	
I	36.18～36.39m
II	36.40～36.59m
III	38.00～38.19m
IV	38.20～38.39m
V	38.40～38.59m
VI	38.60～38.79m
VII	38.80～38.99m
VIII	39.00～39.19m
IX	39.20～39.39m
X	39.40～39.59m
XI	39.60～39.79m

(2) 掘方で分類

各ビットの掘方断面形状によって分類したもので、下記A～Dの4種類に分類した。

第V-9表 掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底部に平坦面があるもの。	基底部に平坦面がないもの。(基底部が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの)	基底部に段を持つもの。	基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直径15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い



A



B



C



D

図版V-4 掘方断面の分類別のビット

第V-10表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 1

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類			覆土	柱穴の可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱径等				
SP3001a	楕円形	34	30	19	38.12	Ⅱ	A		b	○	SP3001bを切る	ズケ17-10J-チ
SP3001b	—	43	—	33	38.00	Ⅱ	B		a	△	SP3001a/cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3002	楕円形	—	30	11	38.96	Ⅲ	B		c	×		ズケ17-10J-ツ
SP3003	楕円形	—	26	17	38.92	Ⅲ	B	+	b	△	SP3004cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3004	楕円形	34	23	8	39.09	Ⅲ	B		c	×	撤除 SP3003を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3005	円形	30	26	14	38.95	Ⅲ	B				SD3002cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3006	楕円形	39	35	19	38.94	Ⅲ	B	+	a	△		ズケ17-10J-ツ
SP3007a	楕円形	—	33	20	38.62	Ⅳ	B				SP3007b, SD3001cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3007b	—	—	—	18	38.65	Ⅳ	A				SP3007aを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3008	楕円形	—	27	9	38.86	Ⅲ	B		c	×	SP3009cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3009	円形	28	25	20	38.78	Ⅳ	B		b	△	SP3008を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3010	円形	23	21	6	39.13	Ⅲ	B				SP3011を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3011	楕円形	—	34	21	38.96	Ⅲ	B	+			SP3010, SD3002dに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3012a	楕円形	39	20	5	39.20	Ⅲ	B			×	撤除 SP3012bを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3012b				5	39.21	Ⅲ	B				撤除 SP3012a/cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3013	円形	17	16	4	39.16	Ⅲ	B			×	撤除	ズケ17-10J-ツ
SP3014	楕円形	18	16	7	39.13	Ⅲ	B		c	×		ズケ17-10J-ツ
SP3015	円形	41	40	25	39.10	Ⅲ	B	+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3016	円形	33	30	21	39.15	Ⅲ	A		a	○		ズケ17-10J-チ
SP3017	円形	24	21	22	39.40	Ⅳ	B		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3018	楕円形	49	41	32	39.13	Ⅲ	B		b	△		ズケ17-10J-チ
SP3019	円形	29	28	16	39.30	Ⅲ	B	+	c	△		ズケ17-10J-チ
SP3020a	—	32	—	10	39.36	Ⅲ	B		b	△		ズケ17-10J-チ
SP3020b	円形	57	45	25	39.16	Ⅲ	A	l+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3021	円形	21	20	10	39.34	Ⅲ	B		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3022	円形	18	18	6	39.37	Ⅲ	B	s		×		ズケ17-10J-チ
SP3023	楕円形	19	16	10	39.60	Ⅳ	B	s		×		ズケ17-10J-チ
SP3024	不定形	34	27	12	39.60	Ⅳ	A		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3025a	楕円形	—	28	19	39.58	Ⅳ	B	+		△	SP3025bを切る、SP3026cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3025b	楕円形	—	20	21	39.52	Ⅳ	B		b	△	SP3025a/cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3026	円形	29	28	8	39.65	Ⅳ	B		b	△	SP3025aを切る	ズケ17-10J-チ
SP3028	—	—	42	5	39.28	Ⅲ	D		b	×	SK3001cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3029	不定形	42	37	4	39.16	Ⅲ	B		c	×	SP3030を切る	ズケ17-10J-チ
SP3030	楕円形	19	—	9	39.31	Ⅲ	B	s	c	×	SP3031cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3031	円形	28	25	7	39.32	Ⅲ	B		c	×	SP3030を切る	ズケ17-10J-チ
SP3033	不定形	43	37	32	39.12	Ⅲ	C	+	b	○		ズケ17-10J-チ
SP3036	楕円形	25	—	10	39.47	Ⅳ	B		b	△	SP3037cに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3037	円形	20	20	8	39.47	Ⅳ	D		b	△	SP3036を切る	ズケ17-10J-チ
SP3038a	楕円形	39	30	18	39.32	Ⅲ	B	+	a	○	a,b,c,dに分かれる、A柱礎あり	ズケ17-10J-チ
SP3038b	—	29	—	7	39.39	Ⅲ	—					ズケ17-10J-チ
SP3038c	—	15	—	6	39.40	Ⅳ	—					
SP3038d	—	39	—	4	39.39	Ⅳ	—					
SP3039	楕円形	19	15	8	39.38	Ⅲ	A	s	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3040	円形	16	14	7	39.39	Ⅲ	B	s	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3041	円形	21	19	11	39.36	Ⅲ	B	+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3042	楕円形	51	39	10	39.20	Ⅲ	D	l				ズケ17-10J-チ
SP3044	楕円形	18	15	8	39.22	Ⅲ	B	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3045	円形	22	22	15	39.61	Ⅳ	B	+	a	○		ズケ17-10J-チ
SP3046	円形	19	17	12	39.53	Ⅳ	B	s	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3047	円形	23	22	13	39.67	Ⅳ	D		c	×		ズケ17-10J-チ
SP3048	楕円形	21	18	11	39.73	Ⅳ	B		c	△		ズケ17-10J-チ

第V-11表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 2

遺構ID	平面形状	遺構計測(cm)			道面レベル(m)	分類			覆土の 可能性	備 考	グリッド	
		長軸	短軸	深さ		形状	断面	柱礎等				
SP3049	円形	16	15	6	39.78	X	B	s	c	X		ズケ17-10J-タ
SP3050a	楕円形	40	—	4	39.82	X	B		c	△		ズケ17-10J-タ
SP3050b	楕円形	—	21	32	39.52	X	C	+	c	△		ズケ17-10J-タ
SP3052	楕円形	20	16	11	39.06	W	B	+	a	△		ズケ17-10J-フ
SP3053	円形	23	21	16	39.03	W	○		a	△		ズケ17-10J-フ
SP3054	楕円形	20	17	4	39.15	W	B	s	b	△		ズケ17-10J-フ
SP3055	円形	19	18	10	39.10	W	B	s	a	△		ズケ17-10J-フ
SP3056	楕円形	25	16	10	39.15	W	B	+	a	△		ズケ17-10J-フ
SP3057	円形	24	22	14	39.17	W	B	+	a	○		ズケ17-10J-フ
SP3059	楕円形	28	25	13	39.21	IX	D		b	△		ズケ17-10J-フ
SP3060	不定形	19	16	6	39.23	IX	B	s	c	X	露跡	ズケ17-10J-フ
SP3061	楕円形	38	31	18	39.15	W	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3062	楕円形	26	23	13	38.80	W	A	+	c	○		ズケ17-10J-フ
SP3063	円形	22	21	13	38.78	W	B	+	b	○		ズケ17-10J-フ
SP3065a	楕円形	40	31	16	39.35	IX	B		a	△		ズケ17-10J-ニ
SP3065b	楕円形	33	—	15	39.38	IX	B		a	△		ズケ17-10J-ニ
SP3066	楕円形	23	19	16	39.49	X	D	+	b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3067	楕円形	65	40	19	39.35	IX	D	l	b	X		ズケ17-10J-ニ
SP3068	不定形	13	11	5	39.43	X	B	s	c	X	露跡	ズケ17-10J-ニ
SP3069	円形	22	20	10	39.38	IX	B		b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3070	円形	17	17	9	39.39	IX	B	s	b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3072	楕円形	25	21	8	39.40	X	B				SP3073を切る	ズケ17-10J-ニ
SP3073	楕円形	—	25	11	39.35	IX	B				SP3072、SD3002に切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3075	楕円形	—	26	6	39.52	X	B		c	X	SP3004に切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3077	楕円形	—	27	8	39.56	X	D		c	X		ズケ17-10J-ニ
SP3078	不定形	27	21	10	39.56	X	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3079	円形	20	20	13	39.20	IX	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3081a	楕円形	—	30	7	39.55	X	B		b	X	SP81bに切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3081b	楕円形	—	31	16	39.50	X	B	+	b	○	SP81aを切る	ズケ17-10J-ニ
SP3082	不定形	25	24	13	39.61	X	D		b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3083a	楕円形	28	14	11	39.69	X	D		c	X	露跡	ズケ17-10J-ナ
SP3083b	楕円形	25	11	5	39.73	X	D		c	X	露跡	ズケ17-10J-ナ
SP3086	円形	31	31	15	38.29	IV	B	+	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3089	円形	16	15	12	38.86	W	A	s	a	△		ズケ17-10A-エ
SP3090	楕円形	18	13	5	38.88	W	B	s	c	X	露跡 SP3091に切られる	ズケ17-10A-エ
SP3091	円形	10	10	2	38.92	W	B	s	c	X	露跡 SP3090を切る	ズケ17-10A-エ
SP3092	円形	21	19	12	38.78	W	B	+	b	○		ズケ17-10A-エ
SP3093	楕円形	23	20	17	38.79	W	B		a	△		ズケ17-10A-エ
SP3094	円形	22	20	14	36.22	I	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3095	楕円形	31	27	4	39.25	IX	B		b	X	廻轉による削作痕	ズケ17-10A-ウ
SP3096	楕円形	25	20	8	39.16	W	C		b	△	SP3097を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3097	楕円形	—	20	12	39.14	W	B		b	△	SP3096に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3098	楕円形	35	28	7	39.20	IX	B		a	X	廻轉による削作痕	ズケ17-10A-ウ
SP3099	楕円形	27	—	9	36.38	I	B		a	△	SP3100に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3100	円形	28	27	15	36.32	I	B	+	a	△	SP3099、SP3101を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3101	楕円形	—	15	3	36.45	II	B	s	a	X	浅い、SP3100に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3102	円形	17	15	3	36.54	II	A	s	b	X	浅い	ズケ17-10A-ウ
SP3103	楕円形	15	11	6	39.20	IX	B		s	c	X	ズケ17-10A-ウ
SP3104	—	—	19	7	39.34	IX	A		b	△	SP3105を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3105	—	—	18	13	39.31	IX	B		b	△	SP3104に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3106	—	—	26	15	39.25	IX	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ

第V-12表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 3

遺構№	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土 柱穴の 可能性	備 考	グリッド	
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱径等				
SP3107	楕円形	35	25	12	39.26	IX	A		b	△		ズケ17-10A-U
SP3108	円形	31	30	6	39.23	IX	B		a	×	廻轉による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3109	—	23	—	5	39.35	IX	D		b	△		ズケ17-10A-U
SP3110	円形	11	10	8	39.29	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3111	円形	13	12	2	39.07	IX	B	s	c	×	露跡?	ズケ17-10A-U
SP3112	円形	25	22	20	36.27	I	B	+	a	○		ズケ17-10A-U
SP3113	楕円形	16	12	9	39.23	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3114	楕円形	32	25	4	39.33	IX	B		b	×	廻轉による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3115	円形	17	15	7	39.34	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3116	円形	24	22	18	36.18	I	B	+	a	○		ズケ17-10A-U
SP3117	楕円形	25	13	8	36.37	I	B	s	b	△	露・スコップ跡	ズケ17-10A-U
SP3118	円形	20	20	8	39.22	IX	D		a	△	SP3119を切る	ズケ17-10A-U
SP3119	楕円形	—	18	15	39.13	IX	B		a	△	SP3118に切られる	ズケ17-10A-U
SP3120	楕円形	26	20	19	39.12	IX	C		b	△		ズケ17-10A-U
SP3121	楕円形	26	21	9	39.30	IX	B		c	×	廻轉による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3122	—	—	—	23	39.24	IX	D		c	△	SP3123を切る	ズケ17-10A-U
SP3123	—	—	—	10	39.34	IX	B		c	×	SP3122に切られる	ズケ17-10A-U
SP3124a	—	—	—	9	39.40	X	B		a	△	SP3124bに切られる	ズケ17-10A-U
SP3124b	楕円形	—	19	10	39.40	X	B		a	△	SP3124aを切る	ズケ17-10A-U
SP3125	楕円形	35	—	13	39.35	IX	A		a	△		ズケ17-10A-U
SP3126	円形	21	—	12	39.15	IX	A		b	△	SP3128に切られる	ズケ17-10A-U
SP3127	円形	18	16	11	39.15	IX	B		a	△	SP3128を切る	ズケ17-10A-U
SP3128	楕円形	—	31	47	38.79	VI	B	+	a	○	SP3126を切る、SP3127に切られる	ズケ17-10A-U
SP3130	楕円形	18	12	5	39.24	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3131	円形	23	23	8	39.27	IX	A		c	△		ズケ17-10A-U
SP3132	円形	21	20	5	38.48	V	B		b	△		ズケ17-10A-U
SP3133	楕円形	38	35	27	38.49	V	A		a	○	建物プランの可能性	ズケ17-10A-U
SP3134	楕円形	20	17	4	38.54	V	D		a	×		ズケ17-10A-U
SP3135	楕円形	25	22	7	38.55	V	B		a	△		ズケ17-10A-U
SP3137	楕円形	22	18	20	38.56	V	B		b	△	SP3138を切る	ズケ17-10A-U
SP3138	楕円形	30	18	14	38.52	V	D		b	×	SP3137に切られる	ズケ17-10A-U
SP3139	楕円形	21	17	12	38.97	IX	B		b	△		ズケ17-10A-U
SP3141	楕円形	13	10	7	38.55	V	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3144	円形	19	18	8	39.54	X	B		a	×		ズケ17-10A-U
SP3145	円形	22	22	11	39.53	X	B		a	○		ズケ17-10A-U
SP3147	—	25	—	5	39.43	X	B		a	△	SP3148に切られる	ズケ17-10A-U
SP3148	楕円形	28	26	7	39.40	X	A		a	○	SP3147を切る	ズケ17-10A-U
SP3149	円形	18	16	7	39.38	IX	A		a	△	SP3150を切る	ズケ17-10A-U
SP3150	楕円形	—	18	8	39.36	IX	B		b	△	SP3149、3051に切られる	ズケ17-10A-U
SP3151	円形	23	20	10	39.33	IX	B		b	×	SP3150を切る	ズケ17-10A-U
SP3152	円形	19	18	15	39.08	IX	C		b	△		ズケ17-10A-U
SP3153	楕円形	53	46	43	38.82	IX	A	l+	c	○		ズケ17-10A-U
SP3154	—	—	—	9	39.17	IX	B		c	△	SP3155に切られる	ズケ17-10A-U
SP3155	—	—	—	4	39.26	IX	B		b	×	露跡、SP3154を切る、洗い	ズケ17-10A-U
SP3156	円形	—	16	3	38.58	V	D		b	×	洗い	ズケ17-10A-U
SP3157	円形	20	20	4	38.60	VI	A		b	×	洗い	ズケ17-10A-U
SP3158	円形	16	15	7	39.25	IX	A	s	c	×	SP3159を切る	ズケ17-10A-U
SP3159	—	—	13	3	39.30	IX	D		b	×	SP3158に切られる	ズケ17-10A-U
SP3160	—	—	—	5	39.30	IX	B		a	×	露跡、SP3161を切る	ズケ17-10A-U
SP3161	楕円形	—	17	9	38.55	V	B		a	×	SP3160、SP3162に切られる	ズケ17-10A-U
SP3162	楕円形	22	15	6	38.60	IX	B	s	a	×	SP3161を切る	ズケ17-10A-U

第V-13表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 4

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類		覆土 柱穴の 可能性	備 考	グリッド		
		長軸	短軸	深さ		底面	断面 柱成等					
SP3163	円形	28	27	7	38.62	Ⅱ	A	b	△		ズケ17-10A-ウ	
SP3164	楕円形	29	21	6	39.41	Ⅱ	B	a	△		ズケ17-10A-ウ	
SP3165	円形	19	18	15	39.32	Ⅱ	B	b	△		ズケ17-10A-ウ	
SP3166	—	20	—	10	39.33	Ⅱ	B	b	△	SP3167に切られる	ズケ17-10A-ウ	
SP3167	楕円形	30	—	7	39.41	Ⅱ	B	b	×	SP3166、3168を切る	ズケ17-10A-ウ	
SP3168	—	—	—	13	39.35	Ⅱ	D	b	△	SP3167に切られる	ズケ17-10A-ウ	
SP3169	—	—	25	13	39.44	Ⅱ	A	+	a	△		ズケ17-10A-ウ
SP3170	円形	27	22	6	39.64	Ⅱ	B	+	c	○		ズケ17-10A-イ
SP3171	円形	21	18	5	39.66	Ⅱ	A	+	c	△		ズケ17-10A-イ
SP3172	円形	19	18	8	39.69	Ⅱ	D		c	△		ズケ17-10A-イ
SP3173	楕円形	31	22	10	39.69	Ⅱ	A		c	△		ズケ17-10A-イ
SP3174	円形	13	12	4	39.04	Ⅱ	B	s	b	×	難跡	ズケ17-10A-ケ
SP3175	円形	11	11	5	39.08	Ⅱ	D	s	a	×	難跡	ズケ17-10A-ケ
SP3176	円形	11	10	8	38.95	Ⅱ	D	s	b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3177	楕円形	15	12	3	39.16	Ⅱ	B	s	a	×	難跡	ズケ17-10A-ケ
SP3179	楕円形	18	15	7	39.12	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ケ
SP3180	円形	16	15	10	39.10	Ⅱ	B	s	b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3181	楕円形	42	28	5	39.10	Ⅱ	B		b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3182	楕円形	31	25	19	38.79	Ⅱ	B		b	△		ズケ17-10A-ケ
SP3183	円形	15	15	6	39.04	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3184	楕円形	18	14	7	39.17	Ⅱ	D	s	a	×	難跡	ズケ17-10A-ク
SP3185	楕円形	17	12	3	39.22	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3187a	円形	20	20	10	39.18	Ⅱ	B		a	○	SP3187bに切られる	ズケ17-10A-ク
SP3187b	—	—	23	8	39.20	Ⅱ	B		a	△	SP3187aを切る	ズケ17-10A-ク
SP3188	円形	30	26	29	39.03	Ⅱ	B	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3189	楕円形	18	14	6	39.27	Ⅱ	D	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3190	円形	24	—	7	39.30	Ⅱ	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3191	楕円形	24	18	8	39.30	Ⅱ	B		a	×	難跡	ズケ17-10A-ク
SP3192	不定形	—	33	20	39.18	Ⅱ	B	+	b	△	SP3193に切られる	ズケ17-10A-ク
SP3193	円形	24	21	16	39.22	Ⅱ	B	+	b	△	SP3192を切る	ズケ17-10A-ク
SP3194	円形	15	15	4	39.35	Ⅱ	B	s	a	×	SP3195に僅かに切られる	ズケ17-10A-ク
SP3195	楕円形	20	16	8	39.31	Ⅱ	B	s	a	×	SP3194をわずかに切る	ズケ17-10A-ク
SP3196	円形	13	12	5	39.41	Ⅱ	D	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3197	円形	23	23	18	39.28	Ⅱ	B		b	○		ズケ17-10A-ク
SP3198	円形	18	15	6	39.41	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3199	楕円形	17	11	4	39.40	Ⅱ	B	s	a	×	難跡	ズケ17-10A-ク
SP3200	円形	18	17	7	39.45	Ⅱ	B		a	△		ズケ17-10A-ク
SP3201	楕円形	25	15	7	39.48	Ⅱ	A		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3203	楕円形	—	22	7	39.43	Ⅱ	B		b	△		ズケ17-10A-ク
SP3204	円形	10	9	5	39.35	Ⅱ	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3205	楕円形	24	20	7	39.25	Ⅱ	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3206	円形	22	21	13	39.19	Ⅱ	B	+	b	○		ズケ17-10A-ク
SP3207	円形	17	16	8	39.21	Ⅱ	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3208	楕円形	15	12	12	39.18	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3209	楕円形	26	22	11	39.13	Ⅱ	A	+	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3210	円形	25	24	18	39.16	Ⅱ	C		c	△		ズケ17-10A-ク
SP3211	円形	20	20	3	39.33	Ⅱ	B		b	△		ズケ17-10A-ク
SP3212	不定形	24	23	52	38.93	Ⅱ	B	+	c	○		ズケ17-10A-ク
SP3214	円形	22	21	28	39.18	Ⅱ	B		a	○		ズケ17-10A-ク
SP3215	円形	15	13	7	39.35	Ⅱ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3217	—	—	20	7	39.48	Ⅱ	B		a	△	SP3219に切られる	ズケ17-10A-ク

第V-14表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 5

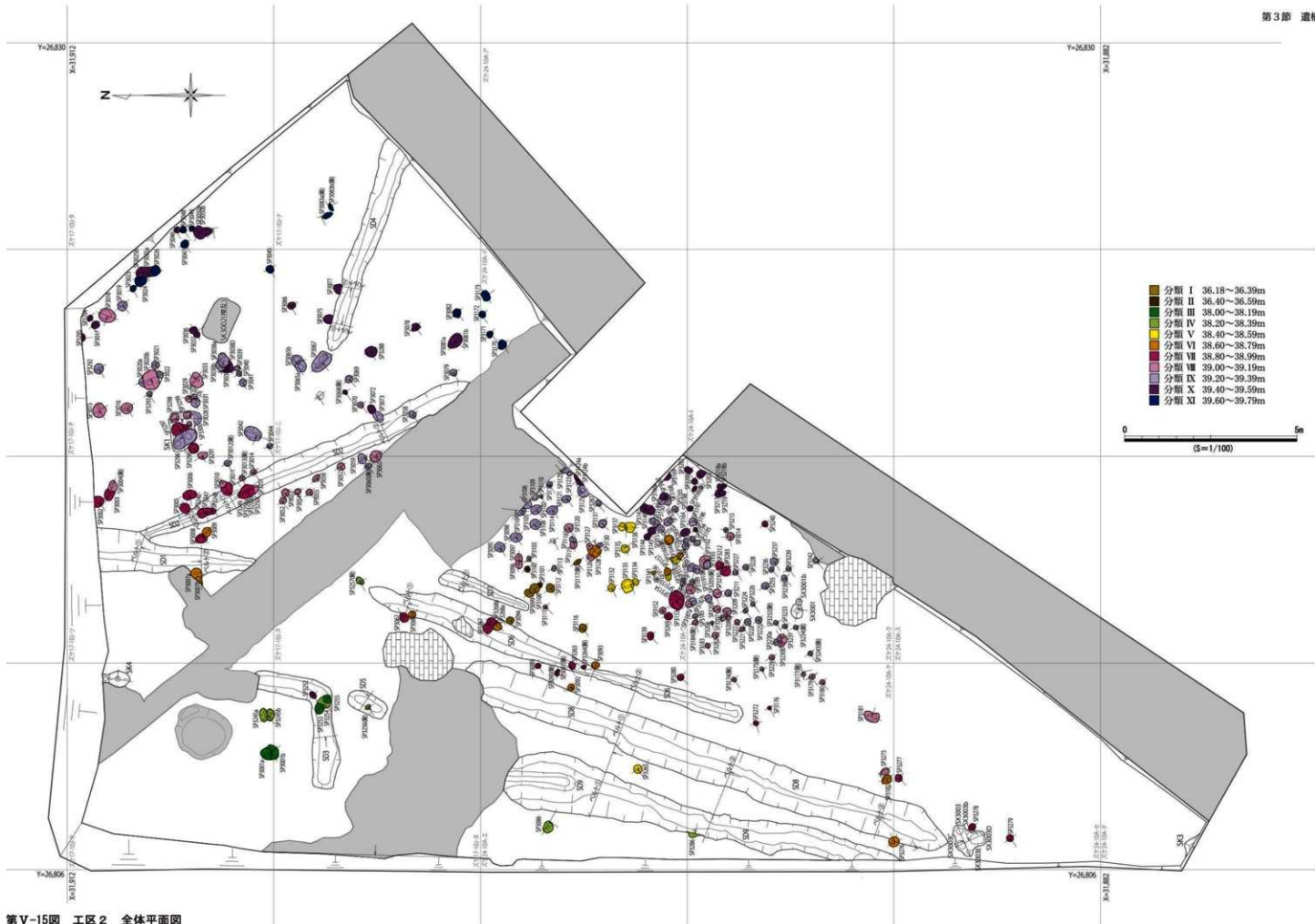
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土 柱穴の 可能性	備 考	グリッド	
		表軸	短軸	深さ		底面	断面	柱径等				
SP3218a	—	19	—	6	39.43	X	A	s		X		ズケ17-10A-ク
SP3218b	楕円形	14	12	6	39.43	X	B	s		X		ズケ17-10A-ク
SP3219	円形	17	16	8	39.46	X	D		c	X	SP3217を切る	ズケ17-10A-ク
SP3221	楕円形	20	13	7	39.16	W	A	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3222	円形	16	14	7	39.17	W	A	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3223	円形	20	20	9	39.20	IX	B		a	X		ズケ17-10A-ク
SP3224	不定形	15	14	7	39.20	IX	A	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3225	円形	20	18	7	39.23	IX	B		b	X		ズケ17-10A-ク
SP3226	楕円形	15	12	9	39.25	IX	B	s	a	X		ズケ17-10A-ク
SP3227	円形	15	15	9	39.29	IX	B	s	a	X		ズケ17-10A-ク
SP3228	円形	18	15	6	39.34	IX	B	s	a	X		ズケ17-10A-ク
SP3229	円形	16	15	9	39.12	W	A	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3230a	楕円形	19	15	6	39.23	IX	B	s	a	△		ズケ17-10A-ク
SP3230b	—	19	—	8	39.17	W	B	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3231	楕円形	27	24	21	39.11	W	A	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3232	円形	14	12	4	39.28	IX	D	s	a	X	難跡?	ズケ17-10A-ク
SP3233	円形	14	12	8	39.25	IX	B	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3234	円形	15	12	5	39.30	IX	B	s	b	X	難跡?	ズケ17-10A-ク
SP3235	円形	21	19	8	39.29	IX	B		b	X		ズケ17-10A-ク
SP3236	楕円形	15	14	7	39.32	IX	B	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3237	楕円形	25	22	15	39.21	IX	B	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3238	円形	20	16	14	39.23	IX	B	s	a	X		ズケ17-10A-ク
SP3239	円形	15	14	7	39.30	IX	B	s	b	X		ズケ17-10A-ク
SP3240	円形	17	16	10	38.90	W	B	s	c	X		ズケ17-10A-ク
SP3242	円形	18	15	11	39.26	IX	A	s	a	X		ズケ17-10A-ク
SP3243	円形	14	14	8	39.21	IX	B	s	b	X	難跡	ズケ17-10A-ク
SP3245a	楕円形	37	25	16	38.20	IV	B	+	b	△	SP3245bを切る	ズケ17-10J-テ
SP3245b	楕円形	35	—	14	38.22	IV	B	+	b	△	SP3245aに切られる	ズケ17-10J-テ
SP3246	円形	25	24	11	38.89	W	B		c	△	SP3247を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3247	楕円形	—	22	4	38.96	W	A		b	X	SP3246cに切られる、SP3248を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3248	—	—	19	6	38.94	W	B		b	△	SP3247cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3249	—	—	23	9	38.95	W	—		c	△	SP3250a,bに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3250a	—	—	35	2	39.02	W	A		c	X	SP3249、3250cを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3250b	—	—	36	7	38.95	W	A		c	X	SP3249を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3250c	—	—	33	7	38.99	W	B		c	X	SP3251を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3251	—	—	26	6	39.02	W	B		c	X	SP3250cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3252	楕円形	23	15	21	39.43	X	B		b	○		ズケ17-10J-ネ
SP3253	円形	29	27	9	38.19	II	B		a	○	SP3254を切る	ズケ17-10J-ネ
SP3254	—	—	38	11	38.23	IV	—		a	X	SP3253、3255cに切られる	ズケ17-10J-ネ
SP3255	—	—	27	19	38.15	II	B		a	○	SP3254を切る	ズケ17-10J-ネ
SP3256	楕円形	16	11	2	38.32	IV	B	s	c	X	難跡	ズケ17-10J-ネ
SP3257	楕円形	25	17	6	38.36	IV	B		a	X	難跡	ズケ17-10J-ネ
SP3258	楕円形	23	19	15	39.26	IX	B	+	c	○		ズケ17-10J-ニ
SP3263	楕円形	24	20	10	38.83	W	B		b	△		ズケ17-10A-エ
SP3264	楕円形	14	11	4	38.89	W	B	s	c	X	難跡?	ズケ17-10A-エ
SP3265	円形	25	23	10	38.57	V	B	+	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3267	—	—	28	6	38.83	W	B		b	△	SP3268bに切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3268a	楕円形	23	20	20	38.76	W	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3268b	楕円形	—	21	15	38.80	W	B		a	△	SP3267を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3269	円形	23	20	24	38.97	W	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3272	円形	14	14	14	38.86	IX	B	s	b	X		ズケ17-10A-ケ

第V-15表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 6

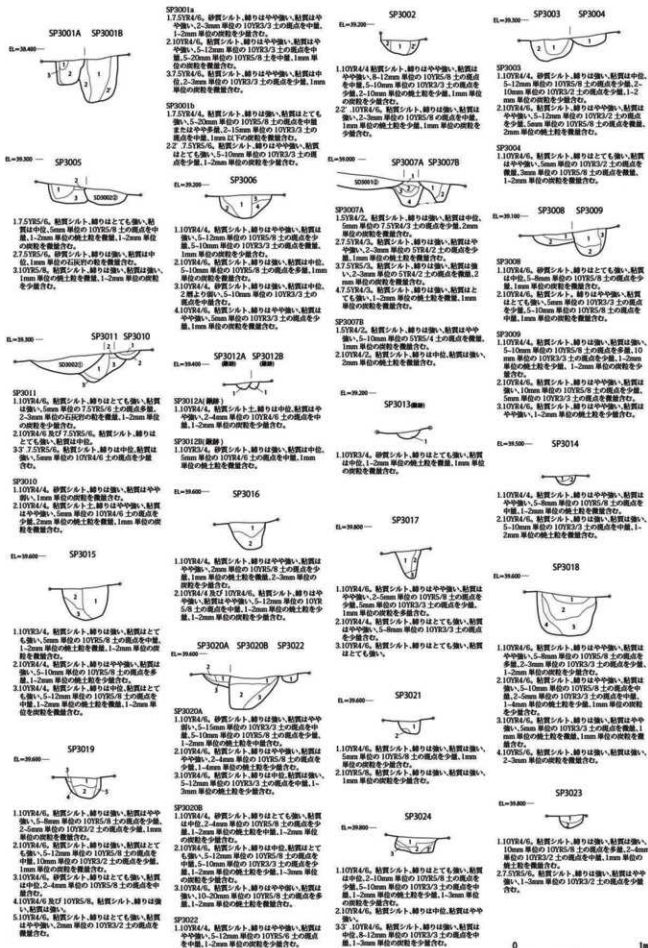
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			層土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	高さ		底面	断面	柱径等				
SP3275	楕円形	25	20	6	39.00	Ⅲ	A	b	△			ズケ17-10A-ケ
SP3276	円形	22	21	15	38.74	Ⅳ	C	+	a	○		ズケ17-10A-ケ
SP3277	楕円形	30	22	21	38.82	Ⅲ	B	+	c	○		ズケ17-10A-セ
SP3278	円形	21	20	10	38.93	Ⅲ	A	+	a	△		ズケ17-10A-セ
SP3279	円形	21	19	16	38.96	Ⅲ	C	+	a	△		ズケ17-10A-セ
SP3280	円形	19	19	19	38.81	Ⅲ	C	s	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3281	楕円形	45	26	6	39.30	Ⅲ	A		a	×		ズケ17-10A-ウ
SP3282	円形	18	16	12	39.05	Ⅲ	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3283	円形	28	27	51	38.91	Ⅲ	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3284	円形	21	20	5	39.30	Ⅲ	B		b	×	遺跡	ズケ17-10A-ウ
SP3285	円形	16	15	4	39.30	Ⅲ	B	s	b	×	遺跡	ズケ17-10A-ウ
SP3286	—	—	26	27	38.33	Ⅳ	B		a	×		ズケ17-10A-ケ
SP3287	円形	20	18	7	39.31	Ⅲ	B	s	a	×		ズケ17-10A-ウ
SP3288	円形	33	32	6	39.57	Ⅳ	D		c	×		ズケ17-10J-二
SP3290	楕円形	30	25	22	38.86	Ⅲ	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3291	楕円形	28	21	17	39.08	Ⅲ	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3292	円形	30	27	19	39.29	Ⅲ	B	+	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3293	円形	17	16	10	39.30	Ⅲ	B	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3294	—	19	13	10	39.53	Ⅳ	D	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3295	—	—	24	13	39.47	Ⅳ	B		c	×		ズケ17-10J-チ
SP3296	楕円形	78	38	19	39.29	Ⅲ	B		b	×	SP3297を切る	ズケ17-10J-チ
SP3297	—	—	37	33	38.87	Ⅲ	B		b	×	SP3296に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3298	楕円形	34	22	7	39.14	Ⅲ	B		b	×		ズケ17-10J-チ
SP3299	楕円形	27	20	10	39.13	Ⅲ	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3300	—	—	39	5	39.15	Ⅲ	B		c	△		ズケ17-10J-チ

※柱穴の可能性 ○→可能性高い △→要検討 ×→可能性低い

底面レベル(20cm区切り)	
I	36.18~36.39m
II	36.40~36.59m
III	38.00~38.19m
IV	38.20~38.39m
V	38.40~38.59m
VI	38.60~38.79m
Ⅶ	38.80~38.99m
Ⅷ	39.00~39.19m
Ⅸ	39.20~39.39m
X	39.40~39.59m
Ⅺ	39.60~39.79m



第V-15図 Ⅰ区2 全体平面図



第V-16図 ピット (SP) 1

Ⅱ-39200m SP3089



1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を散見含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を散見含む。

Ⅱ-39450m SP3094



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 2-4mm 単位の砂を散見含む。
2.10YR5/6 と 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中強い。

Ⅱ-39460m SP3099 SP3100 SP3101



SP3099
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を散見含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1mm 単位の砂を散見含む。
SP3100
1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を散見含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。
3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。
SP3101
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。

Ⅱ-39500m SP3105



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中強い, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 2mm 単位の石片を散見含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い。

Ⅱ-39200m SP3111



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。

Ⅱ-39300m SP3115



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 2mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中強い, 1mm 以下の砂を散見含む。
3.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。

Ⅱ-39200m SP3090 SP3091 (撤除)



SP3090
1.10YR3/4, 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 3-5mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 5-8mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量含む。
SP3091
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 3-5mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂土を散見含む。

Ⅱ-39400m SP3095



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を散見含む。

Ⅱ-39460m SP3102



1.10YR3/4, 砂質シルト, 締りは中, 粘質は中強い, 2mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中強い, 2-3mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-39500m SP3107



1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 8-20mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂土を少量, 1mm 単位の砂を散見含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 2-3mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を散見含む。

Ⅱ-39460m SP3112



1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1-3mm 単位の塊点を少量含む。
2.10YR3/4(5Y) と 10YR4/6(5Y), 粘質シルト, 締りは中強い, 1mm 以下の砂を少量, 1mm 単位の砂土を少量, 1mm 単位の砂を散見含む。

Ⅱ-39200m SP3117



3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質はとても強い, 1-2mm 単位の砂土を散見含む。
4.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 5mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を散見含む。

Ⅱ-39400m SP3116



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 2-5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。
3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 1mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-39400m SP3092



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 2mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 2mm 単位の砂土を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3096 SP3097



SP3096
1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 2mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量含む。
3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂土を少量含む。
SP3097
1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 10-40mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂土を少量含む。

Ⅱ-39300m SP3103



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 2-5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 5mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-39400m SP3108



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 2-4mm 単位の 10YR4/4 土の塊点を少量, 2-5mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3113



1.10YR5/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 1mm 以下の砂を少量, 1-2mm 単位の砂を少量含む。
3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 2mm 単位の塊点を少量含む。

Ⅱ-39400m SP3117(撤除)



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 2-3mm 単位の 10YR2/3 土の塊点を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中強い, 1-2mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-391800m SP3093



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR3/3 土の塊点を少量含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 10-12mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量, 2-3mm 単位の砂土を少量含む。
3.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3098



1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中, 2mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 2-5mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3109 SP3106 SP3104



SP3109
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中, 5mm 単位の塊土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 2-4mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量含む。
SP3106
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 5-10mm 単位の塊土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1-2mm 単位の塊土を少量含む。
3.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 4-6mm 単位の塊土の塊点を少量含む。
4.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中強い, 5mm 単位の塊土を少量含む, 1mm 単位の砂を少量含む。
5.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1-2mm 単位の塊土を少量含む。

SP3104
1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 2-5mm 単位の塊土を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 2-4mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3110



1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中, 1-2mm 単位の塊土を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 2mm 単位の 10YR2/3 土の塊点を少量含む。
3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1mm 単位の塊土を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3114



1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を少量含む。

Ⅱ-39460m SP3119 SP3118

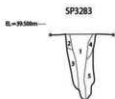


SP3119
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中強い, 2mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を少量含む。
2.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 10-12mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1-2mm 単位の砂を少量含む。
3.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 1mm 以下の砂を少量含む。
SP3118
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 10mm 単位の 10YR5/6 土の塊点を少量, 1mm 以下の砂を少量含む。
2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中強い, 粘質は中, 5-10mm 単位の 10YR3/4 土の塊点を少量含む。





第V-21図 ピット (SP) 6



- 1.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 10-12mm 単位の 10YR4/6 土の塊を少量, 10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1mm 以下の炭粒を散見含む。
- 2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR4/4 土の塊を中量含む。
- 3.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR4/4 土の塊を少量, 1mm 以下の炭粒を散見含む。
- 4.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR4/4 土の塊を中量含む。
- 5.10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR4/4 土の塊を少量, 1mm 以下の炭粒を散見含む。



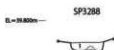
- SP3285
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR2/3 土の塊を中量, 3-5mm 単位の 10YR4/6 土の塊を少量含む。
- SP3284
1.10YR3/4, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR2/3 土の塊を中量, 3-5mm 単位の 10YR4/6 土の塊を少量含む。



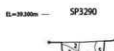
- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 4-6mm 単位の 10YR5/6 土の(塊)の塊を少量, 1mm 以下の炭粒を散見含む。
- 2.2.10YR4/6, 砂質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中位, 10-12mm 単位の 10YR4/4 土の塊を少量, 4 × 50-100mm 単位の 10YR5/6 土のV字を中量含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中位, 5-12mm 単位の 10YR5/6 土の塊を中量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は弱い, 5-8mm 単位の 10YR4/3 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5-10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は強い, 2-3mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 3mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-4mm 単位の砂土を少量, 1mm 以下の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 3.10YR4/6 及び 10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中や強い, 2-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1mm 以下の炭土粒を散見含む。
- 4.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質はとても強い, 3mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 2-3mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-2mm 単位の砂土を散見含む。
- 5.10YR5/6, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中や強い, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1-12mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中や強い, 5-12mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量含む。
- 3.10Y4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 2-4mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を少量含む。
- 4.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 2-4mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を少量含む。
- 5.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質はとても強い, 2-4mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量含む。



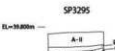
- 1.10YR4/6, 砂質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 5-10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質はとても強い, 1-12mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 2mm 単位の炭土粒を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。
- 3.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は強い, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量含む。
- 4.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 2mm 単位の炭土粒を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。



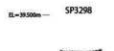
- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は強い, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。
- 2.10YR5/6, 砂質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中位, 1-2mm 単位の炭粒を中量含む。



- 1.7.5YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 2-3mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 5-8mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を中量含む。
- 2.7.5YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中位, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5-8mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。
- 2.7.5YR5/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 2-4mm 単位の炭土粒を少量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は強い, 5-8mm 単位の 10YR2/3 及び 10YR2/2 土の塊を少量, 5-10mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は強い, 5mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。



- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 10mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。
- 2.2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は強い, 5-8mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。

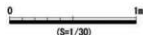


- 1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質はとても強い, 5mm 単位の 10YR5/6 土の塊を中量, 1-2mm 単位の炭土粒を少量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。



- SP3297
1.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は中や強い, 5-12mm 単位の 10YR5/6 土の塊を中量, 10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1mm 単位の炭粒を散見含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は強い, 5-10mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-2mm 単位の炭粒を散見含む。

- SP3296
1.10YR4/6 及び 10YR4/6, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中や強い, 10mm 単位の 10YR5/6 土の塊を少量, 10-15mm 単位の 10YR2/3 土の塊を少量, 1-15mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/6, 粘質シルト, 締りは中や強い, 粘質は弱い, 1-15mm 単位の炭粒を少量含む。





図版 V - 5 ピット (SP)

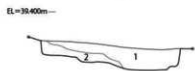
2. 土坑 (SK)

工区2で検出された土坑は、SK 1、SK 3、SK 4の3基検出された。SK 2については断ち割りの結果、攪乱と判明したため欠番とした。SK 1はSP295やSP297等複数のピットに切られているものの、深度20cm程度の堆積を有し、床面は平坦に整形されている。SK 3は調査区南端で検出されている。覆土には近世～近代相当の耕作土が堆積し、5cm大の礫が混入する。SK 4は調査区北端に位置する。覆土は暗褐色の粘質シルトを呈する。

第V-16表 工区2 土坑 (SK) 計測一覧表

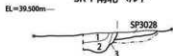
遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	所見	グリッド
		長軸	短軸	深さ			
SK1 SK3001	不定形	110	94	17	38.94	複数のピットに切られているため、平面形が不明。断面側方は床面をフラットに整形している。覆土は褐色の砂質シルトで沖繩産陶器等が出土している。	ズケ17-10J-チ
SK2 SK3002						攪乱のため欠番	
SK3 SK3003	—	(129)	—	26	39.28	調査区の南壁で確認。石灰岩礫が混入する。覆土は褐色の砂質シルトを呈し、近世～近代相当の堆積と思われる。	ズケ24-10A-テ
SK4 SK3004	楕円形	96	46	38	38.00	調査区北端に位置する。かなり締まりの弱い褐色の粘質シルトが堆積。	ズケ17-10J-テ

SK1 東西ベルト



1. 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質はやや強い, 5-12mm 程度の 10YR5/0 土の混点を少量, 10mm 程度の 10YR2/3 土の混点を少量, 1-5mm 程度の焼土粒を微量, 1-3mm または 8mm 程度の灰土を少量含む。
2. 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質はやや強い, 5-10mm 程度の 10YR5/0 土の混点を少量, 1-5mm 程度の焼土粒を微量含む。

SK1 南北ベルト



3. 10YR5/0, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質はやや強い, 5mm 程度の 10YR2/3 土の混点を少量, 1mm 程度の灰土を中量含む。

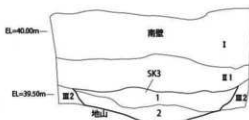
El.=38.600m

SK4



1. 10YR2/3, 砂質シルト, 締りはやや強い, 粘質はやや強い, 10mm 程度の 10YR4/0 土の混点を微量, 1mm 程度の石灰質の粒を少量, 1mm 程度の焼土粒を微量, 1-2mm 程度の灰土を少量含む。
2. 10YR2/3, 砂質シルト, 締りはやや強い, 粘質は中位, 10mm 程度の 10YR4/0 土の混点を少量, 1-2mm 程度の灰土を少量含む。
3. 10YR4/0, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質はやや強い, 10mm 程度の 10YR2/3 土の混点を少量, 1-2mm 程度の灰土を微量含む。

SK3



El.=40.00m

El.=39.50m

1. 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中位強い, 2-4mm 程度の 10YR2/3 土の混点を少量, 100-150mm 程度の石灰質の粒を微量, 1-8mm 程度の灰土を微量含む。
2. 10YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 1層より強い, 粘質はやや強い, 5mm 程度の 10YR4/0 土の混点を少量, 50-150mm 程度の石灰質の粒を少量, 2-8mm 程度の焼土粒を少量, 1-3mm 程度の灰土を少量含む。



SK1 断面 (北から)



SK1 完掘 (北から)



SK3 (北から)



SK4 (南から)

3. 溝状遺構 (SD)

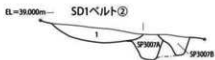
工区2では9条の溝状遺構が検出された。SD1は調査区北側に位置し、南北方向に軸を持つ。SD2はSD1から南東側に分岐する。SD3は調査区北西側に位置し、平面形が「L」字状となる。SD4は調査区の東側で検出され、東西方向に延びる。残存深度が6cmと非常に浅い。SD5はSD3の南側で検出。長軸方向は南北となるが、残存距離が1m弱と短い。深度も6cm程であり、本来は南側に延びていた可能性があるが、攪乱により消失したものであるSD6、SD7、SD8、SD9は北東-南西方向に共通の軸を持つ溝で、覆土は近世～近代の耕作土が堆積し、遺物も沖縄産施釉陶器、無釉陶器のほか、アカムヌーなどが出土している。

第V-17表 工区2 溝状遺構 (SD) 計測一覧表

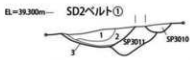
遺構№	断面ライン	計測(cm)		底面レベル (m)	所見	グリッド
		幅	深さ			
SD1	SD3001 ①	95	25	38.62	南北方向に軸を持ち、残存長は約4.5mを測る。南側に浅く攪乱で途切れる。延長上にSD6が延びるので本来は連続していた可能性がある。	ズケ17-10J-フ
	SD3001 ②	72	12	38.76		ズケ17-10J-フ
SD2	SD3002 ①	62	21	38.96	SD1から南東方向に分岐するように伸びる。南側は攪乱によって切られる。	ズケ17-10J-フ
	SD3002 ②	67	11	39.32		ズケ17-10J-ニ
	SD3002 ③?	32	12	38.93		ズケ17-10J-フ
SD3	SD3003	55	7	38.33	平面形がL字状となる溝で、床面はフラットに整形される。残存深度が10cm以下と浅い。遺物の出土はないが、覆土より近世～近代相当と推測される。	ズケ17-10J-ネ
SD4	SD3004 ①	58	6	39.54	北西-南東方向に延びる。残存する堆積土が薄く範囲が不明瞭。軸としてはSD1やSD6とほぼ垂直方向になる。畑の区画として形成されたものか。	ズケ17-10J-ニ
	SD3004 ②	40	6	39.54		ズケ17-10J-ニ
SD5	SD3005	50	6	37.72	概ね南北方向に軸を持つ。残存長が120cm程を測る。	ズケ17-10J-ネ
SD6	SD3006 ①	54	10	38.89	概ね北東-南西方向に軸を持つ。残存長は約11.5mを測る。覆土は褐色の砂質シルトを呈し、カムイヤキや沖縄産陶器などが出土している。	ズケ17-10J-ヌ
	SD3006 ②	30	2	38.90		ズケ24-10A-エ
SD7	SD3007 ①	43	3	39.09	SD6の北東側に同軸に位置する。	ズケ17-10J-ヌ
SD8	SD3008 ①	139	8	38.72	SD6の南西側に同軸に位置する。残存長は約15mを呈し、覆土は褐色の砂質シルトが堆積する。沖縄産陶器が出土している。	ズケ24-10A-エ
	SD3008 ②	116	11	38.76		ズケ24-10A-ケ
	SD3008 ③	90	22	38.75		ズケ24-10A-ケ
SD9①	SD3009 ①	124	34	38.40	SD7の南西側に同軸に位置する。残存長は約11mを測り、東壁へ続く。北側の断面①では溝の東側が深く西側へ浅くなる態方となっている。	ズケ24-10A-エ



1.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中～強い, 5-10mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の焼土粒を少量, 2mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.7.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 1-5mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の焼土粒を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。
 3.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中～強い, 5-10mm 単位の礫の土の頂点を少量, 50-120mm 単位の石片の石を少量, 1-3mm 単位の焼土粒を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。



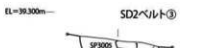
1.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中位, 1-4mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は強い, 2-10mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.7.5YR4/2, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中位, 5-10mm 単位の7.5YR4/3土の頂点を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。
 3.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は強い, 2-4mm 単位の7.5YR4/2土の頂点を少量, 2mm 単位の石片の石を少量含む。



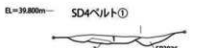
1.5YR4/2, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中～強い, 10-15mm 単位の7.5YR4/3土の頂点を少量, 1-3mm 単位の焼土粒を少量, 1-3mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.7.5YR4/2, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は強い, 5-10mm 単位の5YR4/2土の頂点を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中～強い, 5mm 単位の5YR4/4土の頂点を少量, 2-4mm 単位の焼土粒を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR5/3, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 5-10mm 単位の5YR4/2土の頂点を少量, 1mm 単位の石片の石を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.5YR4/2, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中～強い, 5mm 単位の7.5YR5/3土の頂点を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。
 3.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中～強い, 5-10mm 単位の7.5YR5/3土の頂点を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中～強い, 5mm 単位の5YR4/4土の頂点を少量, 2-4mm 単位の焼土粒を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.5YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は強い, 5-10mm 単位の7.5YR4/3土の頂点を少量, 1mm 以下の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中～強い, 5mm 単位の5YR4/4土の頂点を少量, 2-4mm 単位の焼土粒を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR5/4, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中～強い, 5-10mm 単位の5YR4/4土の頂点を少量, 1mm 以下の磁石粒を少量含む。
 2.7.5YR4/4, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は強い, 5mm 単位の7.5YR5/4土の頂点を少量含む。



1.5YR4/3, 粘質シルト, 締りはとても強い, 粘質は中位, 2-4mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-3mm 単位の磁石粒を少量または中～少量含む。



1.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中～強い, 5-15mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1mm 以下の磁石粒を少量含む。



SD9000①
 1.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中位, 4-6mm 単位の礫の土の頂点を少量, 50mm 単位の石片の石を少量, 3-4mm 単位の磁石粒を少量, 3-4mm 単位の磁石粒を少量含む。
 2.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中位, 粘質は中位, 1個より強い, 10-20mm 単位の礫の土の頂点を少量, 15mm 単位の石片の石を少量, 2-4mm 単位の焼土粒を少量, 2-3mm 単位の磁石粒を少量含む。
 3.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中～強い, 5-15mm 単位の礫の土の頂点を少量, 20mm 単位の石片の石を少量, 2-3mm 単位の焼土粒を少量含む。



SD8①
 1.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中位, 2-3mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の焼土粒を少量, 1mm 単位の磁石粒を少量含む。



SD6②
 1.5YR4/2, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 5-12mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-3mm 単位の焼土粒を少量, 1-3mm 単位の磁石粒を少量含む。

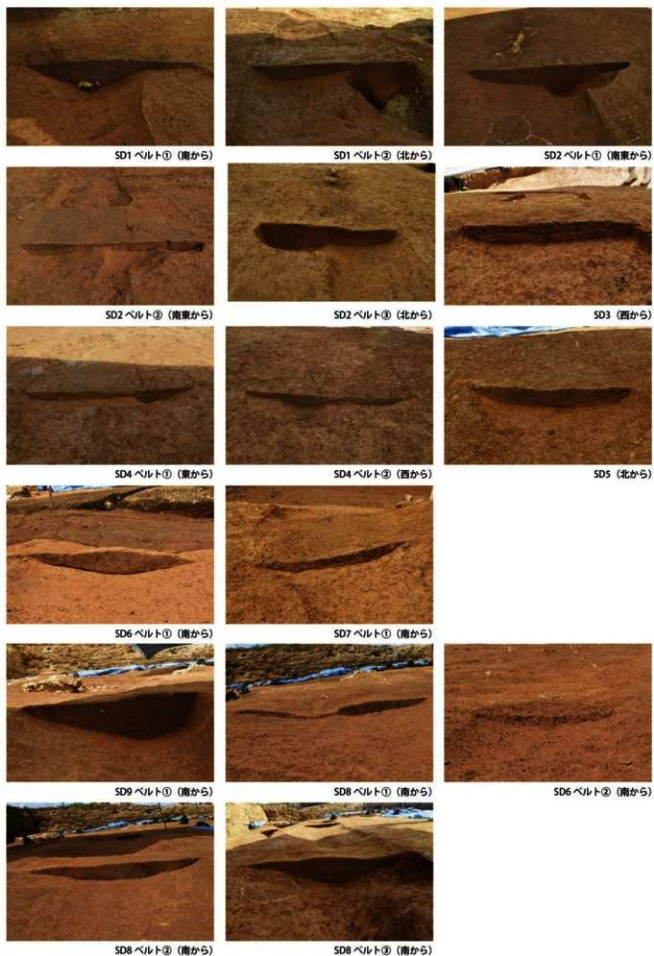


1.7.5YR4/2 及び 7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中～強い, 5-10mm 単位の礫の土の頂点を少量, 2-4mm 単位の焼土粒を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。



1.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 5-10mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の焼土粒を少量, 1mm 以下のマンガン粒を少量含む。
 2.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは強い, 粘質は中位, 5mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-3mm 単位の焼土粒を少量, 1-2mm 単位のマンガン粒を少量含む。
 3.7.5YR4/3, 粘質シルト, 締りは中～強い, 粘質は中～強い, 5mm 単位の礫の土の頂点を少量, 1-2mm 単位の磁石粒を少量含む。





図版 V - 6 溝状遺構 (SD)

4. 不明遺構 (SX)

工区2では性格不明な遺構としてSX3001AとB、SX3003A～Eの計7基の遺構を不明遺構とした。特にSX3003は5つの遺構が切り合っており、また覆土類似しているため、平面検出時では切り合い関係を把握することができなかった。だ断面観察の結果、SX3003Cを中心としたピットと想定されるが、その他のピット群とは位置的に離れており、現段階ではSXとして報告する。



SX3001 (南より)



SX3001 半掘 (分層後) (南より)



SX3003 断面① (北西から)



SX3003 断面② (東より)

第4節 遺物

新城大道原第一遺跡出土の遺物は総数173点が出土しており、先史土器・グスク土器・カムイヤキ・中国産陶磁器（青磁、白磁、青花）・本土産磁器・沖縄産陶器・石器・その他金属製品などが得られた。工区別に見ると、工区1では計123点出土しており、先史土器・グスク土器を主体として岩盤直上やSX2001からの出土が顕著である。工区2では計51点出土しており、工区1とは対照的に土器が少なく、青磁・白磁は出土していない。ただし、カムイヤキが1点出土している（第V-18表、第V-30図、図版V-8）。工区2では沖縄産施釉陶器・沖縄産無釉陶器・アカムヌーの出土が多い。以下、比較的状态が良好な遺物について報告する。

1. 先史土器

先史土器は総数32点出土しており、すべて工区1からの出土である。くびれ平底が出土している。比較的状态の良いもの8点を、第V-18表、第V-29図、図版V-7にて報告する。

2. グスク土器

グスク土器は総数25点得られており、こちらもすべて工区1からの出土である。鍋・壺などの資料が得られている。比較的状态の良いもの1点を第V-18表、第V-29図、図版V-7にて報告する。

3. カムイヤキ

カムイヤキは1点のみ出土しており、第V-18表、第V-30図、図版V-8にて報告する。

4. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は青磁、白磁、青花などが4点のみ出土している。青磁・染付は細片のため白磁1点のみを、第V-18表、第V-30図、図版V-8で報告する。

5. 本土産磁器

本土産磁器は工区1から3点のみ出土しており、小杯・皿などが得られている。そのうち2点を、第V-18表、第V-30図、図版V-8にて報告する。

6. 沖縄産陶器

(1) アカムヌー…総数14点出土している。比較的状态の良いもの2点を、第V-18表、第V-30図、図版V-8にて報告する。

(2) 沖縄産無釉陶器…総数22点出土しており、鉢・火炉・すり鉢などが得られている。比較的状态の良いもの5点を、第V-18表、第V-30図、図版V-8にて報告する。

(3) 沖縄産施釉陶器…総数15点出土しており碗などが得られている。4点を、第V-19表、第V-31図、図版V-9にて報告する。

7. 石器

石器は総数8点が出土している。そのうち5点を、第V-19表、第V-31・32図、図版V-9・10にて報告する。

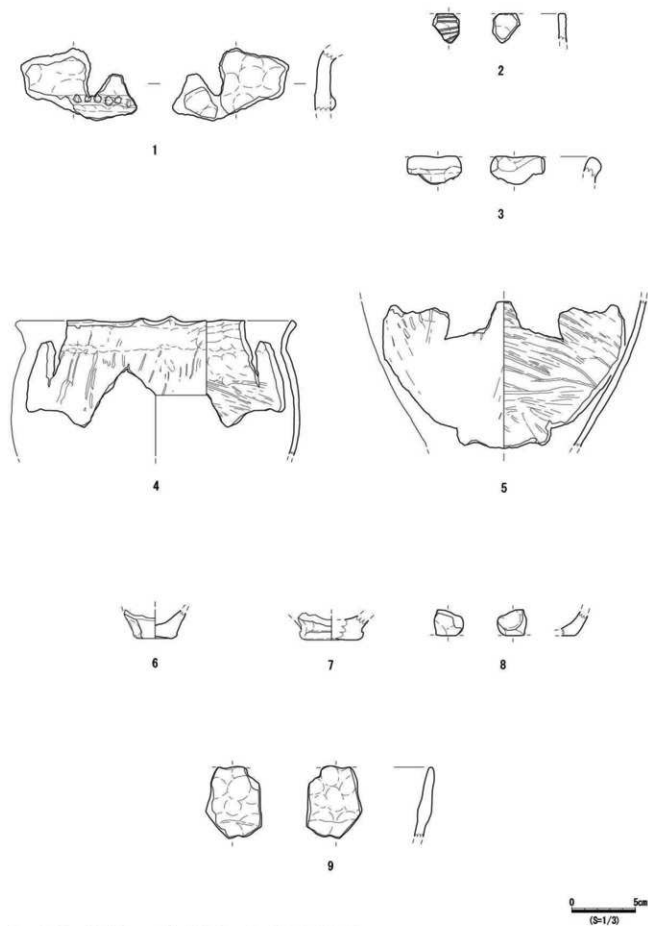
第V-18表 出土遺物観察一覧1

押出番号 図版番号	器種・分類	部位	口器高 底径	観察事項	出土地	
第Ⅷ-29図 図版Ⅷ-7	先史土器	1	胴	— — —	深鉢型土器の胴部。貼付突起で、突起には工具による押捺刻文が施される。胎土は黒色。混和材は白色砂粒、石英、黒色砂粒。色調は外面 黄褐色。内面 暗赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <131> (岩盤直上)
		2	口	— — —	口縁とその直下に沈線文が5条施される。整然として見えるが全容は不明。胎土は黒褐色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 暗赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <140> (SX2001)
		3	口	— — —	口縁三角状に肥厚する。混入物が大きく成形が雑。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、石英。色調は内外面 黄褐色。	H28西7テ 2-1区 <122> (SX2001 1層)
		4	口～胴	22.2	口縁外反し、波状を呈する。内外面に工具による調整痕が残る。薄型で焼成が良い。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は内外面 赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <178><168> (SX2001 1層)
		5	胴	— — —	無紋で内外面に工具による調整痕が明瞭に残る。薄型で焼成が良い。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は内外面 暗赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <167> (SX2001)
		6	底	— 2.3	くびれ平底。底部から薄くくびれを作り、開くように立ち上がる。胎土は淡褐色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 淡褐色。	H28西7テ 2-1区 <106> (岩盤直上)
		7	底	— 5	くびれ平底。底部から明瞭にくびれを作り、開くように立ち上がる。4と比較して表面が滑らか。胎土は赤褐色。混和材は白色砂粒。色調は内外面 赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <129> (岩盤直上 III層)
		8	底	— — —	平坦に成形された底部片。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 黄褐色。	H28西7テ 2-1区 <172> (SX2001 1層)
		9	グスク土器	口	— — —	グスク土器の口縁部。内外面に指圧痕が明瞭に残る。焼成良好で硬質。胎土は暗褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は外面 暗赤褐色 内面 暗褐色。
第Ⅷ-30図 図版Ⅷ-8	10	カムイヤキ	胴	— — —	器種不明のカムイヤキ胴部。内外面に叩き痕が残る。内外面 灰褐色。素地は暗褐色。	H28西7テ 2-2区 <9> (SD3006)
	11	中国産 白磁	底	6.4	白磁碗の底部片。高台は内面を作らず、底面は厚い。器厚は薄い。素地は白色。焼成は細粒子。外底面以外に施軸する。貫入あり。内外面に気泡痕あり。	H28西7テ 2-1区 <107> (岩盤直上)
	12	本土産 磁器	香炉 口	18.5 —	口縁内面から胴部にかけて施軸する。施軸後、頸部に花文を描く。	H28西7テ 2-1区 <150> (攪乱)
	13	小杯	底	— 3.4	近代本磁の小杯。外面に軸で文様を描く。墨付けに砂が付着する。	H28西7テ 2-2区 <31> (攪乱)
	14	アカムヌー	鍋 口	20.7 — —	口縁内湾し、口唇はL字状に外面に向けて折れて受け部を作る。外面調整痕明瞭で、受け部までスガが付着する。器色は外面 褐色 内面 淡褐色。素地は黄褐色。	H28西7テ 2-2区 <17> (SD3006)
	15	鍋	蓋	— — —	鍋の蓋。受け部は欠損。つまみ部は削り出し。つまみ部径5.9cm。器色は内外面 明褐色。素地は明褐色。	H28西7テ 2-2区 <23> (SD3001)
	16	煮	底	14.3	底部は平坦で、腰は張らずに立ち上がる。内面に軸轆痕が見られる。器色は内外面 灰褐色。素地は褐色。	H28西7テ 2-1区 <95><195><87> (SD2001 II層)
	17	煮	頸～胴	— — —	短頸で中型であると考えられる。内外面にナデ調整痕明瞭で肩部に一条沈線が廻る。器色は内外面 暗褐色。素地は暗赤褐色。	H28西7テ 2-2区 <1> (SK3001)
沖縄産 無軸陶器	18	鉢	把手	— — —	口縁わずかに内湾し、直下に把手を張り付ける。器色は外面 暗黄褐色 内面 褐色。素地は赤褐色。	H28西7テ 2-2区 <11> (SD3006)
	19	摺鉢	口	— — —	口唇L字状に折れ、端部はわずかに肥厚する。口唇端部に一条沈線が廻る。器色は外面 橙褐色 内面 暗褐色。素地は暗赤褐色。	H28西7テ 2-1区 <150> (攪乱)
	20	摺鉢	底	— — —	摺鉢の底部片。外面軸轆痕明瞭。内面は浅く細かい溝が等間隔に施される。器色は内外面 褐色。素地は褐色。	H28西7テ 2-2区 <19> (SD3009)

第V-19表 出土遺物観察一覧2

挿図番号 図版番号	器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第Ⅷ-31図 図版Ⅷ-9	21	瓶		頸	— — —	内面轆轤痕明瞭。外面胴部に輪索による構成不明の文様が施される。素地は黄灰褐色。焼成良い。外面に白化粧した後、胴部に施文し透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28西7テ 2-2区 <31> (覆乱)	
	22	急須	I	(ハ)	口～胴	6 — —	轆轤引きの黒釉陶器。素地は黄褐色。焼成良い。口縁内面から胴部にかけて黒釉を直接施す。細かい貫入あり。	H28西7テ 2-2区 <1> (SK3001 1層)
	23	小杯	Ⅲ	(イ)B	口～底	8.3 4.4 3.8	口縁外反。畳付けは軸剥ぎされる。見込みは蛇の目軸剥ぎされる。素地は灰白色。焼成良い。全面に白化粧した後、透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28西7テ 2-2区 <28> (表採)
	24	碗	I	(イ)1	底	— — 6.4	灰釉碗の底部片。高台削り明瞭で、内面は見込みからフィガキ一される。素地は黄白色。焼成良い。外面立ち上がりから内面にかけて施釉し、内面は見込みからフィガキ一する。	H28西7テ 2-2区 <20> (SD3006)

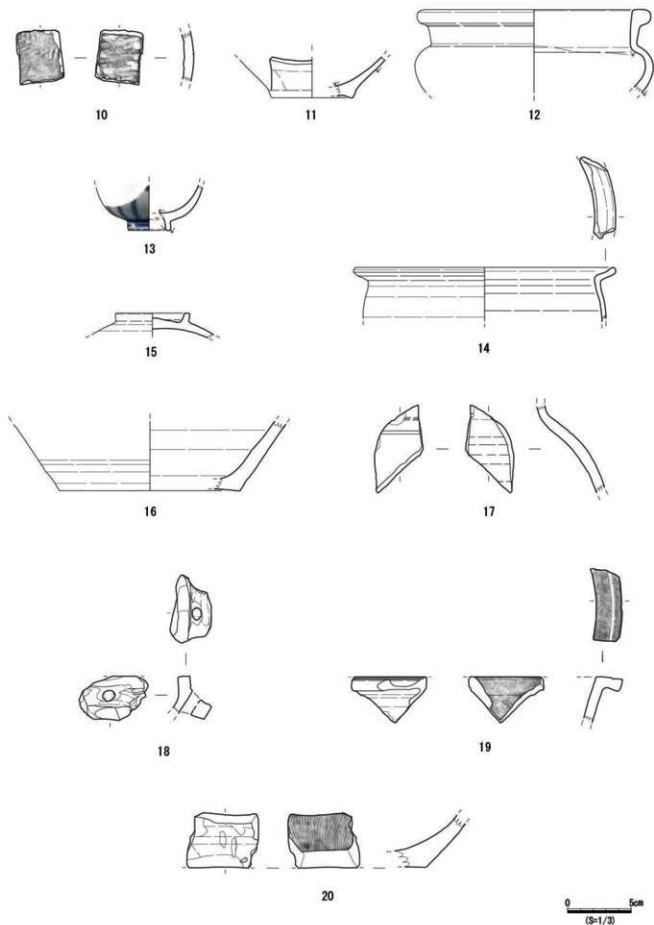
挿図番号 図版番号	器種	石質	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
			長さ	幅	厚さ	重量			
第Ⅷ-31図 図版Ⅷ-9	25	磨製石器	10.1	5.1	5.1	240	表面の一部が磨られて平面になる。裏面は打ち欠いて成形される。	H28西7テ 2-1区 <134> (岩盤直上)	
	26	敲打石器	砂岩	7.9	5.9	4.4	300	片手で持って打ちつけるタイプの敲打石器。表面以外を打ち欠いて成形し、表面は自然面を利用する。表面の広い範囲に使用痕が残る。	H28西7テ 2-1区 <123> (地山直上)
	27	石斧片	砂岩	6.1	4.1	2.6	97.3	端部は研磨によって整えられる。表面と裏面は打ち欠いて平坦に成形される。刃部は欠損。	H28西7テ 2-1区 <43> (SX2001)
第Ⅷ-32図 図版Ⅷ-10	28	磨製石器	17	16.9	12.2	4,650	球状の磨石。一部欠損部を除き、全体的に研磨される。	H28西7テ 2-1区 <82> (SP2032)	
	29	石皿	二一七	23.2	17.6	10.5	5,900	表面中央から端にかけて使用痕が残る石皿。大型で設置して使用するものと考えられる。	H28西7テ 2-2区 <169> (SX2001)



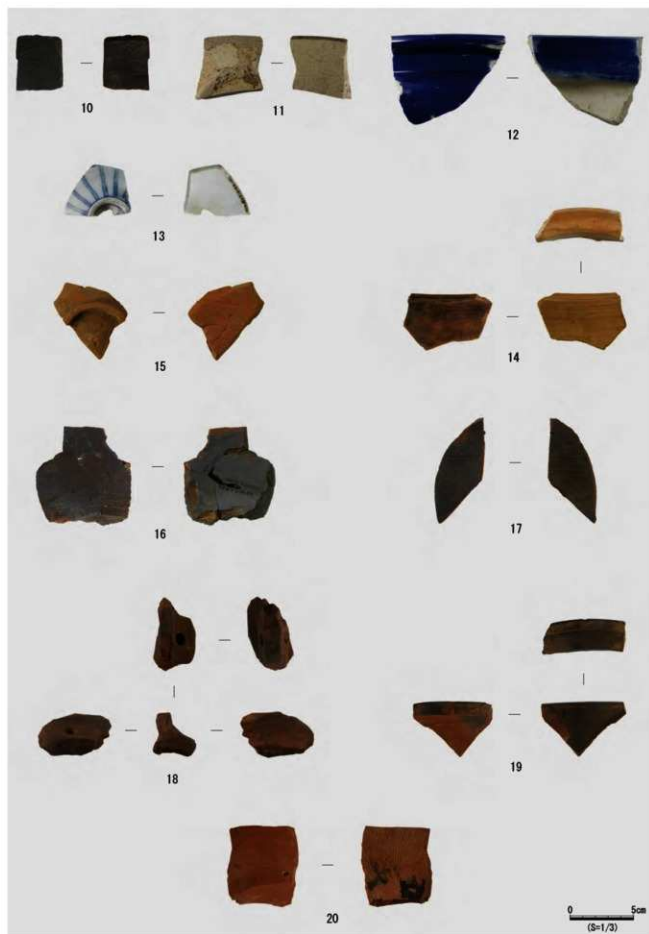
第V-29図 出土遺物1 先史土器(1~8)、グスク土器(9)



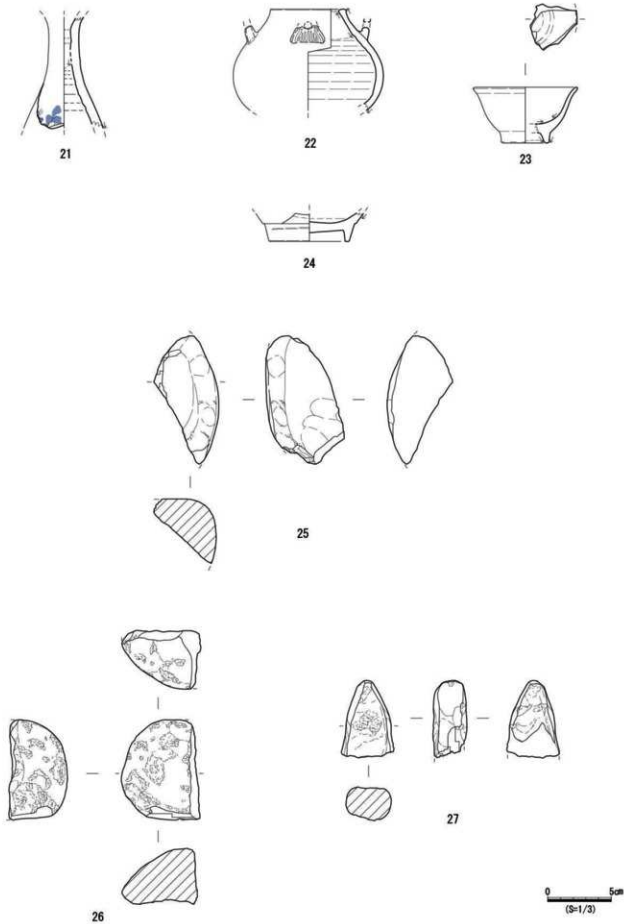
図版V-7 出土遺物1 先史土器(1~8)、グスク土器(9)



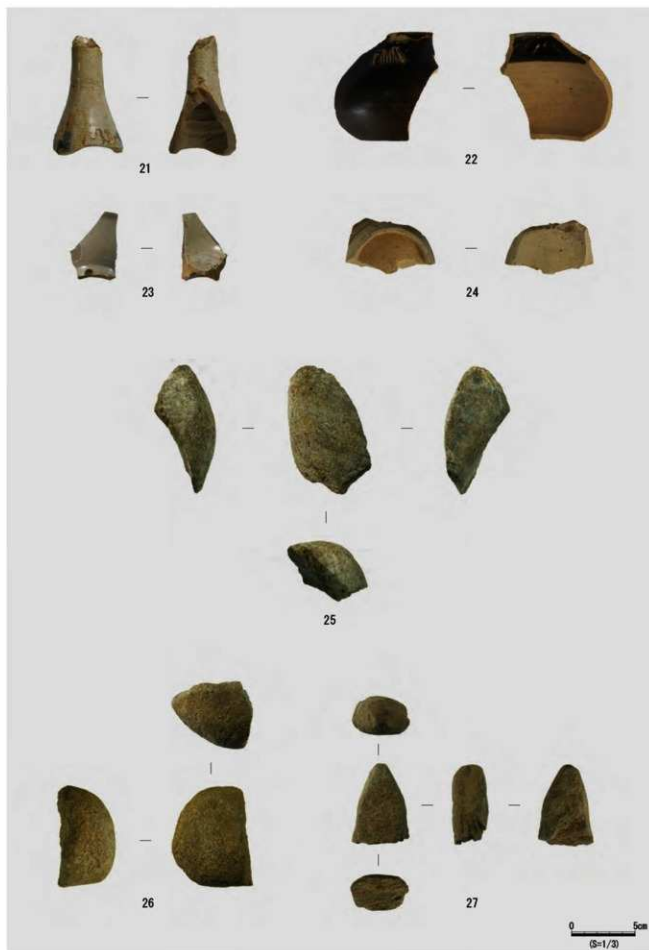
第V-30図 出土遺物2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、本土産磁器 (12・13)、アカムヌー (14・15)、
沖繩産無釉陶器 (16～20)



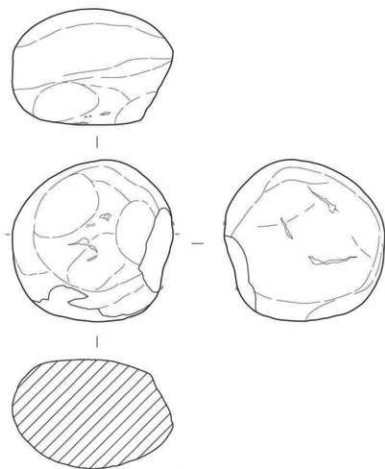
図版V-8 出土遺物2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、本土産磁器 (12・13)、アカムヌー (14・15)、
沖縄産無釉陶器 (16～20)



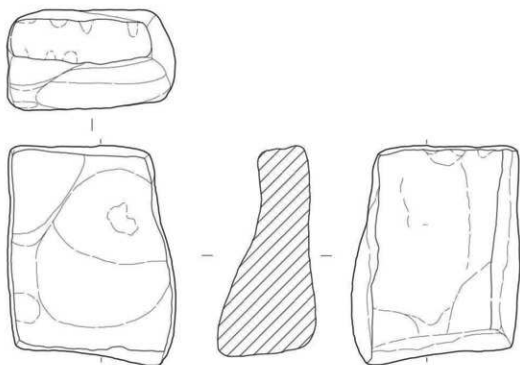
第V-31 圖 出土遺物3 沖縄産施釉陶器 (21～24)、石器 (25～27)



図版V-9 出土遺物3 沖縄産施釉陶器 (21～24)、石器 (25～27)



28



29



第V-32圖 出土遺物4 石器



図版V-10 出土遺物4 石器

第V-20表 出土遺物集計表(工区1)

出土地点	種別 器種	先史 土器	グス ク 土器	不明 土器	白磁 不明	青磁 不明	青花 不明	沖縄産施軸陶器			沖縄産無軸陶器			本 土 産 磁器	瓦 等	金 属 製 品	石 器 ・ 石 材	貝 類	骨 類	不 明	合 計	
								碗	皿	鉢	壺	甕	罎									不明
層序	I層																					
	II層			1																	1	
	III層		1	4																	5	
	岩盤直上	9	16	7	1					1		1		1	1						37	
SP	2001	5		1								1									7	
	2024	1																			1	
	2030			1																	1	
	2032																1				1	
	2034	1															1		1		3	
	2036		1																		1	
	2038		1																		1	
	2072		1																	1	2	
SD	2001	1																			1	
	2002	1				1															2	
	2004		1	3								2								1	6	
SX	2001	13	2	14													1	1		3	34	
	2001-3		1																		1	
	2001-A						1														1	
	攪乱	1				1			1			2	5	3					1	3	17	
不明		1																		1		
合計		32	25	31	1	2	1	0	0	1	1	0	2	9	3	1	1	3	1	1	9	123
					1	2	1		1			12										

第V-21表 出土遺物集計表(工区2)

層位等	種別 器種	先史 土器	グス ク 土器	不明 土器	カムイ ヤキ	沖縄産施軸陶器					沖縄産無軸陶器				ア カ ム ヌ ー	石 器 ・ 石 材	不 明	合 計			
						碗	皿	鉢	瓶	急須	不明	壺	甕	罎					不明		
層序	I層																				0
	II層			1							1										2
	III層			5																1	6
	遺構直上										1		1		1		2				5
SP	3133																1				1
	3156																			1	1
	3228																			1	1
	3274																			1	1
SK	3001								1		2					1	5				9
SD	3001									1							1				2
	3008									1							1				2
	3002																1				1
	3006				1	2					1		1		1	4					10
	3007										1						1				2
	3009										1										1
攪乱					1								1				2				4
不明					1			1	1												3
合計		0	0	6	1	4	0	0	1	1	8	2	1	2	0	5	14	5	1		51
											14										

第5節 自然科学分析

はじめに

新城大道原第一遺跡より採取した試料から、年代観や古植生、植物資源利用、土壌の理化学性などに関する情報を得ることを目的として、バリノ・サーヴェイ㈱に放射性炭素年代測定、花粉分析・微粒炭分析、植物珪酸体分析、微細物分析、土壌理化学分析を委託した。本節では紙幅の都合により分析結果に基づく考察のみ以下に記す。

1. 考察

放射性炭素年代測定の結果をみると、SP2001、SP2021、SP2028、SP2036、SP2037は、いずれも類似しており、補正年代で1,150～1,120yrBP、暦年代で8世紀後半～10世紀後半(calAD 777～981)の値が得られている。これは、遺構の埋積年代を反映していると推測される。

植物化石についてみると、花粉化石、植物珪酸体、炭化種実のいずれも、産状が悪い。花粉化石や植物珪酸体は、前述の新城上殿遺跡と同様の理由により、堆積後に分解・消失した可能性が高い。

検出された植物化石から、古植生について検討すると、木本類ではマツ属、ニレ属一ケヤキ属の花粉化石が確認された。マツ属は周囲の山野や二次林に、ニレ属一ケヤキ属は河畔などに生育していたと考えられる。また、炭化種実では確認されたイヌザンショウ亜属は、河原や崩壊地、伐採跡などの日当たりの良い場所に生育する落葉高木のカラスザンショウ、または常緑藤本のツルザンショウの可能性があり、周辺の低地の二次林に生育していたと考えられる。草本類ではイネ科、アカザ科、ナデシコ科、セリ科、ヨモギ属、タンポポ科など、いずれも開けた明るい場所に生育する種群が確認されたことから、調査地周辺の草地などに由来すると思われる。

微粒炭についてみると、SP2001で多く、SP2036でやや多いが、その他はいずれも少ない。各遺構間に見られた微粒炭数の差については、現時点で判断しかねる。

一方、土壌の理化学性についてみると、今回の分析試料は、鉄の形態分析により全試料が赤色土に分類され、遊離酸化鉄のうちの結晶質鉄の占める部分が、非晶質鉄に比べ多いことが示された。全鉄から占める遊離鉄の割合が多く、さらに、結晶化指数が高いことから風化や土壌生成が進んでいると捉えられる。

SP2001では他の試料に比べ腐植含量が多いうえ、腐植の発達度合いが良い。試料確認時に黒色物質が確認され、炭化物の可能性はあるが、マンガン含量を分析していないため、詳細な言及はできないが、腐植についてはこの黒色物質の影響の可能性が挙げられる。このことから、SP2001生成環境では耕作や火入れ、生活跡等の人為による影響の可能性が挙げられる。また、カルシウム含量が多く、付随してリン酸含量、可給態リン酸が多いことから、試料確認時には見られなかったが、石灰質成分が混入している可能性も挙げられる。他の試料においては各分析値とも一定であり、特徴的な結果が得られないこと。このことから、土壌生成環境についての具体的な言及はできない。したがって、SP2001においては他の試料生成環境と異なることが示される。

第6節 総括

本節では当該遺跡の調査内容について前節までの報告を整理しつつ、これまでの調査成果から遺跡の性格等について検討する。新城大道原第一遺跡は西普天間住宅地区の北側に位置する遺跡で、グスク時代から近世～近代の複合遺跡である。平成26年度に実施した試掘調査及び平成27年度の確認調査によって新規に発見された。遺跡の周辺一帯は標高35～40mの石灰岩丘陵に位置し、現況地形として遺跡の北側に向かって緩やかに傾斜する緩斜面地となっている。調査区は試掘調査によって遺構がまとまって検出された箇所を中心に工区1（約720㎡）と工区2（約660㎡）を設定し、計約1380㎡を調査した。

工区1の堆積を見ると岩盤直上まで米軍の造成土が堆積し、辛うじて南東側に褐色シルトの包含層が残存しているものの、プライマリーな包含層はほとんど残っていなかった。工区1で検出された遺構は柱穴を含むピット（SP）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が確認されている。ピットは柱痕が確認できるものも見られたが、明確な建物プランとしては確認できなかった。また、特筆する遺構として調査区の北東側と南東側に露出する石灰岩岩盤を結ぶようにSD4が確認されている。掘方断面が逆台形状を呈しており、南東側からの雨水等を受け止めるような排水路としての機能が想定される。ただし、堆積する覆土断面に流水の痕跡は確認できていない。また、SD4に隣接して性格不明な遺構（SX2001）が検出された。覆土に石灰岩礫が充填されており、部分的に隙間が見られる。土器片などが出土するが流れ込みの可能性が考えられる。

工区2の周辺一帯は、基地建設によって道路や宅地として造成された箇所、地山面まで造成土が堆積していた。遺構は地山の島尻マージ層を掘り込んで造られたものが検出されている。工区2の東～南東側にピットが多数まとまって検出された。基底面のレベルが39.2m～39.6mがほとんどを占めるが深度が10cm未満と浅いものが多く、柱穴と判断できるものは少ない。堀棒等による植栽痕の可能性も想定される。工区2の西側には南北方向に軸を持つ複数の溝状遺構が並んでおり、斜面に対して横断するように配置されることから雨水などの流れをコントロールするために設置されたと思われる。本遺跡は戦前まで耕作地として使用されており、これに関連する遺構と思われる。

全体的に遺物の出土は少なく、工区1で123点、工区2で50点となっている。青磁や白磁などの中国産陶磁器はほとんどなく、工区1で土器（先史土器32点、グスク土器が25点、不明31点）が多数出土している（ほとんどがSX2001内からの出土）。逆に工区2からは土器片6点のみが出土している。グスク時代の遺構としては工区1のSD4（溝状遺構）やSX2001（不明遺構）、工区2のピット群などがある。近世～近代の遺構は両区ともに溝状遺構が見られる。特に工区2ではSD1、SD6、SD8、SD9の溝状遺構が斜面地形を横断するように検出されている。

工区1、工区2ともに遺跡の性格として集落よりも生産遺跡（耕作などに関連する）に近い様相を呈していると思われる。しかし、工区1と工区2では明らかに出土している遺物の構成が異なるため、別の遺跡の可能性も留意する必要がある。近世～近代にかけては両遺跡とも耕作地として使用されていたと思われるため、今後はグスク時代以前の様相に焦点を当てて再度資料の検討が必要と思われる。

第VI章 新城大道原第二遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城大道原第二遺跡は平成27年度に文化庁の補助を受けて実施した試掘調査により新規に見発見された。遺跡は新城大道原南側に位置しており、県道81号線から北側約30m程に位置する。返還前までは米軍住宅が建ち並び、芝生がひかれた広い庭や区画整理された道路など整然とした雰囲気であった。本遺跡の調査に入る前にはこれらの建物や道路及び埋設管等の撤去が優先的に行われる必要があったため、調査は平成28年1月からの開始となった。

調査区の設定は、過年度試掘調査の成果を基に約1,116㎡を設定した。一帯は基地建設に伴う造成工事によって旧地形は失われており、試掘調査の結果でも包含層はほとんど確認できず、造成土直下に地山（烏尻マーヅ層）が確認されている。検出された遺構はこの地山面を掘り込んで形成されたもので、米造成工事による消失から幸うじて免れたものであった。表土及び造成土は基本的に重機によって除去し、包含層または遺構が確認できた段階で人力による掘削または清掃作業を行った。



第VI-1図 調査位置図

【日誌抄】

- 1月6日：重機による表土掘削及び不発弾探査を実施。
- 1月23日：民間業者導入。
- 1月26日：調査区の安全対策等環境整備。
- 2月13日：壁面清掃。南壁で近世～近代相当の耕作土を確認。

- 2月15日：遺構検出作業。埋土が耕作土系となる溝やピットを多数検出。
2月22日：地山または包含層上面で遺構検出。南西―北東方向の杭列を確認。
2月28日：遺構検出状況撮影（高所作業車）。
3月3日：ピット・土坑の半載。調査区北側に堆積する暗褐色シルト層を掘り下げ。同層は壁面ではほぼ見られず、土器などの遺物が少量出土している。
3月8日：焼土集中箇所確認。検出された状況等から原位置ではないと判断した。別の場所で焼かれたものがこの場所に廃棄されたと考えられる。
3月15日：土坑（SK501）半載。岩盤直上まで掘り込まれている。
4月3日：完掘状況を撮影し調査完了。



調査区遺景（東から）



遺構掘削作業状況



SK2001 実測状況

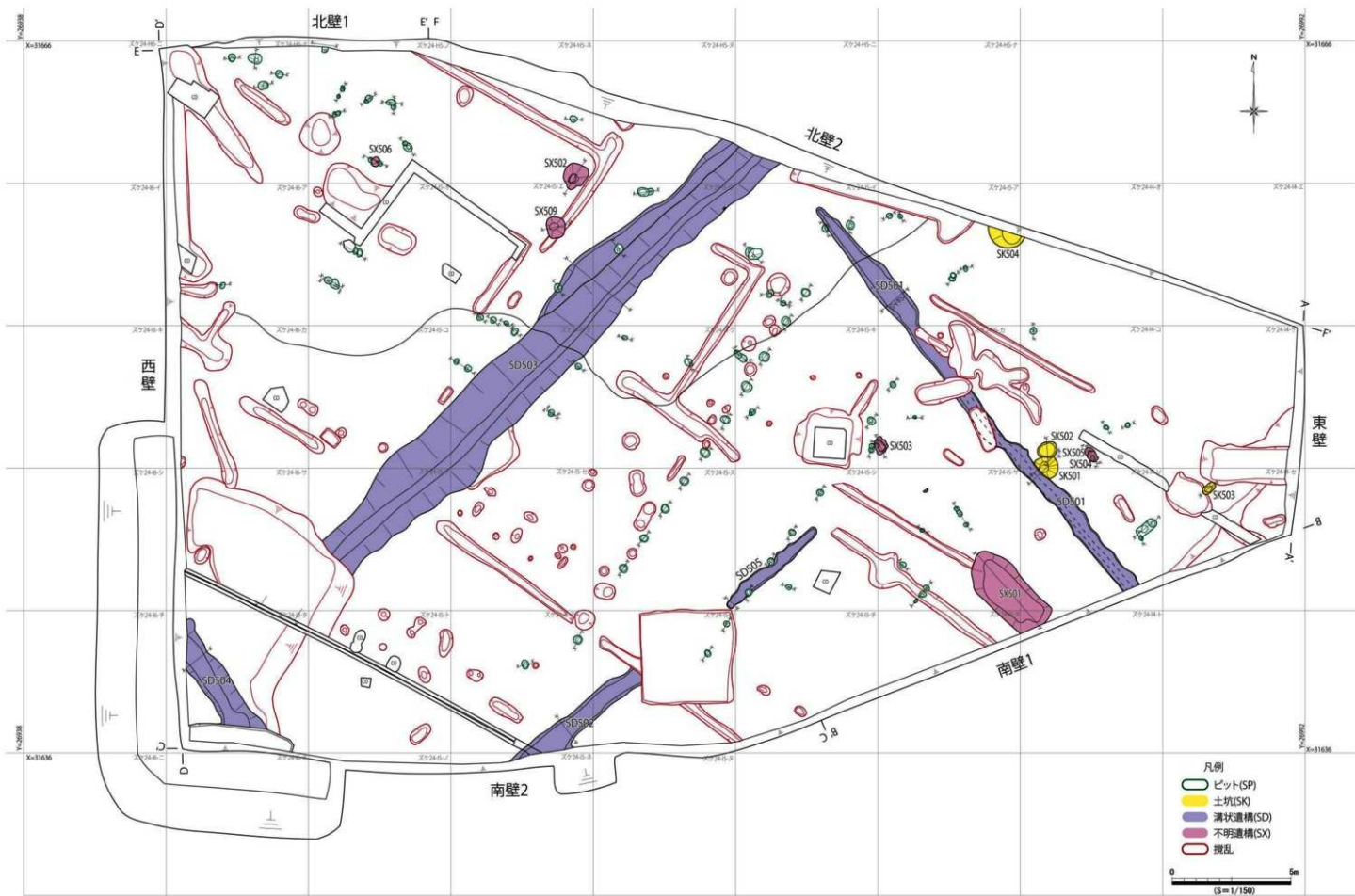


SK サンプル土採取

図版 VI - 1 作業状況

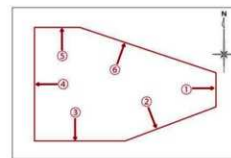
第2節 層序

今回調査した区域は、返還前まで米軍住宅が建ち並んでいた場所であり、過年度の試掘調査でも大規模な造成工事が行われていたことが判明している。ほぼ調査区全域で1m以上の造成土（盛土）が堆積し、大部分が地山（鳥尻マージ）面まで削平されている。一部北側でⅢ層が厚く残存しているが、地形的に北側に向かってやや傾斜しているため、削平（造成工事）から免れたものと思われる。

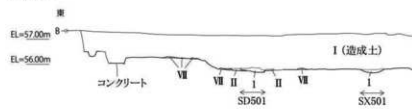


第VI-2図 遺構分布図

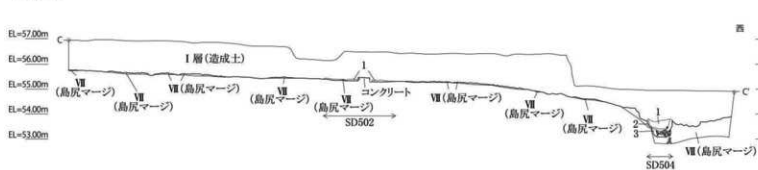
①東壁



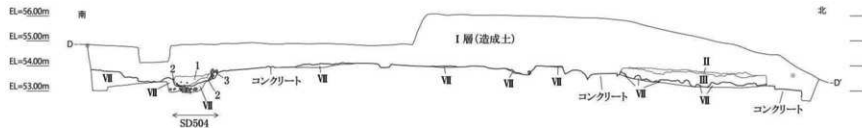
②南壁1



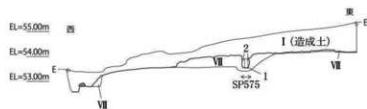
③南壁2



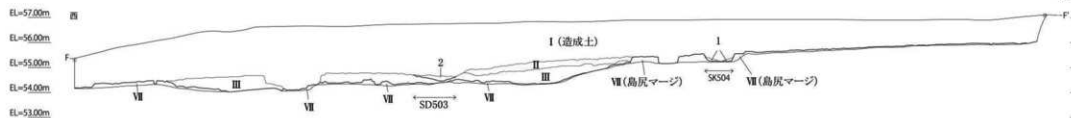
④西壁



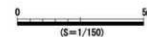
⑤北壁1



⑥北壁2



第VI-3図 壁面土層図



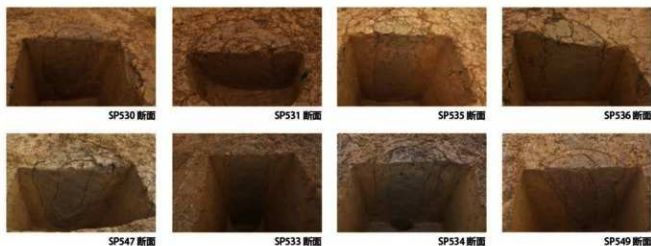
第3節 遺構

本遺跡で確認された遺構は、ピット（柱穴含む）が91基、土坑4基、溝状遺構5条、不明遺構7基が確認されている。ピットは調査区全体にまばらに点在していたが、掘立柱建物跡（SB）のプランが想定できるものは確認されなかった。しかし、南西―北東方向に直線に並ぶピットが確認され、これを列状ピット（仮称）した。また、列状ピットと同方向に延びる溝状遺構（SD503）やこれと垂直方向に延びる溝状遺構（SD501）も検出されており、関連があるものと想定される。

本調査区で確認された遺構は概ね近世～近代に相当するもので、畑の区画や柵のような施設が想定される。また、調査区東端には石灰岩礫が混入する落ち込み（SX501）が検出されている。

1. ピット（SP）

91基が検出されている。ピットの規模としては、直径の平均値は約30cmであり、深度の平均は22cmとなっている。調査区北西側にまとまりが見られるが個々のピットの規模がまばらで建物プランを想定できるような並びは確認できなかった。調査区中央では、南西―北東方向に直線的に並ぶピット群が確認されており、これを列状ピットと仮称した。この列状ピットは2本（①と②）確認されており、方向は同じ南西―北東で並列している。各ピットの詳細については第VI-1・2表に記載した。なお、ピットの種類については第IV章 第3節と同じく、掘方断面、基底面のレベル、覆土などから分類した。



図版VI-2 ピット（SP）

（1）列状ピット①②

列状ピット①は、SP501～SP508の8基のピットで構成され、端部のピットの距離は約14m（約7.8間）となっている。各ピットの距離は概ね一定しており、平均して1.6mを測る。SP506とSP507の距離が3.8mほどあるが、その間に攪乱杭があり、本来あった遺構（ピット）が攪乱により消失した可能性がある。各ピットの掘方断面を見ると底面の形状は丸みがあるものや平坦なものなど様々であった。

列状ピット②は、SP510～SP520の11基のピットが直線に並ぶ。端部のピットの距離は約17.7m（約9.8間）でSP510とSP511の間（約4.5m）を除いてピット間の距離は約1.5m幅とほぼ一定している。また、ピットの掘方断面を見るとSP510を除いて底面の造りは概ね平坦に成形されており、柱を据えるのに適しているように見える。これらの列状ピットは柵のような施設が想定され、何らかの境界があったものと思われる。

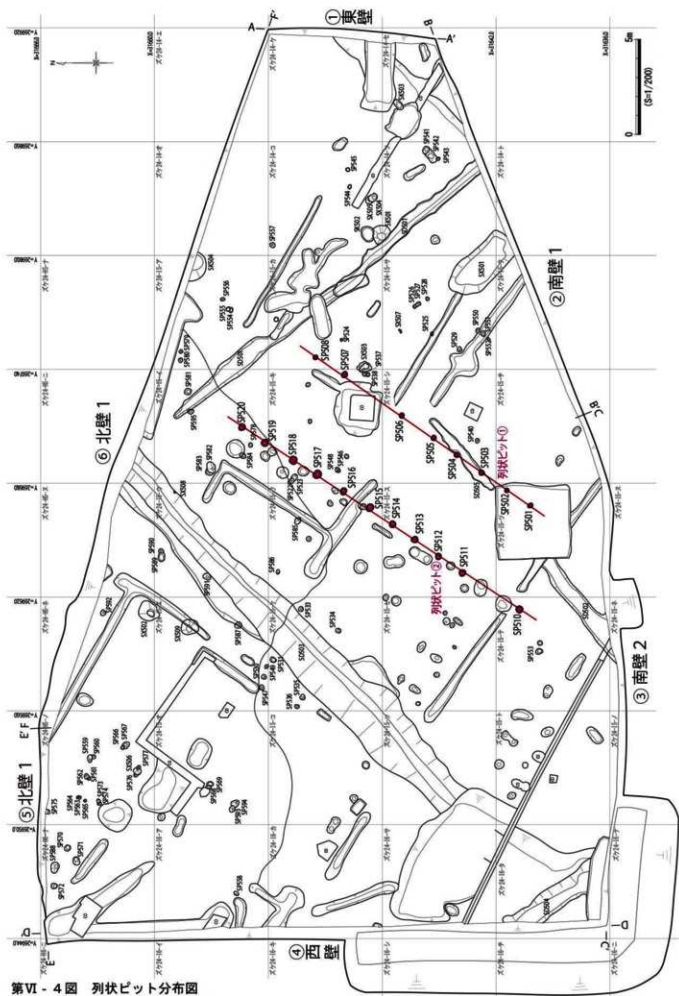
第VI-1表 遺構計測分類表 (SP) 1

遺構No.	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類			備考
				長軸	短軸	深さ		基壇	断面	覆土	
SP501	ズケ24-5-ツ	列状	円形	30	24	9	55.20	X	B		列状ビット①
SP502	ズケ24-5-ツ	列状	円形	25	22	6	55.27	X	B		列状ビット①
SP503	ズケ24-5-シ	列状	円形	30	28	17	55.27	X	A		列状ビット①
SP504	ズケ24-5-シ	列状	円形	28	25	8	55.30	X	B		列状ビット①
SP505	ズケ24-5-シ	列状	円形	28	25	9	55.32	X	B		列状ビット①
SP506	ズケ24-5-シ	列状	円形	29	26	10	55.27	X	B		列状ビット①
SP507	ズケ24-5-キ	列状	円形	35	30	24	55.20	X	A		列状ビット①
SP508	ズケ24-5-カ	列状	円形	28	24	12	55.26	X	B		列状ビット①
SP510	ズケ24-5-テ	列状	円形	38	35	25	54.90	IX	B		列状ビット②
SP511	ズケ24-5-ス	列状	円形	36	34	20	54.97	IX	A		列状ビット②
SP512	ズケ24-5-ス	列状	円形	34	30	16	55.00	IX	A		列状ビット②
SP513	ズケ24-5-ス	列状	円形	36	34	15	55.04	X	A		列状ビット②
SP514	ズケ24-5-ス	列状	円形	36	34	11	55.08	X	A		列状ビット②
SP515	ズケ24-5-ク	列状	楕円形	43	34	15	54.99	IX	A		列状ビット②
SP516	ズケ24-5-ク	列状	楕円形	40	30	24	54.98	IX	A		列状ビット②
SP517	ズケ24-5-キ	列状	円形	46	40	27	54.93	IX	A		列状ビット②
SP518	ズケ24-5-キ	列状	円形	41	38	26	54.93	IX	A		列状ビット②
SP519	ズケ24-5-イ	列状	円形	39	34	23	54.92	IX	A		列状ビット②
SP520	ズケ24-5-イ	列状	円形	38	34	20	54.94	IX	A		列状ビット②
SP522	ズケ24-5-キ	ビット	楕円形	38	23	13	55.02	X	B		SP523を切る
SP523	ズケ24-5-キ	ビット	楕円形	-	29	15	55.01	X	C		SP523に切られる
SP524	ズケ24-5-カ	ビット	楕円形	16	13	10	55.41	IX	Bs		
SP525	ズケ24-5-サ	ビット	楕円形	19	16	20	55.36	X	Bs		覆土の溝に切られる
SP526	ズケ24-5-サ	ビット	不定形	-	16	13	55.46	IX	B		SP527に切られる
SP527	ズケ24-5-サ	ビット	楕円形	27	17	12	55.48	IX	B		SP526を切る
SP528	ズケ24-5-サ	ビット	楕円形	20	17	15	55.49	IX	As		
SP529	ズケ24-5-サ	柱穴?	円形	27	23	17	55.46	IX	A		
SP530	ズケ24-5-エ	柱穴	円形	27	24	43	54.07	V	C+		
SP531	ズケ24-5-ケ	柱穴	楕円形	32	26	16	54.38	IX	A+		
SP533	ズケ24-5-ケ	柱穴	円形	26	25	56	54.11	V	B+		
SP534	ズケ24-5-ケ	柱穴	楕円形	28	22	51	54.23	IX	B+		
SP535	ズケ24-5-ケ	柱穴	円形	30	26	52	54.05	V	A		
SP536	ズケ24-5-ケ	柱穴	円形	24	20	27	54.24	IX	B		
SP537	ズケ24-5-キ	柱穴?	円形	21	21	12	55.35	IX	B		SP538を切る 南北ライン(断面図あり)、東西ライン(断面図なし)
SP538	ズケ24-5-キ	ビット	円形	23	-	5	55.41	IX	B		SP537に切られる
SP540	ズケ24-5-シ	柱穴?	楕円形	25	20	20	55.34	IX	B		
SP541	ズケ24-4-ソ	柱穴	楕円形	40	31	15	55.72	XIII	A+		SP542を切る
SP542	ズケ24-4-ソ	SK?	楕円形?	74	40	46	55.39	IX	A		SP541・SP543に切られる
SP543	ズケ24-4-ソ	ビット	楕円形	21	16	5	55.78	XIII	B		SP542を切る
SP544	ズケ24-4-コ	ビット	楕円形	23	17	3	55.67	XIII	B		
SP545	ズケ24-4-コ	ビット	円形	22	20	5	55.73	XIII	B		
SP546	ズケ24-5-キ	ビット	円形	16	15	7	54.36	IX	Bs		SP548を切る
SP547	ズケ24-5-エ	柱穴	円形	28	24	29	54.16	V	B+		
SP548	ズケ24-5-キ	柱穴?	円形	26	25	27	54.14	V	C+		SP548に切られる
SP549	ズケ24-5-エ	柱穴	楕円形	23	18	24	54.24	IX	B+		
SP550	ズケ24-5-サ	ビット	楕円形	26	20	13	55.55	IX	B		
SP551	ズケ24-5-サ	柱穴	楕円形	30	25	34	55.21	IX	A		
SP552	ズケ24-5-サ	柱穴?	楕円形	20	11	8	55.63	XIII	As		
SP553	ズケ24-5-テ	柱穴?	楕円形	38	30	9	54.91	IX	B		
SP554	ズケ24-5-ア	柱穴	楕円形	28	-	29	55.02	X	C+		SP555に切られる
SP555	ズケ24-5-ア	ビット	円形	25	21	7	55.24	IX	B		SP554を切る
SP556	ズケ24-5-ア	柱穴?	楕円形	24	16	7	55.44	IX	A		
SP557	ズケ24-4-コ	柱穴?	円形	29	26	13	55.52	IX	B		
SP558	ズケ24-6-ア	柱穴?	楕円形	28	19	36	53.54	IX	A		
SP559	ズケ24-6-ノ	柱穴	楕円形	40	24	36	53.70	IX	A		SP560を切る 南北ライン SP560を切る 東西ライン

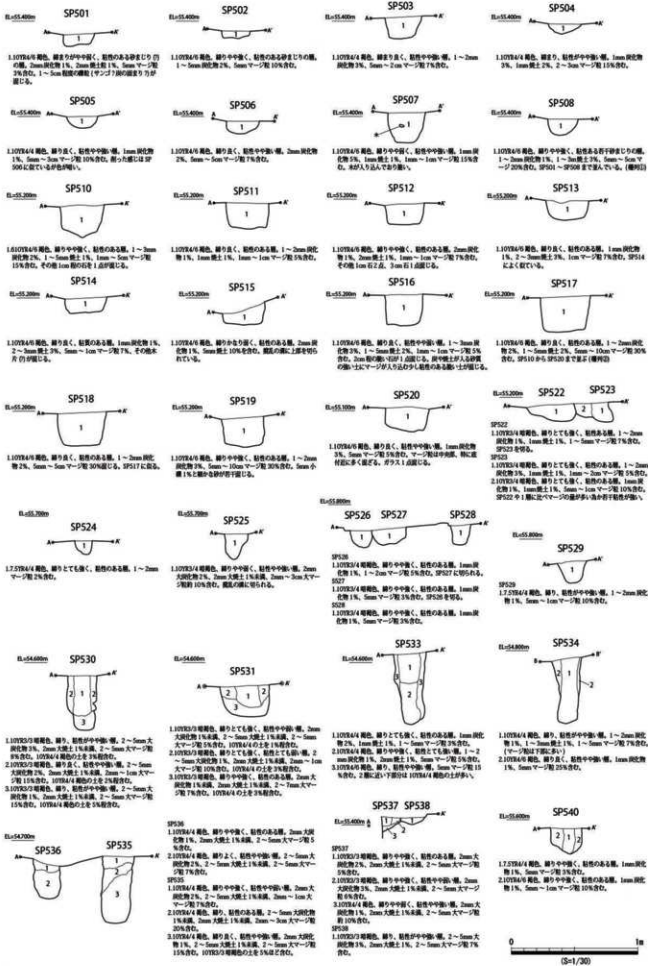
第VI-2表 遺構計測分類表 (SP) 2

遺構No.	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(m)			遺留レベル(m)		分類			備考
				長軸	短軸	深さ	底面	断面	土質			
SP560	ズケ24-H5-ノ	柱穴	円形	-	20	19	53.86	IV	B+		SP559に切られる	
SP561	ズケ24-H5-ノ	ピット	円形	16	16	9	53.94	IV	Bs		SP562を切る	
SP562	ズケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	29	24	11	53.93	IV	B		SP561に切られる	
SP563	ズケ24-H5-ノ	ピット	円形	18	14	16	53.86	IV	Bs		SP564を切る 枕道?	
SP564	ズケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	19	-	5	53.97	IV	As		SP563に切られる	
SP565	ズケ24-H5-ノ	ピット	円形	15	14	5	53.94	IV	Bs			
SP566	ズケ24-H5-ノ	ピット	円形	20	19	7	53.93	IV	Bs		SP567を切る	
SP567	ズケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	-	30	10	53.90	IV	B		SP566に切られる	
SP568	ズケ24-15-オ	柱穴?	楕円形	28	18	4	54.05	V	A		SP569を切る、土溜りに切られる	
SP569	ズケ24-15-オ	柱穴	楕円形	34	-	8	54.02	V	B+		SP568に切られる	
SP570	ズケ24-H6-ナ	柱穴	円形	34	29	39	53.46	II	B+			
SP571	ズケ24-H6-ナ	柱穴	楕円形	44	33	42	53.40	I	B+			
SP572	ズケ24-H6-ナ	柱穴	円形	32	28	44	53.11	I	B+			
SP573	ズケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	23	18	10	53.87	IV	D		SP574を切る	
SP574	ズケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	22	-	24	53.66	III	B		SP573に切られる	
SP575	ズケ24-H5-ノ	柱穴	楕円形?	-	27	36	53.53	II	C+		北壁内	
SP576	ズケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	-	18	14	53.80	III	B		SX506に切られる	
SP577	ズケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形	21	15	14	53.83	IV	B		SX506を切る	
SP578	ズケ24-15-イ	柱穴	円形	23	20	48	54.53	VI	A+			
SP579	ズケ24-15-ア	柱穴?	円形	20	17	22	55.04	X	Bs			
SP580	ズケ24-15-ア	柱穴?	円形	25	22	20	54.96	IX	A			
SP581	ズケ24-15-イ	柱穴?	楕円形	34	33	16	54.66	VI	A			
SP582	ズケ24-15-イ	柱穴	楕円形	58	44	36	54.25	Vs	B		SP583を切る	
SP583	ズケ24-15-イ	ピット	楕円形?	-	40	12	54.43	Vs	B		SP582に切られる	
SP584	ズケ24-15-イ	柱穴	楕円形	35	27	26	54.58	Vs	B			
SP585	ズケ24-15-ク	柱穴	楕円形	40	30	15	54.82	IX	C+			
SP586	ズケ24-15-ク	柱穴	楕円形	24	16	29	54.32	Vs	B+			
SP587	ズケ24-15-エ	柱穴	楕円形	37	32	38	53.95	IV	B+			
SP588	ズケ24-H6-ナ	柱穴	楕円形	58	43	32	53.17	I	C+			
SP589	ズケ24-15-ウ	柱穴?	楕円形	46	34	14	53.76	III	B		SP590を切る	
SP590	ズケ24-15-ウ	柱穴	円形	-	25	23	53.67	III	B+		SP589に切られる	
SP591	ズケ24-15-ウ	柱穴	楕円形	42	33	35	53.78	III	C+			
SP592	ズケ24-H5-ネ	柱穴	楕円形	30	26	55	53.43	II	B			
SP593	ズケ24-15-オ	柱穴	楕円形	36	29	11	53.88	IV	C+		SP594を切る B-F 切り直し後	
SP594	ズケ24-15-オ	柱穴	楕円形	44	35	34	53.67	III	C+		SP593に切られる B-F 切り直し後	
SP595	ズケ24-15-イ	柱穴	楕円形	34	26	10	54.36	Vs	A+			

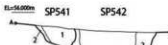
遺留レベル(m) 20cm区切り	
I	53.40以下
II	53.41~53.60
III	53.61~53.80
IV	53.81~54.00
V	54.01~54.20
Vs	54.21~54.40
VI	54.41~54.60
Vs	54.61~54.80
IX	54.81~55.00
X	55.01~55.20
X-I	55.21~55.40
X-II	55.41~55.60
X-III	55.61~55.80



第VI - 4図 列状ピット分布図



第VI - 5図 ピット (SP) 1



SP541
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物3%、1mm以上土1%、5mm～1cmマージン約15%含む。
SP542
2.1078/4年褐色(表層部)。跡り直く、柱状の中納骨。5mmマージン15%含む。



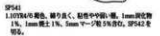
SP543
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%未満、1mm大土1%未満、3～5mmマージン約15%含む。内側にマージンから中心部へ傾斜。SP542を参照。



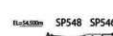
SP544
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。2mm大炭化物3%、2mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約20%含む。



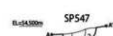
SP545
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。2mm大炭化物3%、2mm大土1%未満、2～5mmマージン約20%含む。その他1mm大炭化物1%未満含む。



SP546
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物3%、1mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。SP543とSP545を参照。



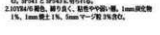
SP548
1.1078/4年褐色。跡り中納骨。1～5mm大炭化物3%、1mm大土1%未満、5～10mmマージン約10%含む。SP546とSP549を参照。



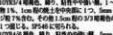
SP547
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。2～5mm大炭化物3%、2mm大土1%未満、2～5mmマージン約20%含む。1078/4年褐色の土を5%未満含む。



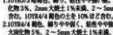
SP549
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。2mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。1078/4年の土を3%未満含む。



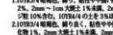
SP549
2.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。2mm大炭化物2%、1mm大土1%、5mm～1cmマージン約15%含む。



SP549
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%、5mmマージン約2%含む。SP548を参照。



SP547
2.1078/4年褐色。跡り中納骨。1～5mm大炭化物3%、2～5mm大土1%未満、2～5mmマージン約10%含む。1078/4年褐色の土を5%未満含む。



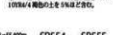
SP549
3.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。2mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2～5mmマージン約15%含む。1078/4年の土を5%未満含む。



SP552
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。2mm大炭化物1%未満、2mm大土1%未満、2mm～3cmマージン約10%含む。



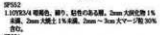
SP553
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%未満、1mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。



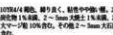
SP554
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物1%、1mm大土1%未満、SP551を参照。



SP556
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、3～5mmマージン約15%含む。



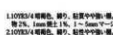
SP551
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。2～5mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2mm～3cmマージン約15%含む。SP550～552の中で最も層の多い。



SP553
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%、5mmマージン約2%含む。



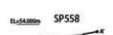
SP554
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物1%、1mm大土1%未満、SP551を参照。



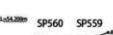
SP556
2.1078/4年褐色(少炭化物)。跡りの中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。



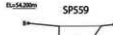
SP557
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2mm～3cmマージン約10%含む。



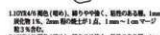
SP558
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。上層の土の割合が少く傾斜している。



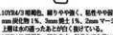
SP560
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%、5mmマージン約2%含む。



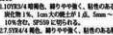
SP559
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%未満、3～5mmマージン約15%含む。



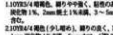
SP561
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。



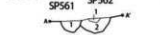
SP565
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。上層の土の割合が少く傾斜している。



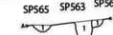
SP566
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。SP567を参照。



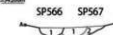
SP568
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。SP569を参照。



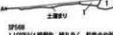
SP562
2.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。



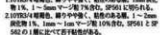
SP565
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。



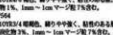
SP566
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。SP567を参照。



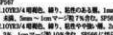
SP568
2.1078/4年褐色(少炭化物)。跡りの中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。



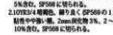
SP561
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。SP562を参照。



SP565
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。



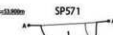
SP566
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～2mm大炭化物1%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。SP567を参照。



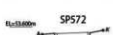
SP568
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%未満、2mm～1cmマージン約10%含む。SP569を参照。



SP570
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物2%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約7%含む。下層のマージン部を定めていないため炭化物の量が少ない。



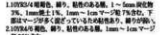
SP571
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物15%、1～2mm大土15%、1～5mmマージン約20%含む。跡りの中納骨は炭化物の量が、大きいものの上層に多く、層が分れていない。マージンの中層部は炭化物が少ない。



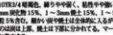
SP572
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物2%、1～2mm大土2%、2～5mmマージン約10%含む。



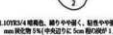
SP573
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物2%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約7%含む。下層のマージン部を定めていないため炭化物の量が少ない。



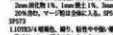
SP575
1.1078/4年褐色。跡り、柱状の中納骨。1mm大炭化物2%、2mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。内側にマージン部が傾斜している。



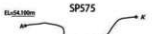
SP571
2.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物2%、1～2mm大土2%、2～5mmマージン約10%含む。



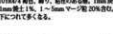
SP572
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約20%含む。マージン下に多く含む。



SP573
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物2%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約7%含む。下層のマージン部を定めていないため炭化物の量が少ない。



SP577
1.1078/4年褐色。跡り中納骨、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%未満、1mm大土1%未満、2mmマージン約5%含む。SK506を参照。



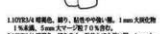
SP577
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物2%、1mm大土2%、2mm～1cmマージン約20%含む。炭化物が少なく炭化している。



SP576
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物2%、1mm大土2%、2mm～1cmマージン約20%含む。炭化物が少なく炭化している。



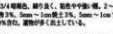
SP573
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物2%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約7%含む。下層のマージン部を定めていないため炭化物の量が少ない。



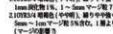
SP575
1.1078/4年褐色(中納骨)。跡り中納骨、柱状の中納骨。2～5mm大炭化物1%、1mm大土1%、5mm～1cmマージン約10%含む。



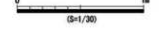
SP577
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1mm大炭化物1%未満、1mm大土1%未満、2mmマージン約5%含む。SK506を参照。

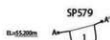


SP576
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～3mm大炭化物2%、1mm大土2%、2mm～1cmマージン約20%含む。炭化物が少なく炭化している。

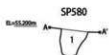


SP573
1.1078/4年褐色。跡り直く、柱状の中納骨。1～5mm大炭化物2%、1mm大土1%、1mm～1cmマージン約7%含む。下層のマージン部を定めていないため炭化物の量が少ない。

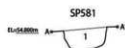




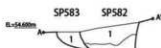
1.10YR3/4 暗褐色。埴り中強く、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、1mm 焼土 2cm マージ層 15%含む。マージ層は下部にアロタ粒の大きいものが入る。1~5mm 大のものも全体に入る。



1.10YR4/6 暗褐色。埴り直く、粘性とても強い埴。2mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満、2mm マージ層 20%含む。所々水の溜まるくぼきがあるところあり。



1.10YR3/4 暗褐色。埴り、粘性中強〜強。2mm 炭化物 1%未満、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。下部は少し粘性減る。

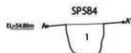


SP583

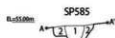
1.10YR3/4 暗褐色。埴り、粘性中強〜強。1mm 炭化物 1%未満、1mm 焼土 1%未満、5mm ~ 1cm マージ層 10%含む。

SP582

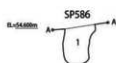
1.10YR3/4 暗褐色。埴り直く、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、5mm ~ 1cm マージ層 15%含む。
2.10YR4/4 褐色。埴り直く、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、5mm ~ 1cm マージ層 20%含む。



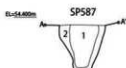
1.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性のある埴。2 ~ 5mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。



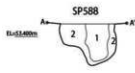
1.10YR4/4 褐色。埴り中強〜強、粘性のある埴。2 ~ 5mm 炭化物 1%未満、2 ~ 5mm 焼土 1%未満、2 ~ 5mm マージ層約 5%含む。
2.10YR4/4 褐色。埴り直く、粘性中強〜強。2mm 炭化物 1%未満、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。



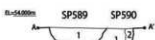
1.10YR4/6 褐色。埴り、粘性中強〜強。1mm ~ 1cm マージ層 7%含む。



1.10YR3/4 暗褐色。埴り、粘性中強〜強。2mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 15%含む。
2.10YR4/6 褐色。埴り中強〜強、粘性のある埴。2mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 10%含む。



1.10YR3/4 暗褐色。埴り直く、粘性中強〜強。1mm 炭化物 1%未満、2mm マージ層 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。1 ~ 2mm 炭化物 1%、5mm マージ層 10%含む。



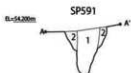
SP589

1.10YR3/4 暗褐色。埴り直く、粘性中強〜強。2mm 炭化物 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。SP590 を穿る。

SP590

1.10YR3/4 暗褐色。埴り、粘性中強〜強。2mm 炭化物 1%未満、2mm ~ 1cm マージ層 2%含む。SP589 に穿れる。

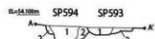
2.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。2mm 炭化物 1%未満、2mm ~ 1cm マージ層 5%含む。



1.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。2 ~ 5mm 炭化物 1%未満、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 10%含む。
2.10YR3/4 暗褐色。埴り直く、粘性中強〜強。2 ~ 5mm 炭化物 1%未満、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。



1.10YR4/4 褐色。埴り直く、粘性中強〜強。2 ~ 5mm 炭化物 2%、2mm 焼土 1%未満、2mm ~ 2cm マージ層 7%含む。
2.10YR4/4 褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。2 ~ 5mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%未満、2 ~ 5mm マージ層 5%含む。

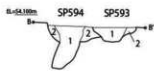


SP594

1.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満、2 ~ 5mm マージ層 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色(明るめ)。埴り直く、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、5mm マージ層 10%含む。

SP593

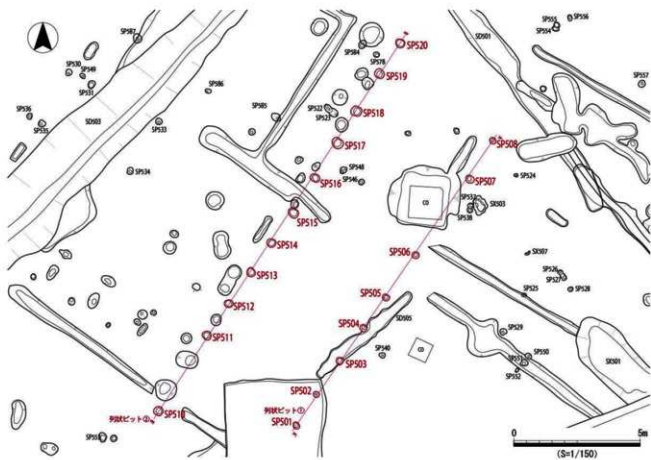
1.10YR3/4 暗褐色。埴り直く、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、5mm ~ 1cm マージ層 15%含む。
2.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。1 ~ 5mm 炭化物 1%、5mm ~ 1cm マージ層 20%含む。



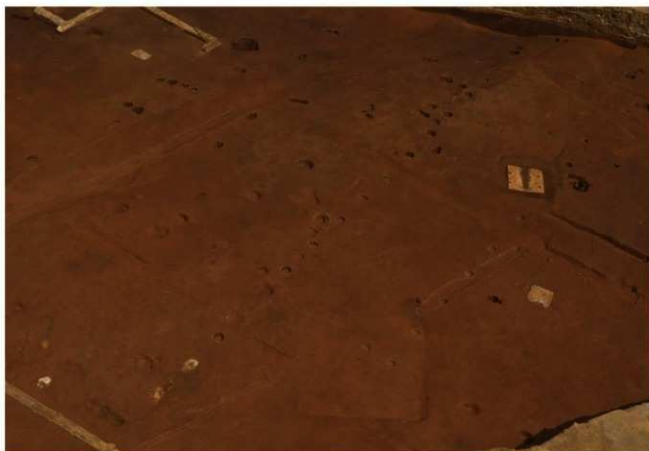
1.10YR3/4 暗褐色。埴り、粘性中強〜強。1mm 炭化物 1%未満、1 ~ 3mm マージ層 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色。埴り中強〜強、粘性とても強い埴。1mm 炭化物 1%未満、1mm ~ 1cm マージ層 10%含む。1層と比べこの中明確な。



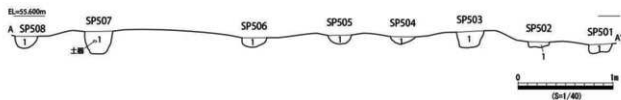
(S=1/30)



第VI - 8図 列状ピット平面図



図版VI - 3 列状ピット完掘状況



SPS01 断面



SPS02 断面



SPS03 断面



SPS04 断面



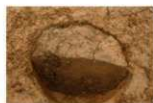
SPS05 断面



SPS06 断面

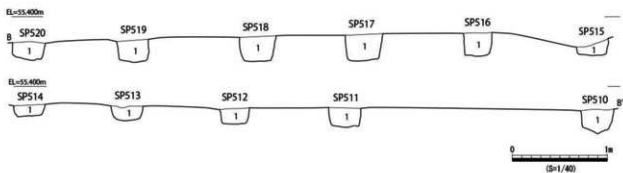


SPS07 断面



SPS08 断面

第VI - 9 図 列状ビット①



SPS10 断面



SPS11 断面



SPS12 断面



SPS13 断面



SPS14 断面



SPS15 断面



SPS16 断面



SPS17 断面



SPS18 断面



SPS19 断面



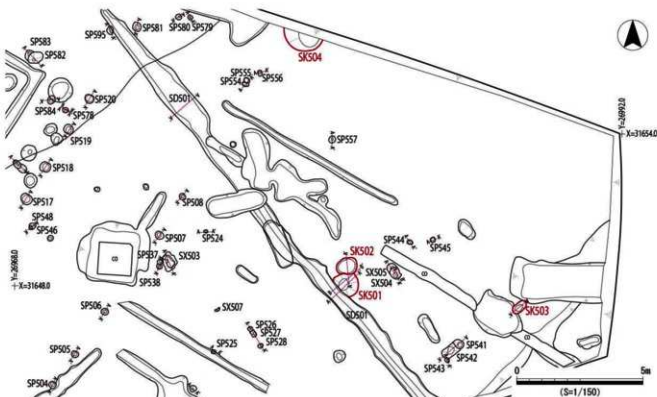
SPS20 断面

第VI - 10 図 列状ビット②

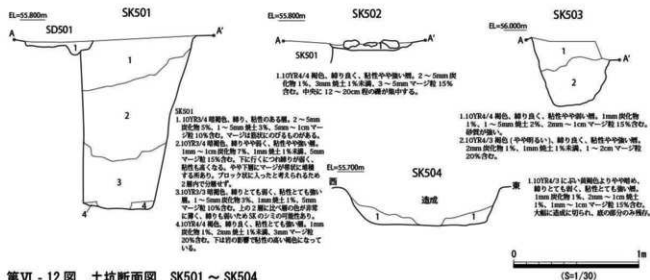
2. 土坑 (SK)

土坑はSK501～SK504の4基が検出された。調査区の東側に集中している。SK501はSK502に一部切られており、南側はSD501に切られる。直径が130cmほどあり、深さも100cm以上とかなり深くなっている。覆土を見ると4枚に分層でき、炭化物や焼土が混じる。遺物は土器片や瓦などが出土している。SK502はSK501の北側を切って形成される。規模は80×60cmほどの楕円形で深さは約6cmとかなり浅い。遺物は沖繩産施釉陶器やアカムヌーが出土している。SK503は調査区の東端に位置する。60×30cmほどの楕円形状を呈し、深度は50cm程度である。覆土は2枚に分層できる。

SK504は調査区北壁で検出されている。確認された規模で見ると長軸約115cm、深度は10cm程となっている。これらの遺構は、出土遺物等から近世～近代相当の遺構と思われる。



第VI-11図 土坑平面図 SK501～SK504



第VI-12図 土坑断面図 SK501～SK504



第VI - 13 圖 土坑 (SK501 ~ SK504) 平面圖



SK501 断面狀況



SK502 横出狀況



SK502 断面狀況



SK503 断面狀況



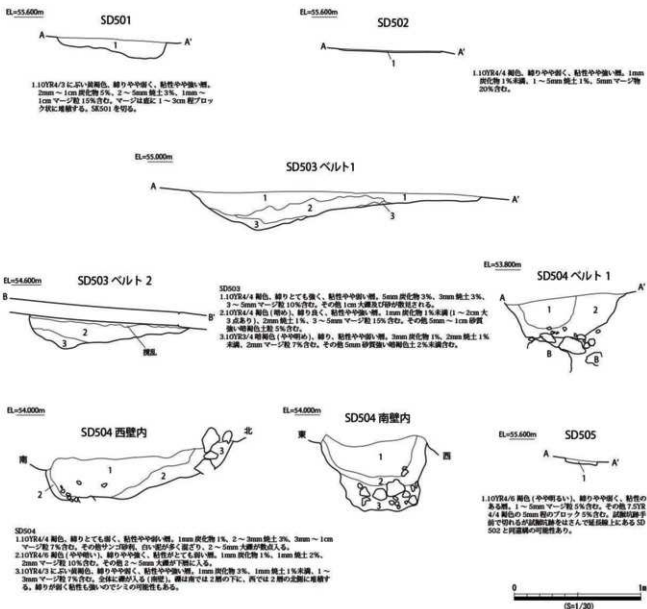
SK504 断面狀況

圖版VI - 4 土坑 (SK)

3. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構はSD501～SD505の5条が検出された。SD501は調査区東側に位置し、南東―北西方向に延びる。SD502は調査区南側に位置し、北東―南西方向に延びる。北側には過年度に調査した試掘抗があり、その北東側にSD505が同方向に延びている。恐らくSD502とSD505は、元々はひとつの遺構(溝)だった可能性が考えられる。SD503は調査区の中央に位置し、北東―南西方向に延びる遺構で、幅は150cm～270cmと幅がある。深さは30cm程度。SD504は調査区南西端に位置する。南側は攪乱で消失しているが北側は調査区西壁へ続く。

これらの溝状遺構は、幅や深さに違いはあるものの、形成された方向が北東―南西方向か北西―南東方向に限られており、畑の区画や排水のために形成されたと考えられる。覆土や出土遺物からすべて近世～近代に形成、使用されたと思われる。また、上述した列状ピットと同じ方向で形成されていることや類似した覆土等から列状ピットとの関連も想定される。



第VI - 14図 溝状遺構断面図 (SD501～SD505)



SD501 完備狀況



SD501 断面狀況



SD502 断面狀況



SD503 断面狀況



SD503 完備狀況



SD504 掘出狀況



SD503 完備狀況

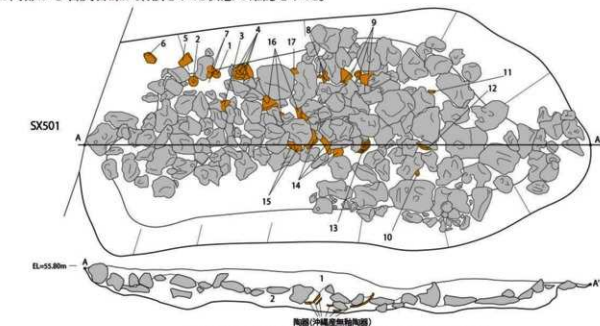


SD504 断面狀況

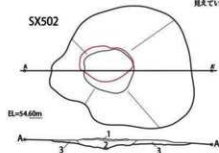
図版VI - 5 溝状遺構 (SD)

4. 不明遺構 (SX)

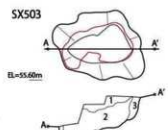
不明遺構は7基検出されている。不明遺構とした中に鉄跡と思われるものや焼土が集中して溜まったものなどもある。SX501は長軸約400cm、短軸約180cmの楕円形を呈する深さ30cmほどの落ち込みで内部から石灰岩礫が集積された状態で確認された。



- 1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性のある塊。1-5mm 炭化物 3%、1-3mm 焼土、5mm マージ層 5%含む。20cmの石が散点入り込んでいる(2層の影響か?)
- 2.10YR3/4 暗褐色。締り中や中弱く、粘性中や強い塊。2-5mm 炭化物 5%、2-5mm 焼土 2%、20mm-12cm マージ層 10%含む。正面はマージ層のみ、その裏は2mm 大石灰岩礫層 1%含む。正面に平た目の石灰岩礫が1点散在。1層と2層の間に2-40cm 大石灰岩礫層がまたがっている。2層のみ残った状態で石灰岩礫が全体の80%ほど見えている。

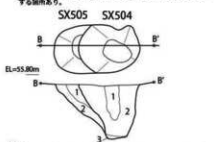


- 1.10YR2/3 黒褐色。締り良く、粘性中や強い塊。2mm 炭化物 1%、1-2mm 焼土 40%含む。
- 2.10YR2/3 黒褐色。締り中や中弱く、粘性中や強い塊。2mm 炭化物 1%、2mm-1cm 焼土 10%含む。焼土がまじり層でほとんどみられる。またその層が壊れている。
- 3.10YR2/3 黒褐色。締り良く、粘性中や強い塊。2mm 炭化物 5%、1-2mm 焼土 25%含む。焼土がまじり層で2cm 大焼土が集中する箇所あり。

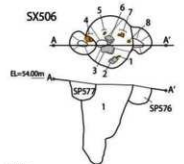


- 1.10YR3/4 暗褐色。締り中や中弱く、粘性とても強い塊。5mm-2cm 炭化物 15%、1-3cm 焼土 60%、30mm マージ層 5%含む。この層は遺構とよばれる薄い中層と暗赤褐色のものあり。この層は焼土がまじり層でほとんどみられない。
- 2.10YR3/4 暗褐色。締り中や中弱く、粘性とても強い塊。1-2mm 炭化物 1%、2mm 大焼土 1%、50mm-1cm マージ層 15%含む。厚さ 5cm、幅さ 10cm の板状のものあり。
- 3.10YR3/4 暗褐色。締り良く、粘性とても強い塊。1mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%、赤土、1-5mm マージ層 30%含む。

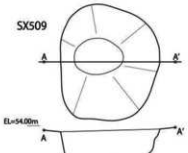
- SX501
1-
2-
3-
4-
5-
6-
7-
8-
9-
10-
11-
12-
13-沖繩産無軸角器
14-沖繩産無軸角器
15-沖繩産無軸角器
16-
17-
- SX506
1-
2-
3-
4-
5-
6-
7-
8-



- SX504
1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中や強い塊。1-3mm 炭化物 2%、3mm 焼土 1%、1-5mm マージ層 10%含む。
- 2.10YR4/6 褐色。締り中や中弱く、粘性のある塊。1-3mm 炭化物 2%、30mm-1cm 焼土 2%、1-5mm マージ層 3%含む。
- 3.10YR4/4 褐色。締り中や中弱く、粘性とても強い塊。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%、赤土、3mm マージ層 10%含む。2層の残りの可能性あり。
- SX505
1.10YR4/6 褐色。締り中や中弱く、粘性のある塊。1mm 炭化物 3%、1mm 焼土 1%、1mm マージ層 2%含む。
- 2.10YR4/6 褐色。締り中や中弱く、粘性のある塊。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%、1-5mm マージ層 10%含む。1層に比べると若干締りが強い(特にマージ層が多い下部分)



- SX506
1.10YR3/4 暗褐色。締り良く、粘性中や強い塊。2-3mm 炭化物 3%、5mm-2cm 焼土 5%、5mm-1cm マージ層 20%含む。遺構が多く出土している。



- 1.10YR3/4 暗褐色。締り中や中弱く、粘性とても強い塊。1-2mm 炭化物 1%、5mm-1cm マージ層 15%含む。遺構の内面は焼土の層が締り中や中弱くなるのが多く見られる。



第VI - 15図 不明遺構断面図



SX501 横出状況



SX503 断面状況



SX501 断面状況



SX504・SX505 断面状況



SX502 横出状況



SX506 横出状況



SX502 断面状況



SX509 断面状況



SX506 断面状況

図版VI - 6 不明遺構 (SX)

第4節 遺物

新城大道原第二遺跡出土の遺物は総数 1059 点が出土しており、先史土器・沖縄産陶器・輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 先史土器

先史土器は総数 5 点出土している。第VI- 3 表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

2. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は総数 21 点出土しており、白磁・青磁・染付・褐陶陶器が得られている。それぞれ状態の良いものを第VI- 3 表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

(1) 青磁・・・1 点得られた資料の内、1 点報告する。

(2) 染付・・・18 点得られた資料の内、3 点報告する。

3. 本土産磁器

本土産磁器は総数 13 点が出土している。資料の内 1 点を第VI- 3 表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

4. 沖縄産陶器

(1) 沖縄産無釉陶器・・・総数 114 点出土しており、壺・火炉・すり鉢などが得られている。比較的状态の良いものを 5 点を第VI- 3 表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

(2) アカムヌー・・・総数 423 点が出土しており、7 点を第VI- 3・4 表、第VI-17 図、図版IV- 8 にて報告する。

(3) 沖縄産施釉陶器・・・総数 260 点出土しており、碗などが得られている。20 点を第VI- 4・5 表、第VI-18 図、図版IV- 9 にて報告する。

5. 石器

石器は総数 14 点が出土している。資料の内 3 点を第VI- 5 表、第VI-20 図、図版IV-11 にて報告する。

6. 銭貨

銭貨は総数 2 点が出土している。第VI- 5 表、第VI-20 図、図版IV-11 にて報告する。

第VI-3表 出土遺物観察一覧1

押印番号 図版番号	種類	器種・分類	部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第VI-16図 図版VI-7	先史土器	—	胴	— — —	胎土は黄褐色 混和材に白色砂粒、雲母、石英、色調は内外面 明褐色。内外面に指圧痕が残る。	H28 西77 4区 (86) (SX506)	
		—	胴	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、雲母、石英、色調は外面 淡褐色 内面 橙褐色。内面に指圧痕が残る。	H28 西77 4区 (101) (SX506)	
		—	口	— — —	胎土は橙褐色 混和材に白色砂粒、黒色砂粒、雲母、色調は内外面 明褐色。内面に指圧痕が残る。無文の直口口縁。	H28 西77 4区 (146) (暗褐色土)	
		鍋	把手	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、赤色砂粒、滑石、色調は外面 黒褐色 内面 淡黄褐色。銅製の滑石混入土器底部片。	H28 西77 4区 (65) (暗褐色土)	
		鍋	口	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、赤色砂粒、滑石、色調は外面 黒褐色 内面 黒褐色。羽釜銅製の把手部分、把手は捻りによって成形される。	H28 西77 4区 (121) (SF671)	
	中国産 青磁	碗	口	— — —	青磁碗の小破片。口縁直口。素地は白色で緻密 貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業中)	
	中国産 染付	皿	I	口	— — —	口縁外反し、内面には軸葉で蔓高文を描く。素地は白色で緻密、素地に軸葉で文様を描いた後青白色の釉を全面に施す。	H28 西77 4区 (19) (遺構検出作業中)
		碗	底	— 6.5	— — —	高台から腰を張り立ち上がる。目付に砂が付着する。素地は黄白色で緻密、内外面に白化粧したあと全面に透明釉を施す。量み付けは軸割ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (3) (耕作土)
		碗	II	口	14.4 — —	口縁直口、胴部には軸葉で文様を描く。素地は白色で緻密、素地に軸葉で文様を描いた後青白色の釉を全面に施す。	H28 西77 4区 (3) (耕作土)
	本土産 磁器	急須	口〜底	7.4 9.2 7.3	— — —	軸は青釉 緑釉 白釉。素地は白、底部から袋状に立ち上がる。胴部には青釉で草花文を施し、胴部には緑釉と白釉を施す。底部と口縁内面は磨胎する。	H28 西77 4区 (3) (耕作土)
沖縄産 無軸陶器	甕	口〜底	18.5 46.5 18.0	— — —	器色は外面 灰褐色 内面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕明瞭。内外面にナブ調整痕が見られる。胴部に二条沈線が廻る。口縁外反して歯ブラシ状に肥厚する。	H28 西77 4区 (138)他 (SX501)	
	甕	底	— 8.4	— — —	器色は外面 灰褐色 内面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕明瞭。外面には工具によるナブ調整痕明瞭。	H28 西77 4区 (138)他 (SX501)	
	甕	胴〜底	— 7.5	— — —	器色は外面 灰褐色 内面 黒褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕明瞭。外面は自然釉によって光沢をもつ。	H28 西77 4区 (33) (カタラン)	
	罎鉢	III	口〜底	29.9 14.8 11.6	— — —	器色は内外面 橙褐色。素地は暗赤褐色。焼成よい。口縁外湾し、口唇逆L字状に折れる。口唇端部には一糸沈線が廻る。細かい指り目が等間隔に施される。	H28 西77 4区 (138) (SX501)
	罎鉢	III	口〜底	27.0 15.2 9.0	— — —	器色は内外面 橙褐色。素地は暗赤褐色。焼成よい。口縁外湾し、口唇逆L字状に折れる。口唇端部には一糸沈線が廻る。細かい指り目が等間隔に施される。	H28 西77 4区 (34) (SX501)
第VI-17図 図版VI-8	アカムスー	鉢	胴〜底	— 9.8	— — —	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。素地は高台から丸みを持って立ち上がり、胴は垂って口縁まで僅かに窄まるように立ち上がる。口縁は外面に折れて蓋受けを作る。蓋受け外面には股つ手を張り付ける。内面轆轤痕明瞭で外面ナブ調整痕される。底部外面にはススが付着する。	H28 西77 4区 (74)他 (SX501)
		鍋	口〜底	18.1 —	— — —	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。素地は丸底の底部から丸みを持って立ち上がり、胴は垂って口縁まで僅かに窄まるように立ち上がる。口縁は外面に折れて蓋受けを作る。蓋受け外面には股つ手を張り付ける。内面轆轤痕明瞭で外面ナブ調整痕される。底部外面にはススが付着する。	H28 西77 4区 (74)他 (SX501)
	急須	口〜底	7.7 12.0 17.8	— — —	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。素地は内面轆轤痕明瞭。底部は大きく広がって端部を急に内湾させてくびれるように立ち上り、胴部から腰を作らず、口縁に至る。蓋受けのために口唇は丸みを持つ。注ぎ口は欠損。	H28 西77 4区 (74)他 (SX501)	

第VI-4表 出土遺物観察一覧2

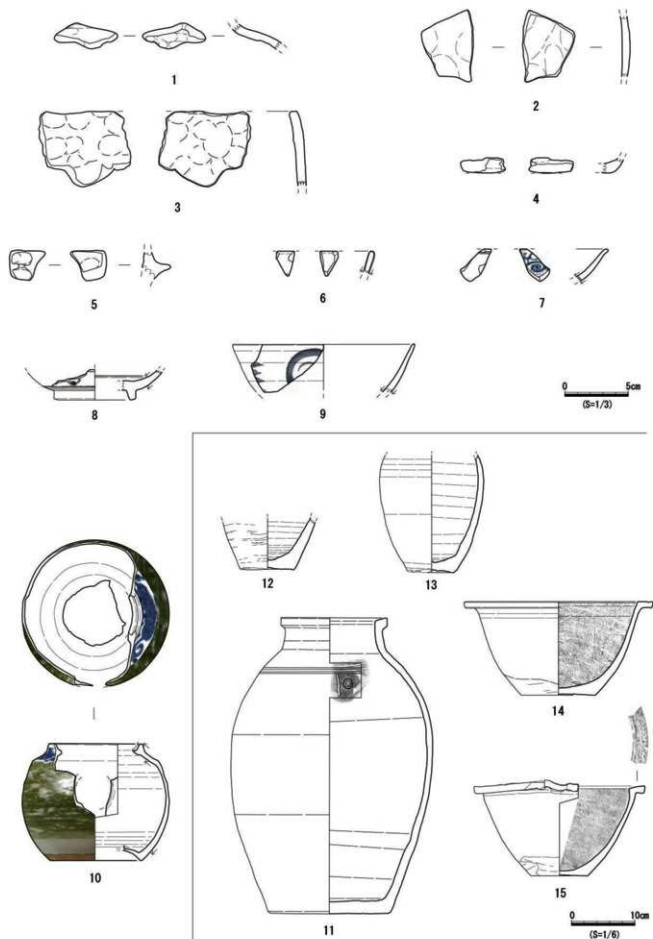
神田番号 図版番号	種類	器種・分類	部位	口径 高さ 底径	観察事項	出土地	
第VI-17回 図版VI-8	アカムス一	蓋	— — —	—	藍色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。素地は積み部は欠損。焼成上の方が軟質。掛り部径約9.2cm。	H28 西7フ4区 (112) (SX501)	
				1.3			
		蓋	— — —	—	藍色は内面 オリーブ褐色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。積み部は貼り付け、持は削りだし。掛り部径約7.7cm。	H28 西7フ4区 (110) (SX501)	
				3.7 5.4			
鉢	— — —	底	—	藍色は内面 淡褐色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。外面 橙色高台から丸みを持って立ち上がる。内面輪轡痕明瞭。外面は工具でナデ調整される。高台は低い。	H28 西7フ4区 (54) (SX501)		
			9.75				
鉢	— — —	— —	口～底	15.2	藍色は内面 淡褐色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。平底底部から丸みを持って立ち上がる。内面に輪轡痕明瞭。底部の成形が丁寧。外面はナデ調整される。	H28 西7フ4区 (132)・(138) (SX501)	
				7.4 7.0			
第VI-18回 図版VI-9	沖繩産 施釉陶器	碗	I (ハ)Aa(1)	口～底	13.3	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。見込みに砂が付着する。高台削り明瞭。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。灰輪の発色は良くない。	H28 西7フ4区 (33) (カクラン)
					6.4 6.6		
		碗	I (イ)Aa(1)	口～底	13.4	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。	H28 西7フ4区 (33)・(34) (カクラン)
					6.5 6.7		
		碗	II (ハ)Bb(3)	口～底	12.3	口縁外反。高台から僅かに腰を張って立ち上がる。見込みに砂が付着する。素地は灰色 焼成はよくない。内外面に輪を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の輪割ぎする。外面は素地に直接黒輪を施す。高台は無釉。内面は貫入あり。	H28 西7フ4区 (33) (カクラン)
					6.0 6.2		
碗	II (ロ)②a(3)	口～底	12.4	口縁外反。高台から僅かに腰を張って立ち上がる。素地は灰色 焼成はよくない。内外面に輪を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の輪割ぎする。外面は素地に直接黒輪を施す。高台は無釉。内面に細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (54) (SX501)		
			6.0 6.6				
碗	I (イ)Aa(1)	口～底	13.4	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。見込みに砂と靨わた輪が散る。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (33) (カクラン)		
			6.05 6.6				
碗	I (イ)Aa(1)	胴～底	—	高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。素地は黄白色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。	H28 西7フ4区 (33) (カクラン)		
			6.55				
碗	I (イ)Aa(1)	口～底	13.35	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。見込みに砂と靨わた輪が散る。素地は灰色 焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (132)・(119) (SX501)		
			6.7 6.45				
碗	II (ロ)②Bb(3)	口～底	12.6	口縁外反。高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けと見込みに砂が付着する。素地は灰色 焼成はよい。内外面に輪を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の目輪割ぎする。外面は素地に高台内面まで直接黒輪を施す。内面に細かい貫入あり。畳付けは輪割ぎされる。	H28 西7フ4区 (111) (SX501)		
			5.8				
碗	II (ハ)②Bb(3)	底	—	高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けに砂が付着する。高台内面に調整痕明瞭。素地は灰色 焼成はよい。内外面に輪を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の目輪割ぎする。外面は素地に直接黒輪を施す。高台内面は無釉。内面に細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (33) (カクラン)		
			6.15				
第VI-19回 図版VI-10	沖繩産 施釉陶器	碗	III (イ)B(3)	胴～底	—	高台から腰を張り立ち上がる。目付に砂が付着する。素地は黄白色 焼成はよい。内外面に白化粧したあと全面に透明釉を施す。見込みは蛇の目輪割ぎされる。畳み付けは輪割ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (33) (耕作土)
					5.4 5.7		
小碗	III (イ)B(1)	口～底	8.9	高台から腰を張り立ち上がる。目付に砂が付着する。素地は黄白色 焼成はよい。内外面に白化粧したあと全面に透明釉を施す。見込みは蛇の目輪割ぎされる。畳み付けは輪割ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西7フ4区 (37) (SX501)		
			4.5 4.4				

第VI-5表 出土遺物観察一覧3

挿図番号 図版番号	種類	器種・分類		部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第VI-19図 図版VI-10	沖縄産 施輪陶器	碗	I	(イ)Au(1)	口～底	12.4 6.3 6.15	口縁直口。素地は黄灰色。焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (33) (カクラン)
						13.8 6.4 6.7	口縁外反。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。高台削り明瞭。見込みに砂と散れた輪が散る。畳み付けに砂が付着する。素地は黄灰色。焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰輪を施す。	H28 西77 4区 (59) (SD504)
		小碗	III	(イ)B①	口～底	8.7 3.8 4.0	口縁外反。高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けと見込みに砂が付着する。素地は黄灰色。焼成はよい。内外面に白化散したあとと全面に透明輪を施す。見込みは蛇の目輪割ぎされる。畳付けは輪割ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (3) (耕作土)
		皿	I	(イ)A	口～底	15.8 3.9 8.0	口縁直口。高台に工具による調整痕明瞭。素地は黄白色。焼成はよい。内面胴部から外面立ち上がりまで輪を施す。見込みは輪割ぎされ、中央に精輪で同心円を描く。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)
		盤	II	(ロ)②	口～底	21.1 9.5 7.1	口縁外反、口唇平坦で舌状を呈する。下段に稜を作る。底部からわずかに腰を張って立ち上がる。高台削り明瞭。素地は黄白色。焼成はよい。内外面に輪を排分ける。内面白化粧の上に黒帯で点文を施した夜透明輪を施す。外面胴部までに黒輪を施す。見込みは蛇の目輪割ぎされる。内面に細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)
		急須	III	(イ)	口～肩	— — —	口縁直下に線彫りによる圓線が二条走りその下部から胴部にかけて化輪と輪帯で幾何学文様を施す。内面輪帯直削彫。素地は黄白色。焼成はよい。内外面に白化散したあとと線彫りと輪帯で施文し、全面に透明輪を施す。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)
		泡板			注ぎ口	— 1.65 —	小型の注ぎ口。内面に工具による調整痕明瞭。注ぎ口は胴部に張り付けるタイプ。素地は黄灰色。焼成はよい。外面と注ぎ口内面に黒輪を施す。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)
		壺			口	10.3 — —	口縁外反。内面は輪帯直削彫。残存部は無文。素地は灰白色で緻密。口唇部以外に黒輪を施し、口唇部には白化粧する。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)
		火炉			底	— — —	黒輪陶器の足付き底部。内面に付着したススから火印と想定される。素地は灰白色で緻密。立ち上がりとの足の外面から黒輪を施す。内外底面は無輪。細かい貫入あり。	H28 西77 4区 (17) (遺構検出作業)

挿図番号 図版番号	種類	器種	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			縦	横	厚さ	重量		
第VI-20図 図版VI-11	石器	石斧 砂岩	6.5	5.3	2.6	112.2	石斧の刀部。裏面は研磨で整えられる。刀部先端に僅かに使用痕が残るが、劣化が激しい。	H28 西77 4区 (148) (3号-暗褐色土)
		石斧 砂岩	9.8	9.6	6.3	720	表面中央部に使用痕が残る。石は底面と使用面のみを調整し、残りは原型利用。	H28 西77 4区 (186)
		石斧?	4.7	5.6	3.65	161.3	石斧の基部。裏面は打ち欠いて調整され、表面は丁寧に研磨される。	H28 西77 4区 (49) (SP515)

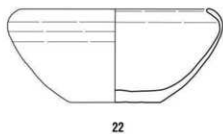
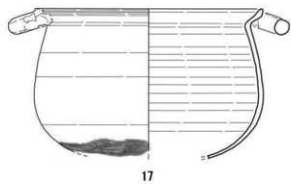
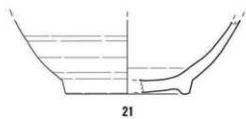
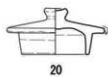
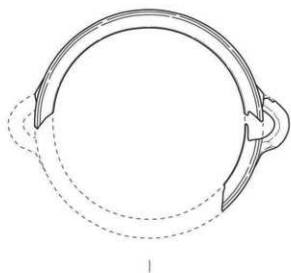
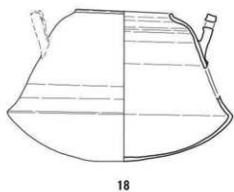
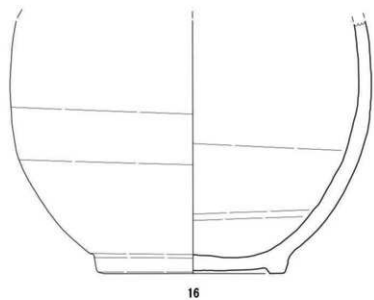
挿図番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			径径	孔径	銃厚	重量		
第VI-20図 図版VI-11	銃貨	—	2.3	0.5	0.12	1.3	半分に欠けた銃貨。全体が錆びているため銃文判別不能。	H28 西77 4区 (34) (遺構検出作業)
		唐煎 通宝?	2.8	0.4	0.18	1.7	半分に欠けた銃貨。凹形通孔の2文字確認。(唐煎通宝か。)背面は錆びの付着が全面にあり、銃文等は不明。	H28 西77 4区 (4) (壁面清掃中)



第VI-16 図 出土遺物 1 先史土器 (1 ~ 5)、中国産青磁 (6)、中国産染付 (7 ~ 9)、本土産磁器 (10)、
沖縄産無軸陶器 (11 ~ 15)



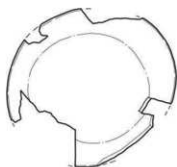
図版VI-7 出土遺物 1 先史土器 (1~5)、中国産青磁 (6)、中国産染付 (7~9)、本土産磁器 (10)、沖縄産無軸陶器 (11~15)



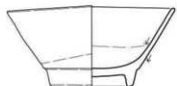
第VI-17図 出土遺物2 アカムヌー



図版VI-8 出土遺物2 アカムヌー



1



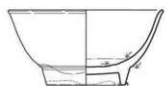
23



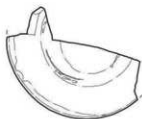
24



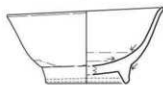
1



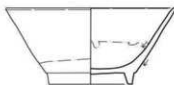
25



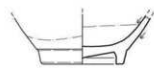
1



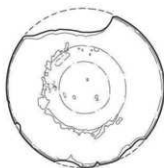
26



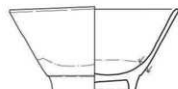
27



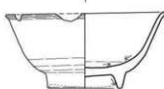
28



1



29



30



1



31



第VI-18 図 出土遺物3 沖縄産施釉陶器



図版VI-9 出土遺物3 沖繩産施釉陶器

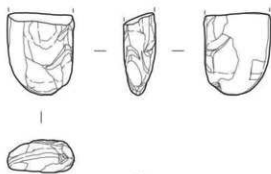


0 5cm
(S=1/3)

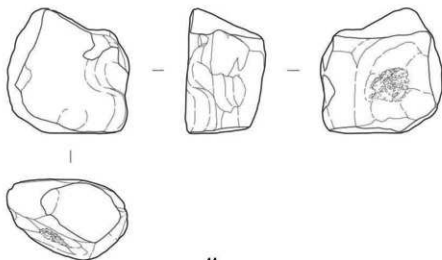
第VI-19 図 出土遺物 4 沖繩産施釉陶器



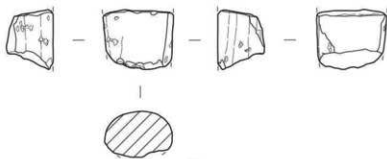
図版VI-10 出土遺物 4 沖繩産施釉陶器



43



44



45



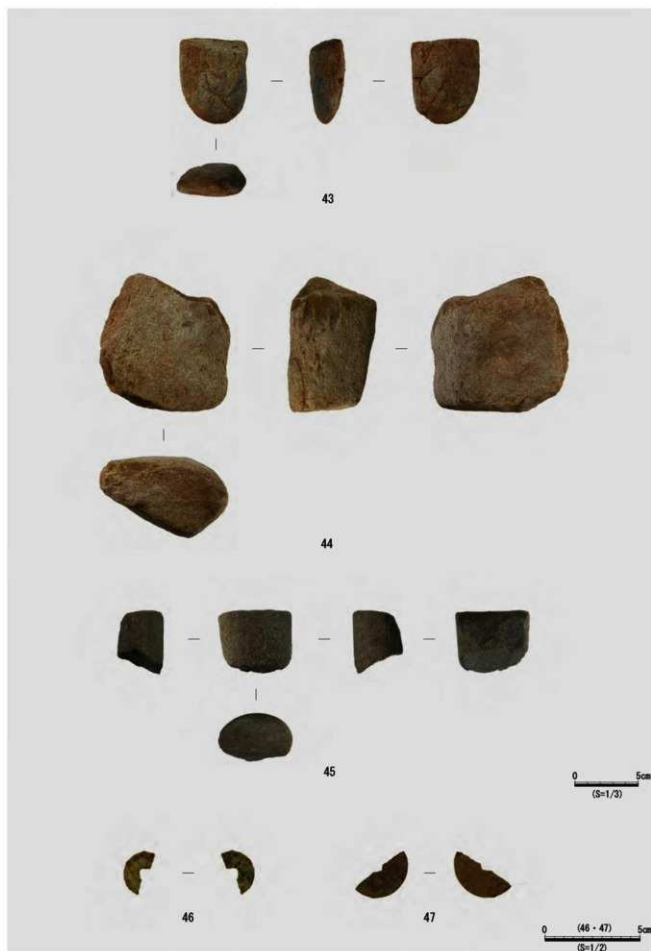
46



47



第VI-20 図 出土遺物5 石器 (43 ~ 45)、錢貨 (46・47)



図版VI-11 出土遺物 5 石器 (43～45)、錢貨 (46・47)

第5節 総括

新城大道原第二遺跡は、西普天間住宅地区の返還後に実施した試掘調査によって新規発見された遺跡である。試掘調査では、近世・近代相当を主体とする遺構、遺物が確認されており、今回の緊急発掘調査でも同時代のピットや溝などが検出されている。調査区一帯は米軍の基地使用時に軍属家族の居住区域（ハウジングエリア）として整然とした住宅街が配置されていた。そのため、本来の地形は大きく改変されており、地下においても縦横に埋設管が敷設されるなど遺跡の残存状況はかなり悪い状況であった。

今回の調査で検出された遺構はピット（柱穴含む）が91基、土坑が4基、溝状遺構が5条、不明遺構が7基である。前述したように建物のプランを想定できるような並びはなく、直線に並ぶ列状ピットが2列確認された。2列とも南西―北東方向に並列しており、何らかの境界を示す柵のようなものがあったのではないと思われる。ちなみに列状ピットの間隔は約5mとなっている。そのほか特徴的な遺構としては不明遺構としたSX501、SX502、SX503がある。SX501は4m×2m、深さ約30cmの土坑で、内部に10cm～30cmほどの石灰岩礫が大量に（120～150個程）充填されている。遺物は沖繩産陶器やアカムヌーの破片が出土しているが、周辺で類似の遺構もなく、用途や目的など不明である。SX502、SX503はいずれも内部に焼土塊を含むもので、周辺で野焼きした際の廃棄土坑かと推測される。なお、SK501、SX502、SX503、SX506、SX509は覆土が粘性の強い暗褐色シルトを呈しており、形成された時期としては近世以前に遡る可能性がある。

遺物は約1059点（破片）が出土している。そのうちアカムヌーが423点と最も多く、約40%を占める。次いで沖繩産陶器が374点で全体の約35%となっている。遺構別に見るとSX501からアカムヌーを主とする遺物が総数169点出土して突出している。先史土器も出土しているが、多くは攪乱土や造成土から地点不明で2cm以下の細片である。

以上、調査成果の整理と若干の補足を行った。調査面積や遺構の数量などから考えると遺物の量はかなり少ないものと思われる。その要因としては当該地区が戦後米軍基地（キャンプ瑞慶覧）として接収され、大規模な造成工事が行われた結果、戦前までの堆積だけでなく地形そのものが改変され、多くの遺構が消失したためと考えられる。本遺跡は新城の集落（普天間飛行場内）からはかなり離れており、新城の旧集落とされる新城上殿遺跡からも外れた場所に位置している。本遺跡南側には普天間旧道跡（大正時代に整備された普天満宮から伊佐へ至る道）が所在しているが当時からかなり高低差があったと思われる（遺跡標高は約56m、普天間旧道跡は標高約63m）。戦前の航空写真（昭和20年撮影）を見ると調査区一帯は耕作地となっており、今回検出された近世～近代頃の遺構は畑の区画やそれに関連する遺構と推測される。一方、上述した近世以前と思われる遺構については情報が少なく詳細は不明である。とりあえず本稿では個別に情報を記録し、類例の増加をまって改めて検討したい。

第VII章 新城大道原第三遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城大道原第三遺跡は、同第二遺跡と同様に平成27年度に実施した試掘調査により新規に見えられた遺跡である。遺跡は同第二遺跡の東側、県道81号線の北側に接する。返還前までは米住宅（ハウス）や道路整備がなされ、旧地形は完全に消失している。ちなみに本遺跡の南側は県道81号線に接しているが、戦前のケンドー（※）である普天間旧道跡のルート上にもなっている。

調査区の設定は、試掘調査の成果により遺構が確認された場所を中心に工区1～3に分割して設定した。工区1は約281㎡、工区2は約789㎡、工区3は約200㎡となっている。表土及び攪乱土については重機を使用して除去し、包含層または遺構が検出された時点で人力掘削に切り替えた。作業員の雇用や安全対策、遺構測量等については民間の発掘調査会社へ委託し、調査進捗管理及び分層注記、写真等の記録は市教育委員会でを行った。



第VII-1図 調査位置図

【日誌抄】

- 1月6日：表土掘削。
- 1月20日：支障除去措置に係る作業との兼ね合いから工区2から調査を開始することとなった。
- 1月23日：工区2の壁面清掃作業。
- 1月26日：工区2の遺構検出状況の撮影。工区1の遺構検出作業により柱穴を確認。
- 1月27日：工区2の遺構掘削。溝（SD201）覆土より人頭大の礫石検出。工区1の東側に堆積する耕作土を掘り下げ、遺構検出作業を実施。
- 2月2日：工区3より遺構検出。埋設管の影響で残存状況は不良。

2月3日：工区2、3で遺構検出状況を撮影（高所作業車）。

2月13日：工区2で遺構完掘作業。遺構番号は工区2で300番台、工区3で400番台を使用。

2月15日：工区2について、SX203を残して遺構完掘。

2月17日：工区3の遺構完掘及び記録作業。

2月22日：工区1の遺構面精査。溝(SD101)の検出状況撮影。

3月3日：溝(SD101)は複数の溝が重なっていることが判明。

3月7日：SX104の掘削。下位で石積みを確認。

3月9日：工区1完掘状況の全景写真を撮影（高所作業車）。

3月30日：SX203（工区2）の完掘。工区2、工区3の完掘状況を撮影し、調査完了。



工区1 全景 南から



工区1 作業状況



工区2 全景 西から



工区2 作業状況



工区3 作業状況



工区3 作業状況

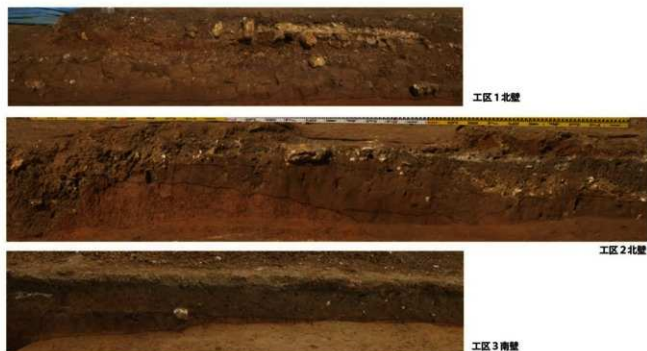
図版Ⅵ - 1 工区1～3

第2節 層序

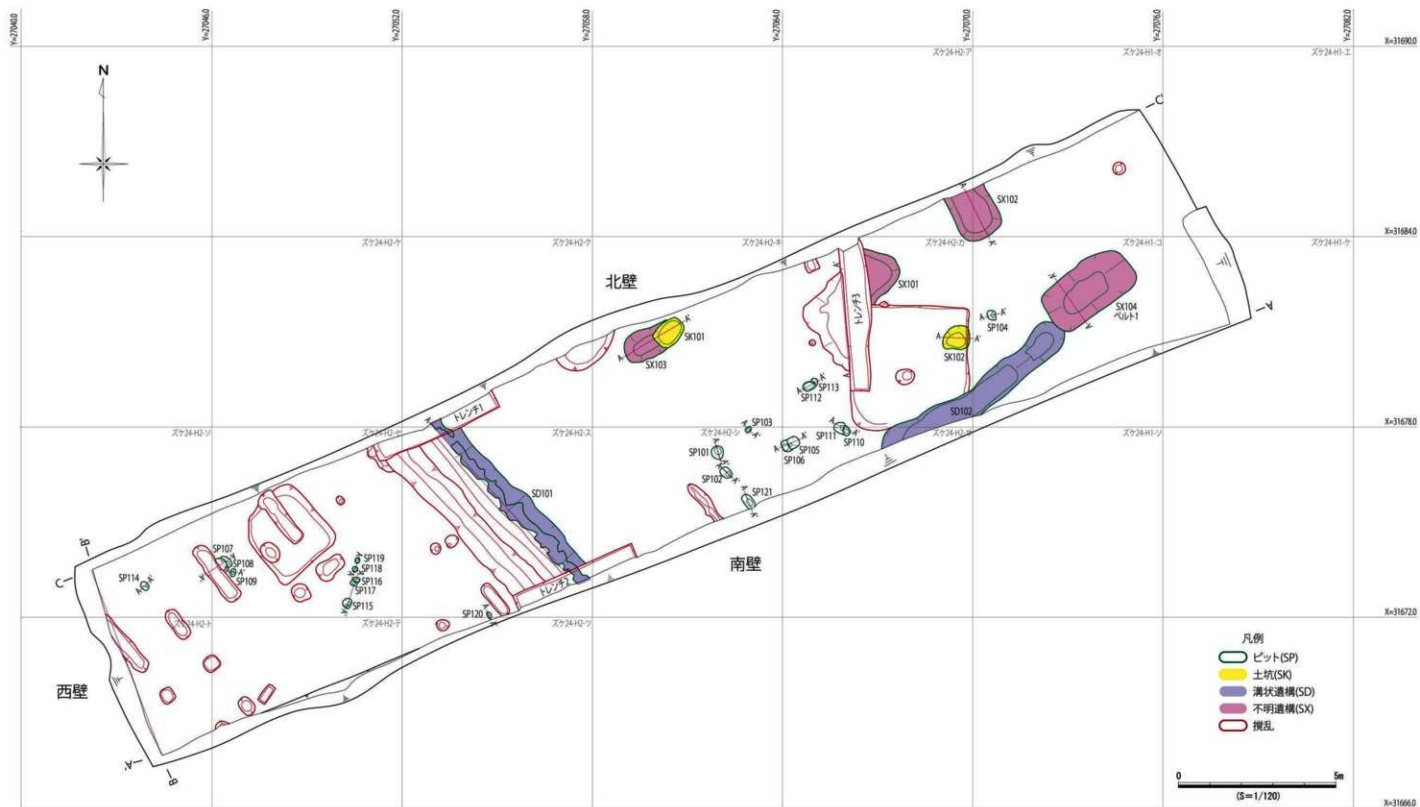
新城大道原第三遺跡は3つの工区を設定したが、それぞれの調査区で埋設管による攪乱が著しく、遺構を含め包含層もほとんど消失している状況であった。今回調査した区域は県道に近く、本来の地形も現況に近いものであったと思われる。ちなみに戦前までは畑として利用されており、一部当時の耕作土が残存している箇所も見られた。層序については第三章第3節の基本層序を使用し、個々の遺構については個別に記載した。



図版Ⅶ - 2 各工区完掘状況

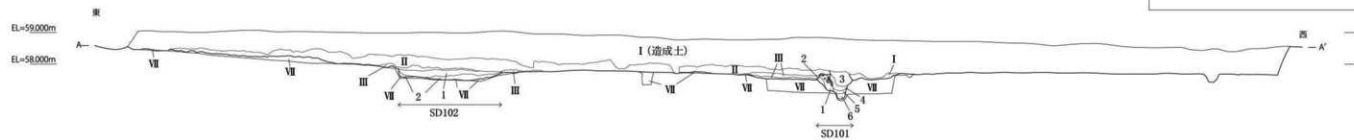


図版Ⅶ - 3 工区別壁面状況

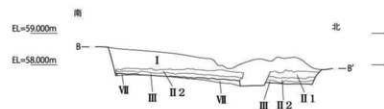


第VII-2図 工区1 遺構分布図

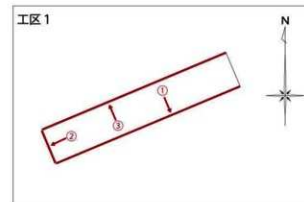
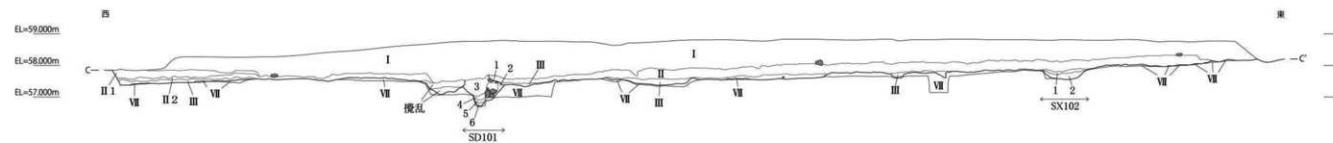
①南壁



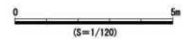
②西壁

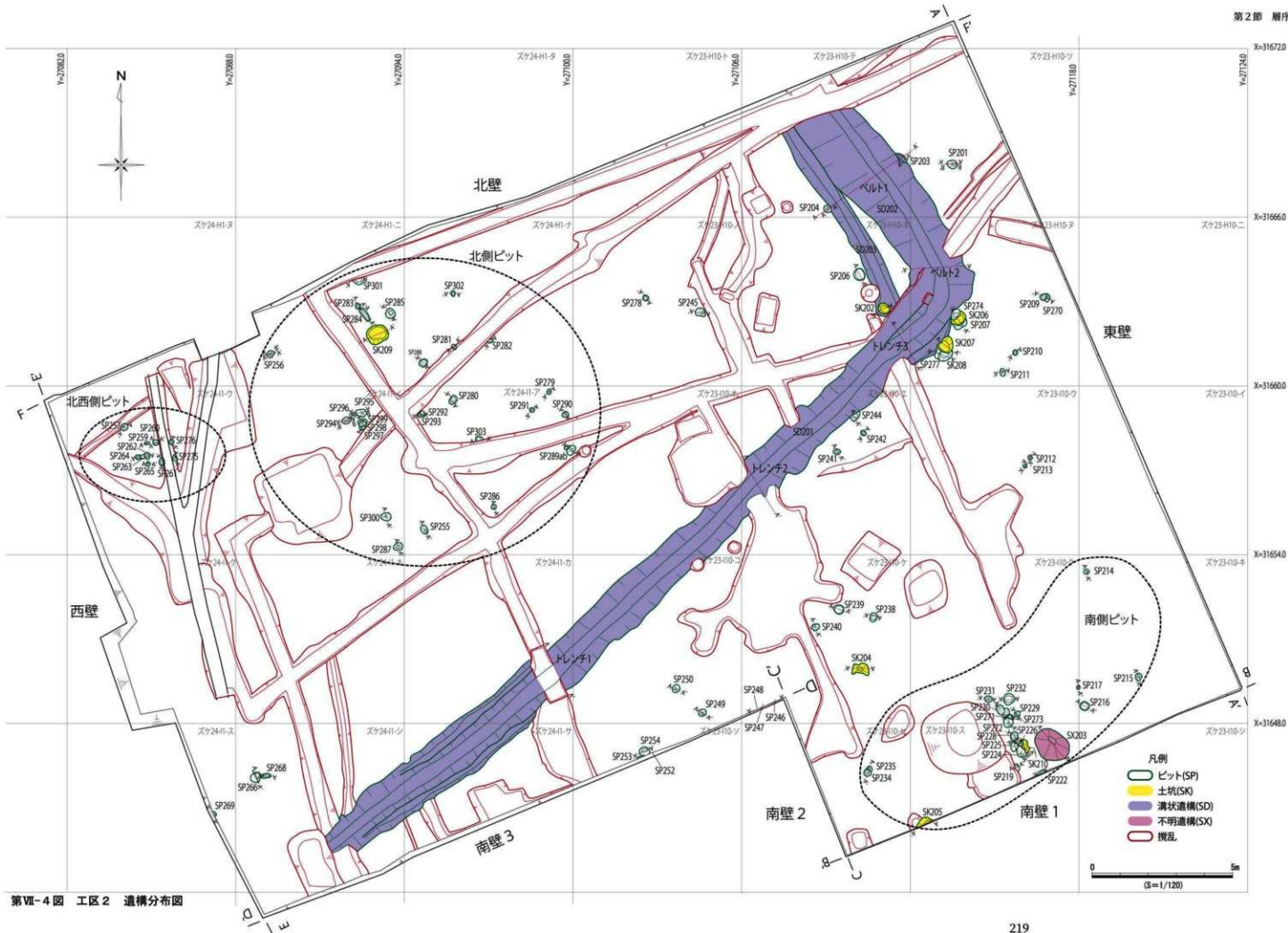


③北壁



第VII-3图 工区 1 壁面土层图



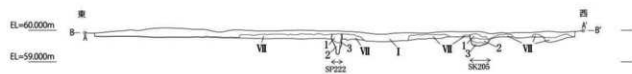


第Ⅶ-4図 工区2 遺構分布図

①東壁



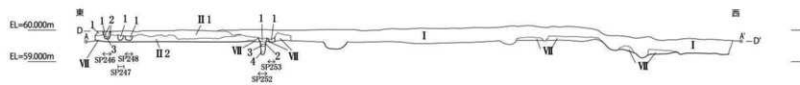
②南壁1



③2区南壁2



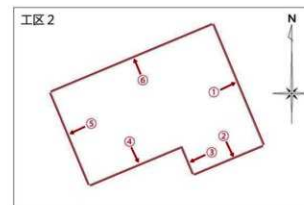
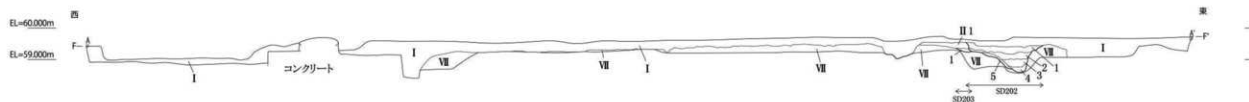
④南壁3



⑤西壁

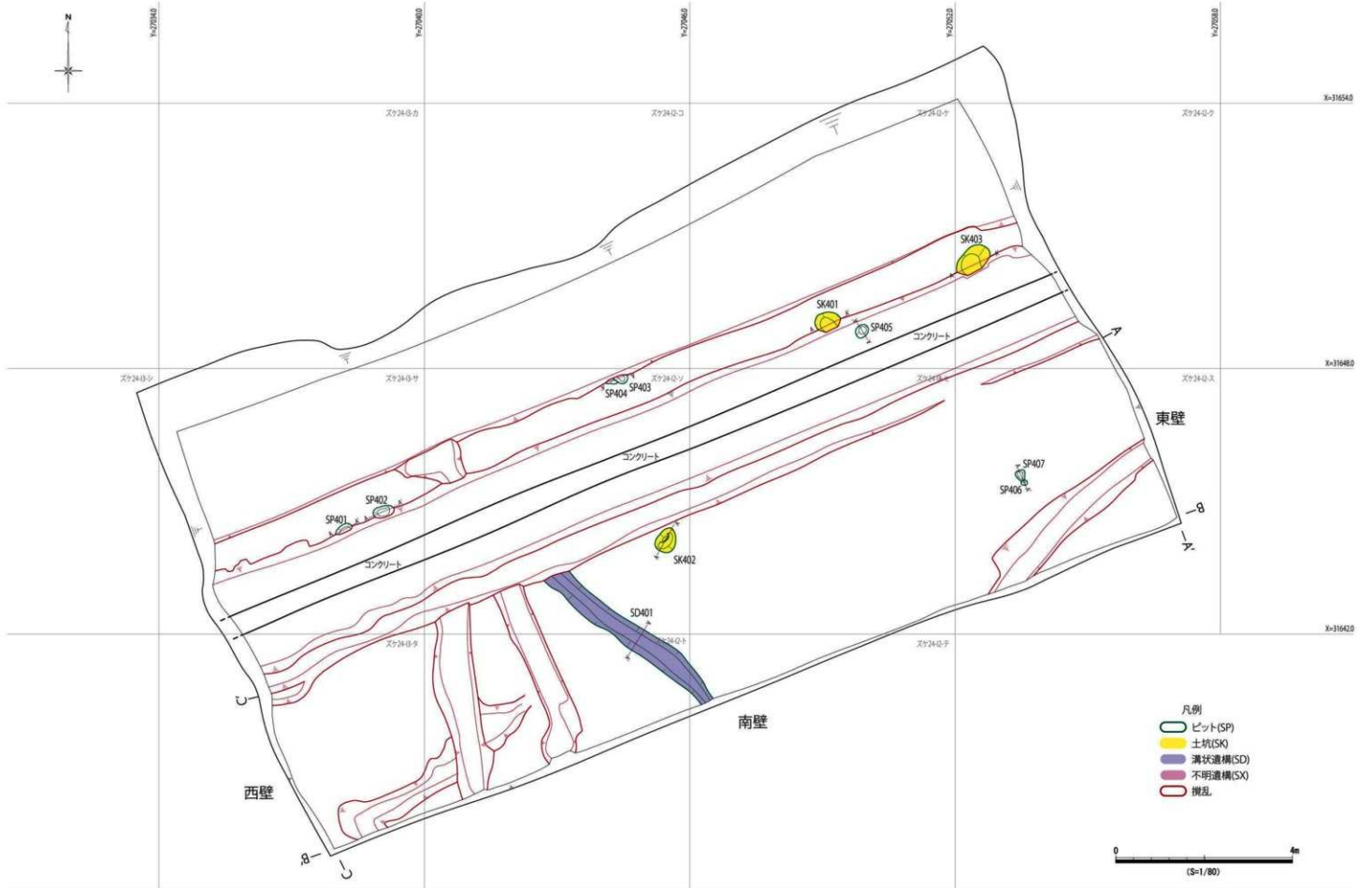


⑥北壁



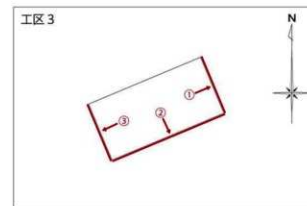
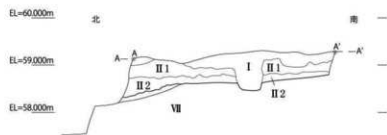
第VII-5図 工区2 壁面土層図



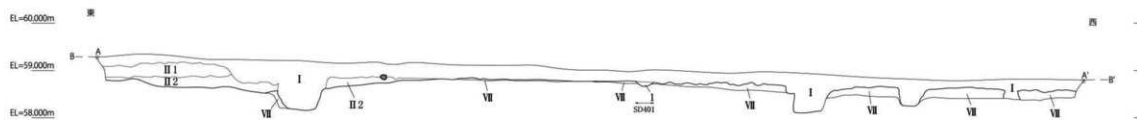


第VII-6図 工区3 遺構分布図

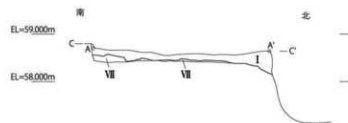
①東壁



②南壁



③西壁



第VII-7圖 工区3 壁面土層圖



第3節 遺構

検出された遺構はピット（柱穴含む）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が確認されている。本遺跡の調査区は工区1～工区3の3箇所に分散しているが、形成された時期にほとんど差はないものと思われる。

1. ピット（SP）

今回の調査で検出されたピットは117基検出されている。工区別に見ると工区1が21基、工区2が89基、工区3が7基である。工区1では建物プラン（SB01）と思われるピットのまとまり（配置）が見られる。南側は調査区外になるため不明だが、概ね北西—南東方向に軸を持つと思われる。また、SP115、SP116、SP117、SP118、SP119のピットは直線的に並んでいる。工区2では3箇所までピットのまとまりが確認できた。建物プランが想定できるものはないが、ピット集中遺構として後述する。工区3では米軍の埋設管設置による攪乱により遺構の残存状況はかなり悪い。詳細についてはVII-1～3表にて記載している。

第VII-1表 遺構計測分類表 工区1～3（SP）1

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面	分類	備考	
					長軸	短軸	深さ	レベル			
								(m)	底面	断面	
SP101	1	ズケ24-H2-シ	ピット	円形	43	38	13	57.52	Ⅲ	D	プラン①
SP102	1	ズケ24-H2-シ	ピット	楕円形	41	30	9	57.58	Ⅲ	B	
SP103	1	ズケ24-H2-シ	ピット	楕円形	22	15	4	57.59	Ⅲ	B	
SP104	1	ズケ24-H1-コ	柱穴?	楕円形	31	26	8	57.89	V	B	
SP105	1	ズケ24-H2-サ	ピット	丸扁方形	35	35	5	57.66	Ⅳ	A	SP106を切る
SP106	1	ズケ24-H2-サ	柱穴	円形?	38	-	19	57.52	Ⅲ	A	SP105に切られる
SP107	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形?	43	-	33	57.22	Ⅱ	B	SP108を切る、攪乱に切られる
SP108	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	42	-	17	57.39	Ⅱ	D	SP107に切られる
SP109	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	25	15	12	57.41	Ⅲ	B	
SP110	1	ズケ24-H2-カ	柱穴?	楕円形	31	22	11	57.62	Ⅳ	B	SP111を切る プラン①
SP111	1	ズケ24-H2-カ	柱穴	円形	36	-	16	57.56	Ⅲ	B	SP110に切られる プラン①
SP112	1	ズケ24-H2-カ	柱穴	楕円形	38	28	13	57.54	Ⅲ	A	SP113を切る プラン①
SP113	1	ズケ24-H2-カ	ピット	円形?	24	-	10	57.56	Ⅲ	D	SP112に切られる
SP114	1	ズケ24-H2-ソ	柱穴	円形	29	23	44	57.00	I	B	
SP115	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形	27	27	29	57.36	Ⅱ	B	
SP116	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	22	15	8	57.56	Ⅲ	B	SP117を切る
SP117	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形?	22	-	18	57.44	Ⅲ	B	SP116に切られる
SP118	1	ズケ24-H2-セ	ピット	円形	18	16	8	57.55	Ⅲ	As	
SP119	1	ズケ24-H2-セ	ピット	円形	17	14	7	57.54	Ⅲ	Bs	
SP120	1	ズケ24-H2-スツ	柱穴?	楕円形	21	13	17	57.51	Ⅲ	B	
SP121	1	ズケ24-H2-シ	柱穴	楕円形	48	29	36	57.35	Ⅱ	A	プラン①
SP201	2	ズケ23-H10-ツ	柱穴	楕円形	36	30	59	58.97	X	C	
SP203	2	ズケ23-H10-テ	ピット	不定形	48	24	6	59.38	X	D	
SP204	2	ズケ23-H10-テ	柱穴	円形	28	24	17	59.24	X	C+	SD203に切られる
SP206	2	ズケ23-H10-ネ	ピット	円形	43	38	4	59.41	X	B	
SP207	2	ズケ23-H10-ヌ	ピット	不定形?	50	-	14	59.32	X	D	SK206に切られる
SP209	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴	円形	25	22	16	59.40	X	A+	SP270を切る
SP210	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴?	円形	18	18	5	59.52	X	As	
SP211	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴	楕円形	27	19	16	59.41	X	A+	
SP212	2	ズケ23-H10-ウ	ピット	円形	16	15	4	59.56	X	Bs	

第Ⅶ-2表 遺構計測分類表 工区1～3 (SP) 2

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面 レベル (m)	分類	備考
					長軸	短軸	深さ			
SP213	2	ズケ23-110-ウ	ピット	円形	15	14	4	59.56	XⅢ Bs	
SP214	2	ズケ23-110-キ	柱穴	円形	20	17	20	59.36	XⅢ B+	
SP215	2	ズケ23-110-キ	柱穴?	円形	27	23	20	59.53	XⅢ D	
SP216	2	ズケ23-110-キ	柱穴	円形	32	30	8	59.61	XⅣ A+	
SP217	2	ズケ23-110-ク	植栽痕?	円形	14	12	14	59.57	XⅢ Ds	植栽痕?
SP219	2	ズケ23-110-ス	柱穴?	楕円形?	29	-	9	59.61	XⅣ A	攪乱に切られる
SP222	2	ズケ23-110-ス	柱穴	円形?	32	-	63	59.25	XⅢ C	図面13は南壁1内
SP224	2	ズケ23-110-ス	柱穴	楕円形	38	32	38	59.32	XⅢ A+	SP225に切られる SP226・227を切る ブラン②
SP225	2	ズケ23-110-ス	柱穴	不定形	32	27	20	59.49	XⅢ A+	SP224を切る ブラン②
SP226	2	ズケ23-110-ス	ピット	楕円形	20	16	10	59.60	XⅢ B	
SP228	2	ズケ23-110-ス	柱穴	楕円形	33	26	65	59.05	XⅠ B	ブラン②
SP229	2	ズケ23-110-ク	ピット	楕円形	22	18	10	59.54	XⅢ B	
SP230	2	ズケ23-110-ク	柱穴	楕円形	36	27	35	59.33	XⅢ C+	SK203→SP271～273 SP271を切る ブラン②
SP231	2	ズケ23-110-ク	柱穴	円形	27	23	26	59.35	XⅢ B+	1層が柱痕の可能性高い
SP232	2	ズケ23-110-ク	柱穴	円形	40	38	54	59.14	XⅠ B+	
SP234	2	ズケ23-110-セ	柱穴	円形	26	25	14	59.58	XⅢ C+	SP235を切る
SP235	2	ズケ23-110-セ	ピット	円形?	20	-	12	59.60	XⅢ D	SP234に切られる
SP238	2	ズケ23-110-ケ	柱穴	楕円形	32	25	13	59.60	XⅢ A+	
SP239	2	ズケ23-110-ケ	ピット	円形	37	32	4	59.57	XⅢ B	
SP240	2	ズケ23-110-ケ	柱穴	不定形	30	21	16	59.49	XⅢ B+	
SP241	2	ズケ23-110-エ	柱穴?	楕円形	26	20	5	59.49	XⅢ A	
SP242	2	ズケ23-110-エ	ピット	楕円形	21	16	2	59.53	XⅢ B	
SP244	2	ズケ23-110-エ	柱穴?	楕円形?	40	-	10	59.33	XⅢ B	SD201に切られる
SP245	2	ズケ23-110-ノ	柱穴	楕円形	38	28	83	58.62	Ⅸ A+	
SP246	2	ズケ23-110-ケ	柱穴	不明	-	24	25	59.72	XⅣ C+	南壁3内
SP247	2	ズケ23-110-ケ	柱穴?	不明	-	17	16	59.68	XⅣ B	南壁3内
SP248	2	ズケ23-110-ケ	柱穴?	不明	-	22	14	59.67	XⅣ A	南壁3内
SP249	2	ズケ23-110-コ	柱穴	円形	28	25	11	59.49	XⅢ B+	
SP250	2	ズケ23-110-コ	柱穴	円形	30	26	17	59.43	XⅢ B+	
SP252	2	ズケ23-110-ソ	柱穴?	不明	-	25※50※			B	南壁3内
SP253	2	ズケ23-110-ソ	柱穴?	不明	-	20※10※			A	南壁3内
SP254	2	ズケ23-110-ソ	柱穴	円形	37	32	60	59.02	XⅠ A	
SP255	2	ズケ24-11-ア	柱穴	楕円形	32	22	23	59.25	XⅢ B	
SP256	2	ズケ24-11-ニ	柱穴	楕円形	30	22	57	58.54	Ⅸ B+	
SP257	2	ズケ24-11-ウ	柱穴?	円形	28	24	56	58.34	Ⅸ B	
SP259	2	ズケ24-11-ウ	ピット	楕円形	18	11	20	58.71	Ⅸ Cs	
SP260	2	ズケ24-11-ウ	柱穴	円形	21	19	50	58.42	Ⅸ B+	
SP261	2	ズケ24-11-ウ	ピット	楕円形	26	19	9	58.86	X B	
SP262	2	ズケ24-11-ウ	柱穴?	楕円形	25	18	11	58.85	X A	SP263を切る
SP263	2	ズケ24-11-ウ	ピット	楕円形?	-	14	3	58.92	X A	SP262に切られる SP264を切る
SP264	2	ズケ24-11-ウ	ピット	円形	21	17	4	58.90	X B	SP263に切られる
SP265	2	ズケ24-11-ウ	根痕?	楕円形	19	13	32	58.64	Ⅸ Ds	
SP266	2	ズケ24-11-シ	柱穴	楕円形	39	33	21	59.03	XⅠ C+	
SP268	2	ズケ24-11-シ	柱穴?	不定形	34	16	9	59.20	XⅠ B	
SP269	2	ズケ24-11-ス	柱穴?	楕円形	20	-	19	59.05	XⅠ D	
SP270	2	ズケ23-110-ヌ	柱穴	楕円形	28	-	28	59.29	XⅢ A	SP209に切られる
SP271	2	ズケ23-110-ク	柱穴	楕円形	36	-	29	59.40	XⅢ B+	SP203・272・273に切られる ブラン②
SP272	2	ズケ23-110-ク	柱穴	円形	35	34	24	59.45	XⅢ C+	SP271を切る SP273に切られる ブラン②
SP273	2	ズケ23-110-ク	ピット	楕円形	20	16	9	59.58	XⅢ Bs	SP271・SP272を切る
SP274	2	ズケ23-110-ヌ	ピット	楕円形	42	27	13	59.28	XⅢ D	SK206を切る
SP275	2	ズケ24-11-ウ	根痕?	不定形	21	15	38	58.58	Ⅸ B	根痕?
SP276	2	ズケ24-11-ウ	ピット	円形	19	18	43	58.40	Ⅸ Bs	杭痕?
SP277	2	ズケ23-110-ヌ	ピット	楕円形?	50	-	22	59.26	XⅢ D	

第Ⅶ-3表 遺構計測分類表 工区1～3 (SP) 3

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類		備考
					長軸	短軸	深さ		底面	断面	
SP278	2	ズケ23-H10-ノ	ビット	円形	22	20	5	59.42	XⅢ	B	
SP279	2	ズケ24-H1-A	ビット	円形	18	16	9	59.41	XⅢ	Bs	杭痕?
SP280	2	ズケ24-H1-A	ビット	楕円形	33	24	2	59.35	XⅢ	B	
SP281	2	ズケ24-H1-ナ	ビット	楕円形	20	15	31	59.01	XⅠ	Bs	杭痕?
SP282	2	ズケ24-H1-ナ	ビット	楕円形?	22	-	2	59.36	XⅢ	B	
SP283	2	ズケ24-H1-ニ	ビット	楕円形	21	18	5	59.14	XⅠ	B	
SP284	2	ズケ24-H1-ニ	ビット	楕円形	54	19	2	59.18	XⅠ	B	
SP285	2	ズケ24-H1-ニ	柱穴	円形	37	34	12	59.12	XⅠ	A+	
SP286	2	ズケ24-H1-A	ビット	円形	18	15	31	59.16	XⅠ	As	杭痕?
SP287	2	ズケ24-H1-イ	柱穴	楕円形	34	26	18	59.29	XⅢ	B+	
SP288	2	ズケ24-H1-ナ	ビット	円形	32	26	6	59.23	XⅢ	B	
SP289a	2	ズケ24-H1-A	ビット	楕円形	20	11	8	59.41	XⅢ	As	
SP289b	2	ズケ24-H1-A	柱穴	楕円形	38	23	26	59.21	XⅠ	B+	
SP290	2	ズケ24-H1-A	柱穴?	円形	22	19	32	59.15	XⅠ	A	
SP291	2	ズケ24-H1-A	ビット	楕円形	19	15	27	59.21	XⅢ	Bs	杭痕?
SP292	2	ズケ24-H1-A	ビット	楕円形	22	13	8	59.24	XⅠ	A	SP293を切る
SP293	2	ズケ24-H1-A	ビット	円形?	17	-	15	59.16	XⅠ	Bs	SP292に切られる
SP294	2	ズケ24-H1-イ	柱穴	楕円形	32	24	37	58.86	X	A+	
SP295	2	ズケ24-H1-イ	柱穴	楕円形	39	26	36	58.86	X	C+	SP296を切る
SP296	2	ズケ24-H1-イ	ビット	円形	16	14	14	59.10	XⅠ	As	SP295に切られる
SP297	2	ズケ24-H1-イ	ビット	楕円形?	25	-	9	59.16	XⅠ	B	SP298に切られる
SP298	2	ズケ24-H1-イ	柱穴	楕円形	26	21	29	58.95	X	B+	SP297・299を切る
SP299	2	ズケ24-H1-イ	柱穴?	楕円形?	34	-	19	59.02	XⅠ	B	SP298に切られる
SP300	2	ズケ24-H1-イ	柱穴	楕円形	34	28	24	59.20	XⅠ	B+	
SP301	2	ズケ24-H1-ニ	柱穴	円形?	40	-	17	59.00	X	A+	
SP302	2	ズケ24-H1-ナ	ビット	楕円形	20	14	2	59.32	XⅢ	As	攪乱に切られる
SP303	2	ズケ24-H1-A	ビット	円形?	-	26	4	59.36	XⅢ	B	
SP401	3	ズケ24-I3-サ	柱穴	円形?	41	-	50	57.43	Ⅲ	A	SP301→SP401
SP402	3	ズケ24-I3-サ	柱穴?	楕円形	48	25	30	57.58	Ⅲ	B	SP302→SP402
SP403	3	ズケ24-I2-ソ	ビット	楕円形?	-	30	6	57.96	V	A	SP404を切る
SP404	3	ズケ24-I2-ソ	ビット	楕円形?	-	-	8	57.95	V	A	SP403に切られる
SP405	3	ズケ24-I2-ケ	柱穴	円形	31	26	30	57.23	Ⅱ	B	
SP406	3	ズケ24-I2-ス	ビット	円形	14	12	12	58.41	Ⅵ	Bs	SP407を切る
SP407	3	ズケ24-I2-ス	柱穴	楕円形	-	20	14	58.38	Ⅵ	B	SP406に切られる

底面レベル(20m区切り)			
	工区1	工区2	工区3
I	57.20以下	57.20以下	57.20以下
Ⅱ	57.21～57.40	57.21～57.40	57.21～57.40
Ⅲ	57.41～57.60	57.41～57.60	57.41～57.60
Ⅳ	57.61～57.80	57.61～57.80	57.61～57.80
V	57.81～58.00	57.81～58.00	57.81～58.00
Ⅵ	58.01～58.20	58.01～58.20	58.01～58.20
Ⅶ	58.21～58.40	58.40以下	58.21～58.40
Ⅷ	58.41～58.60	58.41～58.60	58.41～58.60
Ⅸ	58.61～58.80	58.61～58.80	58.61～58.80
X	58.81～56.00	58.81～59.00	58.81～56.00
XⅠ	56.01～56.20	59.01～59.20	56.01～56.20
XⅡ	56.21～56.40	59.21～59.40	56.21～56.40
XⅢ	56.41～56.60	59.41～59.60	56.41～56.60
XⅣ	56.61～56.80	59.61～59.80	56.61～56.80

2. 掘立柱建物跡 (SB01)

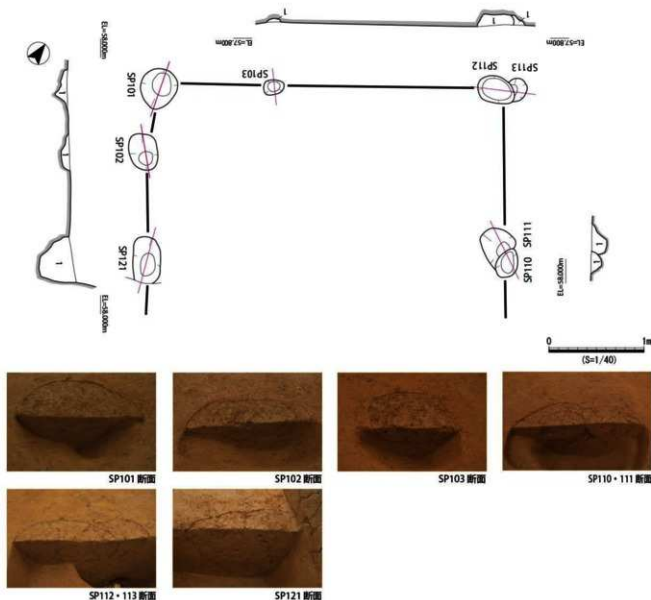
今回調査で推定された掘立柱建物跡は工区1で確認された1基 (SB01) のみである。建物の長軸は北東—南西方向と思われるが、南側のピットは検出できていない。SP101 から SP112 までの距離が約 3.6m で 2 間程度離れている。ピット長軸は平均して約 39.5cm (SP103 を除く) あるが、残存深度は全体的に浅い。

遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱径	
SP101	円形	43	38	13	57.52	Ⅲ	D		
SP102	楕円形	41	30	9	57.58	Ⅲ	B		
SP103	楕円形	22	15	4	57.59	Ⅲ	B		
SP110	楕円形	31	22	11	57.62	Ⅳ	B		
SP111	円形	36	—	16	57.56	Ⅲ	B		
SP112	楕円形	38	28	13	57.54	Ⅲ	A		
SP121	楕円形	48	29	36	57.35	Ⅲ	A		

建物跡推定プラン

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
SP112 110/111	—	1.7	—	—	3.5×—	NE—SW	
プラン①	SP121 102 101	—	—	—			
	SP101 103 112	3.6					



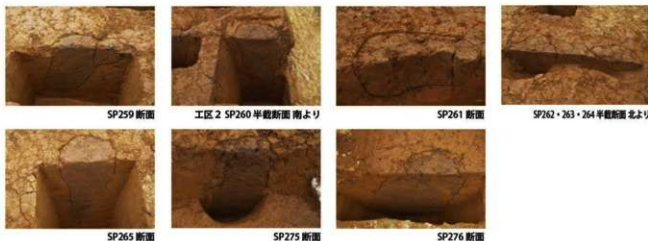
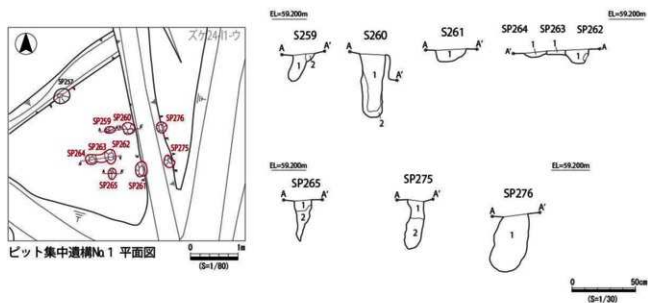
第Ⅶ - 8 図 掘立柱建物跡 (SB01)

3. ビット集中遺構

ビット集中遺構は工区2の2箇所で検出された。建物のプランを組むには、ビットの規模や配置などから推定が困難なものをビット集中遺構として分類し、北側をビット集中遺構№1、南側で検出されたものをビット集中遺構№2とした。ビット集中遺構№1は2mの範囲内に9基のビットが集中しているもので、長軸の平均は約21cmとなっている。底面レベルや断面形状を見ても共通性は見られず、性格不明な遺構である。ビット集中遺構№2は8基のビットが直線状に切り合って検出されており、プランは確認できない。

遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計画 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱礎	
SP259	楕円形	18	11	20	58.71	Ⅲ	Cs		
SP260	円形	21	19	50	58.42	Ⅱ	B	+	
SP261	楕円形	26	19	9	58.86	Ⅳ	B		
SP262	楕円形	25	18	11	58.85	Ⅳ	A		土溜片
SP263	楕円形?	—	14	3	58.92	Ⅳ	A		
SP264	円形	21	17	4	58.90	Ⅳ	B		
SP265	楕円形	19	13	32	58.64	Ⅲ	Ds		
SP275	不定形	21	15	38	58.58	Ⅱ	B		
SP276	円形	19	18	43	58.40	Ⅰ	Bs		



第Ⅶ-9図 ビット集中遺構№1

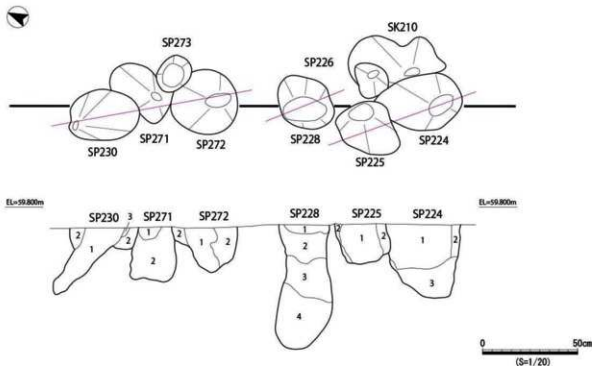
遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱直	
S224	楕円形	38	32	38	59.32	Ⅵ	A	+	
S225	不定形	32	27	20	59.49	Ⅵ	A	+	遺物あり
S228	楕円形	33	26	65	59.05	V	B	+	
S230	楕円形	36	27	35	59.33	Ⅵ	C	+	
S271	楕円形	36	—	29	59.40	Ⅵ	B	+	
S272	円形	35	34	24	59.45	Ⅵ	C	+	

建物跡推定プラン

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
S230/271/272 Z28 Z25/224	—	1.9	—	—	—x—	NE-SW	
プラン②	—	—	—	—			
—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—			

単位:m



SP230・271・272 断面



SP228 断面



SP225・224 断面



SP225 遺物出土状況

第VII - 10 図 ピット集中遺構№.2

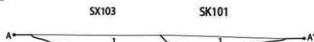
4. 土坑 (SK)

土坑は13基検出され、工区1からはSK101、SK102の2基が検出された。SK101はSX103を切るように調査区北側で検出。東西に細長い楕円形を呈する。SK102は工区1の東側、過年度の試掘坑内で検出された。両土坑とも直径が1m前後で深さは浅い。覆土から見ると近世～近代形成されたと思われる。遺物はSK02から、アカムヌーが出土している。工区2ではSK202、SK204～SK210の8基の土坑が検出された。工区3ではSK401～SK403の3基の土坑が検出された。周辺には他の遺構も少なく、用途等性格は不明である。各土坑の法量等詳細については第VII-4表に記載した。

第VII-4表 遺構観察一覧 (SK)

遺構No.	工区	グリッド	平面形状	遺構計測(cm)			分類	備考
				長軸	短軸	深さ		
SK101	1	ズケ24-H2-キ	楕円形	102	72	11	1	SX103を切る
SK102	1	ズケ24-H2-カ	楕円形	94	74	14	2	
SK201	2	ズケ3-H10-ネ						欠番 遺構でないと判断
SK202	2	ズケ23-H10-ネ	楕円形	42	35	8	2	
SK203	2	ズケ3-H10-ナス						SP271・272・273に変更
SK204	2	ズケ23-H10-ケ	不定形	56	32	77	3	
SK205	2	ズケ23-H10-ス	楕円形?	64	-	38	3	
SK206	2	ズケ23-H10-ヌ	円形?	56	-	15	1	SP274に切られる。SP207を切る
SK207	2	ズケ23-H10-ヌ	楕円形	60	48	25	2	SP277・SK208・SD201を切る
SK208	2	ズケ23-H10-ヌ	楕円形?	55	40	25	2	SP277を切る。SK207に切られる
SK209	2	ズケ24-H1-ニ	楕円形	74	63	12	2	
SK210	2	ズケ23-H10-ス	不定形	47	21	45	2	A-A' (東より) SP226iに切られる
						28	2	B-B' (西より)
SK401	3	ズケ24-H2-ケ	楕円形?	59	-	40	1	
SK402	3	ズケ24-H2-コ	楕円形	57	42	34	1	
SK403	3	ズケ24-H2-ク	楕円形?	88	-	71	4	

EL=58.000m



SK103

1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%、3mm ~ 1cm マージ層 15%含む。SK101 に切られる。

SK101

1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性のある層。1 ~ 2mm 炭化物 3%、2mm 焼土 2%、3mm マージ層 5%含む。SK103 を切る。

EL=58.000m



1.10YR3/4 暗褐色、締りとても強く、粘性やや強い。1mm 炭化物 1%、1 ~ 2mm 焼土 1%、1 ~ 2mm マージ層 7%含む。かなり締りが強い。

2.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。1mm 炭化物 1%、3mm ~ 2cm マージ層 10%含む。

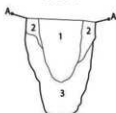
EL=59.600m



1.10YR3/4 暗褐色 (やや明るい)。締りとても強く、粘性のある層。2mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%、3mm ~ 1cm マージ層 15%含む。

2.10YR3/4 暗褐色 (やや明るい)。締りとても強く (1層より強い)。粘性とても強い。1 ~ 3mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満。3mm ~ 1cm マージ層 30%含む。

EL=60.000m



1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。2mm 炭化物 2%、2mm ~ 1cm マージ層 10%含む。

2.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。1mm 炭化物 2%、5mm マージ層 5%含む。

3.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い。1mm 炭化物 2%、1mm ~ 1cm マージ層 15%含む。

EL=60.200m



1.10YR4/4 褐色、締りやや強く、粘性やや強い。1mm 炭化物 2%、1 ~ 5mm 焼土 3%、5mm ~ 10cm マージ層 20%含む。その他 1 ~ 2cm 層 2%、緩物の層。5mm ~ 1cm²/5YR4/4 褐色土 7%含む。濃色の層。

2.10YR4/4 褐色、締り良く、粘性やや強い。1mm 炭化物 2%、1 ~ 5mm 焼土 3%、1 ~ 5mm マージ層 2%含む。

3.10YR4/4 褐色、締りやや強く、粘性のある層。2 ~ 3mm 炭化物 2%、1mm 焼土 2%、5mm ~ 1cm マージ層 25%含む。1cm²/5YR4/4 褐色土 3%含む。

EL=60.000m

SP274 SK206 SP207



SP274

1.10YR3/3 暗褐色、締り、粘性やや強い。1mm 炭化物 1%未満、1mm 焼土 1%未満。2 ~ 5mm マージ層 7%含む。5 ~ 6cm 大マージ層が 1点あり。

SK206

1.10YR3/3 暗褐色、締りのある層。1mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%、2 ~ 5mm マージ層 10%含む。

SP207

1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い。1mm 炭化物 1%未満、1mm 焼土 1%未満。1 ~ 5mm マージ層 15%含む。マージは外側に多い。

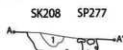
EL=59.800m



1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。1mm 炭化物 2%、1mm 焼土 2%、1mm ~ 1cm マージ層 3%含む。30cm 層含む。SD を切る。

2.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性のある層。1mm 炭化物 2%、1mm マージ層 10%含む。30cm 層含む。SD を切る。

EL=59.800m



SK208

1.10YR3/4 褐色、粘性やや強い。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%、3mm マージ層 2%含む。

2.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。1mm 炭化物 1%、1 ~ 5mm 焼土 3%、1mm ~ 1cm マージ層含む。20 ~ 30cm 層含む。SK207 の 1 から SK208 の 2 層にかけて締りが入る。

SP277

1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 2%、1 ~ 5mm マージ層 7%含む。5 ~ 20cm 層含む。SD を切る。

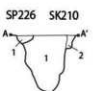
EL=59.400m



1.10YR4/4 褐色、締りとても強く、粘性のない層。2mm 炭化物 1%、5mm 焼土 1%未満。5mm ~ 1cm マージ層 10%含む。マージは両側 3 ~ 4cm 大の層も観察できる。その他層が全体に 7%入る。

2.10YR4/4 褐色、締りとても強く、粘性のない層。1mm 炭化物 1%未満。5mm マージ層 20%含む。

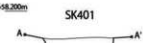
EL=60.000m



SP226

1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。5mm マージ層 5%含む。SK210 を切る。SP224 に切られる。

EL=58.200m



1.10YR3/4 暗褐色、締りとても強く、粘性やや強い。1 ~ 2mm 炭化物 1%、1mm 焼土 2%、1 ~ 5mm マージ層 7%含む。マージは縦に伸びるものが多い。水の影響か層を締りやすい土がドロクて入る。

EL=59.800m



1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い。1 ~ 5mm 炭化物 1%、2mm 焼土 1%未満。5mm ~ 2cm マージ層 15%含む。マージは両側が少なく、また底層が薄いものが多い。

EL=58.200m



1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い。1 ~ 3mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満。2 ~ 5mm マージ層 10%含む。焼土 2cm 5.0%含まり 1点含む。

2.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い。1mm 炭化物 1%、3 ~ 5mm マージ層 15%含む。平面的に均質化した土の層がある。平面的に均質化した土の層が 2%含まれている。

3.10YR3/3 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い。1mm 炭化物 1%、5mm ~ 1cm マージ層 20%含む。マージは外側に多い層。

4.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い。1mm 炭化物 1%、3 ~ 5mm マージ層 5%含む。



工区1 SK103・SK101 半截断面 南より



工区1 SK102 半截断面 南より



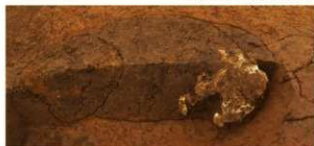
工区2 SK202 半截断面 北より



工区2 SK204 半截断面 北より



工区2 SK205 半截断面 北より



工区2 SP207・SP274・SK206 半截断面 西より



工区2 SK208・SP277 半截断面 東より



工区2 SK210・SP226 半截断面 西より



工区3 SK401 半截断面 南より



工区3 SK402 半截断面 南東より



工区3 SK403 半截断面 南より

図版Ⅶ-4 土坑(SK) 工区1～3

5. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構は全部で6条確認されており、工区1ではSD101、SD102の2条が検出されている。SD101は北西-南東方向に延びる。SD102は方向が45度傾き、北東-南西方向に延びる。北東側ではSX104に切られており、その先には見られない。工区2ではSD201～SD203の3条が確認されている。ただし、SD201とSD202は、方位は違うが繋がっているため同一の溝と考えられる。また、SD203の溝はSD202と並列している。SD201とSD202に切られているのでSD203が先に形成・使用されたものと思われる。SD201は、北東-南西方向に直線で約30m延びており、明確な境界を示していると思われる。さらにSD201から続くSD202は、北側へ直角(45度)に延びている。恐らく、標高が高い南側からの雨水等が流入しないような機能があり、さらに北側の低い方へ誘導する構造が想定される。工区3はSD401の1条のみ検出された。北西-南東方向に延びており、北側は攪乱で消失している。

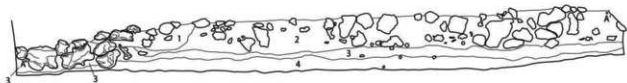
第Ⅶ-5表 遺構観察一覧 (SD)

遺構No.	工区	グリッド	遺構計測(cm)		底面レベル(m)	備考	
			短軸	深さ			
SD101	1	ズケ24-H2-クヘスヘセ					
		南北ライン西側	ズケ24-H2-ス	126	57	56.89	
		トレンチ1北壁	ズケ24-H2-ク、スヘセ	135 [※]	90 [※]		南壁内 断面図なし (北壁内の土層図№11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
		トレンチ2南壁	ズケ24-H2-ス	115 [※]	90 [※]		南壁内 断面図なし (南壁内の土層図№11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
SD102	1	ズケ24-H1-コ、H2-カヘサ					
		南壁	ズケ24-H1-コ、H2-カヘサ	330 [※]	35 [※]		南壁内 断面図なし (南壁内の土層図№11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
SD201	2	ズケ23-H10-スヘネ、H10-エヘオヘコ、ズケ24-I1-カヘサヘシ	153	45			
		トレンチ1東壁	ズケ24-I1-カ	153	45	59.09	SD201-TR1-E トレンチ1東壁←(ベルト1東壁より変更)
		トレンチ2東壁	ズケ23-H10-エ	190	41	58.99	SD201-TR2-E
		トレンチ3東壁	ズケ23-H10-ネ	145	52	58.90	SD201-TR3-E
		ベルト2南壁	ズケ23-H10-ス				SD201-202 SD202-B2-NにSD201表記なし (撮影方向北東より)
SD202	2	ズケ23-H10-フヘテヘヌヘノ					
		トレンチ1北壁	ズケ23-H10-テ	245 [※]	80 [※]		SD203を切る 断面図なし (北壁内の土層図№13 S=1/100のみ、遺構数値は概数)
		ベルト1北壁	ズケ23-H10-テ	244	60	58.76	SD203を切る SD202-B1-S(撮影方向南より)
		ベルト2南壁	ズケ23-H10-ス	192	56	58.77	SD202-203 SD202-B2-N(撮影方向北東より)
SD203	2	ズケ23-H10-テヘネ					
		トレンチ1北壁	ズケ23-H10-テ	45 [※]	10 [※]		SD202に切られる 断面図なし (北壁内の土層図№13 S=1/100のみ、遺構数値は概数)
		ベルト1北壁	ズケ23-H10-テ	48	12	59.28	SD202に切られる SD202-B1-S(撮影方向南より)
SD401	4	ズケ24-I2-テヘトヘソ				SD203を切る 北壁内	
		ベルト1北壁	ズケ24-I2-ソヘト	53	10	58.54	
		南壁	ズケ24-I2-テ	35 [※]	10 [※]		断面図なし (南壁内の土層図№15 S=1/80のみ、遺構数値は概数)

※・・・概数

SD101(南北ライン)

El.=58,000m



1. 2.5YR6/6 黄褐色。締りとても強く、粘性中強い層。2～5mm 大炭化物 2%、2～5mm 大焼土 1%未満、2～7mm 大マージ粒 5%含む。
※1層は白砂みないせみかんご 7.5YR8/1 灰白色の砂り土を全体の 10%ほど含む。炭で入れられた土か。
2. 10YR5/6 黄褐色。締り中強い層。2～5mm 大炭化物 5%、2～5mm 大焼土 3%、2～5mm 大マージ粒 7%含む。
3. 10YR4/6 褐色。締りのある層。2～5mm 大炭化物 2%、2～5mm 大焼土 2%、2～5mm 大マージ粒 15%含む。
4. 10YR4/4 褐色。締りのある層。2～5mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2～5mm 大マージ粒 20%含む。

SD101(南壁内)

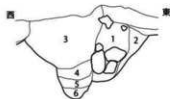
El.=58,000m



1. 10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性中強い層。2～5mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2～5mm 大マージ粒 6%、5～13cm 大石瓦礫が全体の 20%ほど入る。木の屑 1%含む。
2. 10YR4/6 褐色。締り強く、粘性中強い層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 7%、2mm 大石瓦礫 1%未満含む。
3. 10YR4/4 褐色。締り中強く、粘性中強い層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2mm 大マージ粒 5%含む。細砂を全体の 10%ほど含む。10YR5/6 黄褐色の土を 30%含む。のりも少々入っている。
4. 10YR4/4 褐色。締り、粘性中強い層。2mm 大炭化物 3%、焼土 2%、2～5mm 大マージ粒 5%含む。10YR2/2 灰白色の砂り土 5%含む。1層とまたがる石瓦礫あり。木の屑 1%未満入る。
5. 10YR5/6 黄褐色。締り強く、粘性中強い層。2～5mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 5%含む。貝を全体の 2%ほど含む。
6. 10YR5/6 黄褐色。締り強く、粘性とても強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 7%含む。貝が全体の 2%ほど、木の屑 1%未満入る。

SD101(北壁内)

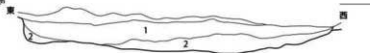
El.=58,000m



- 1～2層は南壁内と同じ。
- 3～6層も基本的には南壁内の状況と同じ。
- 3層には貝殻がごく少量の 1%くらいしかない。
- 4～6層には木の屑がほとんどない。

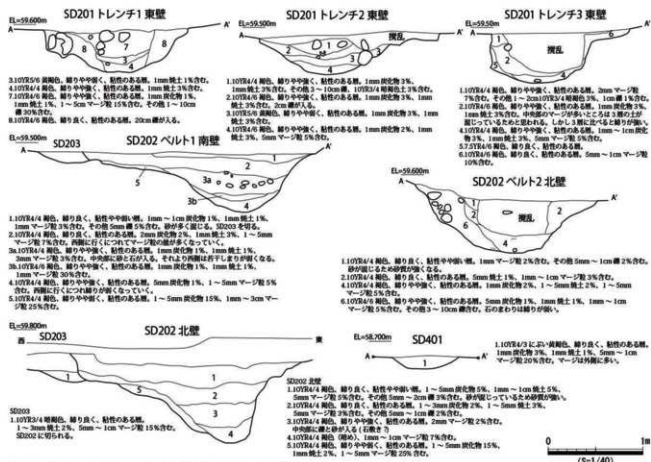
SD102(南壁内)

El.=58,000m



1. 10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性中強い層。2～5mm 大炭化物 5%、2～5mm 大焼土 2%、2～5mm 大マージ粒 15%含む。
2. 10YR4/6 褐色。締り強く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 2%、2mm 大焼土 1%、2mm～1cm 大マージ粒 5%含む。地10土 (YR5/6 黄褐色) が 20%層じむ。

0 1m
(S=1/40)



第VII - 13 図 工区 2・3 溝状遺構 (SD) 断面図



図版 VII - 5 溝状遺構 (SD) 断面 1



工区2 SD201 礎検出状況(全体)北より



工区2 SD201 トレンチ1東壁西より



工区2 SD201 ベルト2南より



工区2 SD202 内礎検出状況南より



工区2 SD202・203 トレンチ1北壁南より



工区2 SD202 内石敷き検出状況北より



工区2 SD202・203 ベルト1北壁南より



工区3 SD401 ベルト1北壁北より

図版Ⅷ-6 溝状遺構(SD)断面2

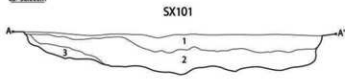
6. 不明遺構 (SX)

不明遺構は、5基検出された。工区1ではSX101～SX104の4基、工区2ではSX203の1基検出されている。工区3では検出されていない。いずれも平面形状が不定形で、性格不明な落ち込みである。

第VII-6表 遺構観察一覧 (SX)

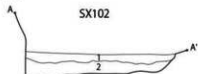
遺構No.	工区	グリッド	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	備考
				長軸	短軸	深さ		
SX101	1	ス'ク24-Iロ-カ	不定形	334	-	42	57.24	
SX102	1	ス'ク24-II-オ-Iロ-ア	楕円形?					南壁内
		ス'ク24-II-オ-Iロ-ア		155	30			
		半壁		-	134	26	57.55	
SX103	1	ス'ク24-Iロ-キ	楕円形	-	84	13	57.36	SK101に切られる
SX104	1	ス'ク24-II-コ	楕円形	298	155	67	57.26	
SX201	2							SX201→SP277・SK207・208に継分
SX202	2	ス'ク23-II-イ-ウ						欠番
SX203	2	ス'ク23-II-エ	楕円形	129	104	89	58.79	
SX204	2	ス'ク24-II-カ						欠番

EL=58.00m



1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中強い。2～7mm 大炭化物5%、2mm～1cm 大塊土3%、2mm～1cm マージ層15%含む。7.5YR5/9 黄褐色。砂質の地山の土を全体に30%ほど含む。2mm 大石灰岩砂粒1%含む。
2.10YR9/6 褐色。締り良く、粘性のある。2～5mm 大炭化物3%、2～5mm 大塊土1%、2mm～1cm マージ層7%含む。地山の土を60%含む。石灰岩砂1%未調査。
3.10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性中強い。2～5mm 大炭化物1%、2mm 大塊土1%未調査。2～5mm マージ層5%含む。石灰岩1%未調査。

EL=58.400m



1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中強い。2～7mm 大炭化物3%、2～5mm 大塊土1%、2mm～1cm マージ層15%含む。
2.10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性とても強い。2～5mm 大炭化物2%、2mm 大塊土1%未調査。2mm～3mm マージ層10%含む。

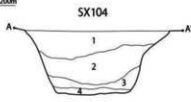
EL=57.800m



SX103
1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中強い。1mm 炭化物1%、1mm 塊土1%、2mm～1cm マージ層15%含む。SK101に切られる。

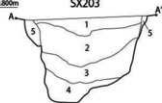
SK101
1.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性のある。1～2mm 炭化物3%、2mm 塊土2%、3mm マージ層5%含む。SK103を切る。

EL=58.200m



1.10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性のある。2～5mm 大炭化物5%、2mm 大塊土1%未調査。2～5mm マージ層7%含む。2mm 大石灰岩砂粒1%含む。
2.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性のある。2～5mm 大炭化物3%、2mm 大塊土2%、2～5mm マージ層8%含む。2mm 大石灰岩砂粒2%含む。
3.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中強い。2mm 大炭化物2%、2mm 大塊土1%未調査。2～7mm マージ層10%含む。2mm 大石灰岩砂粒1%未調査。
4.10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性のある。2mm 大炭化物1%、2mm 大塊土1%未調査。2～5mm マージ層15%含む。2mm 大石灰岩砂粒1%未調査。

EL=59.800m



1.10YR4/4 暗褐色。締り良く、粘性中強い。1～2mm 大炭化物1%、1mm 大塊土1%未調査。1～5mm マージ層15%含む。
2.10YR3/4 暗褐色。締り、粘性中強い。2mm 大炭化物1%、3mm 大塊土1%未調査。5mm～1cm マージ層10%含む。
3.10YR4/6 褐色。締り良く、粘性中強い。2mm 大炭化物1%、3mm マージ層40%含む。
4.10YR4/6 褐色。締り中強く、粘性とても強い。1～2mm 炭化物1%、1cm 塊土1%未調査。3～5mm マージ層7%含む。
5.10YR4/6 褐色。締り、粘性中強い。1mm 大炭化物1%、3～5mm マージ層50%含む。中全体的に木の根が入り込んでおり土質ではない可能性がある。



第VII-14図 不明遺構 (SX) 断面図



工区1 SX101 遺構完端状況北より



工区1 SX102 北壁内南より



工区1 SX101 半截断面 東より



工区1 SX102 半截断面 西より



工区2 SX203 半截断面 南西より



工区1 SX104 礫検出状況北より



工区1 SX104 半截断面 東より

図版Ⅶ-7 工区1～3 不明遺構(SX)

第4節 遺物

新城大道原第三遺跡出土の遺物は総数1370点が出土しており、土器・沖縄産陶磁器・カムィヤキ・本土産輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 本土産磁器

本土産磁器は総数69点が出土しており、碗・皿などが得られている。7点を第VII-7表、第VII-15図、図版VII-8にて報告する。

2. 沖縄産陶器

- (1) 沖縄産無軸陶器・・・総数144点出土しており、鉢・火炉・すり鉢などが得られている。そのうち13点を第VII-7・8表、第VII-15～17図、図版VII-8～10にて報告する。
- (2) アカムヌー・・・総数267点が出土している内、7点を第VII-8表、第VII-18図、図版VII-11にて報告する。
- (3) 沖縄産施軸陶器・・・総数398点出土しており、碗などが得られている。その内19点を第VII-9表、第VII-18～20図、図版VII-11～13にて報告する。

3. 石器

石器は総数11点が出土している。そのうち3点を第VII-10表、第VII-21図、図版VII-14にて報告する。

4. 銭貨

銭貨は総数4点が出土している。第VII-11表、第VII-21図、図版VII-14にて報告する。

5. その他

金属製品・円盤状製品などが総数103点出土している。そのうち3点を第VII-11表、第VII-21図、図版VII-14にて報告する。

第VII-7表 出土遺物観察一覧1

挿図番号 図版番号	種類・器種・分類		部位	口径 器高 底径	軸	素地	観察事項	出土地	
第VII-15図 図版VII-8	1	碗	口～底	14.1 5.8 4.4	青白色	白灰色 緻密	口縁外、腰部は丸みを帯びる、外面に梅花文や連続文、内面に梅花文と圓線をほどこす。型紙刷り。	H28 西フテ 5区 <106><89> (SD202)	
	2	小碗	口～底	7.4 4.4 3.8	透明軸	白色 緻密	口縁部は直口し、胴部の張りは緩やか、胴部外部に呉須で文様を描く。高台際、高台に圓線を廻らす。量付のみ軸割ぎされる。	H28 西フテ 5区 <106> (SD202)	
	3	平皿	口～底	13.1 3.0 6.9	透明軸	白色 緻密	内面に草花文を施す。	H28 西フテ 5区 <131> (SD101 3号)	
	4	本土産 磁器	平皿 銅板 転写	口～底	10.3 1.8 6.3	透明軸	白色 緻密	銅板転写(緑)。内面に菱形文と花文を施す。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
	5	瓶	胴～底	— — 4	透明軸	白黄色 やや粗い	内外前面に透明軸が施軸され、器面には花文らしき文様の施軸底が確認できる。	H28 西フテ 5区 <122> (SD101 3号)	
	6	湯呑	口～底	7.7 — —	青白色	白色 緻密	口縁部から胴部にかけて垂直に立上がり腰部で折れる。底部は欠失。胴部外面に圓線と雲持笹文と岩文を描く。腰部にも文様(草花文?)が施かれる。内面は口縁に2条、見込みに1条の圓線を廻らす。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)	
	7	急須	口～胴	8.2 — —	青白色	白色 緻密	外面に呉須で草花文を描く。口縁と胴下部に圓線を廻らす。口縁内面を軸割ぎする。	H28 西フテ 5区 <132><133> (SD101 5号)	
第VII-15図 図版VII-8	8	甕 II類	口縁	33.5 — —	外面に ぶい暗褐色 — 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	口縁は逆L字状に屈折し、口唇を広くする。口縁下縁はわずかに肥厚する。肩部には6条の圓線が廻り、その下部には波状文が廻る。	H28 西フテ 5区 <15><145> (SD101)	
	9	甕 III類	口縁	— — —	外面に ぶい茶褐色 — 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	口縁は断面縦長の方形状に肥厚しその下に2条の沈線が廻る。	H28 西フテ 5区 <99> (SD202 4号)	
第VII-16図 図版VII-9	10	甕	胴部	— — —	外面にぶ い茶褐色 — 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	圓線と波状文の上に丸文貼付けし、丸文の下には突帯文を廻らす。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101 2号)	
	11	甕	胴部	— — —	外面 暗褐 色 — 内面 赤褐 色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	貼付けの波状文を廻らす。	H28 西フテ 5区 <109> (SD202 6号)	
	12	壺	胴～底	— — 11.1	外面 暗赤 褐色 — 内面 赤褐 色	にぶい赤褐 色 — 白色砂粒、 黒色砂粒	胴下部と内面は轆轤直明眼。残存部からは洋梨状の器形が想定される。	H28 西フテ 5区 <60> (SD202)	
	13	壺	胴～底	— — 11.3	外面にぶ い暗赤褐 色 — 内面 赤褐 色	にぶい赤褐 色 — 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	内面は轆轤直明眼。残存部からは洋梨状の器形が想定される。外面と断面でフタ状を呈する。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101 2号)	

第VII - 8表 出土遺物観察一覧2

押出番号 図版番号	種類・器種・分類	部位	口径 高 底径	釉	素地	観察事項	出土地		
第Ⅷ-16図 図版Ⅷ-9	沖繩産 無釉陶器	壺	胴～底	—	外面 赤褐色 — 暗赤褐色 — 内面 黒色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒	内面は轆轤直明線、残存部からは片梨状の器形が想定される。	H28 西フテ 5区 (15)・(127)・(145) (SD101)	
				—	外面 暗赤褐色 — 内面 黒色			にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	全体的に轆轤直明線。肩部内面は轆轤直線が密。肩部外面には4条の圓線が廻る。頸部はすばまり口縁に向けて広がる。
		壺	胴	—	外面 暗赤褐色 — 内面 明赤褐色	赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒	肩部に2条の圓線を廻らす。器厚約5mmで内面は轆轤直明線。外面にマンガン釉を施す。	H28 西フテ 5区 (145) (SD101 2号)	
				—	外面 赤褐色 — 内面 暗褐色	暗褐色 白色砂粒		胴上部に2条の沈線を廻らす。他器面に工具による沈線の文様の一部が確認できるが全容は不明。	H28 西フテ 5区 (133)・(145) (SD101)
第Ⅷ-17図 図版Ⅷ-10	沖繩産 無釉陶器	摺鉢	IV類	口～底	26.6	外面 赤褐色 12.6 明褐色 11.0 内面 明褐色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	外面に調整直明線。口径は平皿で外縁部、下縁はやや肥厚する。	H28 西フテ 5区 (86) (SD201 4号)
					24.0	外面 にぶい赤褐色 12.6 内面 赤褐色 13.2 色			口縁部は平皿であるが、破損により口唇での分類はできない。外面に工具直明線。内面に細かい摺目が施される。焼成はよくない。
		壺	胴	—	内外面 赤褐色 — 暗褐色	赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	大型壺の胴部。内面轆轤直明線。	H28 西フテ 5区 (89) (SD202)	
第Ⅷ-18図 図版Ⅷ-11	アカムス	火炉	I類	口～底	14.6	外面 明褐色 10.1 赤褐色 8.7 内面 明赤褐色	やや硬質 明赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤褐色砂粒、 雲母	外面と口縁内面に調整直明線。口縁内面はやや肥厚し、受け部は口縁に対して概ね平行に貼り付けられる。外面には白化粘土による圓線が施された跡が確認できる。	H28 西フテ 5区 (70) (SD202)
					—	外面 明褐色 — 内面 明褐色			ナゲ調整。胴部との貼付け部に指跡が残る。注ぎ口の口先はわずかに厚まる。
		火炉	IIb類	口縁	—	外面 明褐色 — 内面 明褐色	硬質 明褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤褐色砂粒、 雲母	回転へラ調整。口縁は断面三角状に肥厚し、その下位に段が1条廻る。	H28 西フテ 5区 (53) (SD202)
					—	内外面 にぶい明褐色	やや軟質 明褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母		ナゲ調整。貼付け部に指圧痕が残る。貼付け時の調整が雑。受け部に対して把手がやや斜め下を向く。
		鍋	把手	—	—	内外面 明褐色	硬質 明褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤褐色砂粒、 雲母	ナゲ調整。受け部に対して把手がやや斜め下を向く。24と比べやや太く、作りが丁寧。	H28 西フテ 5区 (145)・(149) (SD101)
					—	外面 淡褐色 — 内面 褐色	硬質 褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母		ナゲ調整。表面にススが附着している。底の端部はやや肥厚し、丸みを帯びる。
		急須蓋	底・袴	—	9.5	外面 淡褐色	硬質 褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	ナゲ調整。表面にわずかにススが附着している。底の端部は丸みを帯びる。袴は根本を残して欠損。	H28 西フテ 5区 (103) (SD301)
6.5	内面 褐色								

第Ⅶ-9表 出土遺物観察一覧3

押印番号 図版番号	種類・器種・分類	部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地
第Ⅶ-18図 図版Ⅶ-11	沖繩産 施釉陶器	碗 III (イ)Bb(3)	口～底 13.9 6.6 6.3	内外面に透明釉。口縁は外反する。見込みと畳付けを輪刺し。見込みは蛇の目輪刺し。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は白黄色の粒子。焼成良い。全面に白化粧したあとと透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 5区 (88) (SD202)
		碗 III (イ)Bb(3)	口～底 14.3 6.7 6.6	内外面に透明釉。口縁外反。見込みと畳付けを輪刺し。見込みは蛇の目輪刺し。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は白黄色の粒子。焼成良い。全面に白化粧をしたあととコバルトと鉄軸で点花文を施す。透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 5区 (89) (SD202)
		碗 I (ロ)Bb(2)	口～底 12.6 6.2 6.0	口縁外反。胴が張り、丸みを帯びて立ち上がる。見込みは臍輪で同心円を施す。見込みと高台にアルミナ痕がみられる。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。内外面口縁から胴部にかけて鉄軸を施釉。光沢あり。	H28 西フテ 5区 (87) (SD201 3号)
第Ⅶ-19図 図版Ⅶ-12	沖繩産 施釉陶器	碗	口～胴 14.6 — —	口縁直口の灰輪碗。素地は黄褐色の粒子。焼成はよい。内外面半ばまで灰軸を施す。立ち上がりは臍輪。	H28 西フテ 5区 (92) (SD202)
		小碗 II (ロ)B②	口～底 9.0 4.4 4.3	口縁外反。外面は臍輪。内面は白化粧に透明釉を施す。見込みと畳付けは輪刺し。見込みは蛇の目輪刺し。素地は白黄色の粒子。焼成はよくない。外面に光沢のない暗褐色の臍輪を施す。	H28 西フテ 5区 (109) (SD202 6号)
		小碗 II (ロ)B②	口～底 9.0 4.3 4.1	口縁外反。外面鉄軸。内面は白化粧に透明釉を施す。見込みと畳付けは輪刺しされる。見込みは蛇の目刺し。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。	H28 西フテ 5区 (152) (SX104)
		小碗 III (イ)B①	口～底 8.0 4.2 3.3	口縁外反。内外面に白化粧を施した後透明釉をほどこす。見込みと畳付けは輪刺しされる。見込みは蛇の目輪刺し。見込みに砂目とアルミナ痕が見られる。胴部には削り込みによる文様が一条施される。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。貫入がみられる。	H28 西フテ 5区 (145) (SD101)
		小碗 III (イ)B②	口～底 8.3 4.3 4.1	口縁外反。内外面に白化粧を施した後透明釉をほどこす。見込みと畳付けは輪刺しされる。見込みは蛇の目輪刺し。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。貫入がみられる。	H28 西フテ 5区 (87) (SD201 3号)
		急須 III	口～底 6.4 9.6 —	輪軸引き。線彫りされた模様とコバルトで彩色される。注ぎ口と耳の継ぎ目は緑軸で彩色される。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。本体全面に白化粧を施した後注ぎ口を穿ち注ぎ口と耳をつける。そのあと模様を描きコバルトと緑軸で彩色し底以外に透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 (89) (SD202)
		急須 III	蓋 — — 4.1	空気穴は白化粧後に内側から穿つ。つまみ部は欠損。コバルトで薄く文様を描く。掛かり部径約6.4cm。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。全面に白化粧した後空気穴を穿ち、コバルトで表面に薄く彩色して透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 (88) (SD202)
		急須 III	蓋 — — 5.8	空気穴とつまみ部は欠損。透明釉。線彫りの模様はコバルトと鉄軸で彩色されている。掛かり部径約8.6cm。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。全面に白化粧した後模様を線彫りしコバルトと鉄軸で彩色する。そのあと透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 (78) (SD201)
		壺 I (ロ)b	口～底 12.1 17.6 10.2	鉄軸油塗(アツガール)。小型で頸部を作らず、口縁から胴部に向けて徐々に張り出す。胴上部に枕縁をめぐらし耳をつける。内部は輪軸痕が明瞭。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。鉄軸を内外面に施し、口唇部と畳付けは輪刺しを行う。内面の釉薬はやや薄い。	H28 西フテ 5区 (86) (SD201 4号)

第Ⅶ-10表 出土遺物観察一覧4

押図番号 図版番号	種類・器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
	鉢	Ⅱ						
第Ⅶ-20図 図版Ⅶ-13	沖繩産 施釉陶器	鉢	Ⅱ		底	— — 9.1	鉄軸大鉢(ワンブー)。外面口縁から胴下部まで鉄軸、内面に灰軸を施し、見込みを蛇の目軸刺ぎする。見込みに砂目が見られる。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。外面に鉄軸、内面は灰軸を施す。	H28 西アテ5区 <41> (SD201)
		鉢	Ⅱ	(□)A②	口～底	22.8 10.3 8.5	鉄軸大鉢(ワンブー)。口縁部を逆字に成形。高台内面で塗軸、見込みは蛇の目軸刺ぎ。素地は淡黄色の細粒子。焼成良好。外面に暗褐色の鉄軸、内面と口唇部に白化粧を施した後コバルトと鉄軸で胴部に彩色し透明軸を施したのち透明軸を施す。細かい貫入あり。	H28 西アテ5区 <89> (SD202)
		瓶			口～胴	5.0 —	内面は無軸で軸轆直明瞭。口縁外反し胴部は円錐状。胴部には鉄軸とコバルトで文様を施させる。素地は黄褐色の粒子。焼成はよい。口縁内面から外面にかけて白化粧を施した後コバルトと鉄軸で胴部に彩色し透明軸を施す。底軸は口縁内面まで及ぶ。	H28 西アテ5区 <145><146> (SD101)
		瓶	I	(□)	胴～底	— — 5.3	小型の黒軸瓶子。胴部は球形に近い。内面は軸轆直明瞭。高台に砂目付着。素地は灰白色の細粒子。焼成はよい。外面にのみ黒軸を半掛けする。高台際までと高台内にも施軸する。貫入あり。	H28 西アテ5区 <145> (SD201)
		瓶	I	(△)	口頸	6.4 — —	鉄軸瓶子の口頸部。口縁外反。貼り付け部の跡のみ残る。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。黒軸は外面から口縁部内面に及ぶ。	H28 西アテ5区 <79> (SD101)
		香炉			口～底	15.4 9.0 9.4	緑軸の香炉。内面底部に重ね焼きの痕あり。素地は黄褐色の粗粒子。焼成はよい。白化粧した後口縁内面から立ち上がりまで緑軸を施す。内面は無軸。貫入あり。	H28 西アテ5区 <145><10><15> (SD101)
		火入れ	I	(□)	底	— — 9.7	鉄軸の火入れ。筒状に成形される。白化粧なし。内面は無軸。外面は高台から立ち上がりまで無軸。残存部位では無文。素地は灰白色の細粒子。焼成はよい。外面のみ鉄軸を施す。高台と立ち上がりは無軸。	H28 西アテ5区 <84> (カクラン)

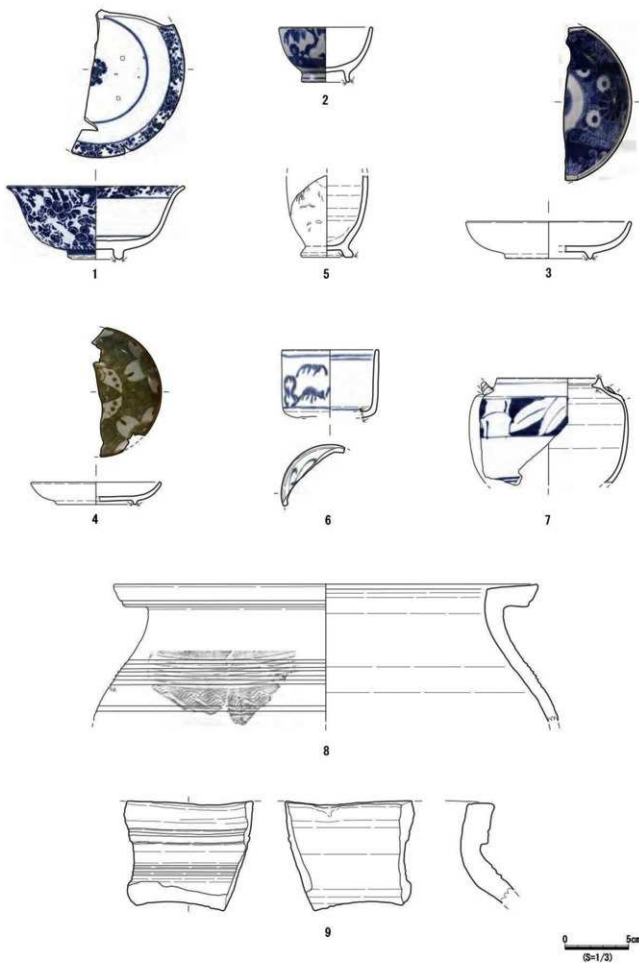
押図番号 図版番号	種類	器種	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			長	幅	厚さ	重量		
第Ⅶ-21図 図版Ⅶ-14	石器	不明	11.85	5.8	2.55	200	短軸の両端を一方方向から打ち欠いて成形する。裏面は平らに成形される。表面に棒状の工具で削られたような痕がある。	H28 西アテ5区 <60> (SD202)
		石斧?	11.9	10	3.5	390	基部が欠損した石斧片。縁辺は鋭く研磨され、その内側は打ち欠いて形成される。	H28 西アテ5区 <152> (SX104)
		石鏃	1.7	2	0.6	2.1	石材のチャートにひび割れの貫入が確認できる。先端は欠損。	H28 西アテ5区 <114> (SD401)

第VII-11表 出土遺物観察一覧5

押図番号 図版番号	分類		器色/釉調	素地	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
	種類	器種			長径	短径	厚さ	重量			
第VII-21図 図版VII-14	50	円盤状 製品	沖煎 (播鉢)	明赤褐色	明赤褐色 白色砂粒、 黒色 砂粒	4.8	3.1	0.9	16.1	播鉢の胴部を内側から打ち欠いて形成。 作りは丁寧。	H28 西フテ 5区 <21> (SD201)
	51		沖施 (碗)	にぶい赤 褐色/鉄釉	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色 砂粒	6	5.9	2.1	68.9	碗の底部を転用したもの。立ち上がりを内側 から打ち欠いて形成。高台部分は一部のみ 内側から打ち欠いている。作りはやや雑。	H28 西フテ 5区 <30> (SD201)

押図番号 図版番号	種類	分類		部位	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
		器種	材質		縦	横	厚さ	重量			
図版VII-14	52	金属 製品	髷		カブ〜頭	—	—	0.2	1.7	金属製の押差。頭がカブのほかに折れ曲が っている。	H28 西フテ 5区 <49> (SD201)

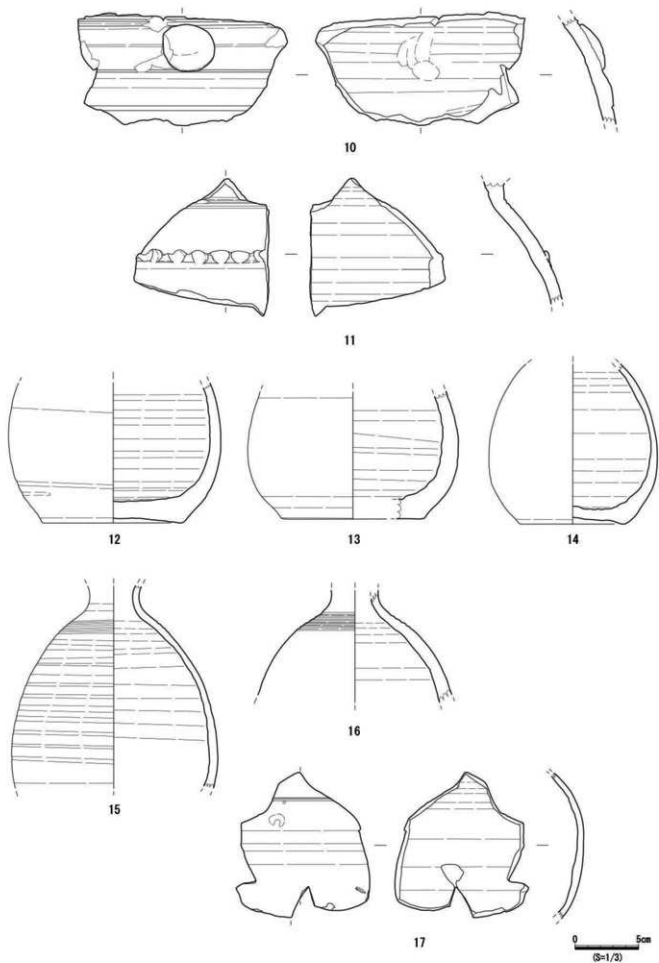
押図番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量		
第VII-21図 図版VII-14	銭貨	寛永 通宝	2.3	0.6	0.1	2.1	寛永通宝。銭文は明瞭。	H28 西フテ 5区 <157> (SX104 4号)
		—	2.5	0.7	0.1	3.1	錆の付着が著しく、銭文判別不可、裏面にも銭文が見 られるが不鮮明である。	H28 西フテ 5区 <65> (SD201 dotNo.20)
		—	1.9	—	0.1	2.0	表裏に花文が押された硬貨。大正硬貨だと思われる。 表面の数字は判読不能。	H28 西フテ 5区 <62> (カクラン)
		—	(2.3)	(0.6)	0.12	1.5	状態が非常に悪く、銭文も判別不能。	H28 西フテ 5区 <118> (遺構検出作業中)



第VII-15 図 出土遺物 1 本土産磁器 (1~7)、沖縄産無釉陶器 (8・9)



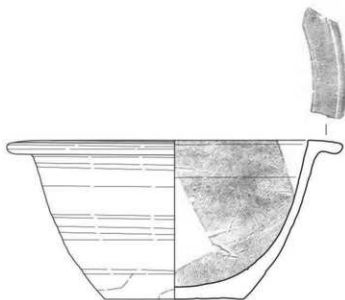
図版Ⅶ-8 出土遺物 1 本土産磁器 (1~7)、沖縄産無釉陶器 (8・9)



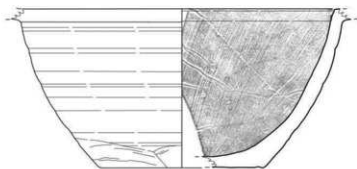
第VII-16 図 出土遺物 2 沖繩産無釉陶器



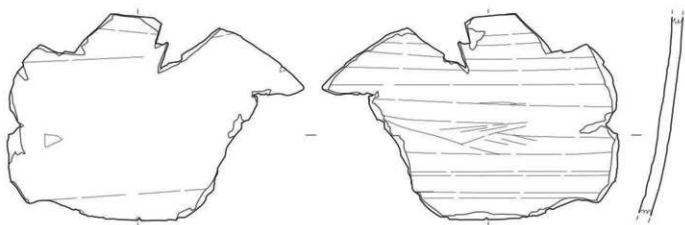
図版Ⅶ-9 出土遺物2 沖繩産無釉陶器



18



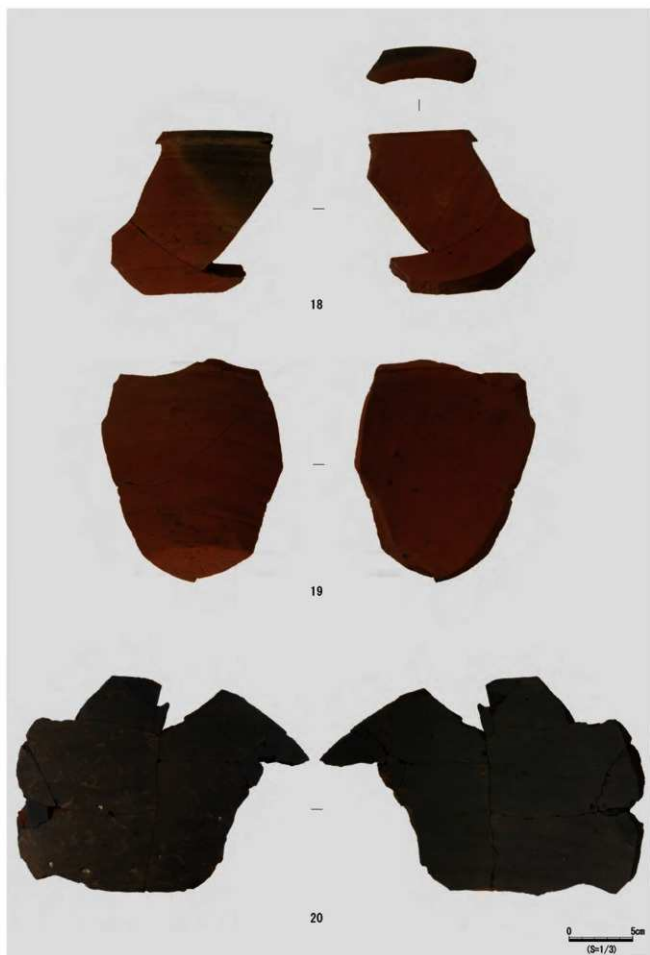
19



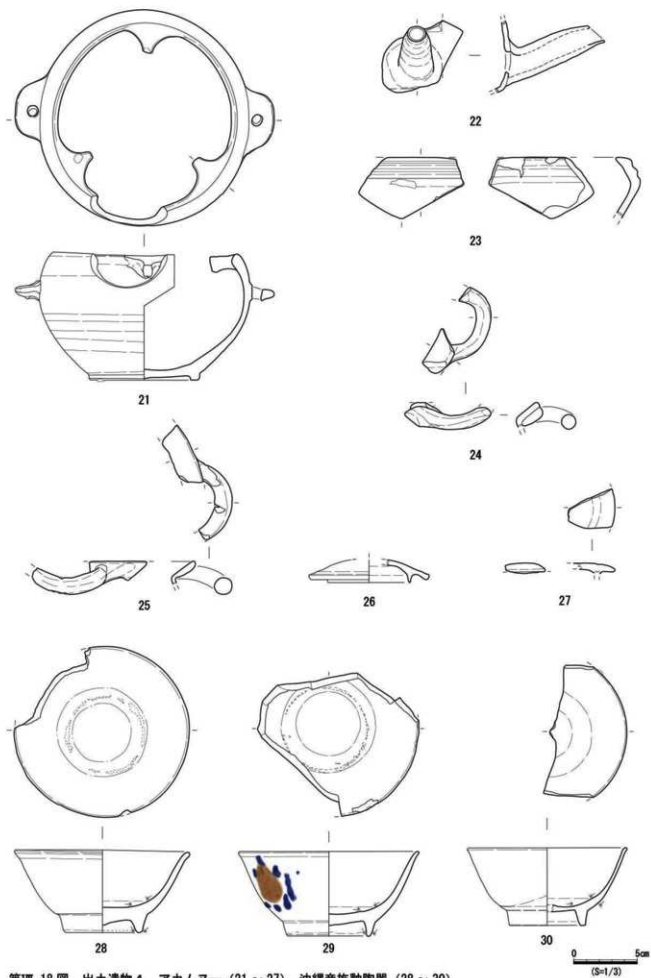
20



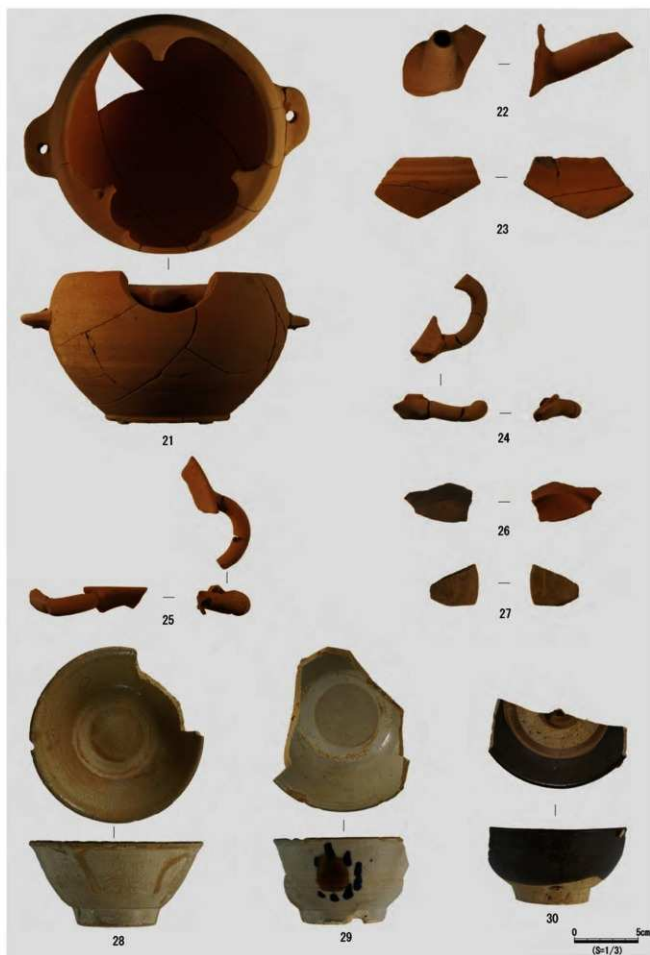
第VII-17図 出土遺物3 沖縄産無釉陶器



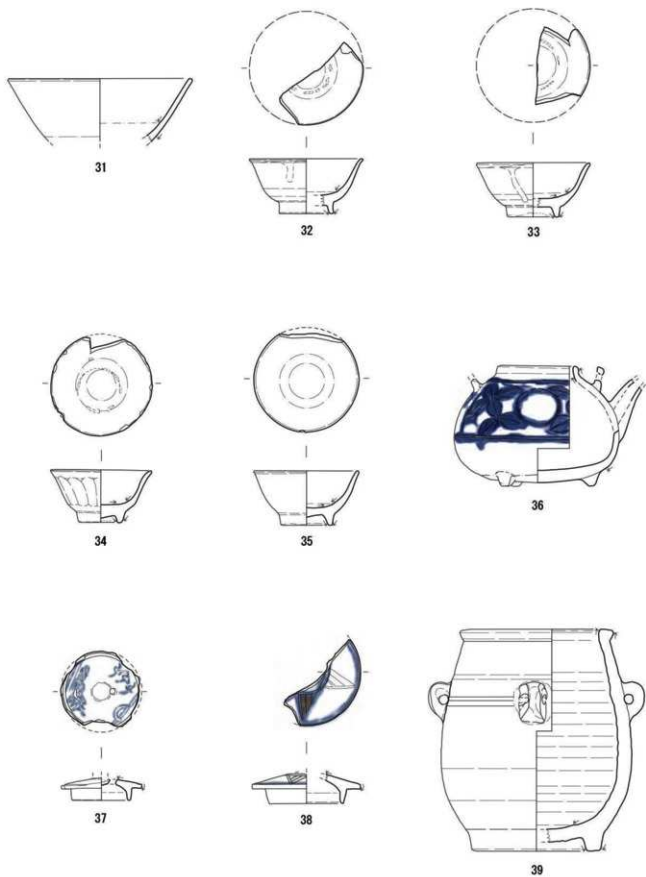
図版VII-10 出土遺物3 沖縄産無軸陶器



第VII-18 図 出土遺物 4 アカムヌー (21 ~ 27)、沖縄産施釉陶器 (28 ~ 30)



図版VII-11 出土遺物4 アカムヌー (21～27)、沖縄産施釉陶器 (28～30)

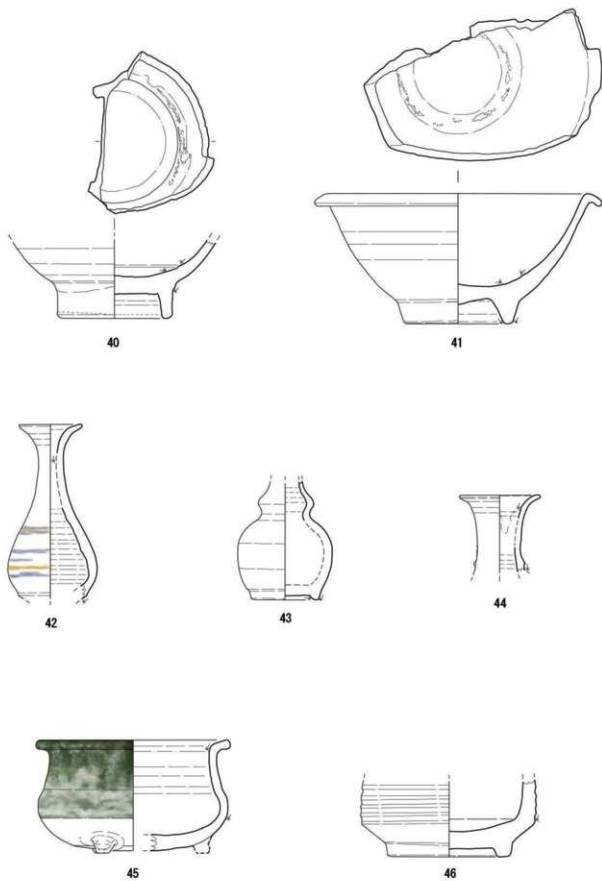


第VII-19 図 出土遺物 5 沖繩産施釉陶器

0 5cm
(S=1/3)



図版VII-12 出土遺物5 沖縄産施釉陶器

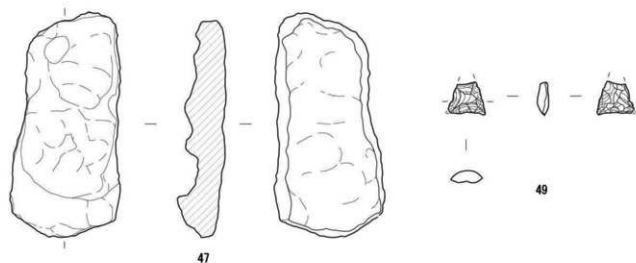


第VII-20 図 出土遺物 6 沖縄産施釉陶器

0 5cm
(S=1/3)

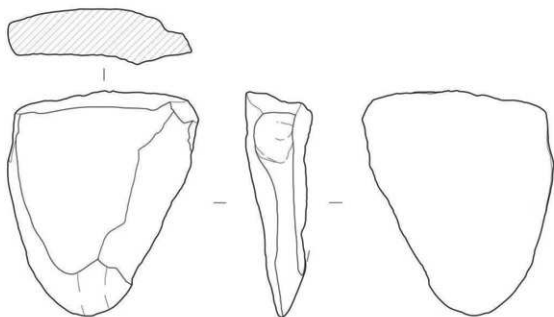


図版VII-13 出土遺物 6 沖縄産施釉陶器

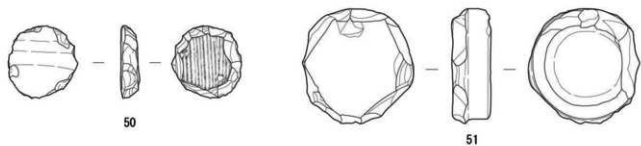


47

49



48



50

51

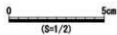


53

54

55

56



第Ⅶ-21 図 出土遺物 7 石器 (47～49)、円盤状製品 (50・51)、錢貨 (53～56)



図版VII-14 出土遺物 7 石器 (47~49)、円盤状製品 (50・51)、髻 (52)、銭貨 (53~56)

第5節 総括

新城大道原第三遺跡は新城大道原第二遺跡と同様に平成27年試掘で新規発見された遺跡である。調査区は試掘調査の結果で遺構が確認された場所を中心に3箇所を設定し、調査を行った。試掘調査の段階から当該調査区一帯は米軍の攪乱によって遺構の残りが悪いことが想定されており、今回の緊急発掘調査によって想定した以上に攪乱を受けていることが判明した。以下、前節まで報告した遺構、遺物の情報を整理しつつ、若干の検討を行いまとめとする。

遺構はピット117基、土坑13基、溝状遺構6条、不明遺構5基が検出されている。工区1では掘立柱建物跡と思われるプランが1基確認されたが全体のプランは不明である。ピットの直径は平均して40cm程度なので母屋の可能性が考えられる。工区2ではプランを想定できるものは確認されなかったものの、ピットが集中して分布する箇所が2箇所確認された。どちらも2m程度の狭い範囲に集中しており、底面レベルや断面形状など共通性がほとんどないため、性格不明な遺構である。土坑は13基検出されているがいずれも性格不明である。工区2で検出されたSK204と工区3で検出されたSK403は他の土坑とは覆土が異なって暗褐色の粘質シルトが堆積し、近世以前まで遡る可能性がある。溝状遺構は概ね北西-南東方向に延びるものと北東-南西方向延びるものがある。いずれも近世～近代頃に形成された排水や畑等の区画等に関連した遺構と思われる。溝幅や深度はそれぞれであるが、底面の断面形状は丸みをもっている部分は共通している。

遺物は総数1370点（破片）出土した。土器（細片）やカムイヤキなど数点出土しているが、白磁、青磁などの中国産輸入陶磁器は出土していない。最も多く出土しているのは沖縄産陶器類で、600点以上出土している。次いでアカムヌーが267点、瓦が217点となる。遺構別に見ると溝状遺構から650点以上の遺物が出土している。遺構や遺物から見ても遺跡の時期区分は近世～近代と思われるが、遺跡の性格（種類）については耕作地として土地利用されていることから生産遺跡になるものと思われる。

今回の調査により、基地造成等の開発工事から辛うじて免れた遺構や遺物等の資料を得ることができた。残念ながら遺跡の保存状態は悪く、断片的な情報を記録することしかできなかったが、今後周辺遺跡の調査成果とも合わせて、当該地区全域における基地接収以前の様相や時期別の遺跡分布、土地利用についての検討等を行っていきたい。今回の調査成果はそのための貴重な資料であり、今回報告できなかった部分や検討結果等については改めて別の機会に報告したい。

引用・参考文献

- 宜野湾市教育委員会 2016 『キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用実施計画策定業務委託報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2022 『基地内埋蔵文化財調査報告書8』
- 宜野湾市教育委員会 1989 『土に埋もれた宜野湾』
- 佐喜真興英 1982 『女人政治考・霊の島々〈佐喜真興英全集〉』 ※収録「シマの話」より
- 宜野湾市史編集委員会 1985 『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006 『新城下原第二遺跡』
- 宜野湾市教育委員会 2011 『文化財保存整備基本構想作成業務委託（喜友名・新城・野嵩・伊佐地区）報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2019 『基地内埋蔵文化財調査報告書7』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2022 『基地内文化財9 普天間飛行場内試掘調査総括報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2010 『市内埋蔵文化財調査報告書』宜野湾市文化財調査報告書 第46集
- 宜野湾市教育委員会 2012 『大山前門原第一遺跡』宜野湾市文化財調査報告書 第49集

報告書抄録

ふりがな	にしよてんまじゅうたくちくまいぞうぶんかざいはっつちょうさほうこくしょ							
書籍	西普天間住宅地区埋蔵文化財発掘調査報告書1							
副書名	一新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡一							
巻次	一							
シリーズ名	宜野湾市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第62集							
編著者名	仲村 毅、杉村千重美、伊野波快、儀保和士							
発行機関	宜野湾市教育委員会							
所在地	郵便番号 901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号 TEL098-893-4430							
発行年月日	2023(令和5)年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新城上殿遺跡	沖縄県 宜野湾市 字新城	472051	039	26° 17' 31"	127° 45' 54"	2016.6.2～ 2016.12.20	2,215	支障除去措置 (不発弾経路探査)
新城大道原第一遺跡			332	26° 17' 29"	127° 46' 00"	2016.6.29～ 2016.12.7	1,380	
新城大道原第二遺跡			333	26° 17' 21"	127° 46' 05"	2017.1.23～ 2017.4.3	1,116	
新城大道原第三遺跡			334	26° 17' 22"	127° 46' 09"	2017.1.23～ 2017.3.30	1,270	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
新城上殿遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代	ビット、土坑、溝状遺構、伊跡等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品			
新城大道原第一遺跡	集落跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	ビット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品			
新城大道原第二遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代	ビット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品、瓦			
新城大道原第三遺跡	集落跡	近世～近代	ビット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、沖縄産陶器、金属製品、瓦			
要約	<p>本報告は平成27年3月末にキャンプ瑞慶覧から返還された西普天間住宅地区において、沖縄防衛局による支障除去措置に伴い、平成28年度に実施した緊急発掘調査の成果報告である。今回は字新城内で調査した新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の4遺跡を新城編として所収している。新城上殿遺跡はグスク時代相当の集落跡で調査区の北側と南側でそれぞれ400基余りの柱穴が確認され、複数の掘立柱建物があったことが想定された。また北側柱穴群に隣接して幅約2.0m、長さ約12mの堀切状の溝が確認され、防衛的機能を有した集落跡を裏付ける貴重な成果を得た。</p> <p>新城大道原第一遺跡は小学大道原に所在する遺跡で、上殿遺跡よりも一段高い丘陵縁辺に位置する。北側に設定した調査区から、先史時代の土器がまどまど出土したが明確な遺構は確認できなかった。遺構はグスク時代～近世頃のビットや土坑、溝が主体となっている。</p> <p>新城大道原第二遺跡、第三遺跡は、県道81号の北側に位置し、近世～近代相当の遺構を主体とする遺跡である。第二遺跡からは列状に並んだビットが検出された。第三遺跡でも複数のビットが確認されているが、大部分が米軍設置の埋設管等で遺跡は消失している状況であった。昭和20年に撮影された航空写真を見ると第二、第三遺跡の場所は畑地となっており、検出された遺構はこれ以前のものと思われる。</p>							

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権者（発行者）の承諾なく、この報告書を複製して利用できます。なお、利用にあたっては、出典を明記してください。

宜野湾市文化財調査報告書 第62集

西普天間住宅地区埋藏文化財発掘調査報告書 1

— 新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡 —

発行年 2023 (令和5) 年3月31日
編集発行 沖縄県宜野湾市教育委員会
住所 〒901-2203
沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号
TEL. 098-893-4430
印刷 〒901-0416
沖縄県島尻郡八重瀬町字宜次706-4
文進印刷株式会社
TEL. 098-996-3356